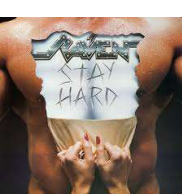
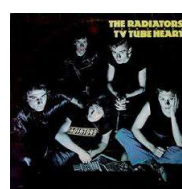
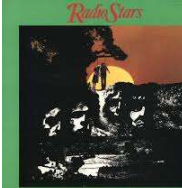
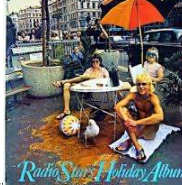
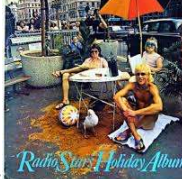
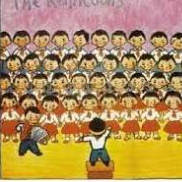
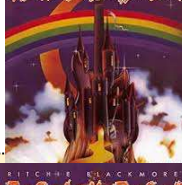
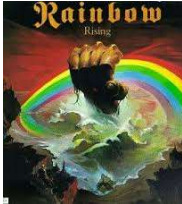
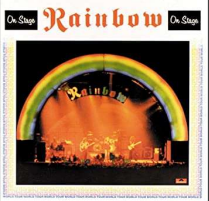
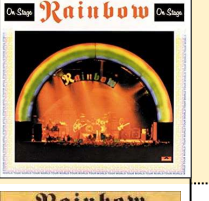
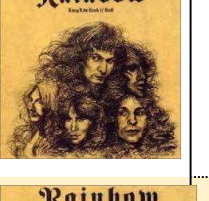
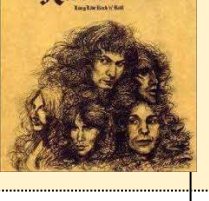
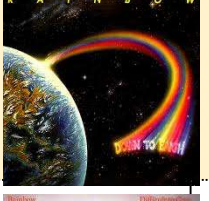
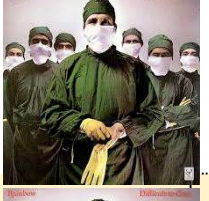
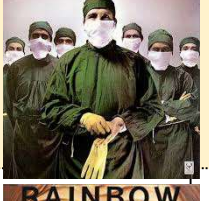
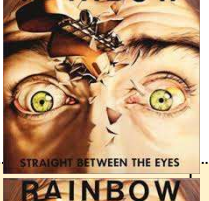
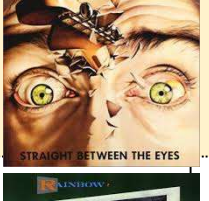
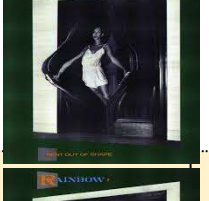
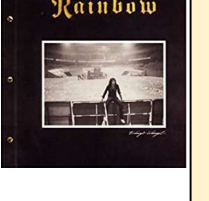
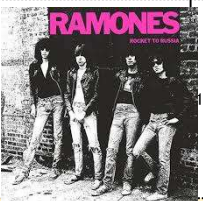
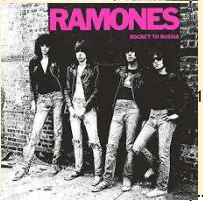
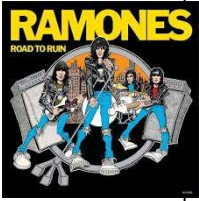
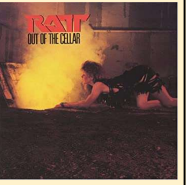
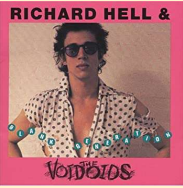
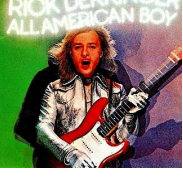
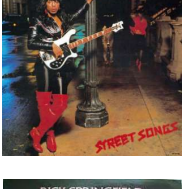
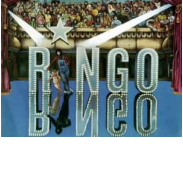
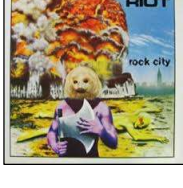
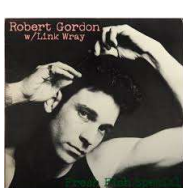
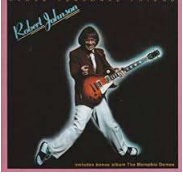
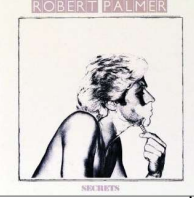
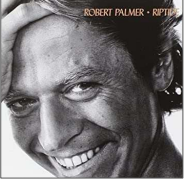
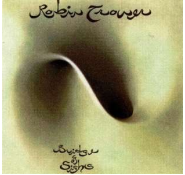
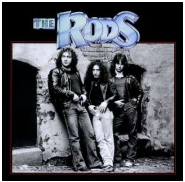
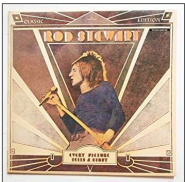
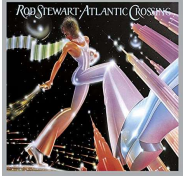
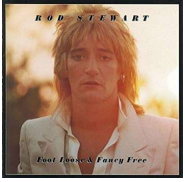


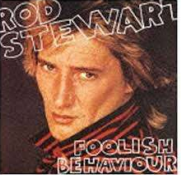
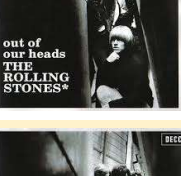
感動的なバラード「ウィル・ユー」										
アーティスト名		日本タイトル	発売日	ジャンル	レコード or CD	発売国	アルバム内容	収録曲		
R	RAVEN	ステイ・ハード		1985年	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	日本	ニム・組ハブナー・メタル。アメリカで最高81位を記録した「Stay Hard」が彼等にとってのセールス面での頂点。最高傑作は「Wiped Out」が「All for One」あたりだ。一部ではスラッシュ・メタルの原点などと言われている。トラック1のタイトル曲の出来が良い。「ステイハー、ステイウェツ」のバック・コーラスが印象的で力強く元気を貰えて、力が漲ってくる。全く速さを感じないが、レイプンらしさは全開のミディアム・テンポ。トラック3「On And On」は「All for One」の流れを汲む叙情的メタルで、更に彼等の良さが出るかも？。演奏も良いが、メジャーレーベルの本領発揮、音がクリアーでギターの爆音、ジョンの絶叫が耳に炸裂する。心地イイ時間だ。 しかし、トラック2は明らかに曲がつまらないし、トラック7のバラードは特に不出来というしかない。本来のスピードを伴ったトラック9「Extract the Action」、インストながら本作最速のトラック10「The Bottom Line」等はハイレベルな演奏	Side A 1. ステイ・ハード 2. ゴーイング・ゲッツ・タフ 3. オン・アンド・オン 4. ゲット・イット・ライト 5. レストレス・チャイルド	Side B 1. パワー・アンド・グローリー 2. プレイ・フォー・ザ・サン 3. ハード・ライド 4. アクション 5. ボトム・ライン
	RACHL SWEET	フル・ア라운드		1979	ニューウェ イブ	レコード	日本	「I Love You」は「I Love You in Two Different Worlds」などカントリー・ミュージック歌手としてレコーディングした経験が示唆するように、彼女の魅力を引き出すのは、カントリー・バラード。そして、激甘ロリータ・ヴォイスを活かしたポップス寄りのサウンドでしたが、デビューアルバム『フル・ア라운드』は、ロカビリーやパンク、パブロック、カントリーや60's R&Bなどこった煮な音楽を詰め込んだ一枚です。当時の流行りはパンク〜ニューウェーブであり、レーベルもニューウェーブ専門レーベルであるSTIFF、サポートミュージシャンもイアン・デュリーと彼のバンド(ブローケン・ヘッズ)、そして、プリンス・レー・シュワルツと、STIFF色が色濃くでています。(プロデュース&アレンジにはBarrie Guard、Dave Mackay、Liam Sternberg等が参加) プロモーションも異能のシンガー、リーナ・ラヴィッチと併せておこなわれたようで、果たしてイメージ戦略としてプラスになったのでしょうか。「Who Does Lisa Like?」を始めとする、シャウトしてロックンロールを歌うレイチェルもいいですが、エルビス・コストロが提供したカントリー・バラード調の「Stranger In The House」、デル・シャノンのカバー「I Go To Pieces」(US版)や「Stay Awhile」で聴かせる透き通った声は胸を打つもの。彼女の激しいパフォーマンスは活かしていません	Side A 1. ジャスト・マイ・スタイル[3:14] 2. ベイビー[3:06] 3. フー・ダズ・リサ・ライク[3:01] 4. ワイルドウッド・サルーン[3:57] 5. ステイ・アホワイル[3:02] 6. サスペンデッド・アニメーション[3:18]	Side B 1. イッツ・ソー・ディファレント・ヒア[2:50] 2. カッコー・クロック[2:46] 3. ビン・ア・メダル・オン・メアリー[3:12] 4. ガール・ウィズ・ア・シンセサイザー[2:34] 5. ストレンジヤー・イン・ザ・ハウス[4:07]
	RACHL SWEET	汚れなき憧れ		1980年	ニューウェ イブ	レコード	日本	STIFFのアイドル的存在だったレイチェルの1980年リリースした2ndアルバム。ルー・リード、ダムド、グレアム・パーカーのカヴァーを披露。)セカンドアルバムでは、ヴェルベット・アンダーグラウンドの「NEW AGE」、ダムドの「NEW ROSE」、グラハム・パーカーの「FOOLS GOLD」など、よりニューウェーブ、パンク色を増す結果となりました。一方、アルバムの中で異彩を放つ「TONIGHT RICKY」ではジャジーな大人の色気を魅せています。その後、1981年、コロンビアへ移籍し、アルバム「... And Then He Kissed Me」や「Blame it on Love」、そして、レックス・スミスとのデュエットシングル「Everlasting Love」などをリリース、1988年にはMCAよりジョン・ウォーターズ監督映画『ヘアスプレー』の主題歌をリリースしました。	Side A 1. トゥナイト 2. ジェラス 3. アイヴ・ガット・ア・リーズン 4. ニュー・エイジ 5. ベイビー・レッツ・プレイ・ハウス 6. ニュー・ローズ	Side B 1. フールズ・ゴールド 2. テイク・グッド・ケア・オブ・ミー 3. スペルバウンド 4. ラヴァーズ・レーン 5. ファウル・プレイ 6. トゥナイト・リッキー
	RADIATORS	テレビ・チューブ・ハート		1977	パンク	レコード	UK	伝説的アイリッシュ・パンクロックのパイオニア。超名作1stアルバム。U2のボノが彼らに触発されてバンドを始めたというほど強く影響を受けており、ボーカルのSteve AverillはU2の名付け親でジャケットを手掛けるグラフィックデザイナーとしても有名。	A1. Television Screen A2. Prison Bars A3. Great Expectations A4. Roxy Girl A5. Press Gang A6. Contact A7. Sunday World	B1. Electric Shares B2. Enemies B3. Ripped And Torn B4. Not Too Late B5. Blitzin' At The Ritz B6. Party Line
	RADIATORS	ゴーストタウン		1978	パンク	レコード	UK	ラジェイターズの1978年のセカンドアルバム。プロデュースはデイヴィッド・ボウイやTレックス(マーク・ボラン)らを手掛けたトニー・ヴィスコンティ。パンクを基調にしたサウンドに70年代アイルランド・ダブリンの混沌とした世相を反映した文学的メッセージが込められた、“アイルランドでしか生まれ得なかった”と評される名盤。ギター&ヴォーカルのフィリップ・シェヴロンは後に結成するザ・ボーグスでこのテーマ&スタイルをさらに発展させていった。		
	RADIO STARS	ソングス・フォー・ス ウィングング・ラヴァー ズ		1978	ニューウェ イブ	レコード	日本			
	RADIO STARS	ホリデイ・アルバム		1979	ニューウェ イブ	レコード	日本			
	RADIO STARS	ホリデイ・アルバム		1979	ニューウェ イブ	レコード	日本			
	RAILWAY CHILDREN	再会		1986	ネオアコ	レコード	US			
	RAINCOATS	レインコーツ		1979	ニューウェ イブ	レコード	日本			
	RAINBOW	銀嶺の覇者		1975	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	日本	75年作、レインボーの記念すべき3枚目となったアルバムです。バーブル脱退から1年も置かずに、リッチーはソロ・アルバム制作のため、クォーターマスの「BLACK SHEEP OF THE FAMILY」をレコーディングします。ちなみにブラック・シープは厄介者という意味がありますが、当時の邦題は「黒い羊」とまんまのタイトルが冠せられています。 この時に集められたのはアメリカのバンド、エルフで、リッチーはロニー・ジェームズ・ディオと運命的な出会いを果たし、そのままバンド結成、当初のソロ・アルバムのアイデアを流用しながら、以降のレインボーの様式美路線を僅かではありますが生み出す事に成功しています。 アルバム全体のサウンドは、「嵐の使者」で聴けたファンキーなハード・ロック路線が目立ち、かなり親しみやすいポップ作になったと思います。 ロニー以外のエルフのメンバーが結構頑張っているのですが、ご存知の様に本作のみで解雇される事となり、リッチーの厳しい人選管理体制がここから始まり出しました。 そのアメリカンなダイナミズムが爆発した「SNAKE CHARMER」や、「IF YOU DON'T LIKE ROCK 'N' ROLL」、ヤードバーズのカヴァーとなった「STILL I'M SAD」等は、このラインナップならではの味わいがあるのは確かです。 ただやはりロニーのヴォーカリストとしての魅力が爆発した名曲、「CATCH THE RAINBOW」、あるいは「MAN ON THE SILVER MOUNTAIN 銀嶺の覇者」で、すでにリッチーは自分の進むべき道を見出していたのだと思います。	Side A 1. 銀嶺の覇者 Man on the Silver Mountain - 4:42 2. 自画像 Self Portrait - 3:17 3. 黒い羊 (ブラック・シープ・オブ・ザ・ファミリ- [3]) Black Sheep of the Family - 3:22 4. 虹をつかもう Catch the Rainbow - 6:27	Side B 1. へび使い Snake Charmer - 4:33 2. 王様の神殿 The Temple of the King - 4:45 3. もしもロックがきらいなら If You Don't Like Rock 'n' Roll - 2:38 4. 16世紀のグリーンズリーヴス Sixteenth Century Greensleeves - 3:31 5. スティル・アィム・サッド Still I'm Sad - 3:51
	RAINBOW	銀嶺の覇者		1975	ハードロック &ヘビー メタル	CD	日本		【メンバー】 ロニー・ジェームス・ディオ - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター ミッキー・リー・ソウル - キーボード クレイグ・グルーバー - ベース ゲイリー・ドリスコール - ドラムス ジョシャーナ - バックコーラス	
	RAINBOW	虹を翔る覇者		1976	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	日本	76年作、レインボーのセカンド・アルバムは、全英11位、全米48位。日本オリコン1位。バンド名義がRitchie Blackmore's RainbowからBlackmore's Rainbowに変更され、しかもアルバム・タイトルは「RISING」とされる事も多いため、レインボーの「ライジング」とシンプル呼ばれるというややこしい1枚。本作からコーギー・パウエルが参加し、いよいよリッチー、ロニーとの三頭政治と呼ばれる時代が始まる。前作での土臭いハード・ロック色は完全に払拭され、ロニーの中世ロマンを盛り込み、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団を呼び込んだの圧倒的なドラマ性を生み出している。いわゆる様式美HR/HMという呼び名も、本作から始まったと言っていい。特にアルバムを締めくくるラスト2曲、「STARGAZER」、「A LIGHT IN THE BLACK」が、組曲的構成となった大作となり、美しくも激しいリッチーの美学が理想的なメンバーにより具現化に成功。本作限りの参加となったトニー・ケアリー、ジミー・ペインの貢献もかなり大きい。本作がレインボーのベスト・メンバーであった。 オープニングの「TAROT WOMAN」のスペーシーかつ荘厳な響きは、ケアリーの流麗なプレイによって演出されていて、また「STARSTRUCK」や「DO YOU CLOSE YOUR EYES」といったキャッチーなナンバーではジミーがコーギーと共にタイトに締めてくれている。 今となってはこのメンバー中3人が逝ってしまったため、もう二度と本作でのスリリングなプレイは望めないのが、本当に残念に思われます。全6曲という非常にコンパクトな構成ではありますが、各曲全てに無駄が無く、途中挟まれる唯一パープル色の強い「RUN WITH THE WOLF」も素晴らしいアクセントとなっ	【プロデュース】マーティン・バーチ Side A 1. タロット・ウーマン Tarot Woman - 5:58 2. ラン・ウィズ・ザ・ウルフ Run with the Wolf - 3:48 3. スターストラック Starstruck - 4:06 4. ドゥ・ユー・クローズ・ユア・アイズ Do You Close Your Eyes - 2:58	Side B 1. スターゲイザー Stargazer - 8:26 2. ア・ライト・イン・ザ・ブラック A Light in the Black - 8:12 【メンバー】 ロニー・ジェームス・ディオ - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター トニー・ケアリー - キーボード ジミー・ペイン - ベース コーギー・パウエル - ドラムス

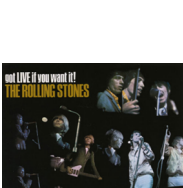
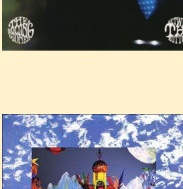
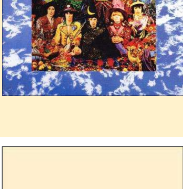
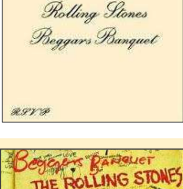
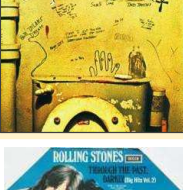
RAINBOW	レインボー・オン・ステージ		1977	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	日本	77年リリース、レインボーの初のライブ盤となったアルバムです。収録は76年の初来日となった日本武道館、そして同年のドイツ公演の音源も一加えられています。「オーヴァー・ザ・レインボー」のSEから始まり、オープニングは当時の新曲として発表された「キル・ザ・キング」。この劇的でスリリングな展開には、今聴いても鳥肌が立つ程です。リッチー、ロニー、コージーという、今ではもう二度と叶わぬラインナップは、レインボーの三頭政治とも呼ばれていましたが、やはり強力なバンド・サウンドだったと思います。メドレーとなった2曲目、そして名バラード「虹をつかもう」への流れ、更にロニー版「ミストウリーテッド」へと続く構成も見事です。非常にコンパクトな選曲とはなっていますが、60分を超える収録となっており、実に聴き応えのある1枚です。	Disc1 Side A イントロ：虹のかなたに Intro: Over the Rainbow 1. キル・ザ・キング Kill the King - 5:32 2. メドレー 銀嶺の覇者 (Man on the Silver Mountain) / ブルース / スターストラック - 11:12 Side B 1. 虹をつかもう Catch the Rainbow - 15:35	Disc2 Side A 1. ミストウリーテッド - 13:03 Side B 1. 16世紀のグリーンスリーヴス (Sixteenth Century Greensleeves) 7:36 2. スティル・アイム・サッド - 11:01 【メンバー】 ロニー・ジェイムス・ディオ - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター トニー・カレイ - キーボード ジミー・ベイン - ベース コージー・パウエル - ドラムス
RAINBOW	レインボー・オン・ステージ		1977	ハードロック&ヘビーマタル	CD	日本			
RAINBOW	バビロンの城門		1978	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	日本	78年作。レインボーの3作目となったアルバムで、リッチー、ロニー、コージーによる三頭政治と言われた体制での最後の作品です。ベース、キーボードがまたしても交代し、バンドの状態は混乱状態、レコーディングも一部リッチーがベースを担当する等、けって良好な状況とは言えない中、各曲の完成度は恐ろしく高いものとなっています。シンプルかつキャッチーなリフがグイグイ引っ張るアルバム・タイトル曲で見事に掴み、ロニーのメロディアスな歌メロが印象的な2曲が続き、アナログA面でのラスト曲はミステリアスなメロディとスリリングな展開、そしてこれぞリッチー大先生と言えるドラマチックなソロへと続いていく「GATES OF BABYLON」となっています。完璧な構成は更に後半へと受け継がれ、様式美ハード・ロックの超名曲、「KILL THE KING」で一気に頂点へと向かっていきます。コージーのパワフルなドラムが先導する疾走感と、一度聴いたら忘れられないメロディの絡みは、ロニー時代の最も熱い曲として昇華していると思います。続くミドル・テンポでのヘヴィ・ナンバー、「THE SHED」、そして本作中最もポップと思われる「SENSITIVE TO LIGHT」、そしてバンド史上最高の美しさとせつなさを誇るバラード大作で、「RAINBOW EYES」で幕を閉じるわけです。この完璧すぎる内容が、レインボーのピークを象徴し、リッチーはポップ化の促進、一方のロニーは様式美路線の追求の決心をさせる事になりましたが、以降多くのバンドが本作を超えるべく四苦八苦してきたのも事実だと思えます。息をつく暇も無い程の吸引力を持つ構成とメロディの充実度は、今は亡きコー	Side A 1. ロング・リヴ・ロックン・ロール - 4:21 2. レディ・オブ・ザ・レイク - 3:39 3. L.A.コネクション - 5:02 4. バビロンの城門 (Gates of Babylon) - 6:49	Side B 1. キル・ザ・キング - 4:29 2. ザ・シェッド - 4:47 3. センシティブ・トゥ・ライト - 3:07 4. レインボー・アイズ - 7:11 【メンバー】 ロニー・ジェイムス・ディオ - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター／ベース (1,2,3,6) コージー・パウエル - ドラムス デヴィッド・ストーン - キーボード ボブ・デイズリー - ベース (4,5,7)
RAINBOW	バビロンの城門		1978	ハードロック&ヘビーマタル	CD	日本			
RAINBOW	ダウン・トゥ・アース		1979	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	日本	79年作、レインボーの4枚目のアルバムであり、不世出のヴォーカリスト、グラハム・ボネット、更にリッチーの旧友であり、プロデュースも務めたロジャー・グローヴァーが加わった大名盤です。本作限りとなったこのメンバーでのレインボーに思入れも強い人は少なくないと思います。「オール・ナイト・ロング」、そして「シンス・ユー・ビーン・ゴーン」という超ポップ・ナンバーを揃え、完全にアメリカン・マーケットを意識したサウンドへのシフト・チェンジは、ロニー・ジェイムス・ディオ時代のレインボーとは全く違ったバンドとなりましたが、それでもスリリングな展開を見るドラマチック・ハード・ロックの名残りは十分に残っている部分もあります。80年代メタルはこう有るべきと予見したかの様な内容は、レインボーの歴史の中でも特筆すべき1枚だと思います。全英6位 / 全米66位。日本オリジナル盤。	Side A 1. オール・ナイト・ロング - 3:53 2. アイズ・オブ・ザ・ワールド - 6:42 3. ノー・タイム・トゥ・ルーズ - 3:45 4. メイキン・ラヴ - 4:38	Side B 1. シンス・ユー・ビーン・ゴーン - 3:25 2. ラヴズ・ノー・フレンド - 4:55 3. デンジャラー・ゾーン - 4:31 4. ロスト・イン・ハリウッド - 4:51 【メンバー】 グラハム・ボネット - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター コージー・パウエル - ドラムス ドン・エイリー - キーボード ロジャー・グローヴァー - ベース
RAINBOW	ダウン・トゥ・アース		1979	ハードロック&ヘビーマタル	CD	日本			
RAINBOW	アイ・サレンダー		1981	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	US	81年作。レインボーの第6作目で、前作の商業的路線を更に推し進めた快作となったアルバムです。前作を最後に、バンドの人気を支えていたコージー・パウエル、グラハム・ボネットが相次いで脱退します。NWOBHMが勃発していた中、最大のピンチを迎えたリッチーが迎えたヴォーカリストが、後にハード・ロック界の名シンガーとなるジョー・リン・ターナーでした。この人のルックスを含めたカリスマ性、華やかな声と、ラス・バラード作の「アイ・サレンダー」が合体した時、以降のメタルの重要な要素となる、メロディアスかつポップなハード・ロックのモデル・ケースが誕生したのでした。初期レインボーらしさはますます希薄になりましたが、所々に見られるリッチー・ブラックモアのセンスがまさに80年代的なキラキラ度で輝いています。加速化するフォリナー路線も魅力的ですが、リッチーの職人的なクラシック指向も見逃せません。	Side A 1. アイ・サレンダー I Surrender - 4:10 2. スポットライト・キッド Spotlight Kid - 5:10 3. ノー・リリース No Release - 5:42 4. マジック Magic - 4:15 5. メイビー・ネクスト・タイム Vielleicht Das Nächste Mal[4] (Maybe Next Time) - 3:23	Side B キャント・ハブン・ヒア Can't Happen Here - 5:09 フリーダム・ファイター Freedom Fighter - 4:28 ミッドタウン・タネル・ヴィジョン Midtown Tunnel Vision - 4:44 治療不可 Difficult To Cure - 5:58
RAINBOW	アイ・サレンダー		1981	ハードロック&ヘビーマタル	CD	US			
RAINBOW	闇からの一撃		1982	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	日本	82年作、レインボーの6作目となり、ジョー・リン・ターナーが加入してからの第二弾となったアルバムです。ラス・バラードの力を借りずに、ますますフォリナー化したシングル「ストーン・コールド」を中心に、レインボーが本格的にアメリカン・マーケットを意識しています。前作の「アイ・サレンダー」よりも洗練されたハード・ロック・アルバムとなっており、ポップなメロディも話題になりました。全く新しいレインボーのサウンドに賛否両論がより大きくなりましたが、後の80年代メタルのプロト・タイプとも言えるべき内容は無視できない素晴らしいがあります。5位(UK) / 30位(US)。		
RAINBOW	闇からの一撃		1982	ハードロック&ヘビーマタル	CD	US			
RAINBOW	ストリート・オブ・ドリームス		1983	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	日本	83年作、レインボー名義としてはラスト作として知られるアルバムです。ジャケットはご存知ヒプノシスが担当しています。前作、前々作と続いたフォリナー的メロディアス・ハード路線を更に強化する一方、欧州的な陰りを増し、80年代初期のポップ・メタル名盤としての香りは今も衰えていません。全体的にキーボード主体、そしてジョー・リン・ターナーの歌の上手さが際立つメロディ・ラインによりハード・ロックとしてのダイナミズムより商業的性を意識しすぎた感もありますが、それでも本作をお手本としてきたバンドは多いと思われます。もう1枚この路線で作って欲しかった気がありますが、リッチーのアメリカ戦略は、ここで最終的ピークを迎えたという事なのでしょう。アルバム前半の冒頭3曲の完璧さには、何度聴いても震えがきてしまします。		
RAINBOW	ストリート・オブ・ドリームス		1983	ハードロック&ヘビーマタル	CD	US			
RAINBOW	ファイナル・ヴァイナル		1986	ハードロック&ヘビーマタル	CD	US	86年リリース作、レインボーのライブ・アルバムとしては二作目となったものですが、本作はバンド解散後にロジャー・グローヴァーが特別に編集、言わばファンサービスともなったありがたい作品です。ロニー・ジェイムス・ディオ、グラハム・ボネット、ジョー・リン・ターナーと、歴代ヴォーカリストをフィーチャーした音源がまとめられ、バンドの歴史一望、更にベスト盤的なセレクトがされています。更にオリジナル・アルバム未収録であったスタジオ・テイク曲、「Jealous Lover」、「Weis Heim」、「Bad Girl」が加えられています。特に「Bad Girl」は、シングル「Since You Been Gone」のB面曲で発表されましたが、その後ベスト盤等にも収録されなかったもので、グラハム・ボネットの熱いヴォーカルが聴ける渋いナンバーなので貴重と思われます。ライブ音源に関しては、ジョー在籍時の1984年3月の来日公演の武道館からの収録が4曲も含まれているため、日本人にとってはかなり嬉しい内容となっています。	1. スポットライト・キッド Spotlight Kid (1984年3月14日 ライヴ) - 6:03 2. アイ・サレンダー I Surrender (1984年3月14日 ライヴ) - 5:43 3. ミス・ミストウリーテッド Miss Mistreated (1984年3月14日 ライヴ) - 4:21 4. ジェラス・ラヴァー Jealous Lover - 3:10 5. キャント・ハブン・ヒア Can't Happen Here (1981年4月 ライヴ) - 4:14 6. シンス・ユー・ビーン・ゴーン Since You Been Gone (1980年8月16日 ライヴ) - 3:47	7. バッド・ガール Bad Girl - 4:51 8. 治療不可 Difficult to Cure (1984年3月14日 ライヴ) - 11:15 9. ストーン・コールド Stone Cold (1982年8月18日 ライヴ) - 4:28 10. パワー Power (1982年8月18日 ライヴ) - 4:25 11. 銀嶺の覇者 Man on the Silver Mountain (1978年6月23日 ライヴ) - 8:16 12. ロング・リヴ・ロックン・ロール Long Live Rock'n'Roll (1978年6月23日 ライヴ) - 7:08 13. ワイス・ハイム Weiss Heim - 5:15
RAMONES	ラモーンズの激情		1976年4月23日	パンク	レコード	US	ラモーンズが1976年に発表したデビューアルバム。ラモーンズは1975年末にサイアール・レコードとの契約を得て、ニューヨーク・パンクのシーンにおいてはバティ・ミスに続くレコード契約を得たアーティストとなった。1曲目の「ブリックワーカー・バップ」は、本作に先駆けてのデビュー・シングル。リリース当時は大きな成功に至らず全米111位に終わり、リリースから1年で76年枚ほどしか売れなかった。破れまくったジーンズとライダース・ジャケット、マッシュルーム・カットを半年くらい伸ばしっぱなしにしたヘアスタイルのむさい男4人が叩きつけるのは、ほとんどすべての曲が3分以内で終わってしまう高速のスリーコード・ロックンロール。その後、20年以上に渡って「偉大なるワンパター」を繰り返しながら、世界中のパンク・バンドからのリスペクトを受けづけることになるラモーンズのデビュー・アルバムだ。ニューヨークのアンダーグラウンドシーンから発牛した彼らのプリミティヴなロッ	Side A 1. ブリックワーカー・バップ - 2:13 2. ビート・オン・ザ・ブラット - 2:32 3. ジュディ・イズ・ア・パンク - 1:32 4. アイ・ウオナ・ビー・ユア・ボーイフレンド - 2:24 5. チェイン・ソウ - 1:56 6. スニッフ・サム・グルー - 1:36 7. ダウン・トゥ・ザ・ベイスメント - 2:40	Side B 1. ラウドマウス - 2:15 2. ハヴァナ・アフター - 1:57 3. リッスン・トゥ・マイ・ハート - 1:58 4. 53rd & 3rd - 2:21 5. レッツ・ダンス - 1:52 6. ウォーク・アラウンド・ウィズ・ユー - 1:43 7. トゥモロウ・ザ・ワールド - 2:17

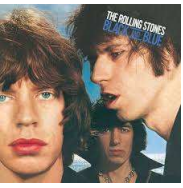
	RAMONES	ラモーンズの激情(デジタルリマスター)		1976年4月23日	パンク	CD	日本	ク・サウンドは、テクニックばかりが重視されがちだった70年代のアメリカの音楽シーンに新鮮なショックを与えるとともにロックンロールが持つ本質的な魅力を取り戻すことになる。初めて聴いた人にはすべて同じに思える超シンプルなエイト・ビート・サウンド、異様な興奮を呼び起こすポップ・メロ、まるでアメリカン・コミックから飛び出てきたようなメンバーのキャラ。音楽性に対する評価より、そのあまりにもキャッチーな存在自体が愛されたラモーンズの歴史は、ここから始まった。	リマスターCDボーナス・トラック(デモ) 15. アイ・ウォナ・ビー・ユア・ボーイフレンド - 3:02 16. ジュディ・イズ・ア・バンク - 1:36 17. アイ・ドント・ケアー - 1:55 18. アイ・キャン・ト・ビー - 1:56	19. スニッフ・サム・グルー - 1:42 20. ドント・ウォナ・ビー・ラード/ドント・ウォナ・ビー・デイド - 1:05 21. ネヴァー・オブ・ザット・ドアー - 1:54 22. プリッツクリーグ・バップ(シングル) - 2:12
	RAMONES	リーブ・ホーム		1977年1月	パンク	レコード	US	ラモーンズが1977年に発表した2作目。ラモーンズのアルバムでは、「1stや3rd」が名盤とされがちだがポップな2ndも見逃せない作品だ。NYドールズやストゥージス、MC5に影響を受けつつも、フレディ・キャノンや60年代のガールズグループのシャングリラスなんかをリスペクトしているところが表れていてキャッチーな曲が多く1stや3rd同様ニヤリとさせられる。ラモーンズの偉大なところは、50年代から70年代の過去のロックを否定せずに敬意を払い自分達のスタイルを確立したところだが、その本質が表れているのが1stから3rdまでの作品だと思う。 「オー・オー・アイ・ラヴ・ハー・ソー」は、フレディ・キャノンの曲「パリエイズ・パーク」にインスパイアされた曲である。「ピンヘッド」でフィーチャーされている「ガバ、ガバ、ヘイ」というチャントは、1932年公開の映画『フリース』のワンシーンからの影響で生まれた。初回盤LPの5曲目には「カーボナ・ノット・グルー」が収録されていたが、同年に発売されたアメリカ盤再発LP (SR 6031)では、同曲が外されて当時のシングル・ヒット曲「シーナはパンク・ロッカー」に差し替えられた。また、イギリス盤再発LP (9103-254)では、「カーボナ・ノット・グルー」の代わりに「ペイペーシッター」が収録された。 アメリカでは148位と振るわずだが、全英チャートでは45位となり、バンド初の	Side A 1. グラッド・トゥ・シー・ユー・ゴー - 2:14 2. ギミ・ギミ・ショック・トリートメント - 1:44 3. アイ・リメンバー・ユー - 2:21 4. オー・オー・アイ・ラヴ・ハー・ソー - 2:09 5. カーボナ・ノット・グルー - 1:55 6. スージー・イズ・ア・ヘッドバンガー - 2:14 7. ピンヘッド - 2:45	Side B 1. アイ・ウォナ・ビー・ア・グッド・ボーイ - 2:16 2. スワロウ・マイ・ブライド - 2:10 3. ホワッツ・ユア・ゲーム - 2:41 4. カリフォルニア・サン (Henry Glover, Morris Levy) - 2:07 5. コマンド - 1:53 6. キル・ザット・ガール - 2:43 7. ネヴァー・オブ・ザット・ドアー - 1:59
	RAMONES	ロケット・トゥ・ロシア		1977年11月4日	パンク	レコード	US	ラモーンズが1977年に発表した3作目。全米49位となり、バンド初の全米トップ100アルバムとなった。ラモーンズのアルバムの中でもファーストアルバムがこのサードアルバムが最高傑作と言われることが多く、とにかく楽曲が良い。基本理念は不変のバンドだが、今回からメジャー・プロダクションに移行したせいもあり、サウンドに貴族がついてきた。ベスト盤に入っていないイイ曲も多い。尚、本作リリース後、トミー・ラモーンはプロデューサーとしての仕事に集中するためバンドを脱退した。	Side A 1. クレティン・ホップ - 1:56 2. ロッカウェイ・ビーチ - 2:06 3. ゴーン・トゥモロウ - 2:49 4. ロケット・ラヴ - 2:11 5. アイ・ドント・ケアー - 1:39 6. シーナはパンク・ロッカー - 2:49 7. ハッピー・ファミリー - 2:40	Side B 1. ティーンエイジ・ロバトミー - 2:01 2. ドゥ・ユー・ウォナ・ダンス! - 1:55[14] 3. アイ・ウォナ・ビー・ウェル - 2:28 4. アイ・キャン・ギヴ・ユー・エニシング - 2:01 5. ラモーナ - 2:38 6. サーフ・ン・バード - 2:37 7. ホワイ・イズ・イット・オールウェイズ・ディ・ス・ウェイ - 2:22
	RAMONES	ロケット・トゥ・ロシア (デジタルリマスター)		1977年11月4日	パンク	CD	日本			
	RAMONES	ロード・トゥ・ルーイン		1978年	パンク	レコード	US	1978年リリース、ラモーンズの4枚目のアルバム。デビュー以来2年間で3枚のグレートなアルバムを出しながら商業的成功を得られず、その間にイギリス勢がパンクの主役に躍り出たことの影響で彼らに代わってシリウスでダークな1978年の本作を生んだことがつづきに説明されている。「Needles & Pins」カバーやバラード、アコースティック曲は今までのままでは売れないという気持ちから生まれたのだろうか結果的にバンドの音楽性に幅をもたらした。初期三枚がパンクの大名盤で、それに比べると少し評価がおちるがコレも紛れもなくファンの間では人気の高い名盤で彼等の代表作の1つ！このアルバムからドラマがマーキー・ラモーンに移り、そのかいあって曲のビッチがまた1つ上ったように思える。プロデュース面では初期4枚の中でこのアルバムがベストだと僕は思う！タイトルはロードの暗黒面という意味らしくツアーからインスピレーションを得た曲が多い(この時期彼等は凄いいツアー・スケジュール)。代表曲1、7なんかはまさにそんな曲でラストの12も、ツアー先のホテル？で1人、生まれ故郷のベルリンに想いをさせるのか、またまた過去の自分、ベルリン時代の自分に戻るにはもう遠くに来過ぎたと言う意味か、ベースのディー・ラーモーンの曲だ。また3や9はそれまでなかった新路線っぽい曲。特にカントリーテイストの9は素朴な味わいが、にゅるっと滲み出る曲で、これは彼等のカタログの中では唯一の事である	Side A 1. I Just Want To Have Something To Do 2. I Wanted Everything 3. Don't Come Close 4. I Don't Want You 5. Needles & Pins 6. I'm Against It	Side B 1. I Wanna Be Sedated 2. Go Mental 3. Questioningly 4. She's The One 5. Bad Brain 6. It's A Long Way Back
	RAMONES	エンド・オブ・センチュリー		1979年	パンク	レコード	US	デビュー以来2年間で3枚のグレートなアルバムを出しながら商業的成功を得られず、その間にイギリス勢がパンクの主役に躍り出たことの影響で彼らに代わってシリウスでダークな1978年の本作を生んだことがつづきに説明されている。「Needles & Pins」カバーやバラード、アコースティック曲は今までのままでは売れないという気持ちから生まれたのだろうか結果的にバンドの音楽性に幅をもたらした。初期三枚がパンクの大名盤で、それに比べると少し評価がおちるがコレも紛れもなくファンの間では人気の高い名盤で彼等の代表作の1つ！このアルバムからドラマがマーキー・ラモーンに移り、そのかいあって曲のビッチがまた1つ上ったように思える。プロデュース面では初期4枚の中でこのアルバムがベストだと僕は思う！タイトルはロードの暗黒面という意味らしくツアーからインスピレーションを得た曲が多い(この時期彼等は凄いいツアー・スケジュール)。代表曲1、7なんかはまさにそんな曲でラストの12も、ツアー先のホテル？で1人、生まれ故郷のベルリンに想いをさせるのか、またまた過去の自分、ベルリン時代の自分に戻るにはもう遠くに来過ぎたと言う意味か、ベースのディー・ラーモーンの曲だ。また3や9はそれまでなかった新路線っぽい曲。特にカントリーテイストの9は素朴な味わいが、にゅるっと滲み出る曲で、これは彼等のカタログの中では唯一の事である	Side A 1. Do You Remember Rock & Roll Radio? 2. I'm Affected 3. Danny Says 4. Chinese Rock 5. The Return of Jackie and Judy 6. Let's Go	Side B 1. Baby I Love You 2. I Can't Make It on Time 3. This Ain't Havana 4. Rock & Roll High School 5. All the Way 6. High Risk Insurance
	The Raspberries	ラズベリーズ		1972年	ロック	レコード	日本	クリーブランド出身エリック・カルメン率いたアメリカン・パワー・ポップの祖「ラズベリーズ」、72年全米51位の大ヒットとなった名作デビュー・アルバム！全米5位のシングル大ヒット「Go All The Way」や「Rock & Roll Mama」「Get It Moving」「Don't Want To Say Goodbye」等々、メランコリーな美メロPOP、ROCK名曲が満載全9曲。パワーポップ〜ニック・ロウ好きにもドスメです。	Side A 1. ゴー・オール・ザ・ウェイ 2. カム・アラウンド・アンド・シー・ミー 3. アイ・ソー・ザ・ライト 4. ロック・アンド・ロール・ママ 5. ウェイティング	Side B 1. さよならは言わないで 2. ウイズ・ユー・イン・マイ・ライフ 3. ゲット・イット・ムーヴィング 4. アイ・キャン・リメンバー
	The Raspberries	ラズベリーズ・ベスト〜フィーチャリング・エリック・カルメン〜		1976年	ロック	レコード	日本	ラズベリーズは、エリック・カルメンが大学生の時に結成したバンドで、1971年頃にデビューするや『Go All the Way』などをヒットさせるが、1975年に解散したグループのベストアルバム。「ゴー・オール・ザ・ウェイ」「トゥナイト」「エクスタシー」「レッツ・プリテンド」「スターティング・オーバー」・・・等々、全曲が素晴らしい。最高のパワフルでメロディアスなロックンロールで満たされています。	Side A 1. ゴー・オール・ザ・ウェイ 3:18 2. トゥナイト 3:39 3. 君に告げた 3:35 4. 明日を生きよう 3:06 5. アイ・キャン・リメンバー 8:01	Side B 1. オーバーナイト・センセーション 5:27 2. レッツ・プリテンド 3:40 3. ドライヴィン・アラウンド 3:02 4. スターティング・オーバー 4:09 5. さよならは言わないで 5:05
	RATT	情欲の炎		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	84年作、ラットのメジャー・デビュー・アルバム。本作こそLAメタルの最もキラキラした部分を体現していたアルバム、と言って過言ではないと思います。彼等のグラマラスなルックスとファッションをきっかけに、メタル、ハード・ロックに踏み込んだ女性ファンも多かったのではないのでしょうか。そのキャッチーなメロディと、フラッシュなギターは当時の少年達をも虜にした感があります。モトリー・クルーと共に時代の寵児になりながら、彼等自身が提唱したラットン・ロールは、確かに独自の響きを持った新しいアメリカン・ハードの形でもあったと思われます。サウンド的には正当評価がずっととされたことがなかったと思いますが、「ラウンド・アンド・ラウンド」のインパクトこそが、明快なハード・ロックの楽しさと妖しさをわかりやすく教えてくれていました。	Side A 1. ウォンテッド・マン 2. ユア・イントラブル 3. ラウンド・アンド・ラウンド 4. イン・ユア・ディレクション 5. シー・ウォンツ・マネー	Side B 1. ラック・オブ・コミュニケーション 2. バック・フォー・モア 3. モーニング・アフター 4. 狂気 5. 殺しの情景
	RATT	情欲の炎		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
	RATT	インヴェイジョン・オブ・ユア・プライバシー		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	ラットが前作の大ヒットによりもたらした激変の功績は、グラマラスなルックスとポップなハード・ロックを定着させた事でした。日本でもその先見性には定評のあるロック少女達を巻き込み、LAメタルという言葉もすっかり浸透する事となります。間髪を入れずにリリースされた85年作のセカンドである本作では、いよいよ80年代メタルの基礎ともなる、フラッシュなギターと色気のあるリフ、そしてキャッチーな歌メロの完成が見られています。彼等自身がラットンロールと呼んだミドル・テンポをベースとした個性は、バンドのヴィジュアル・イメージと共に強烈な印象を残す事になり、同期と言えるモトリー・クルーの猥雑さとは真逆の良く整理されたサウンド・プロダクションが目立ちます。彼等がLAメタルと共に衰退していったのは、逆にこれしかできなかったのではと思える程職人的な芸の細かさを感じられ、この辺は後にWINGERでも独特の音処理を施す事となるプロデューサーのボニー・ヒルの手腕も大きかったと思います。「ROUND AND ROUND」の様なキラキラしたポップ・メタルは影を潜めました。が、抑制された高揚感とも言うべきクールなキャッチーさが目立つ様になっています。「LAY IT DOWN」に代表される様な、地味ながらも確実に耳に残る心地良さは、スティーヴン・パーシーの一本調子とも思えるヴォーカルさえもスルメイカ的な味わいとなっていきます。	Side A 1. ユア・イン・ラヴ 2. ネヴァー・ユース・ラヴ 3. レット・イット・ダウン 4. ギヴ・イット・オール 5. クローサー・トゥ・マイ・ハート	Side B 1. ビトウィーン・ジ・アイズ 2. ホワット・ユー・ギヴ・イズ・ホワット・ユー・ゲット 3. ガット・ミー・オン・ザ・ライン 4. ユー・シュッド・ノウ 5. デンジヤラス・バット・ワース
	RATT	ダンシング・アンダー・カヴァー		1988年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	ラットの86年作、サード・アルバム。LAメタルの象徴として快進撃を続けてきた彼等の「Ratt'n Roll」が極まった好盤。圧倒的なドライブ感、成熟をみせる音楽性、ヒット曲「ダンス」で幕を開け一気に駆け抜けるラットン・ロールの爽快感が楽しめる名作。最もグラマラスな存在と言えたラットはサウンド的にはけっしてブームに触発される事なく自らの道を追求。良く言われる様に、スティーヴン・パーシーのヴォーカリストとしての限界が確かに曲調の幅を狭めていた事もあるとは思いますが、彼等は器用さよりもシンプルなのをセクシーでクールに聴かせる手腕を売りにしている。「SLIP OF THE LIP」や「IT DOESN'T MATTER」等は、その代表例。見た目の派手さと対照的なモノクロ、重厚なメタリックさが光っていた事が、今まであまり語られてこなかった気がするが、そういう意味ではサウンド志向はキラキラした時代に逆行していたとも思える。	Side A 1. ダンス 2. ワン・グッド・ラヴァー 3. ドライヴ・ミー・クレイジー 4. スリッ・オブ・ザ・リップ 5. ボディ・トーク	Side B 1. ルッキング・フォー・ラヴ 2. セヴン・アヴェニュー 3. イット・ダズント・マター 4. テイク・ア・チャンス 5. イナフ・イズ・イナフ

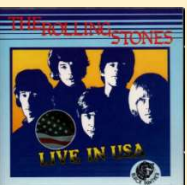
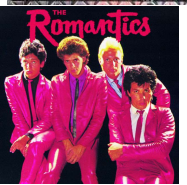
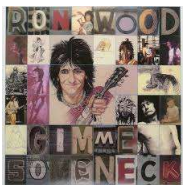
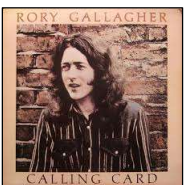
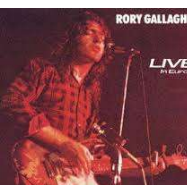
	RICHARD HELL AND THE VOIDOIDS	ブランク・ジェネレーション		1977	パンク	レコード	日本	「リチャード・ヘル」として、この楽曲が「リチャード・ヘル」名義で発表されている。ロバート・クインの2台のギターによる狂騒的なサウンドは、やかましくも鳥肌ものです。リチャードクワインらの瘦削気味のギターも素晴らしい。リチャードクワインはご存知ルーリードと活動を共にし、ジョニーとルーが一直線上に繋がります。リチャードヘルが、自身の強力なバンドを率いて発表した名盤。ロバート・クワインのパンク・ジャズ風の独特のアヴァンギャルドなギタープレイは後のノー・ウェイヴ (No Wave) 勢に継承されている。		
	RICHARD HELL AND THE VOIDOIDS	ブランク・ジェネレーション		1977	パンク	CD	日本			
	RICH KIDS	王子の幻影		1978	パンク	レコード	UK	78年作。RICH KIDSの大名盤、1stアルバムであり唯一のアルバム“GHOSTS OF PRINCES IN TOWERS”。初代SEX PISTOLSのベーススト、グレン・マトロツクが脱退後(実はクビ)に、後にウルトラヴァックスに加入するミッジユーロと結成したグループ。セックス・ピストルズの「アナーキー・イン・ザ・UK」や「ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン」などを作曲したのはグレンであり、またリッチ・キッズ脱退後にウルトラ・ヴァックスを立て直すミッジ・ユーロの二人の実力の高さは言うまでもない。この二人による卓越されたセンスが余すことなく発揮され、心に染み入る甘美なメロディーとストレートなサウンド、POPな要素も兼ね備え、70's PUNKファン必超の1枚となっています。	Side A 1. Strange One 2. Hung On You 3. Ghost Of Princes In Towers 4. Cheap Emotions 5. Marching Men	Side B 1. Put You In The Picture 2. Young Girls 3. Bullit Proof Lover 4. Rich Kids 5. Lover And Fools 6. Burning Sounds
	RICH KIDS	王子の幻影		1978	パンク	CD	日本	アルバムの内容は、1. はヴォーカルの弱さが難点だが、ピストルズにバブルガム的な要素を加えたかのような曲。2. も典型的なロンドン・パンク風の曲だが、ギターのエコーがやや深い。ピストルズでやったらさぞ名曲に仕上がったことであろう佳曲。7. はバスコックス風のメロディアスかつスピーディーな佳曲。ちなみにCD化の際に追加された12. はスモール・フェイスのカヴァーだ。ピストルズ風の曲が多いためにどうしてもジョニー・ロットンとの比較が出てしまい、ヴォーカルの弱さが気になってしまうものの、パンク寄りのパワー・ポップとしては佳作だ。名曲“YOUNG GIRL”は未だに多くのバンドにカヴァーされている代表曲を筆頭に多数の名曲を収録したアルバム。全11曲。		
	RICK DERRINGER	オール・アメリカン・ボーイ		1973	ハードロック	レコード	US	73年作、ジョニー・ウインターの片腕として知られていたリック・デリンジャーの初ソロ作にして、この人の代表作となったヒット・アルバムです。キャッチーな「ロックン・ロール・フーチー・クー」は、70年代アメリカン・ハードのクラシックともなった超有名曲です。盟友エドガー・ウインター、ジョー・ウォルシュ等のゲスト、パティ・スミスとの共作がありますが、やはりマルチ・プレイヤーとしてのセンス、そしてポップなメロディ・メイカーぶりが目立つ名盤です。アイドル的な人気もあった人ですが、意外とも思えるメロウな部分がこの人のセンスの良さを象徴している		
	RICKIE LEE JONES	浪漫		1979	ポップス	レコード	US	1979年作品。LAが黄昏に染まる頃、セクシーな甘い歌声が聴こえてくる。ちょっぴりジャジー、そしてセンチメンタル。彼女のデビューは大事件だった。唯一無二の個性と歌声、ジャジーでお洒落なセンスにあふれた、世界中にセンセーションを巻き起こした名作。大ヒット「恋するチャック」収録。■全米アルバム・チャート 最高位3位	Side A 1. CHUCK E. 'S IN LOVE / 恋するチャック 2. ON SATURDAY AFTERNOONS IN 1963 / 1963年土曜日の午後 3. NIGHT TRAIN / ナイト・トレイン 4. YOUNG BLOOD / ヤング・ブラッド 5. EASY MONEY / イージー・マネー 6. THE LAST CHANCE TEXACO / ラスト・チャンス・テキサコ	Side B 1. DANNY'S ALL-STAR JOINT / ダニーの店で 2. COOLSVILLE / クールズヴィル 3. WEASEL AND THE WHITE BOYS COOL / ホワイト・ボーイズ・クール 4. COMPANY / カンパニー 5. AFTER HOURS (Twelve Bars Past Goodnight) / アフター・アワーズ
	RICK JAMES	ストリート・ソングス		1981	ファンク・ソウル	レコード	日本	「スーパー・フリーク」、「ギヴ・イット・トゥ・ミー・ベイビー」の2大フロア・ヒットを収録した、リック・ジェームス史上最大のセールスを記録したアルバム。ファンク・ソウルの金字塔にして、ミリオン・セラー作品。1981年発表		
	RICK SPRINGFIELD	アメリカン・ガール		1982年	ロック	レコード	日本	1982年リリースのリック・スプリングフィールドの通算6枚目のアルバム。人気絶頂期でのアルバムで全米2位となる彼の最大のヒットアルバム。12曲の全てが約3分前後の軽いノリのロックが中心。前作は若さと勢いで押しまくった好盤だが、今作ではポップ色の方が強く軽い作りに、ともすれば淡泊な印象さえうけてしまう。B面1曲目が最高2位まで上り自身の最高傑作の評価も高いヒット曲、A面6は異色カバー曲など聴き所も多く、良質のメロディー揃いののだが、リックの他のアルバムに比べると印象が薄いのは前述した通り軽い作りになっているからだろう。ヘヴィーなロックナンバーだがA面1、4もヘヴィーな音になっていないが、全体的にはコンバクトに纏まった佳曲が勢揃いではある。	Side A 1. コーリング・オール・ガール 2. 今夜はエキサイト (I Get Excited) 3. 恋のあやまち (What Kind Of Fool Am I) 4. 憧れのクリスティーナ (Kristina) 5. トナイト 6. ブラック・イズ・ブラック	Side B 1. ドント・トゥ・ストレンジャー 2. 内気な俺 (How Do You Talk To Girls) 3. スティル・クレージー・フォー・ユー 4. アメリカン・ガール 5. ジャスト・ワン・キッス 6. 1981年4月24日 (April 24, 1981)
	RICK SPRINGFIELD	Hard to Hold		1984年	ロック	レコード	日本	ヒットメーカーとしてはもちろん、そのルックスからアイドル人気も頂点に達した'84年に制作された初のリック主演ムービー『ハート・トゥ・ホールド』の同名サウンド・トラック。未だハード・ポップの名曲として絶対的な指示を得るメイン・テーマ「ラヴ・サムバディ」(米5位)、バラード・タッチの「ドント・ウォーク・ウェイ」(米26位)、斬新なリック流ファンク・ナンバー「ポップ・ティル・ユー・ドロップ」(米20位)がチャートを賑わす一方、初の試みであるデュオはランディ・クロフォードをパートナーに異色のコラボレーションが話題に。アルバムは米16位まで上昇した。	Side A 1.ラヴ・サムバディ 2.ドント・ウォーク・アウェイ 3.ポップ・ティル・ユードロップ 4.タクシー・タンシング 5.S.F.O.	Side B 1. スタンド・アップ 2. ホエン・ザ・ライツ・ゴー・ダウン 3. 虚しきセリフ 4. ハート・オブ・ア・ウーマン 5. アイ・ゴー・スウィミング
	RINGO STARR	リンゴ		1973	ロック	レコード	US	スタンダード・ソングのガッツリな楽曲やカントリー・アルバムであつた前2作に対し、本作はオリジナル曲で構成されており、リンゴの本格的なソロ第1弾アルバムといえる。ビートルズ解散後としては初めて、元メンバー4人全員が参加したアルバム(ただし、4人全員が共演した楽曲はない)であり、当時大きな話題となった。ジョージ・ハリスンは楽曲提供の他、4曲でギターも担当。ジョン・レノンの「アイム・ザ・グレートスト」ではリンゴ、ジョン、ジョージの3人が共演。同曲は、ジョン自身によるリハーサル・テイクも存在し、『ジョン・レノン・アンソロジー』に収録されている。ポール・マッカートニーは「シックス・オクロック」を提供した他、「ユア・シックスティーン」にも参加。ビートルズと親交の深かったクラウス・フォアマンやビリー・プレストンも参加している。他も豪華なゲストが参加しており、「ハヴ・ユー・シーン・マイ・ベイビー(ホールド・オン)」ではT・レックスのマーク・ボランが、「サンシャイン・ライフ・フォー・ミー」ではザ・バンドのメン	Side A 1. アイム・ザ・グレートスト (John Lennon) 2. ハヴ・ユー・シーン・マイ・ベイビー (Randy Newman) 3. 想い出のフォトグラフ (Richard Starkey, George Harrison) 4. サンシャイン・ライフ・フォー・ミー (G. Harrison) 5. ユア・シックスティーン (Bob Sherman, Dick Sherman)	Side B 1. オー・マイ・マイ (Vini Poncia, R. Starkey) 2. ステップ・ライトリー 3. シックス・オクロック (Paul McCartney, Linda McCartney) 4. デヴィル・ウーマン (R. Starkey, V. Poncia) 5. ユー・アンド・ミー (G. Harrison, Mal Evans)
	RIOT	怒りの廃墟		1977年9月	ハードロック & ヘヴィメタル	レコード	日本	スタンダード・ソングのガッツリな楽曲やカントリー・アルバムであつた前2作に対し、本作はオリジナル曲で構成されており、リンゴの本格的なソロ第1弾アルバムといえる。ビートルズ解散後としては初めて、元メンバー4人全員が参加したアルバム(ただし、4人全員が共演した楽曲はない)であり、当時大きな話題となった。ジョージ・ハリスンは楽曲提供の他、4曲でギターも担当。ジョン・レノンの「アイム・ザ・グレートスト」ではリンゴ、ジョン、ジョージの3人が共演。同曲は、ジョン自身によるリハーサル・テイクも存在し、『ジョン・レノン・アンソロジー』に収録されている。ポール・マッカートニーは「シックス・オクロック」を提供した他、「ユア・シックスティーン」にも参加。ビートルズと親交の深かったクラウス・フォアマンやビリー・プレストンも参加している。他も豪華なゲストが参加しており、「ハヴ・ユー・シーン・マイ・ベイビー(ホールド・オン)」ではT・レックスのマーク・ボランが、「サンシャイン・ライフ・フォー・ミー」ではザ・バンドのメン	Side A 1. Desperation2:43 2. Warrior3:50 3. Rock City3:27 4. Overdrive4:10	Side B 1. Angel3:36 2. Tokyo Rose4:19 3. Heart Of Fire3:00 4. Gypsy Queen3:55 5. This Is What I Get4:12
	RIP RIG + PANIC	アイム・コールド		1982	ニューウェイブ	レコード	UK			
	Robert Gordon With Link Wray	フレッシュ・フィッシュ・スペシャル		1978	ロカビリー	レコード	US	80年代前半の「ネオ・ロカビリー・ムーブメント」があつた中で、その中心が「スプリング・フィールド」だったが、彼らの先駆けになったのが、このロバート・ゴードンだった。ニューヨークのパンクグループ、タフダーツのロバート・ゴードンのソロデビュー作。驚くべきことにリンク・レイをギタリストに迎えたコラボレーション作品となった。内容はネオ・ロカビリーの先駆けともいうべきもの。エルヴィスに最大のリスペクトを寄せる彼は、ファースト・アルバムでは曲によっては多少エディ・コクラや他のロカビリー・シンガーのムードも出していたが、映画「監獄ロック」の中でエルヴィスの髪型を模倣した呼び名だという“FRESH FISH SPECIAL”をアルバム・タイトルにし、エルヴィスのコーラスをやっていたジョー・ダネアーズをゲストに迎えた今作は、ぐっと“エルヴィス”度が上がっている。彼の1stとこの2ndアルバムをより際立たせているのは、伝説のギタリスト、リンク・レイ、が全面参加していることが大きい。レイの切り裂きギターが最高。タランティーノも敬愛し、ビート・タウンゼントをして彼がいなかったらギターを弾いてないとかまで言わしめたほどの人。じゃら〜ん、というストロークひとつのサウンドで、その存在感を示せるほどの彼のプレイは聴きどころだ。	Side A 1. The Way I Walk 2. Red Cadillac, And A Black Mustache 3. If This Is Wrong 4. Five Days, Five Days 5. Fire	Side B 1. I Want To Be Free 2. Twenty Flight Rock 3. Sea Cruise 4. Lonesome Train (On A Lonesome Track) 5. Blue Eyes (Don't Run Away)
	ROBERT JOHNSON	パーソナル・フレンド		1978	ニューウェイブ	レコード	日本			

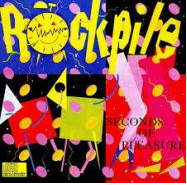
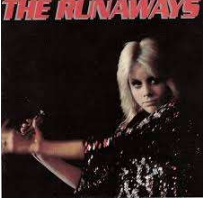
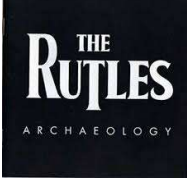
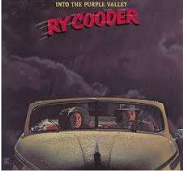
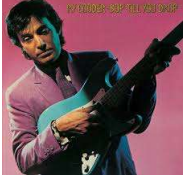
ROBRT PALMER	シークレッツ		1979	ロック	レコード	日本	1979年5枚目となるスタジオ・アルバム。セルフ・プロデュースしたアルバム『Secrets』は、ロバート・パーマーがスモーサン・ソウルだけでなく、ロックや他の作曲家の曲を巧みに自分のものにしてしまうということと、1曲のシングル「Bad Case of Loving You (Doctor, Doctor)」（邦題：想い出のサマー・ナイト）」によってファン達に知らしめた。アメリカのアーティスト、ムーン・マーティンがキャビトルからのこの曲のオリジナルをリリースしたのは、ロバートがリリースしたたった1年前だったにも関わらず、ロバート・パーマーによるカヴァーがヒットを勝ち取り、これをきっかけにアルバム『Secrets』はUSトップ20にチャートイン。『Secrets』はロバート・パーマーの作品の中で最も有名なアルバムではないのかもしれないが、1970年代のソウル・ボーイが80年代のMTV向けサウンドへと変化していく過渡期を繋ぐ、チャーミングな作品である。 1949年生まれ、インフランド出身のブルーズ・アイド・ソウル・ソング・アルバム・プロデューサー・歌手。1985年度作品。MTV時代を上手に利用した策略家でもある。 <聴き所と注意点> 本来彼は『アメリカの南部の音楽＝ミューズやリトル・フィートなどを敬愛していた人物であり』バックボーンにそのような日本ではマニア受けの分野がクロスするやっかいな人間なのだ。『趣味人モーズ・アリソンをカヴァーしてみたり』『レゲエ／テクノに接近したり』その音楽姿勢は本当に貴賓に値する。 このアルバムでは『パワフルでソリッドなファンク』に焦点をぼぼっていたように思う。『シック』『システム』＝（デヴィッド・フランク）はまさにその理想のバンドなのだ。このアルバムにその感触は濃厚に表れている。 バックに『ソリッドな音』を出せる人間を集結させている。つまり『ジェフ・ボヴァ』＝（ハービー・ハンコックのロック・イット・バンドやチェンジ）／ウオーリー・バダロー（レベル42の影のフィクサー）／バーナード・エドワーズ＝このアルバムをプロデュースしているが、さらに他界。（デヴィッド・フランク）＝（デヴィッド・フランク）	
ROBRT PALMER	リップタイド		1985	ロック	レコード	日本		
ROBRTA FLACK	やさしく歌って		1973年	ポップス	レコード	日本	全世界にロバータの名を知らしめた名作中の名作で、全米No.1ヒット「やさしく歌って」を収録。斬新なアレンジと、時を経てとも色あせない情感豊かなヴォーカルが堪能できる5thアルバム。	Side A 1. やさしく歌って 2. 我が心のジェシ 3. ノー・ティアーズ 4. 少女 Side B 1. リヴァー 2. 愛の語らい 3. 君ほほえむ時 4. スザンヌ
ROBIN TROWER	魂のギター		1974	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	74年作。ロビン・トロワーのセカンド・アルバムにして、全米7位を記録したヒット作。 PROCOL HARUMのギタリストとして知られ、ジミ・ヘンドリックス・フォロワーとしても名高い人で、本作の成功によりブリティッシュ・ハード界のいぶし銀・ブルース・ギタリストの確固たる地位を築き上げたと思います。プロデュースはプロコル・ハラムの盟友にして、あの「青い影」の有名なオルガンのブレイで有名なキーボーディスト、マシュー・フィッシャー、そしてエンジニアにはビートルズ・サウンドの立役者、ジェフ・エメリットが担当している事もあって、トリオ編成のバンド・サウンドを実に奥深いものとして聴かせてくれます。特にベースでもあるジェームス・デュワーのボール・ロジャースばりのヴォーカルが味わい深く、正統派ハード・ロックからブルージーなスロー・バラードまで、実に手堅く味わい深いものになっています。トロワーのギターは、硬質な響きを基調としながら、滑らかにブレイとハードなエッジの対比が魅力的で、ジミ・ヘンドリックス譲りの部分もあるかと思いますが、サウンド・プロダクションの貢献がかなり大きいという印象を受けます。全体的な印象としては、プロコル・ハラムのギタリスト、ロビン・トロワー。本作は、1975年2月スウェーデンはストックホルムで行われた追悼の傑作ライブ・アルバム。スタジオ・アルバムを凌駕する猛々しさ、狂おしいほどの泣きのフレーズ、縦横無尽に暴れまくるロビン・トロワーのベストパフォーマンスを収録。数あるロックギターのライブアルバムの中でも金字塔的名盤の一枚。	1.Day Of The Eagle - デイ・オブ・ジ・イーグル 2.Bridge Of Sighs - ブリッジ・オブ・サイズ 3.In This Place - イン・ディス・プレイス 4.The Fool And Me - ザ・フール・アンド・ミー 5.Too Rolling Stoned - トゥローリング・ストーンド 6.About To Begin - アバウト・トゥ・ビギン 7.Lady Love - レディ・ラヴ 8.Little Bit Of Sympathy - リトル・ビット・オブ・シンパシー
ROBIN TROWER	ロビン・トロワー ライヴ！		1976	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	ジミヘンの再来と呼ばれた男、元プロコルハラムのギタリスト、ロビン・トロワー。本作は、1975年2月スウェーデンはストックホルムで行われた追悼の傑作ライブ・アルバム。スタジオ・アルバムを凌駕する猛々しさ、狂おしいほどの泣きのフレーズ、縦横無尽に暴れまくるロビン・トロワーのベストパフォーマンスを収録。数あるロックギターのライブアルバムの中でも金字塔的名盤の一枚。	A1 Too Rolling Stoned A2 Daydream A3 Rock Me Baby B1 Lady Love B2 I Can't Wait Much Longer B3 Alethea B4 Little Bit Of Sympathy
RODS	摩天楼の使者 ロッズ・ファースト		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	アメリカのヘヴィメタル・バンド、ロッズの1stアルバム。バンドのリーダー、デヴィッド・ロック・フェイン・ステインは、ロニー・ジェームス・ディオのいとこです。内容はDIOのような様式美な感じでなく、ストレートなHR/HMです。「Power Lover」「Crank It Up」はNWOBHMを思わせる疾走曲。ゴツゴツとしたリフでロックンロール的な要素もある曲です。「Music Man」はレインボーもしくはディープ・パープルの曲のようなミドル・テンポの曲。ギターソロもリッチー風味ですね。「Woman」は哀愁漂うバラード曲。ギターが渋くメロディはなかなか美しいです。「Nothing Going On In The City」はなかなか豪快な疾走曲。曲はシンプルですが勢いがあります。「Get Ready To Rock'n'Roll」はレインボー風のロックン・ロール。「Ace In The Hole」は哀愁が漂っているが男気たっぷりのバラード・ロック。非常に頭に残るメロディが素晴らしい。ボーナストラックの「Wings Of Fire」はパワー・メタル寄りの疾走曲で非常にパワフルです。	
RODS	摩天楼の使者 ロッズ・ファースト		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US		
ROD STEWART	ガソリン・アレイ		1970年6月	ロック	レコード	日本	、ロッド・ステewartが1970年に発表したソロ名義では2作目で、ヴォーカリストとしての魅力がますます、名作と称される作品でオリジナル3曲とカバー6曲で構成された内容。表題の「ガソリン・アレイ」は、ロッドがブルースから出発したという特徴が、よく表れている。切なくて懐かしくて寂しくて、それでいて何度でも何度でも聞きたくなるような、素晴らしい歌。ボブ・ディランの楽曲のカバーである、Only A Hobo。本アルバムは地味な存在ではある。全体にトラディショナルなアメリカン・フォーク、カントリーなテイストが強いが、注目ナンバーとしては、“Bobby Womack”のオリジナルで“The Rolling Stones”の1964年のカバー（参考：アルバム『ワールド・ゴールド・プラス……』）でヒットした“it's All Over Now”である。ロッドのカバーは“The Rolling Stones”を踏襲しつつカントリー・テイストを加えている。ロッドの曲は全曲に参加。	Side A 1. ガソリン・アレイ - 4:06 2. イッツ・オール・オーバー・ナウ - 6:20 3. オンリー・ア・ホーボー - 4:15 4. マイ・ウェイ・オブ・ギビング - 3:58 Side B 1. カントリー・コンフォート - 4:45 2. カット・アクロス・ショウティー - 6:31 3. レディ・デイ - 4:04 4. ジョーズ・ラメント - 3:27 5. ユー・アイ・ガール - 4:27
ROD STEWART	エヴリ・ピクチャー・テルズ・ア・ストーリー		1971	ロック	レコード	US	1971年に発表したサード・アルバム。本作は、イギリスとアメリカの両国で、初のアルバム・チャート1位を獲得し、母国イギリスでは、45週連続のチャート・インというロング・ヒットとなった。また、収録曲「マギー・メイ」も、英米両国のシングル・チャートで1位を獲得している。	Side A 1.エヴリ・ピクチャー・テルズ・ア・ストーリー - 5:57 2.シームス・ライク・ア・ロング・タイム - 3:59 3.ザッツ・オール・ライト - 3:59 4.アメイジング・グレイス - 2:01 5.トゥモロウ・イズ・サッチ・ア・ロング・タイム - 3:41 Side B 1.リンク・ミュージック〜ヘンリーズ・チューン - 0:30 2.マギー・メイ - 5:13 3.マンドリン・ウィンド - 5:30 4.アイ・ルージュ・ユー - 5:21 5.リーズン・トゥ・ビリーヴ - 4:06
ROD STEWART	ネヴァー・ア・ダル・モーメント		1972	ロック	レコード	日本	前作に続いて大ヒットを記録した4作目（全英1位、全米2位）。サウンド的にも前作の路線を継承、「マギー・メイ」の続編というべき「ユー・ウェア・イット・ウェル」、ジミ・ヘンドリックスのカヴァー「エンジェル」等、脂の乗り切った歌唱を聴かせる。「トゥルー・ブルー」は、当時スチュワートが在籍していたフェイスズの全メンバーが揃った編成でレコーディングされた。	Side A 1.トゥルー・ブルー - 3:31 2.ロスト・パラダイス - 3:56 3.ママ・ユー・ビーン・オン・マイ・マインド - 4:29 4.イタリアン・ガールズ - 4:54 Side B 1.エンジェル - 4:03 2.間奏 - 0:40 3.ユー・ウェア・イット・ウェル - 4:22 4.アイ・ラザー・ゴー・ブラインド - 3:53 5.ツイスティン・ザ・ナイト・アウェイ - 3:13
ROD STEWART	スマイラー		1974	ロック	レコード	日本	1974年に発表したアルバム。スタジオ・アルバムとしてはマーキュリー時代の最後を飾った5作目。全英アルバムチャート1位獲得。「レット・ミー・ビー・ユーカー」はエルトン・ジョンが作曲した楽曲で、エルトンは同曲のレコーディングにも参加。「マイン・フォー・ミー」は、ポール・マッカートニー&リンダ・マッカートニーが提供した楽曲。本作からは、母国イギリスでは「君に別離（わかれ）を」とサム・クックのカヴァー2曲のメドレー「悲しき叫び/ユー・センド・ミー」の両A面シングルが、全英7位となった[5]。アメリカでは、「マイン・フォー・ミー」が全米91位に達した	Side A 1. スウィート・リトル・ロックン・ローラー - 3:42 2. ロッキンヴァー - 0:24 3. 君に別離を - 4:33 4. セイラー - 3:34 5. 悲しき叫び/ユー・センド・ミー - 3:56 6. レット・ミー・ビー・ユーカー - 4:57 Side B 1. ナチュラル・マン - 3:53 2. ディキシー・トワート - 3:26 3. ハード・ロード - 4:26 4. アイヴ・グロウン・アカスタムド・トゥー・ハー・フェイス - 1:31 5. 北国の少女 - 3:51 6. マイン・フォー・ミー - 4:00
ROD STEWART	アトランティック・クロッシング		1975	ロック	レコード	日本		Side A 1. スリー・タイム・ルーザー - 4:03 2. オールライト・フォー・アン・アワー - 4:17 3. オール・イン・ザ・ネーム・オブ・ロックン・ロール - 5:02 4. 明日なきさすらい - 3:43 5. ストーン・コールド・ソウパー - 4:00 Side B 1. もう話したくない - 4:47 2. イフ・ラヴィング・ユー・イズ・ロング - 4:21 3. ジス・オール・ハート・オブ・マイン - 4:04 4. スティル・ラヴ・ユー - 5:08 5. セイリング - 4:37
ROD STEWART	明日へのキック・オフ		1977	ロック	レコード	US	1977年に発表したソロ・アルバム。スタジオ・アルバムとしては8作目。当時のスチュワートは、カーマイン・アピスを中心としたレギュラー・バンドを従えており、そのメンバーを中心にレコーディングされたアルバム。また、かつてアピスが在籍していたヴァニラ・ファッジのメンバーであるマーク・スタインも、バック・ボーカルでゲスト参加している。なお、本作に収録されているシェパード・ブームスのカヴァー「キープ・ミー・ハンギン・オン」は、ヴァニラ・ファッジのヴァージョンに近いアレンジになっている。1. は彼らしいルーズなロックンロール・ナンバー。3. はボサノヴァではないが、そんな雰囲気の良い曲。8. は自伝的な内容のバラードの名作。感動的な必殺の一曲。 本作からは、「胸につける想い」（全英3位[9]・全米4位[3]）、「ホット・レッグス」（全英5位[9]・全米28位[3]）、「ただのジョー・クック」（全米22位[3]）がシングル。1978年に発表したソロ・アルバム。スタジオ・アルバムとしては9作目。前作『明日へのキック・オフ』（1977年）に引き続き、スチュワートのレギュラー・バンドを中心に録音された。一部の楽曲で、当時流行していたディスコの要素を取り入れている。「アイム・セクシー」とフォート・トップスのカバー「シャドウズ・オブ・ラヴ」以外はディスコっぽさはなく、バラードあり、ブルース調ありと変化に富んでいるアメリカでは、スチュワートにとって2作目のBillboard 200での1位獲得アルバムとなった。 本作からは、全米No.1に4週間輝いた「アイム・セクシー」（全英1位・全米1位）、「あばずれ女のバラード」（全英11位・全米22位）、「スーパースターはブロードがお好き」（全英63位）がシングル・ヒットした。	Side A 1. ホット・レッグス - 5:11 2. ダーティ・ウィークエンド - 2:34 3. 胸につける想い - 4:42 4. ボーン・ルース - 5:58 Side B 1. キープ・ミー・ハンギン・オン - 7:28 2. イフ・ラヴィング・ユー・イズ・ロング - 5:16 3. ユー・ガット・ア・ナヴ - 4:57 4. ただのジョークさ - 6:02
ROD STEWART	スーパースターはブロードがお好き		1978	ロック	レコード	日本		Side A 1. アイム・セクシー - 5:28 2. ダーティ・ウィークエンド - 2:34 3. あばずれ女のバラード - 4:36 4. 青春の思い出 - 4:20 5. 愛の代償 - 4:29 Side B 1. むむ、いい女 - 4:14 2. スーパースターはブロードがお好き - 3:40 3. ラスト・サマー - 4:00 4. シャドウズ・オブ・ラヴ - 4:24 5. うちひがれて - 4:50

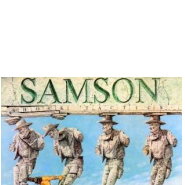
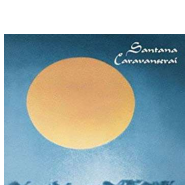
	ROD STEWART	バンドラの匣		1980年	ロック	レコード	日本	1980年リリース、ロックン・ロール色をより強調したアルバム。オリジナル・メンバーでのロッド・スチュワート・バンド最後の作品。ヒット・シングル「パッション」「今宵焦がれて」収録。	Side A 1. ベター・オフ・デッド 2. パッション 3. バンドラの匣 4. ガラスの恋人 5. 今宵焦がれて	Side B 1. 自由への翼 2. マイ・ガール 3. ダンスは一人じゃ踊れない 4. サムバディ・スペシャル 5. つらい別離
	ROLLING STONES	ローリングストーンズ		1964年4月16日	ブリティッシュビート	レコード	UK			
	ROLLING STONES	ローリングストーンズ		1964年4月16日	ブリティッシュビート	レコード	日本			
	ROLLING STONES	ローリングストーンズ		964年4月16日	ブリティッシュビート	CD	日本			
	ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.2		1965年1月16日	ブリティッシュビート	レコード	UK	1965年にリリースされたローリング・ストーンズのイギリスでは2作目となるオリジナルアルバム。録音はグループ初のアメリカツアーの合間を縫って行われた。まず1964年6月10日から11日にかけて、シカゴのチェス・スタジオにて最初の録音が行われ[1]、その後ロンドンに戻り、9月2日から4日、28日から30日にかけてリージェント・サウンド・スタジオにて[2]、さらに11月2日にロサンゼルス のRCAスタジオで、同月8日に再びチェス・スタジオで行った録音でようやく完成となった。アメリカではイギリスに先んじて2作目のオリジナルアルバム『12×5』がリリースされており、本作のジャケットは『12×5』で使用された写真がそのまま流用された。収録内容は『12×5』にも入れられた「タイム・イズ・オン・マイ・サイド」、「なぎさのボードウォーク」、「スージーQ」以外は新作となっている。本作も前作『ザ・ローリング・ストーンズ』同様、グループのオリジナル曲は3曲に留まり、大部分がカバーを占めている。	Side A エヴリバディ・ニーズ・サムバディ・トゥ・ラヴー Everybody Needs Somebody To Love (Solomon Burke/ Jerry Wexler/Bert Russell) 5:03 ダウン・ホーム・ガール - Down Home Girl (Jerry Lieber/Arthur Butler) 4:11 ユー・キャント・キャッチ・ミー - You Can't Catch Me (Chuck Berry) 3:38 タイム・イズ・オン・マイ・サイド - Time Is On My Side (Norman Meade) 2:52[7] ホワット・ア・シェイム - What A Shame (Mick Jagger/ Keith Richard) 3:03 ホワット・アップ・ロング - Grown Up Wrong (Mick Jagger/Keith Richard) 2:03	Side B ダウン・ザ・ロード・アビース - Down The Road Apiece (Don Raye) 2:55 なぎさのボードウォーク - Under The Boardwalk (Arthur Resnick/Kenny Young) 2:46 アイ・キャント・ビー・サティスファイド - I Can't Be Satisfied (McKinley Morganfield) 3:26 ペイン・イン・マイ・ハート - Pain In My Heart (Naomi Neville) 2:11 オフ・ザ・フック - Off The Hook (Mick Jagger/Keith Richard) 2:33 スージーQ - Susie Q (Eleanor Broadwater/ Dale Hawkins/Stan Lewis) 1:50
	ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.2		1965年1月16日	ブリティッシュビート	レコード	日本			
	ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.2		965年1月16日	ブリティッシュビート	CD	日本			
	ROLLING STONES	ローリング・ストーンズ 12×5		1964年10月17日	ブリティッシュビート	レコード	日本	アメリカにおけるセカンド・アルバム。ヒット作となったデビュー・アルバムに引き続き、その内容の多くはR&Bのカヴァーであったが、ナンカー・フェルジ名義でのミック・ジャガーとキース・リチャーズ共作の三曲が含まれている。1964年6月に行われたシカゴ、チェス・スタジオセッションの後、イギリスでの配給元であるデッカ・レコードは5曲入りのEP、『ファイヴ・バイ・ファイヴ』をリリースした。しかしながらEPはアメリカでは一般的ではなかったため、ロンドン・レコードは7曲を加えてアルバムとしてリリースすることとなった。アルバムタイトルの『12×5』は、「12曲を5人で演奏した」という意味である。デッカ・レコードは本作の写真を使用し、1965年始めに『ザ・ローリング・ストーンズ No.2』をリリースしている。『12×5』はファースト・アルバムよりも短期間でヒットし、チャート三位に到達、ゴールド・アルバムとなった。	Side A アラウンド・アンド・アラウンド - Around And Around (Chuck Berry) 3:03 コンフェッシン・ザ・ブルース - Confessin' The Blues (Jay McShann/Walter Brown) 2:47 エンpty・ハート - Empty Heart (Nanker Phelge) 2:37 タイム・イズ・オン・マイ・サイド - Time Is On My Side (Norman Meade) 2:53 オルガン・イントロ・ヴァージョン グッド・タイムズ、バッド・タイムズ - Good Times, Bad Times (Mick Jagger/Keith Richards) 2:30 イツ・オール・オーヴァー・ナウ - It's All Over Now (Bobby Womack/Shirley Jean Womack) 3:26	Side B 南シガン通り2120 - 2120 South Michigan Avenue (Nanker Phelge) 2:08 (オリジナルLP) / 3:38 (現行CD) ロンゲ・ヴァージョンは2002年のリマスターで初収録されたが、以前はポートレグでしか聞かれなかった。 なぎさのボードウォーク - Under The Boardwalk (Arthur Resnick/Kenny Young) 2:46 コングラチュレーション - Congratulations (Mick Jagger/Keith Richards) 2:29 グロウン・アップ・ロング - Grown Up Wrong (Mick Jagger/Keith Richards) 2:05 イフ・ユー・ニード・ミー - If You Need Me (Robert Bateman/Wilson Pickett) 2:04 スージーQ - Susie Q (Eleanor Broadwater/Stan Lewis/Dale Hawkins) 1:50
	ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.3 (ザ・ローリング・ストーンズ・ナウ!)		1965年2月22日	ブリティッシュビート	レコード	日本	アメリカに於ける3作目のオリジナルアルバム。本作は、イギリスでのセカンド・アルバム『ザ・ローリング・ストーンズ No.2』からの7曲と、シングル・リリースされた「ハート・オブ・ストーン」、イギリスでのNo.1シングル「リトル・レッド・ルースター」、イギリスでのデビュー・アルバム『ザ・ローリング・ストーンズ』にのみ収録されていた「愛しのモナ」、そして本作で初登場となる「オー・ベイビー」、「サプライズ・サプライズ」を加えた全12曲が収録されている。本作ではジャガー/リチャード名義のグループのオリジナル曲が4曲収録された。本作でも前2作同様モノラル、ステレオの2バージョンでのリリースとなったが、リイシューでは「ハート・オブ・ストーン」、「ホワット・ア・シェイム」、「ダウン・ザ・ロード・アビース」の3曲がステレオ、それ以外がモノラルで収録されている。本作は全米ビルボードのチャート5位に到達し[1]、ゴールド・ディスクを獲得した。	Side A 1. エヴリバディ・ニーズ・サムバディ・トゥ・ラヴ 2:58 2. ダウン・ホーム・ガール 4:12 3. ユー・キャント・キャッチ・ミー 3:39 4. ハート・オブ・ストーン 2:49 5. ホワット・ア・シェイム 3:05 6. 愛しのモナ 3:35	Side B 1. ダウン・ザ・ロード・アビース 2:55 2. オフ・ザ・フック 2:34 3. ペイン・イン・マイ・ハート 2:12 5. オー・ベイビー 2:08 6. リトル・レッド・ルースター 3:05 7. サプライズ、サプライズ 2:31
	ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.3 (ザ・ローリング・ストーンズ・ナウ!) リマスター版 1997年		965年2月22日	ブリティッシュビート	CD	日本			
	ROLLING STONES	アウト・オブ・アワ・ヘッズ (UK盤)		1965/9/24	ブリティッシュビート	レコード	UK	1965年に発売。イギリスでは3枚目のアルバムとしてデッカ・レコードから。コンサートツアー中の合間を縫って行われている。レコーディングはほとんどがロサンゼルス のRCAスタジオにて行われた(一部はシカゴのチェス・スタジオで)。本作はグループのオリジナルアルバムで、英、米共通のタイトルがつけられた初めてのアルバムだが、収録内容は大きく違い、英、米両盤に共通して収録された曲は6曲のみである。本作で初めて採用されたオリジナル曲がカバー一曲を上回った。イギリスでは二ヵ月遅れの1965年9月に発売された。アルバムジャケットの写真はアメリカ盤とは異なった物が使用され、同じ写真はアメリカでは『ディッセンパーズ・チルドレン』に使用された。イギリス盤では当時のレコード業界の慣例に倣いシングル曲は一つも収録されず、アメリカ盤にはない1965年7月、そして9月に行われたレコーディングでの新曲が追加された[3]。本作は全英チャートでビートルズの『ヘルプ!』に次ぐ2位に達した[4]。イギリス盤に収録されたオリジナル曲は4曲に留まっている。本作はリズム・アンド・ブルースのカヴァーが特色であった最後のアルバムとなった。	Side A 1. シー・セッド“イエー” - She Said Yeah (Sonny Christy/Roddy Jackson) 1:34 2. マーシー・マーシー - Mercy, Mercy (Don Covay/Ronnie Miller) 2:45 3. ヒッチ・ハイク - Hitch Hike (Marvin Gaye/William Stevenson/Clarence Paul) 2:25 4. ザッツ・ハウ・ストロング・マイ・ラヴ・イズ - That's How Strong My Love Is (Roosevelt Jamison) 2:25 5. グッド・タイムズ - Good Times (Sam Cooke) 1:58 6. ガット・ゲット・アウェイ - Gotta Get Away (Mick Jagger/ Keith Richard) 2:06	Side B 1. トーキョー・バウト・ユー - Talkin' Bout You (Chuck Berry) 2:31 2. クライ・トゥ・ミー - Cry To Me (Bert Russell) 3:09 3. オー・ベイビー - Oh Baby (We Got A Good Thing Goin') (Barbara Lynn Ozen) 2:08 4. ハート・オブ・ストーン - Heart Of Stone (Mick Jagger/Keith Richard) 2:50 5. ウェスト・コーストの宣伝屋 - The Under Assistant West Coast Promotion Man (Nanker Phelge) 3:07 6. アイム・フリー - I'm Free (Mick Jagger/Keith Richard) 2:24
	ROLLING STONES	アウト・オブ・アワ・ヘッズ (UKヴァージョン)		965年9月24日	ブリティッシュビート	レコード	日本			
	ROLLING STONES	アウト・オブ・アワ・ヘッズ (UKヴァージョン)		965年9月24日	ブリティッシュビート	CD	日本			
	ROLLING STONES	アウト・オブ・アワ・ヘッズ (アメリカヴァージョン)		1965年7月26日	ブリティッシュビート	CD	日本	1965年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。アメリカでは4枚目のアルバムとしてロンドン・レコードからリリースされた。本作はグループのオリジナルアルバムで、英、米共通のタイトルがつけられた初めてのアルバムだが、収録内容は大きく違い、英、米両盤に共通して収録された曲は6曲のみである。アメリカでは前作『ザ・ローリング・ストーンズ・ナウ!』からわずか5ヵ月後という短いインターバルでリリースされた。「サティスファクション」の大ヒットの影響もあり、本作はビルボードでグループ初の1位に輝き(3週連続)、プラチナレコードも獲得した[2]。アメリカ盤のジャケットには『ザ・ローリング・ストーンズ No.2』や『12×5』で使用された写真と同じフォト・セッションでヴィッド・ベリリーによって撮影された物であった。本作には「ラスト・タイム」「サティスファクション」といったヒット・シングル曲やイギリスで発売されたEP『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウォント・イット』からの「アイム・オールライト」が含まれている(アルバムにも収められているがテイク違い)。本作で初めて採用された	Side A マーシー・マーシー - Mercy, Mercy 2:45 ヒッチ・ハイク - Hitch Hike 2:25 ラスト・タイム - The Last Time (Mick Jagger/Keith Richard) 3:41 ザッツ・ハウ・ストロング・マイ・ラヴ・イズ - That's How Strong My Love Is 2:25 グッド・タイムズ - Good Times 1:58 アイム・オールライト - I'm All Right (Nanker Phelge) 2:23	Side B サティスファクション - (I Can't Get No) Satisfaction (Mick Jagger/Keith Richard) 3:43 クライ・トゥ・ミー - Cry To Me 3:09 ウェスト・コーストの宣伝屋 - The Under Assistant West Coast Promotion Man 3:07 ブレイ・ウィズ・ファイア - Play With Fire (Nanker Phelge) 2:14 クモとハエ - The Spider And The Fly (Mick Jagger/Keith Richard) 3:38 ワン・モア・トライ - One More Try (Mick Jagger/Keith Richard) 1:58

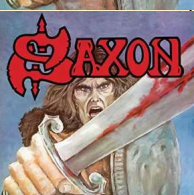
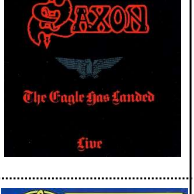
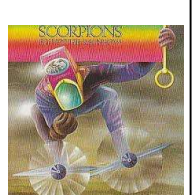
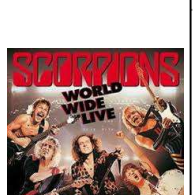
	ROLLING STONES	ディッセンバース・チルドレン(アメリカヴァージョン)		1965年11月22日	ブリティッシュビート	CD	日本	1965年リリースされたローリング・ストーンズによるアメリカにおける5作目のオリジナルアルバム。収録曲の大半は、イギリス盤『アウト・オブ・アワ・ヘッズ』からのものであり、これに最新シングルの「一人ぼっちの世界」および「アズ・ティアーズ・ゴー・バイ」、アメリカでは未発表だった「ユー・ベター・ムーヴ・オン」(1964年1月発表の1stEP『ザ・ローリング・ストーンズ』収録)、ライブEP『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウオント・イット』からの2曲(「ルート66」と「アトム・ムーヴイン・オン」)、さらに本作が初出となる2曲(「ルック・ホワット・ユーヴ・ダン」と「ブルー・ターンズ・トゥ・グレイ」)を追加した全12曲が収録された。ジャケットのデザインも英国盤『アウト・オブ・アワ・ヘッズ』のものを流用している。本作はBillboard 200で4位に到達し[1]、ゴールド・アルバムを獲得した。		
	ROLLING STONES	アフターマス(UKヴァージョン)		1966年6月20日	ブリティッシュビート	レコード	日本	1966年に発表。イギリスでは4作目。全英1位、全米2位を記録。本作はジャガー/リチャーズによるオリジナル曲のみで構成された最初の作品で、ストーンズの重要なターニングポイントとなった作品。前作『アウト・オブ・アワ・ヘッズ』までの自分達のルーツであるロックンロールやR&Bに做った作風から、一段階前に進んだ実験性に富んだ作品となった。前作から担当楽器の種類が増えたブライアン・ジョーンズだが、本作ではビートルズの「ノルウェーの森」でジョージ・ハリスンがシタールを使ったことに影響されて導入、さらにダグ・シマーやマリンバ、「ティク・イット・オア・リーヴ・イット」では日本の琴まで使用するなど、それまでのロック音楽とは無縁だった楽器を多く導入した。そのため、キース・リチャーズにかかるギターの比重がさらに重くなり、本作からミック・テイラーが加入する『レット・イット・ブリード』(1969年)までのストーンズのギターは、ほとんどがリチャーズの手にゆだねられることとなる。オールダムは本作におけるジョーンズの働きを手放して賞賛しているが、それがバンド内での影響力を失ったジョーンズの立場を改善させることはなく、ジョーンズはその後もますます精神的に追い詰められるようになる。録音は1965年12月7日から10日にかけて、一度中断し1966年3月6日から9日にかけて、ハリウッドにあるRCAスタジオにて行われた。イギリスでは8週もの間首位を独占し[1]、「ストーンズの最高傑作」と賞賛を浴びた。	Side A 1. マザーズ・リトル・ヘルパー 2. ステュピッド・ガール 3. レディ・ジェーン 3:08 4. アンダー・マイ・サム 3:41 6. 邪魔をするな - Doncha Bother Me 2:41 6. ゴーイン・ホーム 11:13	Side B 1. フライト505 3:27 2. ハイ・アンド・ドライ 3:08 3. アウト・オブ・タイム 5:37 4. イッツ・ノット・イージー 2:56 5. アイ・アム・ウェイティング 3:11 6. テイク・イット・オア・リーヴ・イット 7. シンク - Think 3:09 8. ホワット・トゥ・ドゥ - What to Do 2:32
	ROLLING STONES	アフターマス(UKヴァージョン)		966年6月20日	ブリティッシュビート	CD	日本			
	ROLLING STONES	ビッグ・ヒッツ (ハイ・タイド・アンド・グリーン・グラス)		(1966年3月28日	ブリティッシュビート	レコード	日本	1966年発売のストーンズ初のコンピレーション・アルバム。アメリカではチャート最高位3位に達し、二年にわたってチャートに残り続けた。イギリス盤にはデビューシングルの「カム・オン」が収録されたが、それよりもヒットしたシングル「彼氏になりたい」は収録されなかった。イギリスではチャート4位に到達した。	Side A 1. マザー・イン・シャドウ 2:34 2. 黒くぬれ - Paint It, Black 3:45 3. イッツ・オール・オーヴァー・ナウ 3:27 4. ジャスト・タイム 3:40 5. ハート・オブ・ストーン 2:46 6. ノット・フェイド・アウェイ 1:48 7. カム・オン 1:49	Side B 1. サティスファクション 3:43 2. ひとりぼっちの世界 - Get Off Of My Cloud 2:55 3. アズ・ティアーズ・ゴー・バイ2:45 4. 19回目の神経衰弱 - 19th Nervous Breakdown 3:57 5. レディ・ジェーン e 3:08 6. タイム・イズ・オン・マイ・サイド2:53 7. リトル・レッド・ルースター-3:05
	ROLLING STONES	ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウオント・イット!		1966年11月28日	ブリティッシュビート	レコード	日本	1966年にリリースされたストーンズの最初のライブ・アルバム。バンドはその出来に満足せず、アルバムとの関係を否定した。彼ら自身は1970年にリリースされた『ゲット・ヤアー・ヤ・ヤズ・アウト』を最初の公式ライブ・アルバムであると考えている。本作のタイトルは1965年にイギリスでのみリリースされたEP『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウオント・イット』と同一であった。本作は1966年10月前半のニューカッスル・アポーン・タインとプリストルでの演奏が納められた(ジャケットにはロイヤル・アルバート・ホールでのライブとクレジットされている)。アルバムは「恋をしすぎた」「フォーチュン・テラー」がそれぞれスタジオ録音へ歓声をオーヴァーダビングしたものが収録され、他の曲もほとんどがヴォーカルを録り直しているため、厳密にはライブ・アルバムとは言い難い。当初発売されたものは「恋をしすぎた」「フォーチュン・テラー」はフェード・アウトしていたものの、1986年にアプロ・レコードによりリマスターされた際に両曲はライブ演奏のようにエンディングが途中でカットされた。また、「アンダー・マイ・サム」の前のナレーションも別テイクのものが長く収録されている。マスターによっては最終曲「サティスファクション」のあとに「ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン」(ストーンズの演奏ではない)が収録されているものがある。また、前述の「恋をしすぎた」や「フォーチュン・テラー」がフェード・アウトしないように加工されているにもかかわらず、「サティスファクション」では演奏がフェード・アウトする(リマスター以前から)。	Side A 1. アンダー・マイ・サム 2:54 2. 一人ぼっちの世界 - Get Off Of My Cloud 2:54 3. レディ・ジェーン 3:08 4. ノット・フェイド・アウェイ 2:04 5. 恋をしすぎた 2:55 6. フォーチュン・テラー 1:57	Side B 1. ラスト・タイム 3:08 2. 19回目の神経衰弱 - 19th Nervous Breakdown 3:31 3. タイム・イズ・オン・マイ・サイド 2:49 4. アイム・オーライト 2:27 5. マザー・イン・ザ・シャドウ 2:19 6. サティスファクション 3:05
	ROLLING STONES	ビトウィーン・ザ・バトNZ (UKヴァージン)		1967年2月6日	ブリティッシュビート	レコード	日本	1967年にリリース。ストーンズのイギリスでは5作目、アメリカでは7作目となる。全英3位、全米2位を記録。プロデューサーはアンドリュース・ルーク・オールダム最後のプロデュース作品。エンジニアにグリーン・ジョーンズが担当。本作のレコーディングは、1966年8月にハリウッドのRCAスタジオで、さらに11月にロンドン、オリンピック・スタジオで行われた。本作はグループとして初めてトータルアルバムとして制作されたアルバムで、前作『アフターマス』で見せた実験的作風をより前に押し進めた作品となった。イギリスでは3位と前作を超えられなかった。批評家筋の反応も悪く、ニュー・ミュージカル・エクスプレス誌のロイ・カーは本作を「失敗作」と断じ、その原因を「オールダムの慢心したエゴをストーンズに投影させたこと」とした。ビル・ワイマンはこれに同調している。アメリカでは反対に好意的に受け止められ、最高2位まで上昇しゴールドディスクも獲得している。ミック・ジャガーは1967年当時こそ「アフターマス」より好きだ」と語っていたものの、以降は評価を変え、本作に否定的な見方をするようになった。1995年のインタビューでも「色々いじくりすぎて台無しにしまったんだよね。フランク・ザッパは好きだって言ってたけど」と語っている[11]。ジャガーの自己評価とは裏腹に、多くの音楽評論家やファンは本作を重要視した。	Side A 1. イエスタデイズ・ペイパー 2:04 2. マイ・オブセクション 3:17 3. バック・ストリート・ガール 13:27 4. コネクション 2:08 5. 甘いほほえみ 2:44 6. クール・カム・アンド・コレクテッド 4:17	Side B 1. オール・ソールド・アウト 2:17 2. プリーズ・ゴー・ホーム 3:17 3. 眠りの少女 - Who's Been Sleeping Here? 3:55 4. コンプリケイティッド 3:15 5. ミス・アマンダ・ジョーンズ 2:47 6. 昨日の出来事 - Something Happened to Me Yesterday 4:55
	ROLLING STONES	ビトウィーン・ザ・バトNZ (UKヴァージン)		1967年2月6日	ブリティッシュビート	CD	日本		Side A 1. 夜をぶっとばせ 3:36 2. イエスタデイズ・ペイパー 2:04 3. ルビー・チューズデイ 3:17 4. コネクション 2:08 5. 甘いほほえみ - She Smiled Sweetly 2:44 6. クール・カム・アンド・コレクテッド 4:17	Side B 1. オール・ソールド・アウト 2:17 2. マイ・オブセクション 3:17 3. 眠りの少女 - Who's Been Sleeping Here? 3:55 4. コンプリケイティッド 3:15 5. ミス・アマンダ・ジョーンズ 2:47 6. 昨日の出来事 - Something Happened to Me Yesterday 4:55
	ROLLING STONES	サタニック・マジェスティーズ		1967年12月8日	ブリティッシュビート	CD	日本	1967年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナル・アルバム。全英3位、全米2位、グループ初のセルフ・プロデュース作品である。レコーディング・エンジニアはグリーン・ジョーンズ。前作『ビトウィーン・ザ・バトNZ』から続いていた実験的な作風の極地とも言えるアルバム。ストーンズの作品中、最もサイケデリックな仕上がりとなった。ミック・ジャガーは、本作の作風にドラッグ使用が相当な影響を及ぼしたことを認めている。本作はストーンズのオリジナル・アルバムで初めて収録曲が全世界で統一されたものとなった。ジャケットのデザインから、同年に発表されたビートルズの『サー・ジェントル・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』の模倣とも評された。ビル・ワイマンの自作曲(「イン・アナザー・ランド」)が初めて採用されている。それまでのグループの全作品をプロデュースしてきたアンドリュース・ルーク・オールダムは、本作の制作中に録音、リリースされたシングル『この世界に愛を』を最後に、1967年9月を以って、彼らとの関係に終止符を打った。ほとんどの批評家は本作を「悲劇的な失敗作」と断じ[25]、ビートルズの『サー・ジェントル・ペパーズ』の猿真似とこき下ろした。	Side A 1. 魔王旗歌 - Sing This All Together 3:46 2. 魔王のお城 - Citadel 2:50 3. イン・アナザー・ランド 3:15 4. 2000マン - 2000 Man 3:07 5. 魔王旗歌(二部) - Sing This All Together 8:33	Side B 1. シーズ・ア・レインボー-4:35 2. ランターン 4:24 3. コンバー 5:08 4. 2000光年のかなたに - 2000 Light Years From Home 4:45 5. オン・ウィズ・ザ・ショウ 3:40
	ROLLING STONES	ベガーズ・バンケット		1968年12月5日	ブリティッシュビート	レコード	UK	1968年に発表したオリジナルアルバム。プロデュースはジミー・ミラー。レコーディング・エンジニアはグリーン・ジョーンズおよびエディ・クレイマー。全英3位、全米5位を記録。ミック・ジャガーはバンドの方向性を決定づけるプロデューサーが必要であると考え、1968年初めにスペンサー・デヴィス・グループやトラフィックを手がけたジミー・ミラーの招聘を決定。結果は成功し、以降『レット・イット・ブリード』『スティッキーマー・フィンガーズ』『メイン・ストリートのならず者』という傑作アルバムを次々と生み出し、その関係は1973年まで続いた。「悪魔を憐れむ歌」や「ストリート・ファイティング・マン」のようなバンドの新しい方向性を示す曲がある一方で、エレキギターよりもアコースティックギターを中心に据えたサウンドが目立ち、ドラムスを使用しない曲が3曲もあるなど(「ノー・エクスペクテーションズ」、「ディア・ドクター」、「ファクトリー・ガール」)。ロック・ナンバーよりも彼らのルーツであるブルースやカントリー・ミュージック、フォークソング・ナンバーの方に重きが置かれている。本作でのギターは大半がキース・リチャーズによるもので「ジャンピン・ジャック・フラッシュ」で本格的に取り入れられたオープン・チューニング奏法が、本作でも導入されている。一方、ブライアン・ジョーンズの心身の不調は前年以上に深刻なものとなっており、彼の本作への貢献度は前作『サタニック・マジェスティーズ』よりも少なかった。	Side A 1. 悪魔を憐れむ歌 - Sympathy for the Devil - 6:18 2. ノー・エクスペクテーションズ - 3:56 3. ディア・ドクター - 3:21 4. パラシュート・ウーマン - 2:20	Side B 1. ジグソー・パズル - 6:05 2. ストリート・ファイティング・マン - 3:15 3. ストレイ・キャット・ブルース - 4:37 4. ファクトリー・ガール - 2:08 5. 地の塩 - Salt of the Earth - 4:47
	ROLLING STONES	ベガーズ・バンケット		1968年12月5日	ブリティッシュビート	CD	日本	ジャケットの下部は当初のトイレの落書きショットを使用したジャケットによるもの。		
	ROLLING STONES	スルー・ザ・バスト・ダークリー(ビッグ・ヒッツ Vol.2)		1969年	ブリティッシュビート	レコード	日本	1969年にリリースされたローリング・ストーンズの2作目の公式コンピレーション・アルバム。ブライアン・ジョーンズの脱退とその死後まもなくリリースされた。1966年から1969年までの60年代のストーンズを代表するナンバー“JUMPIN’ JACK FLASH”、“HONKY TONK WOMEN”、“STREET FIGHTING MAN”、“RUBY TUESDAY”等をコンパイルした編集盤。日本国内盤は UK盤と同選曲。	Side A 1. ジャンピン・ジャック・フラッシュ - 3:40 2. マザーズ・リトル・ヘルパー - 2:45 3. 2000光年のかなたに(2000 Light Years From Home) - 4:45 4. 夜をぶっとばせ(Let's Spend The Night Together) - 3:36 5. ユー・ベター・ムーブ・オン-2:39 6. この世界に愛を(We Love You) - 4:22	Side B 1. ストリート・ファイティング・マン - 3:15 2. シーズ・ア・レインボ - 4:11 3. ルビー・チューズデイ -3:16 4. サンデライオン - 3:32 5. シッティン・オン・ア・フェンス - 3:02 6. ホンキーマー・トック・ウィメン - 3:00
	ROLLING STONES	レット・イット・ブリード		1969年12月5日	ブリティッシュビート	レコード	UK	1969年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。プロデューサーはジミー・ミラー。レコーディングエンジニアはグリーン・ジョーンズ。全英1位、全米3位を記録。前作『ベガーズ・バンケット』と共に彼らの最良のアルバムと称賛され、ロック・アルバム の古典の一つと見なされる。本作タイトル『レット・イット・ブリード』は、しばしばビートルズの『レット・イット・ビー』のパロディだとされるが、それは正確ではない(『レット・イット・ビー』のリリースは1970年5月)。本作の制作中にブライアン・ジョーンズが脱退。その直後、後任ギタリストのミック・テイラーが加入。本作はジョーンズが参加した最後のアルバムであると共に、ジョーンズとテイラーが参加した曲が同時に収められた唯一のオリジナル・アルバムでもある。本作の収録曲でジョーンズがギターを弾いた曲は1つもなく、またテイラーが参加したのは「カントリー・ホンク」と「リヴ・ウィズ・ミー」の2曲のみで、本作で聴けるギターは大半がキース・リチャーズによるものである。また、初めてリチャーズが単独でリード・ボーカルを担当した曲(「ユー・ガット・ザ・シルヴァー」)も収録されている。本作に収められた楽曲は、歌詞の内容が戦争、レイプ、殺人、麻薬中毒といった荒涼としたものとなっているが、これについてミック・ジャガーは1995年のインタビューで「当時はすごく暴力的で荒々しい時代だったからね…ベトナム戦争だよ。テレビでもその映像がたくさん映し出されてたしね」と説明している。イギリスではアフターマス以来3年ぶりに1位を獲得。アメリカでは3位とダブル・プラチナを獲得した[12]。セールス面のみならず各プレスからの評価も上々で、ニュー・ミュージカル・エクスプレス誌は「なんてすごいアルバムだろう!」各曲にバラエティがあり、何	Side A 1. ギミー・シェルター - 4:31 2. むなしき愛 - Love in Vain - 4:19 3. カントリー・ホンク - 3:07 4. リヴ・ウィズ・ミー - 3:33 5. レット・イット・ブリード - 5:28	Side B 1. ミッドナイト・ランブラー - 6:53 2. ユー・ガット・ザ・シルヴァー 3. モンキー・マン - 4:11 4. 無情の世界 - You Can't Always Get What You Want - 7:29
	ROLLING STONES	レット・イット・ブリード		1969年12月5日	ブリティッシュビート	レコード	日本			

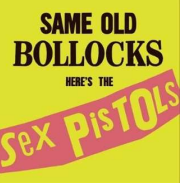
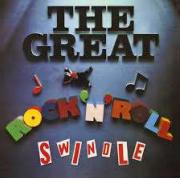
ROLLING STONES	ゲット・ヤー・ヤ・ヤズ・アウト!		1970年9月4日	ブリティッシュビート	レコード	日本	1970年にリリースされたローリング・ストーンズのライブ・アルバム。アメリカでリリースされた『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウォント・イット!』を除けば、公式に発表された初のライブ・アルバムである。本作にはニューヨークのマディソン・スクエア・ガーデンでの11月27日、28日の公演が収録された。本作はブートレグ対策としてリリースされたといわれる。1969年に公演の模様を収録したブートレグアルバムがリリースされ、評判を呼ぶという事態を重く見たバンドとレコード会社がリリースを決断したといわれる。また、本作は当初、サポートアクトのB・B・キングやアイク&ティナ・ターナーの演奏を含めた複数枚組のアルバムとしてリリースしたいというバンド側の意向があったが、当初は諸般の事情から実現せず、それ以来ずっと1枚もののアルバムとしてリリースされ続けてきたが、2009年のデラックス・エディション化により、B・B・キングやアイク&ティナ・ターナーの演奏も収録されることになった。	Side A 1. ジャンピン・ジャック・フラッシュ - 4:02 2. かわいいキャロル - 3:47 3. ストレイ・キャット・ブルース - 3:41 4. むなし愛 - Love In Vain - 4:57 5. ミッドナイト・ランブラー - 9:05	Side B 1. 悪魔を憐れむ歌 - 6:52 2. リヴ・ウイズ・ミー - 3:03 3. リトル・クイニー - 4:33 4. ホンキー・トンク・ウイメン - 3:35 5. ストリート・ファイティング・マン - 4:03
ROLLING STONES	スティッキー・フィン・ガーズ		1971年4月23日	ブリティッシュビート	レコード	日本	1971年に発表されたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。全英、全米共に1位を記録。プロデューサーはジミー・ミラー。本作は彼らが設立したローリング・ストーンズ・レコードからリリースされた初のスタジオ・アルバムである。『ベガーズ・バンケット』から見られるようになったサザン・ロック・サウンドをより深化させた内容となっている。本作は新メンバーのミック・テイラーが初めてフルで参加している作品であると共に、ブライアン・ジョーンズが全く関わっていない最初のストーンズ作品でもあった。本作は『ベガーズ・バンケット』『レット・イット・ブリード』『メイン・ストリートのならず者』と並び、ストーンズの最高傑作として高評価を受けている。本作はイギリス、アメリカ共に4週連続1位に輝き、それまでのグループの売上枚数を更新し、世界的な大ヒット作となった。	Side A 1. ブラウン・シュガー 2. スウェイ - 3:51 3. ワイルド・ホース - 5:42 4. キャン・ユー・ア・ミー・ノッキング - 7:15 5. ユー・ガッタ・ムーブ - 2:32	Side B 1. ビッチ - 3:36 2. アイ・ガット・ザ・ブルース - 3:53 3. シスター・モーション - 5:31 4. デッド・フラワーズ - 4:03 5. ムーンライト・マイル - 5:56
ROLLING STONES	スティッキー・フィン・ガーズ		971年4月23日	ブリティッシュビート	CD	日本			
ROLLING STONES	マイルストーンズ		1972	ブリティッシュビート	レコード	日本	1972年にリリースされたローリング・ストーンズのベスト・アルバム。CD化はされていない。	Side A 1. Satisfaction 2. She's a Rainbow 3. Under My Thumb 4. 恋をしようよ I Just Want to Make a Love to You 5. Yesterday's Papers 6. 彼氏になりたい I Wanna Be Your Man	Side B 1. Time Is On My Side 2. 一人ぼっちの世界 Get Off of My Cloud 3. Not Fade Away 4. Out of Time 5. She Said Yeah 6. Stray Cat Blues
ROLLING STONES	メイン・ストリートのならず者		1972年5月12日	ブリティッシュビート	レコード	UK	1972年に発表された、ローリング・ストーンズのオリジナル・アルバム。プロデューサーはジミー・ミラー。全英、全米共に1位を記録。ストーンズにとって初の2枚組のスタジオ・アルバムとなったが、前作『スティッキー・フィンガーズ』に引き続き、英・米ともに1位を獲得する大ヒット作品となった。本作は一般的に「ラフでルーズ」と評されることが多く、発表当時は批判も多かったが、年々を重ねるごとに評価を上げていき、ストーンズの絶頂期を象徴する作品として認知されるようになった。ミック・ジャガーは本作の内容について「音楽的には様々な要素が入ってる。ポップスの要素以外はね。カントリーにブルース、ハードロックからカバーまで、本当に音楽の展覧会って感じだよ」と説明している。セールスは好調だったが、本作の過度にラフなサウンド造りが当時の批評家達には受けず、散漫な作りであると否定的な評価を下された[10]。だがこの「ラフでルーズ」な音楽性は本作以降のストーンズのイメージとなり、同時に本作の評価も見直されるようになった。	Side 1 1. ロックス・オフ 4:31 2. リップ・ジス・ジョイント 2:22 3. シェイク・ユア・ヒップス 2:59 4. カジノ・ボーイ 3:33 5. ダイスをころがせ 3:45 Side 2 6. スウィート・ヴァージニア 4:27 7. トーン・アンド・フレイド 4:17 8. 黒いエンジェル 2:54 9. ラヴィング・カップ 4:25	Side 3 10. ハッピー - Happy 3:04 11. タード・オン・ザ・ラン 2:36 12. ストップ・ブレーキング・ダウン 3:24 13. 彼に会いたい - I Just Want to See His Face 2:52 Side 4 14. レット・イット・ルース 5:16 15. オール・ダウン・ザ・ライン 3:49 16. ストップ・ブレーキング・ダウン 4:34 17. ライトを照らせ - Shine a Light 4:14 18. ソウル・サヴァイヴァー 3:49
ROLLING STONES	メイン・ストリートのならず者		1972年5月12日	ブリティッシュビート	CD	UK	アルバムからは「ダイスをころがせ」や、キース・リチャーズの代表曲の一つとなった「ハッピー」がシングル・カットされ、前者は全英5位、全米7位のヒットとなった。本作制作時の様子を残した写真やホームビデオに、メンバーのインタビューやイメージ映像などを織り込んだドキュメンタリー映画『ストーンズ・イン・エグザイル〜「メイン・ストリートのならず者」の真実』が、2010年に公開されている。オリジナルLPにはメンバーを写した12枚つづりの絵葉書セットが付属していた。絵葉書はちょっとしたストーリーになっておりオチもついている。		
ROLLING STONES	山羊の頭のスープ		1973年8月31日	ブリティッシュビート	レコード	日本	ローリング・ストーンズが1973年に発表したオリジナルアルバム。全英、全米共に第1位を記録。本作は、ボブ・マーリーのブレイクによるレゲエ・ミュージックの台頭に影響されるかたちでジャマイカで制作され、異国情緒のある、グループの新たな側面を見せた作品である。だが、本作ではレゲエからの影響を感じさせる曲は見当たらず、むしろファンクやニュー・ソウルからの影響が色濃く出ている。サウンド面では、ギターを中心とした未加工で生々しく、ラフでルーズと評された前作『メイン・ストリートのならず者』とは対称的に、本作では鍵盤楽器を中心に、またエフェクトを多用した緻密で混沌とした音造りとなっている。1971年の『スティッキー・フィンガーズ』から3作連続で全英、全米両チャートで1位を記録するヒット作となった。本作からは「悲しみのアンジー」、そして「ドゥードゥー・ドゥー……（ハートブレイカー）」がシングルカットされ、特に前者は全米チャートで1位となる大ヒットを記録した。また1968年以降、ストーンズの全作品のプロデューサーを務めてきたジミー・ミラーが参加した最後の作品でもある。ジャケットは、極薄地の布を顔にかぶったメンバーを写したものであり、撮影とデザインはデヴィッド・ベリヤーが担当した。またタイトルどおりに大きな釜に入ったスープに浸された山羊の頭の写真も封入されているが、これは動物愛護協会からのクレームを受けた。アメリカでは4週連続の1位に輝き、2000年にはプラチナ・レコードを獲得、これまでに300万枚以上を売り上げている。イギリスでも2週連続1位を獲得。売れ行きは好調だったが、作品としての評価は前作『メイン・ストリート…』までのものと比べ、やや否定的な評価を下されることが多い。	Side A 1. ダンシング・ウィズ・ミスターD 4:53 2. 100年前 - 100 Years Ago 3:59 3. 夢からさめて - Coming Down Again 5:54 4. ドゥードゥー・ドゥー……（ハートブレイカー） - 5. 悲しみのアンジー - Angie 4:33	Side B 1. シルヴァー・トレイン 4:27 こ 2. お前の愛を隠して - Hide Your Love 4:12 3. ウィンター 5:31 4. 全てが音楽 - Can You Hear The Music? 5:31 5. スター・スター 4:25
ROLLING STONES	山羊の頭のスープ		973年8月31日	ブリティッシュビート	CD	日本			
ROLLING STONES	ノー・ストーン・アン・タンド		1973年10月5日	ブリティッシュビート	レコード	日本	イギリスやヨーロッパ各国、日本でシングル発売された「Sad Day」を始め、シングルのB面曲や当時のイギリスで未発売だった曲を中心に編集された アルバムです。ジャケットはシングル「Jumpin' Jack Flash」で使われていた写真を使っている。	Side A 1. Poison Ivy* 2. The Singer Not The Song 3. Surprise Surprise* 4. Child Of The Moon 5. Stoned* 6. Sad Day*	Side B 1. Money* 2. Congratulations* 3. I'm Moving On* 4. 2120 South Michigan Avenue 5. Long Long While* 6. Who's Driving Your Plane*
ROLLING STONES	イツ・オンリー・ロックン・ロール		1974年10月10日	ブリティッシュビート	レコード	US	1974年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。プロデュースはグリマー・ツインズ。レコーディング・エンジニアはアンディ・ジョンズおよびキース・ハーウッド。全英2位、全米1位を記録。1968年の『ベガーズ・バンケット』より続いてきたスワンプ・ロック路線から脱却し、本作ではソリッドかつストレートなロックサウンドに転換が図られた[1]。『スティッキー・フィンガーズ』(1971年)以降、ストーンズのサウンド面では欠かせなかったホーン・セクションも本作では一掃されている。本作はグリマー・ツインズ(ミック・ジャガーとキース・リチャーズのプロデューサーとしての匿名クレジット)がプロデュースを行った初の作品である。『ベガーズ…』以降ストーンズの全作品のプロデュースを引き受けてきたジミー・ミラーは本作のセッションの途中で降板。そして、1969年からストーンズのリードギタリストとして共に活動してきたミック・テイラーが、本作リリース直後の1974年12月にグループを脱退したため、テイラーが参加した最後のアルバムにもなった。テイラーの脱退理由には様々な憶測が流されたが、本人は「キースのドラッグが原因でメンバーがバラバラな状態だった」と語っている。あらゆる意味で本作はグループにとっての転換点に1975年にリリースされたローリング・ストーンズのコンピレーション・アルバム。発売元はアプロ・レコード、プロデューサーはアンドリュー・ルーグ・オールダムおよびジミー・ミラー。全米8位、全英45位を記録。バンドのデッカ・レコード在籍時代(1970年まで)の未発表音源を収録している。バンドのブライベート・アルバムであるローリング・ストーンズ・レコードからリリースされたベストアルバム『メイド・イン・ザ・シェイド』と同日に発売されたが、これはアプロの代表者でストーンズのデッカ時代の楽曲の著作権を握っていたアラン・クレインの戦略によるものである。本作に収録されているものは全てブライアン・ジョーンズ、そしてミック・テイラーがバンドに在籍していた時代の楽曲だが、そのためかジャケットに描かれたイラストにはジョーンズとテイラーが一緒に収まっている。	Side A 1. イフ・ユー・キャン・ロック・ミー 3:47 2. エイント・トゥー・ブラウド・トゥ・ベッグ 3:31 3. イッツ・オンリー・ロックン・ロール 5:07 4. ティル・ザ・ネクスト・グッドバイ 4:37 5. タイム・ウェイツ・フォー・ノー・ワン 6:38	Side B 1. 快樂の奴隷 - Luxury 5:01 2. ダンス・リトル・シスター 4:11 3. マイ・フレンド 6:17 4. ショート・アンド・カーリーズ 2:44 5. フィンガー・プリント・ファイル 6:33
ROLLING STONES	メタモフォシス		1975年6月6日	ブリティッシュビート	レコード	US	発売元はアプロ・レコード、プロデューサーはアンドリュー・ルーグ・オールダムおよびジミー・ミラー。全米8位、全英45位を記録。バンドのデッカ・レコード在籍時代(1970年まで)の未発表音源を収録している。バンドのブライベート・アルバムであるローリング・ストーンズ・レコードからリリースされたベストアルバム『メイド・イン・ザ・シェイド』と同日に発売されたが、これはアプロの代表者でストーンズのデッカ時代の楽曲の著作権を握っていたアラン・クレインの戦略によるものである。本作に収録されているものは全てブライアン・ジョーンズ、そしてミック・テイラーがバンドに在籍していた時代の楽曲だが、そのためかジャケットに描かれたイラストにはジョーンズとテイラーが一緒に収まっている。	Side A 1. アウト・オブ・タイム 3:22 2. ドント・ライト・ウ・ミー 2:00 3. 来る日も来る日も Each and Everyday of the Year 2:48 4. ハート・オブ・ストーン 3:47 5. かたくなの心 I'd Much Rather Be with the Boys 2:11 6. めざめぬ街 Sleepy City 2:51 7. トライ・ア・リトル・ハーダー 2:17	Side B 1. アイ・ドント・ノウ・ホワイ 3:01 2. イフ・ユー・レット・ミー 3:17 3. ジャイヴィング・シスター・ファニー 2:45 4. ダウンタウン・スージー 3:52 5. ファミリー 4:05 6. メモ・フロム・ターナー 2:45 7. アイム・ゴーイン・ダウン 2:52
ROLLING STONES	メタモフォシス		1975年6月6日	ブリティッシュビート	CD	日本	ジョーンズ期とテイラー期の楽曲を同時収録した編集盤は多数存在するが、2人が同一のジャケットに写っているストーンズの公式作品は、他には1977年に同じくアプロから発表された『30 Greatest Hits』(日本では『偉大なる軌跡』の邦題で発表)しかなく、極めて珍しい。本作からの先行シングルとして、「アイ・ドント・ノウ・ホワイ/トライ・ア・リトル・ハーダー」(全米42位)が、そしてリカットシングルとして「アウト・オブ・タイム/ジャイヴィング・シスター・ファニー」(全英45位、全米81位)がリリースされている。なお、アメリカでは「スティック・イン・ユア・マインド」と「ウィーアー・ウェイスティン・タイム」の2曲が削除され、全14曲となっていた。	Side A 1. アウト・オブ・タイム 3:22 2. ドント・ライト・ウ・ミー 2:00 3. スティック・イン・ユア・マインド 2:25 4. 来る日も来る日も - Each and Everyday of the Year 2:48 5. ハート・オブ・ストーン 3:47 6. かたくなの心 - I'd Much Rather Be with the Boys (Oldham/Richards) 2:11 7. めざめぬ街 - (Walkin' Thru The) Sleepy City 2:51 8. ウィーアー・ウェイスティン・タイム 2:42	9. トライ・ア・リトル・ハーダー 2:17 10. アイ・ドント・ノウ・ホワイ 3:01 11. イフ・ユー・レット・ミー 3:17 12. ジャイヴィング・シスター・ファニー 2:45 13. ダウンタウン・スージー (Bill Wyman) 3:52 14. ファミリー 4:05 15. メモ・フロム・ターナー 2:45 16. アイム・ゴーイン・ダウン 2:52
ROLLING STONES	ブラック・アンド・ブルー		1976年4月20日	ブリティッシュビート	レコード	US	1976年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。プロデュースはグリマー・ツインズ。レコーディング・エンジニアはキース・ハーウッドおよびグリン・ジョンズ。全英2位、全米1位を記録。ミック・テイラー脱退後、ロンドン・ウッドが初めて参加したアルバムである。前作『イツ・オンリー・ロックン・ロール』では、それまで傾倒していたスワンプ・ロックから離れ、ソリッドかつストレートなビートロックへと転換したが[3]、本作では再び自分達のルーツであるブラックミュージックへの回帰が見られる。だが、以前のようなアメリカ南部サウンドの泥臭さはなく、洗練されたニューソウルやAORからの影響が強い[4]。ファンク・スタイルの「ホット・スタッフ」、「ヘイ・ネグリータ」、レゲエ・ナンバーのカヴァー「チェリー・オー・ベイビー」、ジャズの影響の大きい「メロディー」、そしてアルバム全体に渡ってビリー・プレストンの大きな貢献が認められる。アルバムからは「愚か者の涙」がシングルカットされ、全英6位[1]、全米10位につけるヒットとなった。	Side A 1. ホット・スタッフ 5:20 2. ハンド・オブ・フェイト 4:28 3. チェリー・オー・ベイビー 3:53 4. メモリー・モーター 7:07	Side B 1. ヘイ・ネグリータ 4:58 2. メロディー - Melody 5:47 3. 愚か者の涙 - Fool to Cry 5:04 4. アルバムからのシングル第1弾。 5. クレイジー・ママ - Crazy Mama 4:34
ROLLING STONES	ブラック・アンド・ブルー		1976年4月20日	ブリティッシュビート	CD	US			

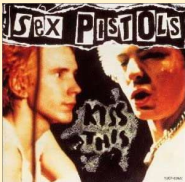
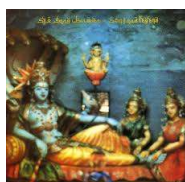
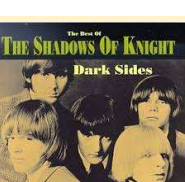
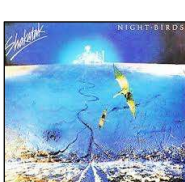
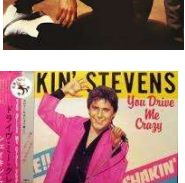
	ROLLING STONES	イン・モノ			ブリティッシュビート	CD	日本	ザ・ローリング・ストーンズが1960年代に発表したオリジナル・アルバム14作品を待望のMONO音源で復刻。 レア・トラックを収録した24曲入りボーナス・ディスク『ストレイ・キャッツ』を加えた15枚組豪華ボックス。しかも日本盤のみ7インチ紙ジャケット&SHM-CD仕様！日本初回盤LP帯をミニチュア再現した巻き帯など、特典多数付で堂々発売！！ ストーンズ初の60年代全オリジナル作品MONO音源収録のボックス・セット。モノ・アルバムとして初CD化、及びステレオ盤とは構成やバランスの異なるミックスによる楽曲も多数。 長らく入手困難だった英国盤ファーストとセカンド・アルバムが復活。アプロ・レコーズが承認したジャケット・アートワークを使用。日本盤のみ、通常のものより質量感とも魅力的な7インチ紙ジャケット仕様で発売。全アルバム、オリジナル・モノ・テープからボブ・ラドウィックとテリ・ランディによる2016年最新リマスタリング音源。日本盤のみSHM-CD仕様で発売。 初CD化となる「アズ・ティームズ・ゴーン・バイ(イタリア語ヴァージョン)」を始め、		
	ROLLING STONES	ライヴ・イン・ロンドン			ブリティッシュビート	CD	日本	1964年6月26日アレクサンダー・パレスのライブ(1曲～5曲目)、1966年9月10日レディ・ステディ・ゴーのライブ(6曲～8曲目)、1964年～1968年ロンドンでのライブ(6曲～13曲目)の録音を収録。		
	ROLLING STONES	ライヴ・イン・USA			ブリティッシュビート	CD	日本	1964年～1966年のアメリカでのライブを収録。		
	ROMAN HOLLIDAY	ローマの休日		1983	ロカビリー	レコード	日本	1980年代初頭に活躍した英国エセックス州ハーロウ出身の7人組。“モダン・ジャイヴ”“パンク・スウィング”などといわれた。デキシーとロカビリーの味わいのある個性的なポップ・サウンドを満載した1983年発表の衝撃のデビュー作。大ヒット曲「ドント・トライトウ・ストップ・イット(俺[おいら]はハッキリ・ボーイ)」「スタン・バイ」他、全11曲収録。		
	ROMAN HOLLIDAY	涙のラスト・クルーズ		1984	ロカビリー	レコード	日本	ワン・フット・バック は、りんご白書(映画)のサントラにも使われた曲。俺は燃える、ランナウェイ、ソー・マッチ熱い恋 はノリの良い曲。恋のはじまり、涙のラスト・クルーズはバラード曲、 涙のラスト・クルーズは、日本で結構流れてた曲で知っている方も多いのでは？セカンドアルバムは、元氣だけじゃないというバンドの気持ちが前面にでており、大人の雰囲気も感じさせ、成熟した秀作。7人でデビューしましたが2人脱退し、セカンドアルバム出したが続かなかく解散となる。当時セカンドアルバムの評価が悪かったと叩かれていた。		
	ROMANTICS	ロマンティックス		1980年	ニューウェイブ	レコード	日本	デビューアルバム。ヒット曲「What I Like About You」収録。	Side A 1 When I Look In Your Eyes 3:00 2 Tell It To Carrie 3:24 3 First In Line 2:37 4 Keep In Touch 3:41 5 Girl Next Door 4:42	Side B 1 What I Like About You 2:56 2 She's Got Everything 2:34 3 Till I See You Again 3:55 4 Hung On You 3:25 5 Little White Lies 2:38 6 Gimme One More Chance 4:27
	ROMANTICS	イン・ヒート		1983年	ニューウェイブ	レコード	日本	ロマンティックスのセカンドアルバム		
	ROMEO VOID	イツ・ア・コンディション		1981	ニューウェイブ	レコード	US	ロミオ・ヴォイドのマイナーレベールからのデビューアルバム。このグループは、女性ヴォーカルDEBORA IYALLを擁するサンフランシスコで結成されたニューウェーブ/ポストパンクバンド。後にコロンビアからメジャーデビューするだけあってインディーリリースながらクオリティが高い。1980年、デビュー・シングル「White Sweater」をリリースし、1981年にはこのファースト・アルバム『It's a Condition』をリリース。 また、カースのリーダーであるリック・オakesekがこのアルバムを聴き目し、自分のスタジオにグループを招待し、オakesekのプロデュースしたEP『Never Say Never』をリリースすることになり、ラジオでプレイしコロンビアとメジャー契約を果たす。 Benjamin Bossiの飛び散るようなフリージャズサックスがすべてに彩りを添え、ドラムブレイクが抜けるドープグループ“1 MEAN IT”、ロール入りブレイクが抜ける“NOTHING FOR ME”“TALK DIRTY (TO ME)”など、最高にかっこよく、74年発表。フェイス脱退後に発表したソロ・デビュー作で、自身のバンド、スリム・チャンスとの名義。大半の楽曲がロニーのオリジナルとなっており、楽曲面でも定評のあるギャラガー＆ライルの楽曲がないのは残念だが、彼らの演奏はこの味わい深い作品に大きく貢献している。ちなみにブルースとビリーはギャラガー＆ライルのバックも勤めており、本作はそのギャラガー＆ライルの人脈の助力を経てロニーが完成させた作品と捉えると分かりやすい。フェイス末期のロニーの作風とギャラガー＆ライルの作風は共通点も多い。ギャラガー＆ライルは本作の後、デュオとしての5作目『ブレイカウェイ』で文字どおりブレイクするが、その成功は本作への参加があったことも大きな要因であっただろう。 内容としては想像通りのザ・バンドの英国仕様とも言うべきもので、英国スワンプの見本として飾っておきたいほどの逸品。アコギトリズム隊をベースにしてコロコロと転がるピアノにアコーディオン、パンジョー、サックスなどがアーシーな味わいを加えている。それにも増して開放的で嬉しさが伝わってくるかのよう	Side A 1. Myself To Myself3:41 2. Nothing For Me 3:36 3. Talk Dirty (To Me)4:46 4. Love Is An Illness3:41 5. White Sweater4:43	Side B 1. Charred Remains 3:02 2. Confrontation 2:40 3. Drop Your Eyes 3:33 4. Fear To Fear 2:37 5. I Mean It 5:37
	RONNIE LANE	エニモア・フォー・エニモア		1974	ロック	CD	日本	BBC放送にはよく取り上げられて多数のセッション音源を残しており、それが今回の2枚組アルバムに纏められた。ライブということで、マルチプレイヤーのメンバーも楽器はひとつに限られるだろう、その分小編成で再現し引き締まったライブを楽しめる。もちろんロニーの息遣い、ヴォーカルも特筆。特にMCでの声は、優しいヴォーカルと打って代わって凛々しい。フェイスズのロングプレイヤーでのライブでのMCはおどけていたから分らなかったが、ボックスでの他曲のMCは、ラジオDJかと思っくらい。メンバーのコースも端正で良い。録音時期は73年～76年に渡っており、当然メンバーも出入りがあるのに、ブックレットの名前入のメンバー写真は、一時期のみ。ライナーは、在籍バンド時代からのロニーの道のりを書いているが、収録のライブのことは一部のみで詳しい解説が無いのが惜しまれる。歌、パフォーマンス、そして名だたるミュージシャンを引き寄せ続ける力、モービル録音ユニットの先駆けである。	1Careless Love 2Dont You Cry For Me 3(Bye & Bye) Gonna See The King 4Silk Stockings 5The Poacher 6Roll On Babe 7Tell Everyone 8Amelia Earhardt 9Anymore For Anymore 10Bird In A Guilded Cage 11Chicken Wired	12How Come (Acoustic Version) 13The Poacher (Different Vocal Mix) 14Roll On Babe (Remix) 15Anymore For Anymore (Alt Version) 16(Bye & Bye) Gonna See The King (Remix) 17Amelia Earhardt (Alt Version) 18Anymore For Anymore (Rare & Exclusive Ibiza 1972)
	RONNIE LANE	ユー・ネヴァー・キャン・テル		1997	ロック	CD	日本	BBC放送にはよく取り上げられて多数のセッション音源を残しており、それが今回の2枚組アルバムに纏められた。ライブということで、マルチプレイヤーのメンバーも楽器はひとつに限られるだろう、その分小編成で再現し引き締まったライブを楽しめる。もちろんロニーの息遣い、ヴォーカルも特筆。特にMCでの声は、優しいヴォーカルと打って代わって凛々しい。フェイスズのロングプレイヤーでのライブでのMCはおどけていたから分らなかったが、ボックスでの他曲のMCは、ラジオDJかと思っくらい。メンバーのコースも端正で良い。録音時期は73年～76年に渡っており、当然メンバーも出入りがあるのに、ブックレットの名前入のメンバー写真は、一時期のみ。ライナーは、在籍バンド時代からのロニーの道のりを書いているが、収録のライブのことは一部のみで詳しい解説が無いのが惜しまれる。歌、パフォーマンス、そして名だたるミュージシャンを引き寄せ続ける力、モービル録音ユニットの先駆けである。	ディスク: 1 1ウー・ラ・ラ 2フラッグス・アンド・バナース 3ハウ・カム? 4アニヴァーサリー 5ドント・トライ・アンド・チェンジ・マイ・マインド 6ワン・フォー・ザ・ロード 7ステッピン・アンド・リーリン 8スウィート・ヴァージニア 9ケアレス・ラヴ 10ラヴリー 11オール・オア・ナッシング	ディスク: 2 1ラスト・オーダーズ 2アニヴァーサリー 3ロール・オン・ベイブ 4ロスト/ハウ・カム? 5ユア・ソー・ルード 6ホワット・ウェント・ダウン 7チキン・ワイアード 8ウー・ラ・ラ 9ユー・ネヴァー・キャン・テル 10アニヴァーサリー 11ドント・トライ・アンド・チェンジ・マイ・マインド 12ウォーク・オン・バイ 13ユー・ネヴァー・キャン・テル 14ステッピン・アンド・リーリン 15ウー・ラ・ラ
	RON WOOD	ギミ・サム・ネック		1979	ロック	レコード	日本	本作は79年作品。第一期ジェフ・ベック・グループを皮切りに、フェイスズ、ローリング・ストーンズと常に隣のあたる道を歩いてきたギタリスト、ロン・ウッド。本作はCBS移籍第一弾となった、ソロとして3作目、75年にストーンズのメンバーとなってから、初のアルバム。キース、ミック、チャーリーの3人が参加している。またフリートウッド・マックのドラマー、ミック・フリートウッド、デイヴ・メイソンも参加。本作からはボブ・ディラン作の「セブン・デイズ」がシングル・カット。ジャケットの絵は自筆である。プロデュースはクイーン育ての親ともいえるロイ・トーマス・ペイカー。	1.ウォリー・ノウ・モア 2.フレイキン・マイ・ハート 3.デア 4.ベリッド・アライヴ 5.カム・トゥー・リアライズ	6.インフェクション 7.セブン・デイズ 8.ウィ・オール・ゲット・オールド 9.F.U.C.ハニー 10.ロスト・アンド・ロンリー 11.ドント・ウォリー
	RORY GALLAGHER	ロリー・ギャラガー		1976年	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	1976年に発表した6枚目アルバム。プロデューサーは元ディーパーブルのRoger Glover。ジャズやブルースやトラッドをぶち込んでポップに仕上げた美しいハードロックアルバム。A面1曲目はルー・マーティンのオルガンがいぶし銀の働きをみせる。人気曲のA面2 (Country mile)、A面3 (Moon Child) は彼の代表曲の一つであり本作収録曲中最もハード。や以外にも、Jazzyなタイトル曲や美しいA面5とB面2、らしい哀愁曲B面3など、聴かせるアルバム。この時代ならではのほとんどエフェクター加工されていないような録音が良い。生々しいドラムにアンブ直結のようなギターの音。こういう音好きだなあ。音楽性は違うが初期のAC/DCの作品なんかに共通した過剰に加工されていない録音の良さを味わえる作品。	Side A 1. ドゥ・ユー・リード・ミー 2. カントリー・マイル 3. ムーンチャイルド 4. コーリング・カード 5. I'll Admit You're Gone 行ってもいいさ	Side B 1. シークレット・エージェント 2. ジャック・ナイフのビート 3. エッジ・イン・ブルー 4. バーリー・アンド・グレイブ・ラヴ
	RORY GALLAGHER	ライヴ・イン・ヨーロッパ		1972	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	UK	ブルース/ロック・ギタリスト、ロリー・ギャラガーの1972年発表のソロ3作目。同年2～3月にかけて行なわれたヨーロッパ・ツアーで録音された、人気絶頂期の熱狂的なステージ模様を収めた傑作ライブ盤。70年代以降に登場するハード・ロック・ギタリストたちに多大な影響を及ぼした傑作ライブ・アルバム。トラッドとブルースのカヴァーを中心にした選曲されている。 「メッシン・ウィズ・ザ・キッド」「ラウンドロマト」他、全9曲。		

	ROCKPILE	ロンドンの街角		1980	ニューウェ イブ	レコード	日本		Side A 1. Teacher Teacher 2. If Sugar Was As Sweet As You 3. Heart 4. Now And Always 5. A Knife And A Fork 6. Play That Fast Thing (One More Time)	Side B 1. Wrong Again (Let's Face It) 2. Pet You And Hold You 3. Oh What A Thrill 4. When I Write A Book 5. Fool Too Long 6. You Ain't Nothin' But Fine
	RUBINOOS	恋はいっしょに		1977	パワーポッ プス	レコード	日本	カリフォルニア・パワー・ポップの歴史はまさにこのアルバムから始まった。77年にビザークレー・レコードからリリースされたファースト・アルバム。トミー・ジェイムス&ザ・ジョンデルズのカヴァーで、全米45位のスマッシュ・ヒットとなった「君と僕の世界」。また、2枚目のシングル「Leave My Heart Alone (ひとりぼっちの僕)」も出たが、これまたB面の「Nothing A Little Love Won't Cure (夢みる初恋)」の方が全米でマイナー・ヒットを記録。日本のみのシングルA面となった「恋はいっしょに」など収録。 グループは、1985年をもっていったん活動が休止したが、1999年頃から再始動。彼らが登場したのはまだザ・ナックが大ブレイクする前でしたので、ちょっと早過ぎたかもで、言うほど売れませんでした。後年「パワー・ポップ」というジャンル？が定着するようになってからはその本家のような立ち位置で根強い人気を保ち続けている。日本での来日公演も4回を数え(日本でのライブCDも2枚)、新作も出している。ちなみに4人のうち3人はデビュー当初から、そして1	Side A 1. 恋はいっしょに 2. ひとりぼっちの僕 3. あの娘はブライガール 4. ビーク・ア・ブー 5. さよならロックンロール	Side B 1. 君と僕の世界 2. 愛の想い出 3. 夢見る初恋 4. 素敵なフィーリング 5. メイク・イット・イージー 6. 恋はハブニング
	RUMOUR	フローズン・イヤー			ニューウェ イブ	レコード	UK			
	RUNAWAYS	チェリー・ボム悩殺爆弾 / 禁断のロックン・ロール・クイーン		976年3月16日	パンク	レコード	日本	ランナウェイズのデビュー・アルバム。アメリカ本国より日本でのほうが売れたバンド。若々しくエネルギッシュで、かつキャッチーなメロディ満載で早すぎたデビューが惜しまれるバンド。その後、ボーカルのシェリー・カーリーがソロに転向し、残りのメンバーで活動するが意見の不一致で解散。80年代になってから彼女らはソロとして活躍し、ランナウェイズの活動で養ったモノが開花して自らバンドを結成して全米ナンバーワン・ヒットを放ったジョーン・ジェットや、ソロでヒットを飛ばしたリタ・フォード(オジー・オズボーンとのコラボもあり)。バングルスと結成して大ヒットを連発したマイケル・スティール(デビュー前のメンバー)など、ミュージックシーンを華々しく彩る活躍をした。人気曲である「チェリー・ボンブ」は、リードシンガーのチェリー・カーリーのオーディションのためにその場でジョーン・ジェットとフォーリーが即席に書かれたものであり、曲名がカーリーの名の発音との言葉遊びである。「チェリー・ボンブ」は、VH1が選んだ「最も偉大なロック・ソング」の100位に入っている。また、このアルバムは、ランナウェイズの来日記念盤としてジャケットを新たに発行したアルバム。	Side A 1. チェリー・ボンブ 2. あなたに夢中 3. 錯乱する頭脳 4. 恋の稲妻 5. ロック・アンド・ロール	Side B 1. ラヴァーズ 2. アメリカン・ナイツ 3. ブラックメール 4. シークレッツ 5. 行きづまりの正義
	RUNAWAYS	チェリー・ボムブ		1977	パンク	レコード	日本	 	Side A 1. チェリー・ボンブ 2. あなたに夢中 3. 錯乱する頭脳 4. 恋の稲妻 5. ロック・アンド・ロール	Side B 1. ラヴァーズ 2. アメリカン・ナイツ 3. ブラックメール 4. シークレッツ 5. 行きづまりの正義
	RUNAWAYS	クイーン・オブ・ノイズ		1977	パンク	レコード	日本	1977年発表。ザ・ランナウェイズのセカンド・アルバム。ハード・ロック、パンク、バラードと、バンドの魅力を凝縮した1枚。	Side A 1. クイーン・オブ・ノイズ(3:26) 2. はっきりさせて！(3:24) 3. ミッドナイト・ミュージック(2:50) 4. ボーン・トゥ・ビー・バッド(4:30) 5. 悪魔のネオン・エンジェル(3:25)	Side B 1. 危険な遊び(3:20) 2. カリフォルニア・パラダイス(2:52) 3. ハリウッド(2:57) 4. とときめく心は誰のせい？(2:51) 5. ジョニー・ギター(7:17)
	RUSH	閃光のラッシュ		1974年	ハードロッ ク	レコード	UK	RUSHの記念すべきデビュー・アルバム。いまやプログレ・ハードの最高峰とも言われる彼らですが、このデビュー作は、ゲティのハイ・トーン・ボイスとアレックスのギター・リフを全面に打ち出したストレートなロック・アルバム。ニール・パート加入前ということもあって驚異的なリズム隊はないし、知的な歌詞やコンセプトもないので、プログレ・ファンには縁のない作品だと思えますが、なかなかカッコいいハードロックに仕上がっています。「単なる「ツェペリン・フォロワー」などといわれることも多い初期のRUSHですが、確かにLed Zeppelinの影響を大きく感じさせるものの、ブルー・ジー・ささほとんど感じさせないところがかえってオリジナリティを出しています。ゲティのベースが凄くうねりまくり！「ホワット・ユー・アード・ウーイング」「ワーキング・マン」は、今聴いてもカッコいい曲。	Side A 1. ファインディング・マイ・ウェイ 5:03 2. ニード・サム・ラヴ2:16 3. テイク・ア・フレンド4:27 4. ヒア・アゲイン 7:30	Side B 1. ホワット・ユア・ドゥーイング 4:19 2. イン・ザ・ムード 3:36 3. ビフォー・アンド・アフター 5:33 4. ワーキング・マン 7:07
	RUSH	パーマナント・ウェイヴス 永遠の波		1980	ハードロッ ク	レコード	日本	80年作。ラッシュの通産7作目。70年代のハード・ロック、プログレと両極のファンに支えられ、常に通好みのバンドとして傑作を生み出してきた彼等が、目前の80年代に向けてポップ・シングル、大衆性を求められる中、生まれたアルバムとも言えます。 宇宙、自然、科学をテーマにした哲学的なテーマ、組曲による大作主義はラッシュらしさを残したままですが、「The Sprit Of The Radio」という彼等の中期を代表する記念的シングルのヒットにも恵まれました。以降の彼等の作風に繋がる、とっつき易さの導入はかなり大きかったと思います。秀逸なジャケットも素晴らしく、中期の彼等の傑作の一つとなっています。	Side A 1. ザ・スピリット・オブ・レイディオ 4:57 2. 自由意志 - "Freewill" 5:24 3. ヤコブの梯子 (旧約聖書創世記より) - "Jacob's Ladder" 7:26	Side B 1. アントレ・ヌ (私たちの間に) 4:36 2. 異なる糸 - "Different Strings" 3:48 3. 自然科学 - "Natural Science" 1. 潮だまり - "I: Tide Pools" - 2:19 2. 超空間 - "II: Hyperspace" - 2:48 3. 永遠の波 - "III: Permanent Waves" - 4:10
	RUSH	ラッシュ・ライブ〜神話大全		1981年	ハードロッ ク	レコード	日本	ラッシュ最大のヒット・アルバム「ムービング・ピクチャーズ」を発表した81年、最大規模の69ヶ所の全米ツアーを敢行。本作品は、このツアー中の白熱のステージを収録したライブ・アルバム「神話大全」の映像版として発表された、まさにラッシュの真骨頂が見られる一枚です。	Side 1 1. ザ・スピリット・オブ・レイディオ 2. 赤いバーチェッタ 3. YYZ Side 2 1. バッセージ・トゥ・パンコック 2. クローサー・トゥ・ザ・ハート 3. ピニース・ビトゥーイング・アンド・ビ・ハインド 4. ヤコブの梯子(旧約聖書創世記より)	Side 3 1. ブルーンズ・ペイン 2. ザ・トゥリーズ 3. ザ・ナウ Side 4 1. 自由意志 2. トム・ソーヤ 3. ラ・ヴィラ・ストレンジ・アート
	RUTLES	ラトルズ			ロック	CD	日本	ジョージ・ハリスンとの交流が深かったモンティ・パイソンのエリック・アイドルが、ビートルズのバロディ・バンドとして1978年に結成したザ・ラトルズ。テレビ番組「All You Need Is Cash」のサントラなのだが、ビートルズのバロディだけではなく、ビートルズ風の楽曲も数曲もしくはアルバム単位で発表するというのは結構あるのだけど、このラトルズに関してはバロディ要素が強いものの楽曲もかなり徹底しており、そういった一連のグループの最もたるものだと思う。知名度も一番高いし、何と言っても楽曲が揃いも揃って魅力的だと思う。特に、恋におちたら風の7. とゲット・バック風の19. は最高の出来だと思う。7. のギター・ソロのフレーズのモタリ具合の切なさには本当に最高。ニール・イネスのソングライティングに脱帽。	1.グース・ステッブ・ママ 2.ナンバー・ワン 3.ベイビー・レット・ミー・ビー 4.ホールド・マイ・バンド 5.ブルー・スウェード・シューベルト 6.ライ・マスト・ビー・イン・ラヴ 7.ウィズ・ア・ガール・ライク・ユー 8.ビトゥーイング・アス 9.リヴィング・イン・ホープ 10.アウチ!	11.イツ・ルッキング・グッド 12.ダブルバック・アレイ 13.グッド・タイムス・ロール 14.ネヴァー・ザ・レス 15.ラヴ・ライフ 16.ビギン・イン・ザ・ミドル 17.アナザー・デイ 18.チーズ・アンド・オニオンズ 19.ゲット・アップ・アンド・ゴー 20.レッツ・ビー・ナチュラル
	RUTLES	アーキオロジー		1996	ロック	CD	日本	本作はビートルズの「アンソロジー」シリーズにあやうが、18年ぶりに発表された第2作で、アイドルは不参加だが、音楽的リーダーのニール・イネスが相変わらずの才能を発揮、絶妙にビートル・ライクな楽曲を揃えている。前回がアルバムだけではなく映画も製作されるなど話題やプロジェクトのスケールでは今回の作品よりも大掛かりなものだったが、純粹に音楽性だけをふまえた場合、前作よりもスケールの大きな作品だ。前作は完全にビートルズのバロディ作品と言えるもので、ビートルズの楽曲の質に比肩するメロディを作るより、一歩追加して笑いを取るような手法が取られているのが面白い部分であった。しかしこのアルバムではビートルズ以外の同時代の音楽性もすべてひっくるめて「あの時代の架空の大作バンド」を演じているように思える。例えばビートルズ以外にキンクスの音も聞こえてくる。ニール・イネスのソング・ライティングも前作のビートルズの表層的な部分をこねた作品ではなくあの時代の音をニールなりに煮詰めて作ったような本格的な楽曲になっている。「Shangli-La」はこのアルバムのために作った曲ではなく元々ニールの代表曲である。オアシスをはじめとする豪華ゲスト参加も単なる話題作りではなく、ビートルズの「All You Need Is Love」でのゲスト参加を思わせるもので、このアルバムの意味の一つを表すエピソードだ。そう言った点も含め、本作は深く聴き込むほどに「ビートルズのバロディ」なところは少ない、音楽性としては前作と異なる味がある。	1.メイジャー・ハッピーズ・アップ・アンド・カミン・グ・ワンス・ア・ボン・ア・グッド・タイム・バンド 2.ランデヴー 3.エクスチオネア 4.ラトルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ! 5.ロンリー・フォビア 6.ランフィニッシュ・ワーズ 7.ハイ・ミスター! 8.イージー・リスニング 9.オウ・シーズ・レフト・ユー 10.ザ・ニッカー・エラスティック・キング	11.アイ・ラヴ・ユー 12.中産階級音楽 13.ジョー・パブリック 14.シヤ・グリラ 15.ドント・ノウ・ホワイ 16.バック・イン'64 17.ラフライ (ボーナス・トラック) 18.ベイビー・ル・ヴ・ブレ (ボーナス・トラック) 19.イツ・ルッキング・グッド (ボーナス・トラック) 20.マイ・リトル・ウクレレ
	RUTS			1979	パンク	レコード	US	ラッツの「Babylon's Burning」でUKチャートのトップ10入りを果たし、アルバムも14位となる人気のファーストアルバム。		
	RY COODER	紫の峡谷		1972年	アメリカン ロック	レコード	US	1972年の年間ベスト・アルバムと絶賛されたスライド・ギターの名手、ライ・クーダーの代表作といえる歴史に残る秀逸セカンドアルバム。ライはファーストでのストリングスを多用するヴァン・ダイクの音作りが気に入らなかったようですが、南部出身のジム・ディッキンソン(ピアノでも参加しています)がプロデューサーに加わることで、ライの希望した土臭い雰囲気仕上がりしています。このアルバムの収録曲はすべてアメリカの古い歌のカバー。カントリー的な響きもあり、フォークと言ってもいいし、ブルースの感覚にも溢れていた。とにかくギターの響きが新鮮。	Side A 1. キャン・ユー・キープ・オン・ムーヴィング 2. ビリー・ザ・キッド 3. マニー・ハニー 4. トリニダードのF.D.R 5. ティアドロップス・ウィル・フォー 6. デノミ・ブルース	Side B 1. オン・ア・マンデー 2. ヘイ・ポーター 3. Great Dream From Heaven/天国からの夢 4. タックス・オン・ザ・ファーマー 5. Vigilante Man / 自警団員
	RY COODER	バップ・ドロップ・デラックス		1979年	アメリカン ロック	レコード	US	R&Bのヒット・ナンバーを、その鋭い洞察力で見事なまでに蘇らせた名盤！常に意欲的に新たな音楽をさがり出し、巧みに独自のサウンドに仕上げてしまいうライ・クーダーが「ジャズ」に続いて魅せた、古き良きR&Bのエッセンス！	Side A 1. リトル・シスター 2. ゴー・ホーム・ガール 3. 奮める秘訣 4. ワーク・アウト・ファイン	Side B 1. ダウン・イン・ハリウッド 2. ルック・アット・グラニー・ラン・ラン 3. 苦惱をのりこえて 4. ドント・メス・アップ・ア・グッド・シング 5. アイ・キャン・ト・ウイン

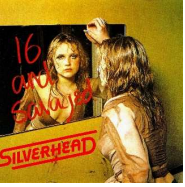
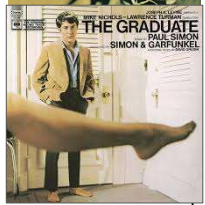
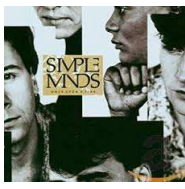
S	SAGA	パラレルワールド		1982年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	SAGAが「一番POPなサウンドで評価された作品」であり、SAGAの代表作とされている4枚目のアルバム。当初はプログレッシブな風味とメロディアスな曲調が持ち味だったSAGAですが、このアルバムではダンサブルな展開やNEW WAVE風味も調理しています。その巧みなブレンド感覚を更に発展させた、ルパート・ハインをプロデューサーに迎えイギリスで録音されたアルバム。それまでのローカルな人気が一気にワールド・ワイドに拡大された記念碑的作品。初期3部作と言われる1枚目から3枚目までの路線から幾分修正が加えられていて、そのことがアメリカでもトップ20入りして一躍トップ・グループの仲間入りにしています。シングルヒットも生まれ“On The Loose”、“Wind Him Up”は現在でもライブの定番の曲。それまでのプログレっぽさは薄れ、ポップなメロディアスな曲がアメリカでの人気につながって行った。(カナダ出身のプリズムというグループのセカンド・アルバムとジャケットが似ていると指摘もありますが・・・オリジナルはサビの曲の通称が「ザ・サント」で、別々に引き継ぎ継ぎ「ザ・サント」サーはルパート・ハインが担当。ルパート・ハインは、ハワード・ジョーンズやブロン・ツイズ等のエレ・ポップ系のサウンドを得意とした人で同郷のラッシュもこの人のプロデュースで成功している。キャッチーなメロディながら、くっつけて情緒過多にならないクールな佇まいは相変わらずなのですが、多少派手目になったアレンジ。当時は最先端であったであろう80年代のアプローチにより、NEW WAVE寄りになったのが目立ちます。メタリックギターは控え目ながらもしっかりと残されているため、一連の80'sポップとは明らかに違う質感は保っている。キラキラしたアレンジをベースに、湿り気のある哀愁感が疾走していく本作の魅力は、陽性のエレ・ポップでは得られない美学があり、快楽追求型のポップ・ミュージックがシーンを席捲していたアメリカでは今一つ突き抜け感が	Side A 1. On The Loose 4:12 2. Wind Him Up 5:48 3. Amnesia 3:29 4. Framed 5:42 5. Time's Up 4:08
	SAGA	不思議の旅路		1983年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	早稲田大学出身のバンド、ザ・セイントズ(The Saints)のセカンドアルバム『ETERNALLY YOURS』はホーンを入れたリフォークロック調の曲もあったりして、音楽性を広げた名盤。ザ・セイントズのクリス・ペイリーは1973年に2人の友人、ギタリストのエド・キューパーとドラマーのアイバー・ヘイとザ・セイントズを結成した。その後、バンドにはカイル・ブラッドショーが加わり、ベースにはアラスデア・アルギー・ワードが続いた。クリス・ペイリーのヴォーカルはパンクのトレードマークである卑屈さと若き日のヴァン・モリソンのような熱気を併せ持っていた。デビュー・アルバムは、キューパーのラモーンズ風のリフに支えられたパンクサウンドに、メロディアスな歌が乗る彼らの曲は今でも通用する。セイントズは1976年9月、自国でシングル『I'm Stranded』を発表。当時パンク色になっていたロンドンの音楽メディアが同シングルを紹介すると一気に注目を集めた。これを受けたセイントズは77年5月、満を持してロンドンに上陸。しかし、セイントズのヴィジュアルはあまりにも残念でロンドンでは受けなかったという。当時最新のスタイリッシュなファッションに身を包んでいたロンドン・パンクスにとって、フロントマンのクリス・ペイリーが、	Side A 1. The Flyer 2. Catwalk 3. The Sound of Strangers 4. The Writing 5. Intermission
	SAINTS	エターナル・ユアーズ		1977	パンク	CD	US	ソロ・9th、Geffen移籍後の3作目。この時期はまだヴァン・ヘイレンに加入前で、テッド・テンブルマンのプロデュースなんてのを見ると、何かしらの運命をあらためて感じる。音の方は真緑十分のハードロックでアメリカンロックの王道的な曲が並びます。特にA面1曲目とB面2曲目がこのアルバムを語る上での全てでロック界屈指の名曲と言っても良いです。1984年にふさわしいロックアンセムが、“I can't Drive 55”と“VOA”です。	1. Know Your Product 2. Lost and Found 3. Memories Are Made of This 4. Private Affair 5. Minor Aversion 6. No, Your Product 7. This Perfect Day
	SAMMY HAGAR	ヴォイス・オブ・アメリカ		1984年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	Side A 1. 非情のハイウェイ55号 2. スウェプト・アウェイ 3. ロック・イズ・イン・マイ・ブラッド 4. トゥー・サイズ・オブ・ラヴ	Side B 1. ディック・イン・ザ・ダート 2. VOA(ヴォイス・オブ・アメリカ) 3. ドント・メイク・ミー・ウェイト 4. バーニン・ダウン・ザ・シティ
	SAMSON	魔人襲来		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	サムソンの80年リリースのセカンド。後にアイアン・メイデンに引き抜かれるブルース・ディッキンソン(ブルース・ブルース)のサムソン加入実質1作目のアルバム。覆面ドラマーのサンダースティックがアルバム・カヴァーを飾った。前作では途中加入だったブルース・ディッキンソンを大きくフィーチャー。B1の「Thunderburst」はステイヴ・ハリスの曲、メイデンのセカンド「Killers」のオープニングナンバーとしても使われていて曲名は「The Ides of March」に変更されている(この曲は当時からメイデンのライブのイントロとして使用されていた)。ステイヴ・ハリスが楽曲を提供するなど、アイアン・メイデンとの関わりが大きく見え隠れる一枚。	1.Hard Times 2.Take It Like A Man 3.Vice Versa 4.Manwatcher 5.Too Close To Rock
	SAMSON	魔界戦士(ショック・タクトイクス)		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	ブルース・ディッキンソン、そしてボブ・ヘイズ・マズツをじだ名物ドラマー、サンダースティックがサムソンで最後に残したアルバム。81年というN.W.O.B.H.M.シーンがいよいよ盛り上がる激動期、サムソンのサード・アルバムプロデューサーの手腕も大きかったと思いますが、音の処理がよりタイト、クリアになった事で前作とは別バンドの様なサウンドにまず驚かされます。ロバート・マッ・ランジのエンジニアを経て、以降AC/DC、KROKUS、CHEAP TRICK、Y&T、DIO等々多くのHR/HMアルバムに関わってきたトニー・ブラットのプロデュースにより当時としてはかなり洗練されたハード・ロック・サウンドとなっています。オープニングの「RIDING WITH THE ANGELS 地獄の天使」は、当時レインボーが取り上げた事で注目されていたラス・バラードのカヴァー。これが実に同時代のメイデンにも通じるスピード感とキャッチーさに溢れたナンバーに仕上がっていて、とにかくブルースのヴォーカルが熱いものになっています。オーソドックスなハード・ロック・ナンバーでもヴォーカルがグイグイ引く張るスタイルがすでに確立されていて、おそらく本作を聴いてステイヴ・ハリスはブルースを欲しがったんじゃないでしょうか。ブルースの高揚感溢れる唱法が確立されている「EARTH MOTHER」、ブルージーなミドル・ナンバーの「BLOOD LUST 血の欲望」、メイデンのアウトテイクの様な「GRIME CRIME」、そしてハイライトとなる哀愁バラード「COMMUNION 霊界交流」等、と	Live Side 1. ウィ・ガッタ・ア・ファイト 2. リップ・オフ 3. アルスター 4. ジョージ・デイヴィス・イズ・イノセント 5. ゼイドント・アンダー・スタンド 6. ポースタル・ブレイクアウト
	SANTANA	サンタナ		1969年9月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	Side A 1. ウェイティング 2. イヴィル・ウェイズ 3. シェイズ・オブ・タイム 4. セイヴァー 5. ジンゴ	Side B 1. パースエイジョン 2. トリー 3. ユー・ジャスト・ドント・ケア 4. ソウル・サクリファイス
	SANTANA	天の守護神		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	Side A 1. Singing Winds, Crying Beasts / 風は歌い、野獣は叫ぶ 2. Black Magic Woman / Gypsy Queen / ブラック・マジック・ウーマン/ジプシー・クイーン 3. Oye Como Va / 僕のリズムを聞いとれ 4. Incident at Neshabur / ネシャプールの出来事	Side B 1. Se A Cabo / すべては終わりにぬ 2. Mother's Daughter / マザーズ・ドーター 3. Samba Pa Ti / 君に捧げるサンバ 4. Hope You're Feeling Better / ホープ・ユー・アー・フィーリング・ベター 5. El Nicoya / エル・ニコヤ
	SANTANA	サンタナⅢ		1971年9月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	Side A 1. バトウーカ 2. 孤独のリズム 3. タブー(禁断の恋) 4. 祭典	Side B 1. 新しい世界 2. グアヒラ 3. ジャングル・ストラット 4. 愛がすべてを 5. 情熱のランバ
	SANTANA	キャラバンサライ		1972	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	Side A 1. 復活した永遠なるキャラバン 2. 躍動 3. 宇宙への仰視 4. 栄光の夜明け 5. 風は歌う 6. 宇宙への歓喜	Side B 1. フューチャー・プリミティブ(融合) 2. ストーン・フラワー 3. リズムの架け橋 4. 果てしなき道
	SANTANA	不死蝶		1974年10月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	Side A 1. 春の訪れ - "Spring Manifestations" 1:04 2. 花の歌 - "Canto de los Flores" 3:46 3. 新たな旅立ち - "Life Is Anew" 4:15 4. 果てしなき世界 - "Give and Take" 5:44 5. 太陽のもとへ - "One with the Sun" 4:22 6. 熱望 - "Aspirations" 5:09	Side B 1. 君の教え - "Practice What You Preach" 4:31 2. 寝かない夢 - "Mirage" 4:42 3. ヒア・アンド・ナウ - "Here and Now" 3:01 4. シナモンの花 - "Flor de Canela" 2:20 5. 漁民の契 - "Promise of a Fisherman" 8:06 6. 不死蝶 - "Borboletta" 2:50
	SARAH VAUGHAN	サラ・ヴォーン・ウィズ・クリフォード・ブラウン		1955年	ジャズ	レコード	日本	Side A 1. バードランドの守歌 2. エイプリル・イン・パリ 3. ヒーズ・マイ・ガイ 4. ジム	Side B 1. ユー・アー・ノット・ザ・カインド 2. エンブレイサブル・ユ 3. アイム・グラッド・ゼア・イズ・ユー 4. セブテン・バー・ソング 5. イッツ・クレイジー 6. バードランドの守歌 ALT.TAKE
	SAXON	戦慄のバック・ファイア		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	Side A 1. レインボウ・テーマ 2. フロウズン・レインボウ 3. ビッグ・ティーザー 4. ジャッジメント・デイ Side B 1. スターオンズ・オブ・ザ・ハイウェイ 2. バックス・トゥ・ザ・ウォール 3. スティル・フィット・トゥ・プギー 4. ミリティア・ガード	79年作。ザ・グリンズの記念すべきデビュー・アルバム。NWOBHMの夜明けを感じさせる名盤として、アイアン・メイデンの1stと共に語り継がれるべきアルバムです。バイカーズ御用達バンドのイメージはここではまだなく、むしろドラマチックな様式美さえ感じさせるメロディ作りが印象的です。さらに70年代ハード・ロック勢とは明らかに違うスピード感、洗練されたキャッチーなリフがすでに個性となっています。大仰なジャケットが気になりますが、このバンドの場合、多くのメタル・バンドがテーマに掲げるホラー性や毒々しさは感じられず、ストリート感覚を大事にしていたのも重要だったと思います。邦題のセンスにちやっとと驚かされますが、メタルの夜明けを感じさせる力強い1枚です。

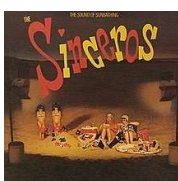
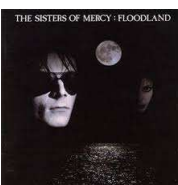
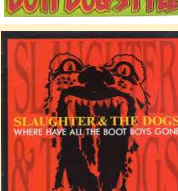
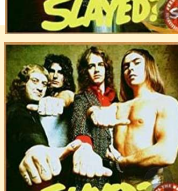
	SAXON	戦慄のバック・ファイア		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
	SAXON	暴走ドライヴイン(ホイールズ・オブ・スティール)		1980年5月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	80年作。サグソンのセカンド・アルバム。アイアン・メイデンが装束単だとしたら、彼等は確かにバイカーを先導する重量級モーターサイクルのイメージがありました。「Motorcycle Man」、「Machine Gun」、「Stand Up Be Counted」といったライブの定番曲ともなったシンプルなりフと、キャッチーな歌メロは、以降のサクソンの王道節ともなっていますが、その他にもZZ TOPやAC/DCを速くした様なハード・プギ感覚が心地良いものとなっています。彼等のもう一つの魅力と言えるメロディアスな側面は、「747 (Strangers In The Night)」でドラマティックな哀愁感を爆発させています。また彼等のキャリアでも珍しい程の可愛げのあるハード・ポップ・ナンバーとも言える「Suzie Hold On」では...早くから80年代メタルに影響を醸していると思われ...余計にでも無サクソンの絶頂を代表する1枚のサードアルバム。当時の勢いがそのままリフに反映されたかの様な疾走感、切れ味の鋭さが詰まった本作は、まさに80年という激動期の中であつたからこそ生まれた奇跡的なメタル・アルバムと言える。ファーストでは正統派とも言える英国様式美ハード・ロックからの影響も見えていたのですが、アルバムを重ねる毎にスピード、リフの切れ味が増し、王道サクソン節と言えるものがここで確立された。彼等の最高傑作として挙げられる事の多い4作目、「デニム・アンド・レザー」は確かなアンセム型ソングとしてのキャッチーさが優れていますが、サクソンがスピーディーなリフにドラマティックな歌メロを乗せる形を作ったのは、本作での「20000 FEET」や「DALLAS 1 PM」だ。		
	SAXON	ストロング・アーム・オブ・ザ・ロウ		1980年11月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	81年作。サグソンの4作目にして彼等の最高傑作ともされるアルバム。NWOBHMの疾走感と哀愁感溢れるメロディを堪能するなら絶好の1枚です。彼等の象徴とも言えるアルバム・タイトルと、バイカーに熱愛された歌詞が汗臭さと同時に、今聴くとなかなかりポップにも聴こえるリフがこれでもかと続いています。オープニング・ナンバーである「Princess Of The Night」ですでにクライマックスを迎え、中盤では「And The Bands Played On」では一気に男泣きをさせてくれます。ラストでは彼等の一大アンセムとなったアルバム・タイトル曲でカタルシスへと誘ってきます。		
	SAXON	デニム・アンド・レザー		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	82年リリース。サグソンの5作目にして初のライヴ・アルバムとなった1枚で、NWOBHMシーンを代表するヒット作の一つです。彼等の最高傑作とも言える81年作の「デニム・アンド・レザー」リリース後に伴うツアーからの収録で、バンドはまさに絶頂期、生粋のライヴ・バンドとしての勢いがそのままパッケージされています。バイカーを中心とした汗臭い男性ファンが多いバンドとして知られてきましたが、個人的には疾走する哀愁メロディ作りが上手い人達だったと思います。それだけにライヴ映えるアンセムのナンバーが多く、ベストと言える選曲も見事です。シンプルかつ愛想の無いジャケットですが、中身は濃厚な80年代メタルの空気感を漂わせるものとなっています。		
	SAXON	暴走ライヴ(鷹は舞い降りた)イーグル・ハズ・ランデッド		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	82年リリース。サグソンの6作目にして初のライヴ・アルバムとなった1枚で、NWOBHMシーンを代表するヒット作の一つです。彼等の最高傑作とも言える81年作の「デニム・アンド・レザー」リリース後に伴うツアーからの収録で、バンドはまさに絶頂期、生粋のライヴ・バンドとしての勢いがそのままパッケージされています。バイカーを中心とした汗臭い男性ファンが多いバンドとして知られてきましたが、個人的には疾走する哀愁メロディ作りが上手い人達だったと思います。それだけにライヴ映えるアンセムのナンバーが多く、ベストと言える選曲も見事です。シンプルかつ愛想の無いジャケットですが、中身は濃厚な80年代メタルの空気感を漂わせるものとなっています。		
	SCORPIONS	ロンサム・クロウ		1972年	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	幻のファースト・アルバム。マイケル・シェンカー在籍時唯一のオリジナル・ディスク。1965年にドイツのハノーヴァーで結成し1972年にリリースした記念すべきデヴィュー・アルバム。ルドルフ・シェンカーの美男、マイケル・シェンカーも在籍していた。しかしこのアルバム以降のスコビーオンズ・サウンドとは全かけ離れたスタイルを構築しており、このアルバムから次作への流れは全く読めないがロック・アルバムとしては実験的な要素が多いアルバムである。		
	SCORPIONS	電撃の蠍団		1972	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	オランダでは74年作「セカンド・アルバム」、前作が72年ぶりとは2作の間にマイケル・シェンカーの脱退によりバンドが解散状態になっていたため。ドイツ公演されたルドルフ・シェンカーとクラウド・マイネは、ウルリッヒ・ロート率いるドーン・ロードへ参加する形で合体。スコビーオンズの名が引き継がれる事で、全く新しいバンドとして生まれ変わり、以降の彼等の70年代を象徴する哀愁演歌型メタルが確立される。ルドルフとクラウドの共作によるナンバーはメタリックなエッジをすでに見せていて、前作の不思議な音楽性は全く無くなっています。マイケルの名前も3曲(「Fly People Fly」、「Far Away」、「Fly To The Rainbow」)にクレジットされていて、美しくも妖しいメロディ・メイカーのセンスを残しています。特にラストのアルバム・タイトル曲は10分弱に及ぶ壮大なバラードで、マイケルのイントロダクションに、ウルリッヒ・ロートがメロディを付けたと思われる異色曲となっている。		
	SCORPIONS	復讐の蠍団		1975	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	オリジナルは75年作、スコビーオンズのサード・アルバムにして、彼等の70年代の個性がはっきりと確立された重要作です。以降もずっと使用されるバンド・ロゴ、名コンビとなったプロデューサー、ディーター・ダークスとのタッグ、そして常に物議を醸すジャケット・デザインもここから始まっています。扇情的なジャケット・ワークに負けない刺激的なメロディは、静と動のコントラストの美しさを強調しながら、欧洲的な湿り気の中、官能的に爆発していく様は、特に日本でも愛されていました。ウルリッヒ・ロートの激情型ギターと、クラウド・マイネのカナキリ声が、壮絶なハード・ロックを展開しているのですが、やはり彼等特有の哀愁感、泣きのメロディが目立つ1枚です。		
	SCORPIONS	狂熱の蠍団		1976	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	4枚目のスタジオ・アルバム。1978年リリース。オリジナル・アートワークに使用された少女のヌード写真が問題視され、米国では発売当初から現行盤のアートワークへ差し替えとなっている。そのサウンドは発表以来30年余の時を経てでもなおハード・ロック・ファンの心を鷲掴みし続け、名盤の誉れ高い作品として知られている。ウルリッヒ・ロートのジミ・ヘンドリックス志向の最高潮を迎えた時期とも言われており、その泣きのギター・プレイが日本人の零線に触れる名作。オリジナルは78年作、スコビーオンズの通算4作目となったアルバムで、彼等の初期を代表する1枚です。ただジャケット同様、音の方もかなり衝撃的でした。それまでの湿ったハード・ロック・スタイルに更に哀愁メロディが加わり、むせび泣くウルリッヒ・ロートのギターと、ルドルフ・シェンカーのザクザクと斬りこんでくるリフは、ここ日本でも特に愛される事となりました。ラスト曲となる		
	SCORPIONS	暴虐の蠍団		1977	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	5枚目のスタジオ・アルバム。1977年にリリース。オリジナルのジャケットは、Michael von Gimbutが撮影した墓地で銃を向け合っている写真だったが、テロを連想させるとして欧米ではメンバーの写真へ差し替えられている。日本ではオリジナル・ジャケットで発売。ウルリッヒ・ロートが参加した最後のオリジナル・アルバム。ロートのブレには鬼気迫るものがあり「空を燃やせ」「カカロンの渡し守」「暴虐のハードロッカー」など聴きどころが満載。その充実振りによって前作『狂熱の蠍団』と並び称されるまでの傑作となった。		
	SC+B429:1431ORPIONS	ラヴドライヴ		1979	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	6枚目のスタジオ・アルバム。1979年にリリース。脱退したウリ・ジョン・ロートの後任として、本作からマティアス・ヤプスが加入[1]。当時、UFOを脱退していたルドルフの美男マイケル・シェンカーも「Another Peace Of Meat」など3曲にゲスト参加しており、本作のツアーにもゲストとして出演した。アルバムジャケットは、デザイナー集団「ヒプノシス」が担当している。なお、彼らの作品で初めて全英・全米のチャートにランクインしたのはこの作品が初である。		
	SCORPIONS	電獣〜アニマル・マグネティズム		1980	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	オランダでは80年作「スコビーオンズの通算5作目」で、72年ぶりとは2作の間にマイケル・シェンカーの脱退によりバンドが解散状態になっていたため。ドイツ公演されたルドルフ・シェンカーとクラウド・マイネは、ウルリッヒ・ロート率いるドーン・ロードへ参加する形で合体。スコビーオンズの名が引き継がれる事で、全く新しいバンドとして生まれ変わり、以降の彼等の70年代を象徴する哀愁演歌型メタルが確立される。ルドルフとクラウドの共作によるナンバーはメタリックなエッジをすでに見せていて、前作の不思議な音楽性は全く無くなっています。マイケルの名前も3曲(「Fly People Fly」、「Far Away」、「Fly To The Rainbow」)にクレジットされていて、美しくも妖しいメロディ・メイカーのセンスを残しています。特にラストのアルバム・タイトル曲は10分弱に及ぶ壮大なバラードで、マイケルのイントロダクションに、ウルリッヒ・ロートがメロディを付けたと思われる異色曲となっている。		
	SCORPIONS	蠍魔宮〜ブラックアウト		1982	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	オランダでは82年作「スコビーオンズの通算6作目」で、72年ぶりとは2作の間にマイケル・シェンカーの脱退によりバンドが解散状態になっていたため。ドイツ公演されたルドルフ・シェンカーとクラウド・マイネは、ウルリッヒ・ロート率いるドーン・ロードへ参加する形で合体。スコビーオンズの名が引き継がれる事で、全く新しいバンドとして生まれ変わり、以降の彼等の70年代を象徴する哀愁演歌型メタルが確立される。ルドルフとクラウドの共作によるナンバーはメタリックなエッジをすでに見せていて、前作の不思議な音楽性は全く無くなっています。マイケルの名前も3曲(「Fly People Fly」、「Far Away」、「Fly To The Rainbow」)にクレジットされていて、美しくも妖しいメロディ・メイカーのセンスを残しています。特にラストのアルバム・タイトル曲は10分弱に及ぶ壮大なバラードで、マイケルのイントロダクションに、ウルリッヒ・ロートがメロディを付けたと思われる異色曲となっている。		
	SCORPIONS	蠍団爆発!! スコーピオンズ・ライヴ		1978	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	オリジナルは85年リリース、2枚目のライヴ盤。78年リリースの「TOKYO TAPES」から、いよいよ世界的バンドへ昇華した姿の全貌がここで堪能できると言ってもいい。84年作の「禁断の刺青 LOVE AT FIRST STING」に伴う1年間に渡ったワールド・ツアーからの収録で、本作ではアメリカ、フランス、ドイツでの公演の音源が採用。ウルリッヒ・ロート脱退以降、すなわちマティアス・ヤプス加入後のポップ化したスコビーオンズのナンバーばかりとなり、「BLACKOUT 蠍魔宮」で大ブレイクした彼等の最も熱かった頃のショーとなり、圧倒的なメジャー感で彩られたものとなっている。騒りと色気たっぷりの哀愁ハード・ロックから、一気に洗練されたメタリック・ハード・ポップと言えるキャッチーな80年代メタルへと変貌していった背景には、マイケル・シェンカー、ウルリッヒ、そしてマティアスと続いたギタリストの存在も大きかったと思いますが、実はこのバンドの要はルドルフのカミソリ・リフであつた事がライブからも良く伝わってきます。		

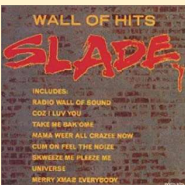
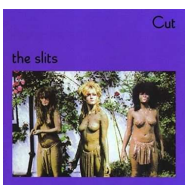
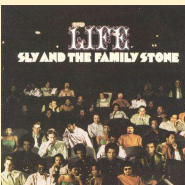
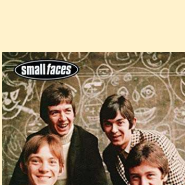
	SCORPIONS	蠍伝説〜スコールビ オンズ・ベスト			ハードロッ ク&ヘビー メタル	CD	日本	ドイツが生んだ究極の蠍軍団、スコピオンズの70年代から90年代へむけての彼等のベスト・アルバム。	1. ハリケーン 04:13 2. アイ・キャン・エキスプレイン 03:22 3. スティル・ラヴィング・ユー 06:27 4. ビッグ・シティ・ナイト 04:09 5. ラヴ・ドライブ 04:52	6. 免罪の日 06:47 7. ブラックアウト 03:50 8. リズム・オブ・ラヴ 03:49 9. 官能の夜 03:57 10. ユー・ギヴ・ミー・オール・アイ・ニード 03:40 11. ヘイ・ユー 04:29 12. ZOO (背徳の街角) 05:30
	SCRITTI POLITTI	ソングス・トゥ・リメン バー		1982	ニューウェ イフ	レコード	日本			
	SCRITTI POLITTI	キュービッド&サイケ 85		1985	ニューウェ イフ	レコード	UK			
	SCRITTI POLITTI	プロヴィジョン		1988	ニューウェ イフ	レコード	UK			
	SEARCHERS	ミート・ザ・サーチャー ズ		1963	ブリティッ シュビート	レコード	UK	63年、UKナンバワン・ヒット曲「SWEETS FOR MY SWEET」、翌年64年の「LOVE POTION NO. 9」を含むデビュー・アルバム。一連のブリティッシュ・ビート・バンドのなかでも、ポップで親しみやすいナンバーが多く、アメリカン・ポップス・ファンにも好んで聴かれたサーチャーズは、ヒット曲のほとんどが他人の書いた作品という特徴があった。このデビュー・アルバムに収録されたヒット・チューン「Sweets For My Sweet」「Love Potion No. 9」も、前者がドリフターズ、後者がクローヴァーズというR&Bグループがオリジナルだが、リヴァプール・サウンドならではの歯切れの良いビート・ポップ・ナンバーに料理。その爽快さが一番の魅力だろう。	Side A 1. SWEETS FOR MY SWEET 02. ALRIGHT 03. LOVE POTION NO 04. FARMER JOHN 05. STAND BY ME 06. MONEY Side B 07. DA DOO RON RON 08. AINT GONNA KISS YA 09. SINCE YOU BROKE MY HEART 10. TROUBLE MAKIN'	
	SEARCHERS	シュガー・アンド・スパ イス		1963	ブリティッ シュビート	レコード	日本	64年UK2位の彼らの地位を決定付けた「SUGAR AND SPICE」を含むセカンド・アルバム。全英2位の大ヒットとなった表題曲を含む彼らのセカンド作。R&R、R&Bの勢いあるカヴァーや軽快なビートに乗る洒脱なハーモニーなど、ビートルズらと並んでブリティッシュ・インヴェイジョンの一翼を担った彼らの若い魅力が刻まれている。フォーク曲などを取り上げているのも彼らの持ち味だ。	Side A 1. シュガー・アンド・スパイス 2. ドン・チャ・ノウ 3. サム・アザー・ガイ 4. ワン・オブ・ジーズ・デイズ 5. リッスン・トゥ・ミー 6. アンハッピー・ガールズ	Side B 1. エイント・ザット・ジャスト・ライク・ミー 2. オー・マイ・ラヴァー 3. セインツ・アンド・サーチャーズ 4. チェリー・ストーンズ 5. オール・マイ・ソロウズ 6. ハングリー・フォー・ラヴ
	SEARCHERS	イツ・ザ・サーチャー ズ		1964	ブリティッ シュビート	レコード	UK	サーチャーズのサード・アルバム(64年)で、2大ヒット「Needles And Pins」「Don't Throw Your Love Away」をフィーチャーした彼らの代表作である。カヴァーが売りだったグループらしく、ここでもベティ・エヴァレットの「It's In Her Kiss」やアーサー・アレキサンダーの「Where Have You Been」、ドリフターズの「I Count The Tears」といった好カヴァーが最大の聴きもの。	01. IT'S IN HER KISS 02. GLAD ALL OVER 03. SEA OF HEARTBREAK 04. LIVIN' LOVIN' WRECK 05. WHERE HAVE YOU BEEN 06. SHIMMY SHIMMY 07. NEEDLES AND PINS	08. THIS EMPTY PLACE 09. GONNA SEND YOU BACK TO GEORGIA 10. I COUNT THE TEARS 11. HI-HEEL SNEAKERS 12. CAN'T HELP FORGIVING YOU 13. SHOUT KNOW A LOT ABOUT LOVE 14. DON'T THROW YOUR LOVE AWAY
	SEARCHERS	サウンズ・ライク・サー チャーズ		1964	ブリティッ シュビート	レコード	日本	サーチャーズの通算4枚目にして最後のチャートイン・アルバムとなった作品(65年)。ジャッキー・デシャン作「Till You Say You'll Be Mine」、バート・バカラック&ハル・デイヴィッド作「Magic Potion」といった得意のカヴァー作品はあいかわらず快調な仕上がりが、今作ではメンバーであるクリス・カーティスのオリジナルも3曲収録されており、バンドの魅力をより深く知ることができる。	01. EVERYBODY COME AND CLAP YOUR HAND 02. IF I COULD FIND SOMEONE 03. MAGIC POTION 04. I DON'T WANT TO GO ON WITHOUT YOU 05. BUMBLE BEE	06. SOMETHING YOU GOT BABY 07. LET THE GOOD TIMES ROLL 08. A TEAR FELL 09. TILL YOU SAY YOU'LL BE MINE 10. YOU WANNA MAKE HER HAPPY 11. EVERYTHING YOU DO 12. GOODNIGHT BABY
	SELECTER			1980年	ニューウェ イフ	レコード	US	スカとパンクを融合させたサウンドで、英国で一大ムーヴメントを巻き起こした2トーン。そのムーヴメントを創り上げ、音楽シーンのみならずファッションやカルチャーの面でも大きな影響を与えたのが2 TONE RECORDSなのだが、その中でも、ザ・セレクターズやマッドネスとともにムーヴメントの代表的存在として高い人気を誇るバンドが、このザ・セレクターだ。白人と黒人の混合バンド(この人種混合のメンバー構成が、2 TONESの語源とも言われている)であるのと同時に男女混合というまさに人種や性別を超えたメンバー構成、そして真っ向からスカと向き合う、ストレートで痛快なスカ・ビートと痛烈なリリックで、ムーヴメントをより鮮明なものとした存在だと言えるだろう。ザ・セレクターは、70年代後半のスカ・リヴァイヴァルにおける重要なバンドであるだけでなく、当時のシーンにおいて人種や性別を超えた数少ないバンドの一つでもある。パンクとスカを融合した2 TONEムーヴメントの中でも、純粋なスカ・ビートをベースにした彼らは、紅一点のヴォーカリスト、ボーリオン・ブラックが書く性差別や人種差別、そして社会的問題に切り込んだ歌詞とそのやんちゃで痛快なビートで、一躍シーンを代表する存在となった。全英アルバム・	Side A 1. Three Minute Hero 2. Time Hard 3. They Make Me Mad 4. Missing Words 5. Danger 6. Street Feeling 7. My Collie (Not A Dog)	Side B 1. On My Radio 2. Too Much Pressure 3. Murder 4. Out On The Streets 5. Carry Go Bring Come 6. Black & Blue 7. James Bond
	The Sensational Alex Harvey Band	センセシヨナル		1974年	ロック	レコード	日本	1974年にリリースされたセンセシヨナル・アレックス・ハーヴェイ・バンドのセカンド・アルバム。ハード・ロック路線を基本としたが、ミュージカルなどにも出演していた中心人物ハーヴェイの多岐にわたる音楽的変遷を反映するかのよう、ブルースやブギ、ミュージカルなどの要素を取り入れ、ステージでは演劇的な要素を取り入れて、独自のスタイルを確立させた彼らの出世作ともいえるアルバムで、全英チャートで最高37位を記録。	Side A 1. スワンプスネイク 2. キャン・パン 3. フェイス・ヒーラー	Side B 1. ギィディ・アップ・ア・ディン・ドン 2. ネクスト 3. パンボー・マーブル・アイ 4. ラスト・オブ・ティーンエイジ・アイドル パート 1、2、3
	SEX PISTOLS	勝手にしやがれ		1977	パンク	レコード	日本	イギリスのパンクバンド、セックス・ピストルズ唯一のスタジオ・アルバム。1977年10月28日にヴァージン・レコードよりリリースされ、全英アルバムチャート1位を記録。アメリカではトップ100にも入らなかったが、発売から10年後の1987年にはゴールド・ディスクに輝くロングセラーとなった。本作のレコーディングは1977年春から夏にロンドンのウェセックス・スタジオにて断続的に行われた。プロデューサーのクリス・トーマス、ベーシストのグレン・マトロックは、「アナキー・イン・ザ・U.K.」「ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン」「プリティ・ウェイカント」(2番の2行分をロットンが作詞した以外は作詞も担当)など、半数以上の曲を1人で作曲したが、本作のレコーディング直前に脱退している。マトロックに代わって加入したシド・ヴィシャスの演奏技術が拙かったため、ベースはギタリストのスティヴ・ジョーンズが担当した。また、すでにシングルとして発売されていた「アナキー・イン・ザ・U.K.」のベースはマトロックによるもの。UKオリジナル盤(Virgin V2086)は全11曲入りで、特典としてシングル「サブミッション」が付加されていた。1977年11月以降にリリースされたUK盤には「サブミッション」がアルバム内に組み込まれ、曲順が若干変更されている。	Side A 1. さらばベルリンの陽 - Holidays in the Sun (3分20秒) 2. ライアー - Liar (2分41秒) 3. 分かってたまるか - No Feeling (2分49秒) 4. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン - God Save the Queen (3分19秒) 5. 怒りの日 - Problems (4分10秒)	Side B 1. セブentyーン - Seventeen (2分02秒) 2. アナーキー・イン・ザ・U.K. - Anarchy in the U.K. (3分32秒) 3. ボディーズ - Bodies (3分03秒) 4. プリティ・ウェイカント - Pretty Vacant (3分17秒) 5. ニューヨーク - New York (3分05秒) 6. 拝啓EMI殿 - E.M.I. (2分57秒)
	SEX PISTOLS	勝手にしやがれ		1978	パンク	レコード	UK		Side A 1. さらばベルリンの陽 - Holidays in the Sun (3分20秒) 2. ボディーズ - Bodies (3分03秒) 3. 分かってたまるか - No Feeling (2分49秒) 4. ライアー - Liar (2分41秒) 5. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン - God Save the Queen (3分19秒) 6. 怒りの日 - Problems (4分10秒)	Side B 1. セブentyーン - Seventeen (2分02秒) 2. アナーキー・イン・ザ・U.K. - Anarchy in the U.K. (3分32秒) 3. サブMISSION - Submission (4分10秒) 4. プリティ・ウェイカント - Pretty Vacant (3分17秒) 5. ニューヨーク - New York (3分05秒) 6. 拝啓EMI殿 - E.M.I. (2分57秒)
	SEX PISTOLS	栄光の伝説		1979	パンク	レコード	日本	映画『The Great Rock 'N' Roll Swindle』のサウンドトラックとして制作された企画アルバム。企画・準備段階でバンド自体が既に存在していなかった作品。幾つもの時代を超えたロックバンドは数知れず、セックスピストルズもバンドとしては短命に終わったが、ジョニー・ロットンという個性的なヴォーカリストの存在は大きい。ロックバンドが巨大なビジネスに翻弄されていく中で、ピストルズの存在はイギリスの音楽シーンに強烈なカウンター・パンチをくらわした恐れを知らないバンド。今回のアルバムはピストルズの歴史をチョイスしたアルバムで有り、当時のロックシーン、パンクロックの一時代を築いたバンドの姿であり音楽ファンにメッセージを届けたいという気持ちのこもったアルバム？	1ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン(スウィンドル交響曲) 2ジョニー・B・グッド"ロード・ランナー 3ピストルズ・ディスコ・モデル 4アナキー・イン・ザ・U.K. 5サブスティチュート 6ユー・リップ 7ステッピン・ストーン 8アナキー・イン・ザ・U.K.(シド・イン・パリ) 9ペルゼンの毒ガス室 PART1 10ペルゼンの毒ガス室 PART2	11シリ－シング 12マイ・ウェイ 13アイ・ワナ・ビー・ミー 14サムシング・エルス 15ロック・アラウンド・ザ・クロック 16ロンリー・ボーイ 17ゴッド・セイヴ・ザ・セックス・ピストルズ 18カモン・エブリバディ 19拝啓EMI殿(オーケストラ・ヴァージョン) 20グレイト・ロックン・ロール・スウィンドル 21フリッギン・イン・ザ・リッキン 22ユー・ニード・ハンズ 23誰がパンクを殺したか
	SEX PISTOLS	ゴッド・セイヴ・ザ・ピ ストルズ / マイ・ウェイ		1978年	パンク	レコード	日本	1978年リリース、ジョニー・ロットン、シド・ヴィシャス脱退後、元銀行強盗等を加入させ録音したシングル曲。B面はヴィシャスの「MY WAY」を収録。	Side A ゴッド・セイヴ・ザ・ピストルズ (セックス・ピストルズ&ドナルド・ビッグス)	Side B マイ・ウェイ(シド・ヴィシャス)

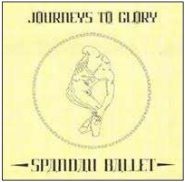
SEX PISTOLS	ザ・ベスト・オブ・セックス・ピストルズ		1992	パンク	CD	日本	「アナーキー・イン・ザ・UK」「拝啓EMI殿」「プリティ・ヴェイカント」他、全20曲収録のベスト・アルバム。	1. アナーキー・イン・ザ・UK 2. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン 3. プリティ・ヴェイカント 4. さらばベルリンの隅 5. アイ・ウオナ・ビー・ミー 6. ディド・ユー・ノー・ロング 7. ノー・ファン 8. サテライト 9. ノー・リップ 10. (アイム・ノット・ユア)ステッピング・ストーン	11. ボディーズ 12. 分かってたまるか 13. ライアー 14. 怒りの日 15. セブンティーン 16. サブミッション 17. ニューヨーク 18. 拝啓EMI殿 19. マイ・ウェイ 20. シリー・シング
SEX PISTOLS	勝手に来やがれ！！		1999	パンク	CD	日本	再結成後、ロンドンにて行われたライブの模様を収録した、'96年発表のアルバム。「ボディーズ」「セブンティーン」他、全17曲。	1. ボディーズ 2. セブンティーン 3. ニューヨーク 4. 分かってたまるか 5. ディド・ユー・ノー・ロング 6. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン 7. ライアー 8. サテライト	9. ステッピング・ストーン 10. さらばベルリンの隅 11. サブ・ミッション 12. プリティ・ベイカント 13. 拝啓EMI殿 14. アナーキー・イン・ザ・UK 15. 怒りの日 16. ノー・ファン 17. ボディーズ
SEX PISTOLS	ガン・コントロール		1979	パンク	レコード	ドイツ	1978年1月14日のピストルズの最終アメリカツアーで、サンフランシスコでの解散前のラストライブを収録した貴重なライブ音源。	Side A 1. God Save The Queen 2. I Wanna Be Me 3. Seventeen 4. New York 5. EMI 6. Belsen Was A Gas 7. Bodies 8. Holidays In The Sun	Side B 1. Liar 2. No Feelings 3. Problems 4. Pretty Vacant 5. Anarchy In The USA 6. No Fun
SEX GANG CHILDREN	ソング・アンド・リジェンド		1982	パンク	レコード	日本	オキダスのゴツゴツ・ゴツゴツ・バンド、セックス・ギャング・チルドレンのデビュー・スタジオ・アルバム。1983年にレコードレーベルIlluminatedからリリースされました。セックス・ギャング・チルドレンは、1982年初頭にイギリスのロンドンのブリクストンで結成された初期のゴシック・ロックとポスト・パンクのバンドです。オリジナル・グループは公式のスタジオ・アルバムを1枚しかリリースしていないが、彼らのシングルやその他の様々なトラックは数多くのコレクションにパッケージ化されており、初期のバットケイブ・シーンで最も有名なバンドの1つであり続けている。 ヴァージン・プリューズ、サザン・デス・カルト(後にカルトと改名し、ヘヴィ・メタ化)と並んでポジティブ・パンク。はやりすたれで消えてしまうには、もったいないバンド。なかでもこのセックス・ギャング・チルドレンは、もともとパンクをやっていた連中が退廃美や終末観、反近代、退化を独自に解釈しサウンドに反映し、あつちのこな感じが、面白く、いかにパンクなバンドか、目録をみただけで、いかに、	Side A 1. CRACK UP 2. GERMAN NUN 3. (CHANT) STATE OF MIND 4. SEBASTIANE 5. DRACONIAN DREAM 6. SHOUT AND SCREAM	Side B 1. KILLER K 2. CANNIBAL QUEEN 3. ABYSS 4. KILL MACHINE 5. SONG AND LEGEND 6. DREAM REPRISE
SHADOWS OF KNIGHT	ザ・ベスト・オブ・ザ・シャドウズ・オブ・ナイト ダーク・サイド		1994	ロック	CD	US	シカゴ生まれの若きアメリカン・ロック・バンド。60年代のガレージ・パンクの雄。中でも頭一つ抜き出た感のあるSHADOWS OF KNIGHTの1965～1971迄のベスト盤、収録曲、全20曲の大半は①GLORIAをはじめR&Bのカバーで特に⑥I GOT MY MOJO WORKING ⑦YOU CAN'T JUDGE A BOOK (BY THE COVER)等スタンダードな曲も彼らがプレイすると、とても勢いのあるロックへと早変わりする。例えば⑦はクラブトン在籍時のYARDBIRDSもプレイしていますが、YARDBIRDSと比べファズが効いていてとてもアグレッシブで勢いがあり、ガレージ・パンクの醍醐味を味わうことが出来ると思います。 名ガレージ・コンピPEBBLESでは当時ポテトチップスを買ったと貰えた5インチの珍しいカード・ボード・フレキシの音源も聴ける。	1Gloria 2Dark Side 3Oh Yeah 4Light Bulb Blues 5It Always Happens That Way 6I Got My Mojo Working 7You Can't Judge A Book (By The Cover) 8Bad Little Women 9Gospel Zone 10I'll Make You Sorry	11I'm Gonna Make You Mine 12Peepin' And Hidin' 13Willie Jean 14The Behemoth 15Someone Like Me 16Three For Love 17Shake 18My Fire Department Needs A Fireman 19Alone 20I Am The Hunter
SHAKATAK	ドライヴイン		1981年	フュージョン	レコード	日本	1981年発表の記念すべき幻のデビュー・アルバム。ナイト・バーズがファーストと思われがちだが、このアルバムが本来のファーストアルバムだ。このアルバムだけベースistが違うが、正確な一定なリズムのベースは他のアルバムとはちがう。曲づくりはアルバムタイトル通り、どの曲もナイトドライブに一番にあう曲ばかり。特に冒頭の「Livin' In The UK」と二曲目の「Into The Night」は第二作との連続性を感じられるご機嫌な曲。	Side A 1. LIVIN' IN THE U.K. 2. INTO THE NIGHT 3. TOOT THE SHOOT 4. LUMIERE 5. LATE NIGHT FLIGHT 6. WAVES	Side B 1. STEPPIN' (LIVE) 2. COVINA 3. YOU NEVER KNOW 4. BRAZILIAN DAWN
SHAKATAK	ナイト・バーズ		1982年8月	フュージョン	レコード	日本	日本での1stアルバム(本国では2ndアルバム)。プリティッシュファンクの雄、シャカタクの出世作。子気味よいリズムと耳に残るメロディ、聞き終わった跡に残るさわやかな涼風が良い。夜の鳥がもたらした清涼感はいつまでも不変だ。世界的ヒットの「ナイト・バーズ」「ストリート・ウォーキン」収録。一世を風靡したオシャレなフュージョン・バンドのセカンドアルバムですが、本アルバムはアメリカでは全く売れなかったとのこと。	Side A 1. ナイト・バーズ 2. ストリートウォーキン 3. リオ・ナイツ 4. フライ・ザ・ウインド	Side B 1. イージャー・セッド・ザン・ダーン 2. ビッチ・トゥ・ザ・ボーイズ 3. ライト・オン・マイ・ライフ 4. テイキン・オフ
SHAKATAK	インヴィテーション		1982年12月	フュージョン	レコード	日本	『Night Birds』で大ブレイクした楽団のフュージョン・グループがヒット作の直後に間髪を入れずリリースした3rdアルバム。『Night Birds』で魅せたクリスタル感はそのままだ。それでいて愁いを帯びたメロディラインが琴線に触れる。映画やドラマのエンディングテーマに使われそうな雰囲気のある曲。 前作と同様、バラエティに富んだ内容となっていて、真夏のリゾート地を思わせるゆったりとしたスウィング感とメロウなギター・サウンドが印象的な「Lose Myself」、女性ヴォーカル(トレシー・アッカーマン)をフィーチャーしたバラード「Lonely Afternoon」、メロウでスマートなジャズ・ファンク「Stranger」と佳曲が多い。「Invitations」とよく似た雰囲気「Steppin' Out」もいい。次作の『Out Of This World』では方向転換を図るシャカタク。こちらも内容的には非常に充実していたが、商業的には失速してしまう。それは『Out Of This World』のクオリティの問題ではなく、シャカタク＝お洒落なBGMとしかとらえていない一過性のファンが離れたことが原因だったと思われる。『Night Birds』や本作だけでなく他のアルバムも聴いて彼らの本当の魅力を知ってほしい。	Side A 1. インヴィテーション 2. ルーズ・マイセルフ 3. ロンリー・アフタヌーン 4. ステッピン・アウト	Side B 1. ストレンジャー 2. ユー・ジャール・シチュエーション 3. ソル・フエゴ 4. イン・シャドウズ
SHAKIN' PYRAMIDS	ロックン・ロール・クレイジー		1981	ロカビリー	レコード	UK	短命に終わったスコットランドのスキップル・ロカビリートリオ、シェイキン・ピラミッドのネオロカ創成期に衝撃デビューを飾った81年名盤!STアルバム!スキップルの要素も感じられるアコースティックなロカビリーサウンドが最高にかっこいい。名曲「Take A Trip」他、全14曲収録。	1. Take A Trip 2. Tennessee Rock 'N' Roll 3. Let's Go 4. Teenage Boogie 5. Tired 'N' Sleepy (Live) 6. Wild Little Willie	7. Cry Cry Kitten 8. Sixteen Chicks 9. Pretty Bad Blues 10. I Got A Baby (Live) 11. Sunset Of My Tears 12. Hellbent On Rockin'
SHAKIN' STEVENS			1980	ロカビリー	レコード	US	イギリスのロックンロールシンガーで80年代シングルを売りまくったSHAKIN' STEVENSの1981年作。ストリートなロックンロール～ロカビリーアルバム名盤。ALBERT LEE他参加	Side A 1.You Drive Me Crazy 2:40 2.This Ole House 2:58 3.Revenooer Man 2:45 4.Marie, Marie 2:44 5.Let Me Show You How 2:53 6.Shooting Gallery 3:11	Side B 1.Hot Dog 2:48 2.Shotgun Boogie 2:57 3.Baby You're A Child 2:45 4.Is A Blue Bird Blue 3:11 5.Hey Mae 2:30 6.Make It Right Tonight 2:59
SHAKIN' STEVENS	ドライヴ・ミー・クレイジー		1981	ロカビリー	レコード	日本			
SHAM69	テル・アス・ザ・トゥルース		1978	パンク	レコード	UK	ピストルズやクラッシュと並ぶロンドン・パンクの立役者、シャム69。英国労働者階級が生んだアナーキスト、ジミー・パーシー率いるロンドン・パンク・バンド、シャム69の1978年発表のファースト・アルバム。A面がライブ、B面がスタジオ録音の異色作だったが、バンドの勢いと当時の生々しさが伝わるライブは圧巻。ライブでの観客と一体化したシンガロング、贅肉をそぎおとしたロックンロールが耳を襲う。彼らのアルバムは間違いなくこのファーストアルバムが最高傑作!デビュー・シングル「I Don't Wanna」他、ボーナス・トラック7曲を含む全21曲を収録。	Live Side 1. ウィ・ガッタ・ア・ファイト 2. リップ・オフ 3. アルスター 4. ジョージ・デヴィス・イズ・イノセント 5. ゼイドント・アンダースタンド 6. ボースタル・ブレイクアウト!	Studio Side ファミリー・ライフ 1. ヘイ・リトル・リッチ・ボーイ 2. アイム・ア・マン、アイム・ア・ボーイ 3. ホワット・アバウト・ザ・ロンリー? 4. テル・アス・ザ・トゥルース 5. イッツ・ネヴァー・トゥ・レイト 6. フーズ・ジェネレーション
SHAM69	テル・アス・ザ・トゥルース		1978	パンク	レコード	US			
SHAM69	テル・アス・ザ・トゥルース		1978	パンク	CD	UK		以下、CDボーナス・トラック 14. ホワット・ハウ・ウィ・ガット? 15. ボースタル・ブレイクアウト	

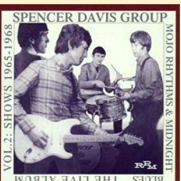
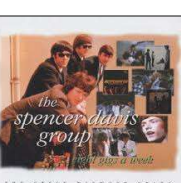
SHAM69	悪の挑発			パンク	レコード	日本	曲と曲の間のしゃべりは小芝居じゃなく、このTHAT'S LIFEは文字通り、ある1人のコックニー（ロンドン東部の典型的労働者階級）の朝起きたところからの1日の生活を題材にして曲が進んでいくようなアルバムのつくりになってます。	1リーヴ・ミー・アローン 2フー・ギヴス・ア・ダム 3エヴリバディーズ・ライト、エヴリバディーズ・ロング 4ザッツ・ライフ 5ウイン・オア・ルーズ 6ハリー・アップ・ハリー	7イーヴル・ウェイ 8レゲエ・ビック・アップ(パート1) 9サンディ・モーニング・ナイトメア 10レゲエ・ビック・アップ(パート2) 11エンジェルズ・ウィズ・ダーティ・フェイスズ 12イズ・ディス・ミー・オア・イズ・ディス・ユー?
SHAM69	ハーシャムボーイズ			パンク	レコード	UK		1マネー 2フライ・ダーク・エンジェル 3ジョーイズ・オン・ザ・ストリート 4コールド・ブルー・イン・ザ・ナイト 5ユーアー・ア・ベター・マン・ザン・アイ	6ハーシャム・ボーイズ 7ロスト・オン・ハイウェイ46 8ヴォイシズ 9クエスチョンズ・アンド・アンサーズ 10ホワット・ハヴ・ウィ・ガット?(ライヴ)
SHAM69	ザ・ゲーム			パンク	レコード	UK			
SHAM69	ハーシャムボーイズ+ザ・ゲーム			パンク	レコード	UK			
SHAM70	ベスト・オブ・シャム69			パンク	CD	日本		01BORSTAL BREAKOUT 02HEY LITTLE RICH BOY 03ANGELS WITH DIRTY FACES 04THE COCKNEY KIDS ARE INNOCENT 05IF THE KIDS ARE UNITED 06SUNDAY MORNING NIGHTMARE 07VOICES 08MONEY	09HURRY UP HURRY 10QUESTIONS AND ANSWES 11GIVE A DOG A BONE 12HERSHAM BOYS 13TELL THE CHILDREN 14UNITE AND WIN 15WHO GIVES A DAMN 16THAT'S LIFE
SHEENA EASTON	モダンガール		1981	ポップス	レコード	日本	1980年作品。シーナ・イーストンのデビュー・アルバム。大胆なショード・ガッツに、洗練されたファッションとサウンド。とにかく当時は、「新しい時代の新しい女性シンガー」という印象が強かった。イギリス最優秀新人女性ヴォーカリストに輝くシーナのファースト・アルバム。プロデューサーは、クリストファー・ニール。全英17位・全米24位。 デビューシングル「モダン・ガール」は、当初イギリスのチャートでは最高位56位と振るいませんでしたが、イギリスのBBCで、スター志望の女の子が歌手を目指すまでを追った番組のドキュメントでヒロインとして登場した番組が放送されると、再度チャートを上昇、最高位8位を記録しています。アメリカでは、「モーニング・トレイン (9 to 5)」がデビュー曲となり、全米1位を獲得。「モダン・ガール」は、セカンド・シングルとして、11位を記録。最高位18位のヒットとなった。	Side A 1:花束は贈らないで / DON'T SEND FLOWERS 2:クライ 3:ティク・マイ・タイム 4:眩しすぎる貴方 / WHEN HE SHINES 5:ワン・マン・ウーマン 6:愛のプリズナー / PRISONER 7:ムーディ・マイ・ラヴ	Side B 1:9 TO 5(モーニング・トレイン) 2:ソー・マッチ・イン・ラヴ 3:ラジオの囁き / VOICE ON THE RADIO 4:嵐の前の静寂 / CALM BEFORE THE STORM 5:モダン・ガール 6:一人だけの秘密 / NO ONE EVER KNOWS 7:夏の終りに / SUMMER'S OVER
SHEENA EASTON	涙のブロークン・ハート		1981	ポップス	レコード	US	1981年作品。シーナ・イーストンのセカンドアルバム「涙のブロークン・ハート」や「リトル・テンダネス」など前作のポップさを継承するナンバーもあるが、全体的にはぐっと大人っぽさを増したバラードナンバーの印象が強いアルバム。シングルカットされて全米ヒットしたタイトルナンバー「遠いさよなら(YOU COULD HAVE BEEN WITH ME)」や、アメリカ版に収録された「眩しすぎる貴方(WHEN HE SHINES)」を初め、ユーミンもお気に入りだったという「不思議な貴方(SAVOIR FAIR)」などのAORナンバーが目立ちます。後のシーナの選曲センスのよさはすでにこのアルバムで発揮されていて、レイフ・ヴァン・ホイ作の「I'M NOT WORTH THE HURT」やクリス・クリスチャン作の「TELEPHONE LINES」なども収録されていて、このアルバムの聴きどころとなっています。	Side A 1. A LITTLE TENDERNESS 2. YOU COULD HAVE BEEN WITH ME 3. JUST ANOTHER BROKEN HEART 4. I' M NOT WORTH THE HURT 5. SAVOIR FAIRE	Side B 1. A LETTER FROM JOEY 2. TELEPHONE LINE 3. JOHNNY 4. TROUBLE IN THE SHADOWS 5. WHEN HE SHINES
SHEILA E	グラマラス・ライフ		1984年	ポップス	レコード	US	プリンス・ファミリーから、'84年発表のデビュー・アルバム。アルバムは演劇仕立てのようになっていて参加メンバーは『キャスト』扱いになっている。ディレクターがSheila E.とプリンス・ファミリーのプロデュース・チームであるThe Starr☆ Company、[Written By]が1曲共作で残り全てを彼女自身が書いている。派手な容姿ばかりが目立ってしまうが5才からコンガを叩き始め、15才では音楽の学士を3つ取得済みという早熟な才能は本作から充分確認出来る。	Side A 1. ル・オブ・セント・マーク 2. ショートベリー・ストローケーキ 3. 真昼のランデブー	Side B 1. リバーズ・ハウス 2. カラーの口紅めぐっておいで 3. グラマラス・ライフ 4. グラマラス・ライフ
SHOES			1979	ニューウェイブ	レコード	US			
SHIRTS	シャツ		1978	ニューウェイブ	レコード	UK			
Sid Vicious	シド・シングス		1979年	パンク	レコード	日本	セックス・ピストルズのシド・ヴィンシャスの唯一のソロ・アルバム。1979年リリース作品。没後の79年にリリースされた色んなライブ音源を集めた作品。「Belsen Was a Gas」、を除く曲はすべてカバー曲。ジョニー・サンダーズやストゥージズのカバーを中心に収録。シドはBASSを弾かずヴォーカルに専念。嵐のauのCMにも起用された「マイ・ウェイ」も収録。ライブ盤のため、当時のシドのイカレぐらいが伝わってくる名盤。 ジョニー・サンダーズ&ザ・ハートブレイカーズの「Born to Lose」、 「Chatterbox」、ザ・ストゥージズの「I Wanna Be Your Dog」、「Search And Destroy」、フランクシナトラの名曲「My Way」、エディ・コ克蘭の代表曲「Something Else」等。おすすめ代表曲は「My Way」。	Side A 1. ボーン・トゥ・ルーズ 2. アイ・ワナ・ビー・ユア・ドッグ 3. テイク・ア・チャンス・オン・ミー 4. ステッピング・ストーン 5. マイ・ウェイ	Side B 1. ベルゼンの毒ガス室 2. サムシング・エルス 3. チャーターボックス 4. サーチ・アンド・デストロイ 5. チャイニーズ・ロック 6. シド・シングス・アイ・キルド・ザ・キャット
SIGUE SIGUE SPUTNIK	ラヴ・ミサイル		1986年	ニューウェーブ	レコード	UK	ジグジグ・スパトニックの本邦デビュー12"EPにして代表曲。ジョルジオ・モロダー・プロデュース。元ジェネレーションXのトニー・ジェームスを中心に1982年結成。レコード会社との契約金が破格の15億円が話題を呼び、近未来的なファッションでシーンに躍り出た彼らは、このデビュー・シングル"LOVE MISSILE F1-11"で大ヒットします。	Side A Love Missile F1-11	Side B Hack Attack
SILVERHEAD	恐るべきシルヴァーヘッド		1972	グラムロック	レコード	ドイツ	72年作。シルヴァーヘッドのデビューアルバム。本国イギリスではほとんど評価されずに終わってしまったバンドですが、ここ日本ではかなりの人気バンドとして知られていた存在。ヴォーカリストのマイケル・デ・パレスの派手なヴィジュアルのせいもあり、グラム・バンドとして紹介もされていた様ですが、サウンドは正統派ハード・ロックと言えるものです。 ニューヨーク・ドールズとも比較されたルーズなノリ、いわゆるスリージーなバンドという見方もできそうですが、バッド・カンパニーにも通じるキャッチーなハード・ロックと表現した方が正確かもしれません。		
SILVERHEAD	恐るべきシルヴァーヘッド		1972	グラムロック	CD	日本	ただデ・パレスのヴォーカルはワイルドな質感が売りで、当時のストーンズの南部奥から影響を受けたバラード・タイプのナンバーでも男臭い魅力を放っています。考えてみれば一時期のデヴィッド・ボウイもこうしたロックのアプローチをしていた事もあり、このバンドもグラムとして扱われていたのは無理もないのだと思われます。ストーンズ、バッド・カンパニー、ボウイといったキーワードと、見栄えのいいヴィジュアル、そして日本人にもわかりやすいロックの心地良さと妖しさを体現したメロディ、そうした要素がここ日本で大きな支持を得たという事なのかもしれません。		

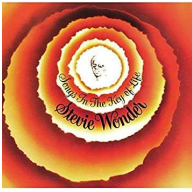
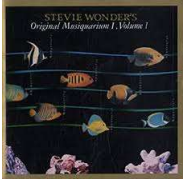
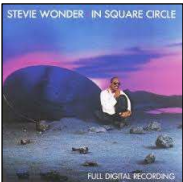
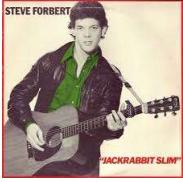
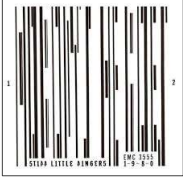
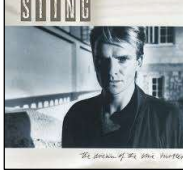
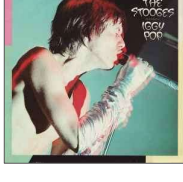
	SILVERHEAD	凶暴の美学		1973	グラムロック	レコード	日本	73年作、シルヴァーヘッドのセカンドにしてラストとなったアルバムです。本国イギリスではB級バンドの域を抜けられなかった感はありませんが、日本ではかなりの人気を博し、日本独自企画でライブ盤もリリースされた程でした。グラム・ロックとして認知された派手なヴィジュアルでしたが、その実音の方は正統派プリティッシュ・ハードと言えるガッツ溢れるサウンドが魅力的です。ストーンズとツェッペリンの中道を行く様な土臭いハード・ロックは、彼等の後に大ヒットを飛ばすバッド・カンパニーにも通じるものがありますが、より難雑さの強いシルヴァーヘッドは同時代のニューヨーク・ドールズにも近いイメージなのかもしれません。後に元YESのトニー・ケイを中心に結成されるディテクティブ、80年代にはロバート・バーマーの後任としてパワー・ステーションに参加した事でも有名なマイケル・デ・バレスのソウルフルなヴォーカル、ロバート・プラントのソロ活動初期を支えたロビー・プラントのねちっこいギター、ブロンディのベーシストとして一時代を築いたナイジェル・ハリスンのソング・ライティング・センス等、ユニークな個性のぶつかり合いがそのままバンド・サウンドに反映されています。元キング・クリムゾンにしてフォリナー参加前のイアン・マクドナ		
	SILVIE VARTAN	シルヴィ・バルタン・ベスト		1998	ポップス	CD	日本	元祖イエ・イエ・ガール、シルヴィ・バルタンの大ヒット曲「アイドルを探せ」「あなたのとりこ」を含むベスト盤。	1アイドルを探せ 2悲しきスクリーン 3いつでもあなたを 4わたしを愛して 5ジョニーはどこに 6しあわせの2分35秒 7あなたのとりこ 8男の子のように 9ズン・ズン・ズン 10想い出のマリツツア	11悲しみの兵士 12愛のかたち 13アブラカタブラ 14恋人を探せ 15哀しみのシンフォニー 16悲しきジプシー 17悲しき雨音 18いとしき若者(デルタの夜明け) 19ディスコ・クイーン(愛しのジョニー) 20愛はジャンの香り
	Simon & Garfunkel	サウンド・オブ・サイレンス		1966	ポップス	レコード	US	1966年1月に発表したセカンド・アルバム。この頃のサイモン&ガーファングルは事実上活動を停止しており、ポール・サイモンはイギリスでソロ活動をしていった。しかし、トム・ウィルソンのアイデアでバンド編成のオーバー・ダビングがなされた「サウンド・オブ・サイレンス」のシングル・ヴァージョンが大ヒットすると、ポールはアメリカに帰国し、アート・ガーファングルも合流して活動を再開。突然のアルバム制作だったためオリジナルの新曲は「プレスト」「リチャード・コリー」「早く家へ帰りたい」の3曲のみで、ポールが8月に発表したソロ・アルバム『ポール・サイモン・ソングブック』収録曲のセルフ・カヴァーや、2曲のカヴァー曲も録音された。そのうち、ジャクソン・0・フランクのカヴァー「ブルース・ラン・ザ・ゲーム」は収録が見送られ、「早く家へ帰りたい」はシングルとして発表されることになり、「雨に負けぬ花」は次のアルバム『バセリ・セージ・ローズ・マリー・アンド・タイム』(1966年)に持ち越された。最終的には「サウンド・オブ・サイレンス」のシングル・ヴァージョンや4月に録音された2曲も含む11曲入りのアルバムとして、1966年に発表された。アメリカでは最高21位、全英チャートで13位に達した。	Side 1 1. サウンド・オブ・サイレンス - 3:08 2. 木の葉は緑 - "Leaves That Are Green" - 2:23 3. プレスト - 3:16 4. キャシーの歌 - "Kathy's Song" - 3:21 5. どこにもいないよ - "Somewhere They Can't Find Me" - 2:37 6. アンジー - 2:17	Side 2 1. リチャード・コリー - 2:57 2. とても変わった人 - "A Most Peculiar Man" - 2:34 3. 4月になれば彼女は - "April Come She Will" - 1:51 4. はりきってゆこう - "We've Got a Groovy Thing Goin'" - 2:00 5. アイ・アム・ア・ロック - 2:50
	Simon & Garfunkel	サウンド・オブ・サイレンス		1966年1月17日	ポップス	CD	日本			
	Simon & Garfunkel	バセリ・セージ・ローズ・マリー・アンド・タイム		1966年10月24日	ポップス	レコード	US	1966年10月に発表したサード・アルバム。アルバム・タイトルはイギリス民謡「スカボロー・フェア」の歌詞の一節から取られており、本作の1曲目に収録された「スカボロー・フェア/詠唱」は、「スカボロー・フェア」にポール・サイモンがソロ・アルバム『ポール・サイモン・ソングブック』(1965年)で発表した自作曲「ザ・サイド・オブ・ア・ヒル」の一部を織り込んだもの。「パターン」「雨に負けぬ歌」「簡単に散漫な演説」の3曲は、『ポール・サイモン・ソングブック』収録曲のセルフ・カヴァー。「7時のニュース/きよしこの夜」では、ニュースを読み上げるDJの音がオーバーダビングされており、公民権法の法案、レニー・ブルースの計報、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアのデモ行進の予定、リチャード・スベックの公判、ベトナム戦争の反対運動について言及されている。本作は全米4位に達し、サイモン&ガーファングルのアルバムとしては初めて全米チャートのトップ10入りを果たした。全英では13位。	Side A 1. スカボロー・フェア/詠唱 - 3:10 2. パターン - 2:45 3. クラウディ - 2:21 4. 早く家へ帰りたい - "Homeward Bound" - 2:29 5. プレジャー・マシーン - 2:44 6. 59番街橋の歌 (フィーリン・グルーヴィー) - 1:54	Side 2 1. 夢の中の世界 - "The Dangling Conversation" - 2:37 2. 雨に負けぬ花 - "Flowers Never Bend with the Rainfall" - 2:10 3. 簡単に散漫な演説 - "A Simple Desultory Philippi" - 2:19 4. エミリー・エミリー - 2:04 5. 地下鉄の壁の詩 - "A Poem on the Underground Wall" - 1:53 6. 7時のニュース/きよしこの夜 - "7 O'Clock News/Silent Night" - 2:01
	Simon & Garfunkel	バセリ・セージ・ローズ・マリー・アンド・タイム		1966年10月24日	ポップス	CD	日本			
	Simon & Garfunkel	卒業(映画「卒業」のオリジナル・サウンド・トラック)		1968年2月	ポップス	レコード	日本	ダスティン・ホフマン主演の映画『卒業』のオリジナル・サウンドトラック盤。この映画のために書かれた「MRS. ROBINSON」をはじめ、「THE SOUND OF SILENCE」、「SCARBOROUGH FAIR」等S&Gのヒット曲を収録している。DAVE GRUSINが作曲したインストルメンタル曲の数々も印象的。当初、『卒業』の監督であるマイク・ニコルズがポール・サイモンにサウンドトラックの制作を依頼したが、サイモンは新曲の「バンキーのジレンマ」「オーバース」を提供しようとしたが、ニコルズはその2曲を却下して、サイモン&ガーファングルが既に発表していた「サウンド・オブ・サイレンス」「スカボロー・フェア/詠唱」4月になれば彼女は」「プレジャー・マシーン」が映像に合っていると判断した。そして、ニコルズはサイモンにさらなる新曲を依頼するが、サイモンは多忙のため、約束していた3曲の新曲を間に合わせることはできず、ツアー中に作った新曲「ミセス・ロビンソン」を提供するにとどまった。この「ミセス・ロビンソン」は、当初の歌詞では「ミセル・ルースベルト」だったが、ガーファングルの提案により、『卒業』の登場人物であるミセス・ロビンソンの名前を入れることになった。このアルバ	Side A 1. The Sound of Silence 2. The Singleman Party Foxtrot 3. Mrs. Robinson (Instrumental) 4. Sunporch Cha-Cha-Cha 5. スカボロー・フェア Scarborough Fair / Canticle (Interlude) 6. On the Strip 7. 4月になれば彼女は April Come She Will 8. The Folks	Side B 1. スカボロー・フェア Scarborough Fair / Canticle 2. A Great Effect 3. プレジャー・マシーン The Big Bright Green Pleasure Machine 4. 驚き Whew 5. Mrs. Robinson (Reprise) 6. The Sound of Silence
	Simon & Garfunkel	ブックエンド		1968年4月3日	ポップス	CD	日本	サイモン&ガーファングルが1968年に発表した5枚目のアルバム。アルバム前半(LPのA面)の7曲は、アメリカの現実をテーマとした組曲となっており、「ブックエンドのテーマ」のインストルメンタル・ヴァージョンと歌入りのヴァージョンに挟まれる形となっている。このような構成にした理由の一つに、「3分というスナゲーが1曲に集中できる時間を引き延ばせるようにしたい」というポール・サイモンの思惑があったようである。後半(B面)のうち「冬の散歩道」「動物園にて」「フェイクン・イット」は既発のシングル曲。「ミセス・ロビンソン」は、映画『卒業』(監督:マイク・ニコルズ)のサウンドトラック・アルバムに初収録され、本作にも1968年2月に録音された新ヴァージョンが収録された。同曲は、本アルバムと同時期にシングルとしてリリースされ、サイモン&ガーファングルにとって2作目の全米1位獲得シングルとなった。なお、サイモン&ガーファングルが『卒業』のサウンドトラックを依頼された際、最初に提供しようとしたのは「オーバース」と「バンキーのジレンマ」だったが、マイク・ニコルズの判断により、これら2曲は使用されなかった。本作は、サイモン&ガーファングルが1970年に発表したアルバム。通算5作目のスタジオ・アルバム。グラミー賞最優秀アルバム賞を受賞。本作を最後に、サイモン&ガーファングルは事実上解散する。アルバムは、1969年前半に全米7位のシングル・ヒットとなっていた「ボクサー」、ロス・インカスの演奏に歌をつけた「コンドルは飛んで行く」、ライブ録音によるエヴァリー・ブラザーズのカヴァー「バイ・バイ・ラブ」も含む11曲入りとなり、当時のアウトテイクのうち、「木の葉は落ちて」のデモ・ヴァージョンは、2001年に本作がリマスターされた際にボーナス・トラックとして収録された。1970年1月に本作がリリースされると、多くの国のヒット・チャートで1位を獲得。本国アメリカでは、10週に渡って1位となった。イギリスでは初登場時から13週連続で1位を獲得し、その後も何度も繰り返し、通算33週に渡って1位を獲得するほどの大ヒットとなった。日本でも、翌1971年2月1日から7週連続で、オリコンLPチャートの1位となった。また、シングル「明日に架ける橋」も全米・全	1ブックエンドのテーマ(インストルメンタル) 2わが子の命を救いたまえ 3アメリカ 4オーバース 5老人の会話 6旧友 7ブックエンドのテーマ 8フェイクン・イット 9バンキーのジレンマ	10ミセス・ロビンソン(映画『卒業』より) 11冬の散歩道 12動物園にて 13君の可愛い嘘(ボーナス・トラック) 14旧友(デモ)(未発表別テイク)(ボーナス・トラック) 15
	Simon & Garfunkel	明日に架ける橋		1970年1月26日	ポップス	CD	日本	サイモン&ガーファングルが1970年に発表したアルバム。通算5作目のスタジオ・アルバム。グラミー賞最優秀アルバム賞を受賞。本作を最後に、サイモン&ガーファングルは事実上解散する。アルバムは、1969年前半に全米7位のシングル・ヒットとなっていた「ボクサー」、ロス・インカスの演奏に歌をつけた「コンドルは飛んで行く」、ライブ録音によるエヴァリー・ブラザーズのカヴァー「バイ・バイ・ラブ」も含む11曲入りとなり、当時のアウトテイクのうち、「木の葉は落ちて」のデモ・ヴァージョンは、2001年に本作がリマスターされた際にボーナス・トラックとして収録された。1970年1月に本作がリリースされると、多くの国のヒット・チャートで1位を獲得。本国アメリカでは、10週に渡って1位となった。イギリスでは初登場時から13週連続で1位を獲得し、その後も何度も繰り返し、通算33週に渡って1位を獲得するほどの大ヒットとなった。日本でも、翌1971年2月1日から7週連続で、オリコンLPチャートの1位となった。また、シングル「明日に架ける橋」も全米・全	Side 1 明日に架ける橋 - "Bridge Over Troubled Water" - 4:52 コンドルは飛んで行く - "El Condor Pasa" (Daniel Alomía Robles) - 3:06 ポール・サイモンがオリジナルの英語詞を作詞 いとしのセシリア - "Cecilia" - 2:55 キープ・ザ・カスタマー・サティスファイド(ご機嫌いかが?) - "Keep the Customer Satisfied" - 2:33 フランク・ロイド・ライトに捧げる歌 - "So Long, Frank Lloyd Wright" - 3:41	Side 2 ボクサー - "The Boxer" - 5:08 ベイビー・ドライバー - "Baby Driver" - 3:14 ニューヨークの少年 - "The Only Living Boy in New York" - 3:58 手紙が欲しい - "Why Don't You Write Me" - 2:45 バイ・バイ・ラブ - "Bye Bye Love" (Felice Bryant, Boudleaux Bryant) - 2:55 ソング・フォー・ジ・アスキング - "Song for the Asking" - 1:49
	Simon & Garfunkel	GRAN PEIX 20 サイモン&ガーファングル		1905年5月29日	ポップス	レコード	日本		★SIDE 1★ 01. The Sounds Of Silence 02. Old Friends 03. Cecilia 04. Mrs Robinson 05. Scarborough Fair / Canticle 06. Leaves that are Green 07. A Hazy Shade Of Winter 08. The Boxer 09. April come She Will 10. So Long, Frank Lloyd Wright	★SIDE 2★ 01. BRidge Over Troubled Water 02. The 59th Street Bridge Song 03. For Emily wherever I May Find Her 04. El Condor Pasa 05. I Am A Rock 06. Fakin' It 07. America 08. Kathy's Song 09. Homeward Bound 10. Bye Bye Love
	SIMPLE MINDS	スパークル・イン・ザ・レイン		1984	ニューウェーブ	レコード	日本			
	SIMPLY RED	ピクチャー・ブック		1985		レコード	UK			
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	香港庭園(ホンコン・ガーデン)		1978	パンク	レコード	UK	78年作、パンク・ニュー・ウェイヴ勢の中でも、より一層実彩を放っていたスージー&ザ・バンシーズの記念すべきデビューアルバム。スージー&ザ・バンシーズの結成時のメンバーは、ヴォーカルのスージーを中心にセックス・ピストルの親衛隊だった若者たちで構成されていた。初期メンバーにはドラムスとしてセックス・ピストルズのシド・ヴィシャスが加入していた。Aメロだけをひたすら繰り返し間奏もギターソロはなし、なのにちっとも退屈しないスピード感と躍動感に満ち溢れている。特に初期のみ参加していたギタリストのジョン・マッケイ(マクガフではなく)のキレのいい勢いのあるカッティング奏法がアルバム全体を盛り上げている。ビートルズの『ヘルター・スケルター』をカバーしている。リズムに変拍子を使い、音楽理論を無視したコード進行をしながらも『カーカス』の『ニコチン中毒』(この邦題?)なるものの印象はかなり残っている。	Side A 1. ビュアー Pure 2. ジグソウ・フィーリング Jigsaw Feeling 3. オーヴァーグラウンド Overground 4. カカス Carcass 5. ヘルター・スケルター(あわてふためいて) Helter Skelter	Side B 1. ミラーージュ Mirage 2. メタル・ポストカード Metal Postcard (Mittageisen) 3. ニコチン中毒 Nicotine Stain 4. サバーバン・リラップス Suburban Relapse 5. スウィッチ Switch

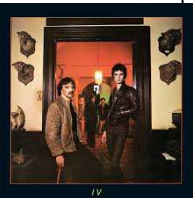
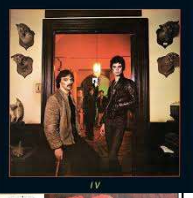
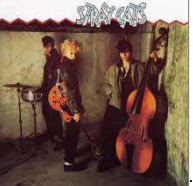
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	香港庭園 (ホンコンガーデン)			パンク	レコード	US			
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	香港庭園 (ホンコンガーデン)			パンク	レコード	日本			
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	ジョイン・ハンズ			パンク	レコード	UK			
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	ジョイン・ハンズ			パンク	レコード	日本			
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	カレイドスコープ			パンク	レコード	日本			
	SINCEROS	サウンド・オブ・サンバ			ニューウェーブ	レコード	US			
	SISTERS OF MERCY			1978	ニューウェーブ	レコード	UK?	英国ゴス・ポシパン・シーン2の代表格、ジズターズ・オブ・マーシー。ポスト・パンクの嵐が吹き荒れる1980年代初めのリーズで生まれた彼らは1985年、ワナーからのメジャー・デビュー・アルバムとなる『FIRST AND LAST ALWAYS (マーシーの合言葉)』でシーンに衝撃を与えたものの、アンドリュー・エルドリッチ以外のメンバーが脱退してしまふ。1985年に一旦解散を宣言したジズターズ・オブ・マーシーだが、やがてアンドリュー・エルドリッチは元ガン・クラブのバトリシア・モリスンをメンバーに迎え、バンドを再結成し、1987年11月にセカンドアルバム『FLOODLAND』をリリース。耽美性を深めた歌声とドラマ性を高めた楽曲が並ぶ。のプロデューサーは、ミートローフ等で知られるジム・スタインマンも名を連ねている。全英アルバム・チャートのTOP10入りを果たした本作は、ゴールド・ディスクを獲得。また「This Corrosion」(全英7位)、「Dominion」(全英13位)、「Lacertaria」(全英20位)のヒット・シングルも生まれてい		
	SKAFISH	スカフィッシュ		1980	ニューウェーブ	レコード	US	1976年2月にシカゴでパンクでオルタナティブ、インディーズゴッドファーザーと言われている。このアルバムは1980年2月に発売。		
	SKIDS	恐怖のダンス		1979	ニューウェーブ	レコード	UK	スチュアート・アダムソンが中心となって1977年に結成されたイギリスのパンクロックバンド、ザ・スキッズのデビューアルバム。当時のイギリスでは高い人気があったが、日本ではあまり知名度は高くなかった彼らだが、2006年にU2やグリーン・デイが楽曲をカバーしたことにより世界的に再注目を集めた。「The Saints Are Coming」や「Sweet Suburbia」、「Into The Valley」といったヒットシングルを含むUKチャート10週連続ランクイン		
	SKIDS	恐怖のダンス		1979	ニューウェーブ	レコード	UK			
	SKIDS			1980	ニューウェーブ	レコード	UK			
	SLAUGHTER & THE DOGS	ドゥ・イット・ドッグ・スタイル		1978	パンク	レコード	UK	マンチェスターの狂犬、チンピラ・パンク・バンドとして悪名高いスローター&ザ・ドッグスのデビュー・アルバム。代表曲“ホエア・ハウ・オール・ザ・ブート・ボーイズ・ゴーン”を筆頭に、後にGBHがカバー知られる“ボストン・ベイビーズ”などクラシック・ナンバーがズラリ。ミック・ロンソンがゲスト参加したKASENETZ-KATZ SINGING ORCHESTRAL CIRCUSのカヴァー“クイック・ジョーイ・スモール”、ニューヨーク・ドールズの“フー・アー・ザ・ミステリー・ガールズ”などのカヴァーも聴きどころ。	Side A 1. WHERE HAVE ALL THE BOOT BOYS GONE? 2. VICTIMS OF THE VAMPIRE 3. BOSTON BABIES 4. I'M WAITING FOR THE MAN 5. I'M MAD 6. QUICK JOEY SMALL 7. JOHNNY T	Side B 1. YOU'RE A BORE 2. KEEP ON TRYING 3. WE DON'T CARE 4. SINCE YOU WENT AWAY 5. WHO ARE THE MYSTERY GIRLS 6. DAME TO BLAME 7. COME ON BACK
	SLAUGHTER & THE DOGS	狂犬ライヴ		1978年&1982年	パンク	CD	日本	スローター・アンド・ザ・ドッグスのライヴアルバム79年発売の『ラビッド・ドッグス』と82年発売の『ライヴ・アット・ザ・ファクトリー』をカップリングした2in1。ビッグ・ネームではなかったものの、スティッフ・リトル・フィンガーズと人気を二分する正統派ロックよりのパンク・バンドだった。ワイルド&ラウドが魅力。	【RABID DOGS】 1. おまえにうんざり 2. ミステリー・ガールズ 3. ジョニー・T 4. ブート・ボーイズはどこへ行った 5. ウィドント・ケア 6. ウエイティング・フォー・ザ・マン 7. 吸血鬼のいけにえ 8. ボストン・ベイビーズ 9. アイム・マッド 10. ウィドント・ケア	【LIVE AT THE FACTORY】 11. ナウ・アイ・ノウ 12. ビッチ 13. 地獄のニューヨーク 14. ランナウェイ 15. ミステリー・ガールズ 16. ホワッツ・ロング・ボーイ? 17. ユー・ア・レディ・ナウ 18. ジョニー・T 19. ボストン・ベイビーズ 20. オール・オーバー・ナウ
	SLAYED	スレイド?		1972	グラムロック	レコード	UK	1970年代のイギリスでヒット・チャートを席巻したイギリスの愛すべき“国民的グラム・ロック・バンド”。スレイドの4thアルバム『SLAYED?』は全英No.1の大ヒットとなった。グラムロック全盛期の中1972年にリリースしたロックンロールをベースにハードでポップ&キャッチーなナンバーが多数収録されたスレイドの中でも傑出した1枚。1966年ウルヴァーハンプトンで結成されて以来、1992年に活動を休止するまでの約30年に亘り、イギリスの音楽シーンで活躍してきたスレイド。1970年にはグラム・ロック・ムーヴメントの勢いに乗り、その単純明快で豪快、そしてポップなメロディーのサウンドと奇抜なグラム・ファッションで次々とヒットを全英チャートに送り込み、当時のヨーロッパで最もビッグなバンドの一つとして大きなインパクトを与えた。70年代全英No.1アルバムを3作世に送り出しただけでなく、1971年から1976年までシングルを17曲連続全英TOP20に送り込むなど、その勢いはとどまることを知らず、“グラム世代のサウンドトラック”として圧倒的な人気を誇った。そんな彼らが1972年11月にリリースしたサード・スタジオ・アルバム『SLAYED?』。全英アルバム・チャートで初登場1位を獲得し、34週もの間チャートにとどまることになるこの大ヒット・アルバムからは、後にクワイエット・ライオットがカバーし、リヴァイバル・ヒットとなった「Mama Weer All Crazees Now」を始め、「グッバイ・ジェーン」やジャニス・ジョプリンの有名曲「ムーブ・オーバー」のカヴァーも収録した聞きごたえ十分な力作。	Side A 1. ハウ・ドゥ・ユー・ライド 3:11 2. 世界は狂ってる Written-By - Holder* 3:36 3. ラスト・ナイト 3:06 4. ハブン・アゲイン 3:16 5. ムーヴ・オーバー 3:45	Side B 1. グッバイ・ジェーン 3:32 2. グッバイ・グッバイ 3:28 3. クレイジー・ママ 3:45 4. アイドント・マインド 3:06 5. レッド・ザ・グッド・タイムス・ロール 3:46
	SLAYED	スレイド?		1972	グラムロック	CD	日本	01. How D'You Ride 02. The Whole World's Goin' Crazee 03. Look at Last Nite 04. I Won't Let It Appen Agen 05. Move Over 06. Gudbuy T'Jane 07. Gudbuy Gudbuy 08. Mama Weer All Crazees Now 09. I Don't Mind 10. Let the Good Times Roll / Feel so Fine		

	SLAYED	スレイデスト		1973	グラムロック	レコード	日本	英国の国民的グラムバンド、スレイドがデビュー後「ブレイ・イット・ラウド」、「スレイド?」とアルバムを立て続けにヒットさせ人気爆発のさなかにこれでもかとリリースされた72年のベスト盤。初期スレイドの魅力がたっぷり詰め込まれ、72年当時の彼らの勢いを追体験できるような1枚。野太いハイトーンが特徴のノディの声が年齢的にもう限界であることを裏付ける最新曲「レイディオ・ウォール・オブ・サウンド」を絡めたベスト版。	01. Cum on Feel the Noize 02. Look Wot You Dun 03. Gudbuy T'Jane 04. One Way Hotel 05. Skweeze Me Pleeze Me 06. Pouk Hill	07. The Shape of Things to Come 08. Take Me Bak 'Ome 09. Coz I Luv You 10. Wild Winds are Blowing 11. Know Who You Are 12. Get Down and Get With It 13. Look at Last Nite 14. Mama Weer All Crazee Now	
	SLAYED	ウォール・オブ・ヒッツ			グラムロック	CD	日本	70年代にイギリスで別格の人気を誇っていたスレイドだが、日本ではさっぱりだった。グラム・ロックとヘヴィー・メタルの仲間をいくようなサウンドがどちらつかずだったせいだろうか、彼らが後のプリティッシュ・ロック・シーンに残した影響は大きい。	1ゲット・ダウン 2だから君が好き 3恋の赤信号 4恋のバック・ホーム 5クレイジー・ママ 6グッバイ・ジェーン 7カモン!! 8スクイーズ・ミー・プリーズ・ミー 9マイ・フレンズ・スタン 10エヴリデイ	11バンギン・マン 12ファー・アウェイ 13ハウ・ダズ・イット・フィール 14サンクス・フォー・ザ・メモリー 15レッツ・コール・イット・クイット 16マイ・オー・マイ 17ラン・ラ・アウェイ 18ラジオ・ウォール・オブ・サウンド 19ユニヴァース 20メリー・クリスマス・エヴリバディ	
	SLITS	カット		1979	ニューウェーブ	レコード	アメリカ	1979年リリース。まさにニューウェーブの金字塔と呼ぶべきスリッツのデビュー・アルバム。その後のパンク・ニューウェーブ、オルタナティブ系のアーティストに計り知れない影響を与えたフリーキー・サウンド。マトンビのデニス・ボーヴェルをプロデューサーに迎え、パンクとダブを折衷した先鋭的なサウンドで世間に衝撃を与えた名盤。自由でパンギャルド、ラジカルかつポップ。ダブ、レゲエとパンクの親和性の高さを雄弁に証明する、ニューウェイブ期のアイランドを代表する名作。	Side A 1. インスタント・ヒット 2. ソー・タフ 3. スペンド・スペンド・スペンド 4. ショップリフティング 5. FM	Side B 1. ニュータウン 2. ビンボン・アフエア 3. ラヴ・アンド・ロマンス 4. ティピカル・ガールズ 5. アドヴェンチャーズ・クロース・トゥ・ホーム	
	SLITS	カット		1979	ニューウェーブ	CD	日本		1. インスタント・ヒット 2. ソー・タフ 3. スペンド・スペンド・スペンド 4. ショップリフティング 5. FM 6. ニュータウン 7. ビンボン・アフエア	8. ラヴ・アンド・ロマンス 9. ティピカル・ガールズ 10. アドヴェンチャーズ・クロース・トゥ・ホーム 以下、ボーナス・トラック 11. 悲しい噂 12. リーベ・アンド・ロマンス (スロー・ヴァージョン)	
	SLY & THE FAMILY STONE	ライフ		1968	ロック	CD	日本	1968年作品。1968年春、「ダンス・トゥ・ザ・ミュージック」のヒットがする中で、間をおかず、一気に録音された3rdアルバム。前作では大衆に受け入れられるようなポップなアプローチを見せたスライだったが、同時期に起こったマーティン・ルーサー・キング牧師の暗殺など大きな事件を経て、今作では再び舌鋒鋭い批評精神と、同時に「フラワー・チルドレン」世代らしい楽観志向も見せている。フレディのサイケデリックなギターが前面にフィーチャーされ、ラリー・グラハムのベースを中心にダンス性も強化されるなどして、初期スライ・サウンドが完成に近づきつつあることを感じさせてくれる。名作『スタンド!』へのステップになった作品として、後年高く評価されている。	1ダイナマイト! 2チキン 3プラスチック・ジム 4フアン 5イントゥ・マイ・オウニング	6ハーモニー 7ライフ 8ラヴ・シティ 9アイム・ファン・アニマル 10マレディー 11ジェーン・イズ・ア・グルービー	
	SLY & THE FAMILY STONE	スタンド!		1969	ロック	CD	日本	スライ&ザ・ファミリー・ストーンが1969年に発表した4作目のアルバム。第一弾シングル「エヴリデイ・ビーブル」は4週連続で全米No.1を記録。公民権運動に揺れるアメリカ社会に向けて、人種問題をスライなりのアプローチで描いたこの歌には、彼の思想が表れている。そうしたメッセージ性は今作において強まっており「スタンド!」「ドント・コール・ミー・ニガー・ホワイティー」等にそれらが伺え、但しスライのそれは、黒人の権利を主張するものというより生き方としての主張だった。音楽的には前作の延長線上にあるが今作からはくエヴリデイ・ビーブル」、〈シング・ア・シンブル・ソング〉、〈スタンド〉、〈アイ・ウオント・トゥ・テイク・ユー・ハイヤー〉4曲のシングルヒットが生まれ、世界的に知られる事となったこのアルバムは、音楽史上の傑作の一枚に数えられている。	1スタンド! 2ドント・コール・ミー・ニガー・ホワイティー 3アイ・ウオント・トゥ・テイク・ユー・ハイヤー 4サムバディズ・ウォッチング・ユー 5シング・ア・シンブル・ソング 6エヴリデイ・ビーブル 7セックス・マシーン 8ユー・キャン・メイク・イット・イフ・ユートライ		
	SLY & THE FAMILY STONE	暴動		1971	ロック	レコード	日本	SLYの最高傑作にして歴史に残るFUNK金字塔。ビルボード初登場NO.1となったアルバム。ドラム・マシンを多用したダークなファンクの新機軸。「ファミリー・アフエアー」「スペース・カウボーイ」「アフリカは君に語りかける」他、全12曲を収録。Stand!なんて意気揚々と黒人としてのアイデンティティを鼓舞していた頃のSLYの姿は、もうここにはない。	Side A 1. ラヴン・ヘイト - 4:01 2. 子供のように - "Just Like a Baby" - 5:11 3. ポエット - 3:01 4. ファミリー・アフエア - 3:04 5. アフリカは君に語りかける - "Africa Talks to You 'The Asphalt Jungle'" - 8:45 6. 暴動 - "There's a Riot Goin' On" - 0:00	Side B 1. プレイブ&ストロング - 3:29 2. スマイリン - 2:54 3. タイム - 3:01 4. スペース・カウボーイ - 3:59 5. ランニン・アウェイ - 2:56 6. サンキュー・フオートーキン・トゥ・ミー、アフリカ - 7:12	
	SLY & THE FAMILY STONE	暴動		1971年11月20日	ロック	CD	日本	単調な繰り返しのように、癒される至高の名曲 "Family Affair"、牧歌的でありながら教訓めいた歌詞が光る "Runnin' Away" いつ聴いても心に落ち着きを与えてくれる薬のような作品。このアルバム全体を覆う気だるさ、倦怠感、ダークさそれがこれまでの陽気でバワフルなファンクというイメージとかけ離れていたのだがこのアルバムを聴き進めていくうちそれこそが「ファンク」の本質なんではないかという気分にもなってくる。	1ラヴン・ヘイト 2子供のよう 3ポエット 4ファミリー・アフエア 5アフリカは君に語りかける 6暴動	7プレイブ&ストロング 8スマイリン 9タイム 10スペース・カウボーイ 11ランニン・アウェイ 12サンキュー	
	SMALL FACES	スモール・フェイス		1966	ロック	CD	日本	1965年に結成されたスモール・フェイスズのデビュー作、リリースは1966年。スモール・フェイスズは、ロンドン、イーストエンド出身のモッズバンドで、スティーヴ・マリOTTと、ロニー・レーンを中心にイアン・マクレガン、ケニー・ジョーンズの4人で結成されたグループで、当時流行していたモッズにターゲットを絞ってマーケティングされた。アグレッシヴでクールなサイケデリック味と、熱いソウルフル・ヴォイスが楽しめる「カモン・チルドレン」「ワン・ナイト・スタンド」他、初期のThe Whoに似たR&B色の強い音だ。凄まじい勢いのある演奏と、スティーヴ・マリOTTのソウルフルなヴォーカルに驚かされます。マリOTTのメイヴィススタイルばりのキーの高いソウルフルなシャウト、ディストーションの効いたグレッチのギター、ロニーの重いベース、マックのフッカー・Tに影響を受けたオルガン、ケニーのシャープなドラム、どの曲も文句なしにかっこいい。	1. シェイク 2. カモン・チルドレン 3. ユー・ベター・ビリーヴ・イット 4. イッツ・トゥー・レイト 5. ワン・ナイト・スタンド 6. ホワッチャ・ゴナ・ドウ・アバウト・イット	7. ソーリー・シーズ・マイン 8. オウン・アップ・タイム 9. ユー・ニード・ラヴィン 10. ドント・ストップ・ホワット・ユー・アー・ドゥーイング 11. E・トゥー・D 12. シャ・ラ・ラ・ラー	
	SMALL FACES	フロム・ザ・ビギニング		1967	ロック	CD	日本	まず、ロニー・レーンのヴォーカルで1曲目「Shake」の最後にスティーヴ・マリOTTの歌声が聞こえてきたかと思うと、2曲目「Come On Children」からスティーヴ・マリOTTが一気に攻撃的なヴォーカルで蹴散らしていきます。また、9曲目「You Need Loving」はレッド・ツェッペリンの「Whole Lotta Love」の原曲にもなっている作品です。他に11曲目「E.T.」67年発表の2nd、1st発表後、グループがイミディエイトに移籍することになったため、デッカがシングル曲、未発表曲を編集して製作したアルバム。1stやイミディエイトから発表される3rdから一部の曲が重複しているが、そんなことは全く気にならない完全な作品として仕上がっている。	1. 悲しき街角 2. マイ・マインズ・アイ 3. イエスタデイ・トゥ・デイ・アンド・トゥ・モロウ 4. ザット・マン 5. マイ・ウェイ・オブ・ギヴィング 6. ハイ・ガール 7. テル・ミー・ハヴ・ユー・エヴァー・シーン・ミー	8. テイク・ディス・ハート・オブ・ミー 9. オール・オブ・ア・ナッシング 10. ベイビー・ドント・ユー・ドウ・イット 11. プラム・ネリー 12. シャ・ラ・ラ・ラー 13. リアリー・ゴット・ホールド・オン・ミー 14. ホワッチャ・ゴナ・ドウ・アバウト・イット	
	SMALL FACES	スモール・フェイス		1967	モッズ・ビート・バンド	レコード	日本			Side A 1. ハヴ・ユー・エヴァー・シーン・ミー 2. サムシング・アイ・ウオント・トゥ・テル・ユー 3. フィーリング・ロンリー 4. ハッピー・ボーイズ・ハッピー 5. シングス・アー・ゴーイング・トゥ・ゲット・ベター 6. マイ・ウェイ・オブ・ギヴィング 7. グリーン・サークルズ	Side B 1. ピカム・ライク・ユー 2. ゲット・ユアセルフ・トゥゲザー 3. オール・ア・ウェイ・イエスタイズ 4. トーク・トゥ・ユー 5. ショウ・ミー・ザ・ウェイ 6. アップ・ザ・ウダウン・ヒルズ・トゥ・ベッドフォードシャー 7. エディーズ・ドリーミング
	SMALL FACES	スモール・フェイス		1967	モッズ・ビート・バンド	CD	日本				
	SMALL FACES	オグデンズ・ナット・ゴーン・フレイク		1968	モッズ・ビート・バンド	レコード	UK	1968年発表の通算4枚目のアルバム。初のコンセプト・アルバムで全英チャート6週間連続1位を記録したスモール・フェイスズの代表作。「アフター・グロウ」他、当時のイギリスの熱気漂うクールなサイケデリック・ムードを封じ込めた12曲。このアルバムでは前半部では彼らの地元であるロンドンの下町(コックニー)のエピソードを盛り込んだ楽曲が並び、後半部では「Happiness Stan」という「月夜の夜に、月を捕まえようと旅に出た男」の物語が展開する。このストーリーはロンドンの下町に語り継がれているそうで、彼らの出自の物語を基に曲作りを行っている。また、紙巻きタバコの缶にのデザインにヒントを得たとされる円形のジャケットも珍しく、話題性に富んだ一枚である。	Side A 1. オグデンズ・ナット・ゴーン・フレイク 02:29 2. アフター・グロウ 03:30 3. ロング・ア・ゴーズ・アンド・ワールズ・ア・パート 02:34 4. レース 04:31 5. ソング・オブ・ア・ベイカー 03:18 6. レイジー・サンディ 03:07	Side B 1. ハピネス・スタン 02:37 2. ローリン・オーヴァー 02:50 3. ザ・ハンダグリー・イントゥ・ワルダグー 02:15 4. ザ・ジャニーニ 04:12 5. マッド・ジョン 04:15 6. ハッピー・ディズ・イ・タウン 02:5	
	SMALL FACES	オグデンズ・ナット・ゴーン・フレイク		1968	モッズ・ビート・バンド	CD	日本				

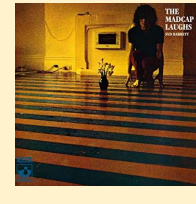
	SOFT BOYS	アンダーウォーター・ムーンライ		1980	ニューウェーブ	CD	US	サイゲテリッツ・ボツ・バンド、ソフド・ボーイズの1980年リリースのサードアルバム。奇人ロビン・ヒッチコックによって結成されたNWバンド。本国イギリスよりもアメリカでカルトな人気があり、R.E.M.がその影響について言及したり、スマパンが本作収録の曲を下敷きにした曲を発表。きらびやかなサイケギターを中心としたタイトなバンドサウンドに、おおよそ常人とは思えない詩を吐き出すボーカルがからみつく様はかなり特異。後期ヴェルヴェッツ・初期ピンクフロイドがそのバックボーンにあるようだが、完全にオリジナリティを確立しており、比較対照とするような同時代のバンドは見当たらない。そういった意味において直系のフォロワーはGALAXIE 500とも言えそう。1作目、2作目も名盤だが、この3作目かつラストアルバムがバンドの最高傑作。とりあえず脳みそが掻きまわされて不思議な高揚感におそわれることに注意。	1. ディ・ワナ・デストロイ・ユー 2. キングダム・オブ・ラブ 3. ポジティブ・バイプレーション 4. アイ・ガット・ザ・ホッツ 5. インセインリー・ジェラス 6. トウナイト 7. ユール・ハフ・トゥ・ゴー・サイドウェイズ 8. オールド・バーバート 9. ザ・クイーン・オブ・アイズ	10. アンダーウォーター・ムーンライト 11. ペジタブ・マン 12. ストレンジ 13. オンリー・ザ・ストーンズ・リメイン 14. ホエア・アー・ザ・ブローン 15. ドリームズ 16. ブラック・スネーク・ダイヤモンド・ロック 17. ゼアズ・ノーバディ・ライク・ユー 18. ソング No.4
	SOFT CELL			1981	エレクトロニクス	レコード	US	マーク・アーモンド(ボーカル)とデヴィウ・ボール(シンセサイザー)のふたりによるイギリスの音楽ユニットでニュー・ウェイヴの代表的なグループ。彼らの共通のルーツであったノーズ・ソウルの要素を文学的な歌詞にのせてノイズーなエレクトロニクスに取り込むという斬新なスタイル。1981年にグロリア・ジョーンズの1964年の曲(全くヒットしなかった)をカヴァーした「汚れなき愛 (Tainted Love)」が大ヒットし全英シングルチャートで1位となり、全米チャートでも最高で8位、43週間もチャートした。このファーストアルバムは1981年にリリース。シングルにもなった「What!!」(全英チャート3位)を記録する。		
	SOFT CELL	分かれの美学 (ソフトセルⅡ)		1983	エレクトロニクス	レコード	日本	エレポップ・デュオ、ソフト・セルの1983年リリースの2nd。ヌメットとしたディスコティック・サウンドに、更に妖艶度を増した官能的なマーク・アーモンドのボーカルが映えます		
	SOFT MACHINE	ソフト・マシーン		1968年10月	ロック	CD	日本	カンタベリー・ミュージックの中核としてロック・シーンに大きな影響を与えた重要バンドが1968年にわずか4日間で創りあげた記念すべきデビュー作。録音時のメンバーはケヴィン・エアーズ(b)、ロバート・ワイアット(Dr, vo)、マイク・ラトリッジ(k)の3人。ワイルド・フラワーズを母体としたカンタベリー・ミュージックの原点の一つであるため、変に神格化してしまった感があるが、実物はこの時代にはそれほど珍しくないサイケ・ポップである。オルガンを中心に置いているため感覚としてはドアーズ辺りにも近くこの時代の典型的なトリップ・ミュージックとして楽しめると思う。聞きどころとしては非常にワイルドなマイクのオルガン・ソロだろう。彼のプレイはクールなものが多いのだが、この作品での彼は若さに任せた荒々しいプレイをしていてまた違った魅力を放っている。この作品がケヴィン・エアーズのデビュー作ともなるわけだが、彼のプレイは控えめでほとんど目立っていない。ただし作曲面では大半が彼が関わっており、ほとんど彼の作品と思って良いほどだ。ワイアットのドラムスはバタバタした相変わらずのものであり、ヴォーカルもそう。既に以降と大差がない。ほぼ全曲が繋がった作品というのもサイケ/プログレ的で楽しめる仕様だろう。ジャズ的な雰囲気は既に強いが、まだまだポップ系の作品。ロバート・ワイアット、マイク・ラトリッジ、ケヴィン・エアーズそれぞれの個性が、三者三様に織り成す黒色のサイケ	1. ホープ・フォー・ハビネス 04:19 2. ジョイ・オブ・アトイ 02:48 3. ホープ・フォー・ハビネス(リブリーズ) 01:38 4. ホワイ・アム・アイ・ソー・ショート 01:36 5. ソー・ブート・イフ・アット・オール 07:22 6. ア・サートゥン・カインド 04:12	7. セイヴ・ユアセルフ 02:23 8. プリシラ 01:01 9. ララバイ・レター 04:40 10. ウィ・デッド・イット・アゲイン 03:44 11. プリキュ・ベル・キユス・フーベル 59 12. ホワイ・アー・ウィー・スリーピング 05:30 13. ボックス・25/4・リッド 47
	SOFT MACHINE	ヴォリューム1&2		1968年10月	ロック	CD	日本	初期2作品のカップリング。これ以降は難解なジャズ・ロックになるがこの2作はサイケ時代をもろに反映したまさしくアヴァン・ポップな逸品。このアルバムはサイケでありジャズロックでもありアヴァンギャルドでもある不思議な内容だ。ロバート・ワイアットのなんとも言えなく耳に残るヴォーカルは絶対に外せないものだ。そして彼の変速ドラムもまたいい。キーボードのマイク・ラトリッジとベースのヒュー・ホッパーもとてもセンスがいい！バランスの良いトリオだ。一般的にはセカンドの方が評価が高いが、実はファーストにこそ毒がある！ケビン・エアーズのベースラインはかなり格好いい。ドラム、ベース、オルガンの絡みが絶妙な上に、ワイアットのヴォーカルなのだから言うことはなし。	1. ホープ・フォー・ハビネス 2. ヨイ・オブ・アトイ 3. ホープ・フォー・ハビネス 4. ホワイ・アム・アイ・ソー・ショート 5. ソー・ブーツ・イフ・アット・ホール 6. サーテン・カインド 7. セイヴ・ユアセルフ 8. プリシラ 9. ララバイ・レター 10. デッド・イット・アゲイン 11. 塵箱より美しく 12. ホワイ・アー・ウィー・スリーピング 13. BOX 25/4LID 14. パタフィジカル・イントロダクション・パート 15. 英国式アルファベット・パート1 1. ティーン・エイジ・ライオット[6:58] 2. シルヴァー・ロケット[3:47] 3. ザ・スプラウル[7:42] 4. クロス・ザ・ブリーズ[7:00] 5. エリックス・トリップ[3:48] 6. トータル・トラッシュ[7:33]	16. イブ・アネモネ・アンド・ベア 17. 英国式アルファベット・パート2 18. ハロー・デア 19. ダダ・ワズ・ヒア 20. サンキュー・ビエロ・リュネール 21. ハブ・ユー・エバー・ビーン・グリーン 22. パタフィジカル・イントロダクション・パート2 23. アウト・オブ・チューンズ 24. ヒー・ライズ・パーフェクトリー・スタイル 25. まだ見ぬ君へ 26. ファイヤー・エンジン 27. ビッグ 28. オレンジ・スキン・フード 29. ドア・オープン・アンド・クロゼス 30. リタ・ローズ・トゥ・ザ・ベッドルーム 7.ヘイ・ジョー[4:23] 8.プロヴィデンス[2:41] 9.キャンドル[4:58] 10.レイン・キング[4:39] 11.キッサベリティ[3:08] 12.ザ・ワンダー[14:07]
	SONIC YOUHE	デイドリーム・ネイション		1988	ニューウェーブ	CD	日本	ソニック・ユース。1988年にリリースした5枚目のスタジオアルバム。1981年にニューヨークでサーストン・ムア(g, vo)、キム・ゴードン(b, g)、リー・ラナルド(g)を中心に結成されたオルタナティヴ/ノイズロックバンド。インディーズ時代の最後を飾る作品であり、80年代のアメリカのロック史にその名を刻んだ大傑作アルバム。 1980年代初頭からアメリカン・インディ・ロック・シーンの旗手として活躍し、のちにニルヴァーナが登場する基礎を作ったオルタナティヴ・ロック/グランジ・ロックの先駆的バンド、ソニック・ユースが1988年にリリースした、インディ時代最後のアルバム。通算6作目。今なおお世せないノイズでカオスな1枚。変則チューニングの実験的ノイズ・サウンドと、トラッドなロックの危うくも絶妙なバランスで、物質主義の中の麻痺感覚と反抗を描ききり、ジェネレーションXの若者の心を驚つかみ!米英のインディー・チャートでNo.1となった「ティーンエイジ・ライオット」他、全12曲を収録。	1. ダーティ・ブーツ[5:29] 2. テュニック[6:22] 3. メアリー・クワイスト[3:11] 4. クール・シング[4:06] 5. モート[7:37] 6. マイ・フレンド・GOO[2:19] 7. デイスイアアラ[5:08]	8.ミルドレッド・ピアス[2:13] 9.シンデレラス・ビッグ・スコア[5:55] 10.スクーター・アンド・ジンクス[1:06] 11.ティタニウム・エクスポーズ[6:25] 12.ホワイ・クロス(ライブ)(ボナース・トラック)[5:07] 13.エリックス・トリップ(ライブ)(ボナース・トラック)[3:32] 14.シンデレラス・ビッグ・スコア(ライブ)(ボナース・トラック)[6:34] 15.ザ・ベッドルーム(ライブ)(ボナース・トラック)[3:39]
	SONIC YOUHE	グー		1990	ニューウェーブ	CD	日本	ソニック・ユースが1990年に発表したメジャー・デビュー・アルバム。アメリカン・オルタナ・ロックの先駆的作品となつた一枚。次作『ダーティ』とともに、ニルヴァーナ、サウンドガーデン、パール・ジャム他のオルタナ/グランジ系フォロワー・バンドが全世界でブレイクする端緒を切り開いた名盤。		
	SPANDAU BALLET	ジャニーズ・トゥ・グロリー		1981	ニューウェーブ	レコード	日本			
	SPANDAU BALLET	パレード		1984	ニューウェーブ	レコード	US			
	SPARKS	キモノ・マイ・ハウス		1974	ニューウェーブ	レコード	UK			
	SPARKS	恋の自己顕示(プロバガンダ)		1974	ニューウェーブ	レコード	US	スパークスの2ndアルバム。基本的には1stの路線を踏襲していますが、この独特な音楽性はアルバム1枚を通して聴くのも疲れるほど個性的です。この後、徐々にポップになっていきますがエキセントリックなところは残っていました。やっている本人たちも、よく飽きずに続けられたと感心します。このアルバムの聴きどころは、彼らのコンセプトに美しいメロディがのった「家へ帰れない」とアルバム最後のラッセル兄弟のインタビューでしょう。このバンドの場合、1st、2ndははずせないと思います。		
	SPARKS	スパーク・ショー		1975	ニューウェーブ	レコード	日本			
	SPARKS	弱い者いじめ		1982	ニューウェーブ	レコード	日本	ソニック・ユースの2nd。地元ロサンゼルスで「モーター・ヘッド」のメンバーと出会い、徐々にロックバンド形式で新作を録音した。力強さとオモチャのような安っぽさの同居したベイツ・モーターの演奏が、スパークスのキッチュな魅力を80年代の空気の中で再生した。プロデューサーはモロダー所有のミュージックランド・スタジオのエンジニア、ラインハルト・マック。クイーン後期やELOの名作で知られる彼の、幾重にも音を重ねて作った狂躁的なパワーポップ・サウンドこそが、当時の世間がスパークスに求めていた音そのものだったと、あらためて気付かされる。当初はチープ・トリックのリック・ニールセンがプロデュースする計画があったという話も、うなずける音だ。アメリカ帰国以後バンクーバー・ポップスーデスコと(傍目には)迷走し、困惑させられていたファンも納得の、久々の「スパークスらしい」快作。結果的にビッグヒットにはならなかったものの、アメリカ西海岸のローカル局で頻繁にオンエアされ、次作以降のブチ	01. ティップス・フォー・ティーンズ 02. フォーニー・フェイス 03. ホエア・マイ・ガール 04. アップステアズ 05. アイ・マリド・ア・マーシャ 06. ザ・ウィリーズ 07. ドント・シュート・ミー 08. スージー・セイフティ 09. ザッツ・ノット・ナスタシヤ 10. ワッキー・ウィメン	

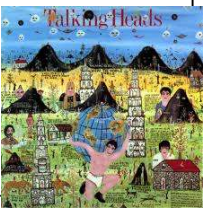
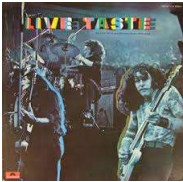
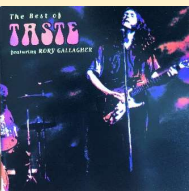
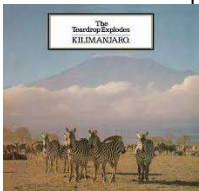
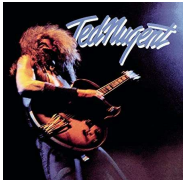
	SPECIALS	スペシャルズ		1979	ニューウェ イフ	レコード	日本	スペシャルズの1979年記念すべきデビュー・アルバム。ジェリー・ダマーズ (key)、テリー・ホール(vo)を中心とするイングランドの2トーン/スカ・リヴァイ ヴァル・バンド、ザ・スペシャルズ、スカとパンクを融合させたサウンドで、2ト ーンの一犬ムーブメントを起こした白人と黒人の混合バンド、ザ・スペシャルズの デビュー・アルバム(1979年作品)。プロデュースは、エルヴィス・コストロが担 当。 リードとリズムにははっきりと振り分けた二本のギターの絡み、実はかなり上手 いリズム隊が織りなすタフなグルーヴ、どこか物憂げで投げやりなテリーと快 活に煽りまくるネヴィルの対照的なツインヴォーカル、痛烈な皮肉と怒りを軽 妙な語り口でユーモアに昇華させた歌詞。ついでに言うところ、スローな曲とアッ ペンボがバランス良く配置された曲順まで完璧だ。 スペシャルズが偉大なのは、音楽的にもファッション的にも明らかにスタイ リッシュでありつつ、等身大の視線と親しみやすい雰囲気を持ち、さらには 素晴らしいウオリティの音楽を作り上げるといふバンドだった。	Side A 1. キャングスターズ 02:48(日本盤のみ入 っている) 2. ルーディーたちへのメッセージ 02:52 3. ドゥ・ザ・ドッグ 02:09 4. 何をするにも 03:25 5. ナイト・クラブ 03:23 6. うまくやったら 03:26 7. コンクリート・ジャングル 03:20 8. トゥー・ホット 03:11	Side B 1. モンキー・マン 02:45 2. 新しい時代 02:26 3. 虚ろな心 02:44 4. 愚かな結婚 03:51 5. トゥー・マッチ・トゥー・ヤング 06:06 6. かわいい悪魔 02:33 7. さて、どうする? 02:37
	SPECIALS	スペシャルズ		1979	ニューウェ イフ	レコード	UK		Side A 1. ルーディーたちへのメッセージ 02:52 2. ドゥ・ザ・ドッグ 02:09 3. 何をするにも 03:25 5. ナイト・クラブ 03:23 5. うまくやったら 03:26 6. コンクリート・ジャングル 03:20 7. トゥー・ホット 03:11	Side B 1. モンキー・マン 02:45 2. 新しい時代 02:26 3. 虚ろな心 02:44 4. 愚かな結婚 03:51 5. トゥー・マッチ・トゥー・ヤング 06:06 6. かわいい悪魔 02:33 7. さて、どうする? 02:37
	SPECIALS	モア・スペシャルズ		1980	ニューウェ イフ	レコード	US	スペシャルズのセカンドアルバム。パンクっぽい1stよりポップ志向の音で、リ ズムボックスとホーンセクションを駆使した、エキゾチックなラウンジ・ミュージ ック風またはキンクス風の音。勿論#1、#2、#6等に前作の少し危ない雰囲気も残 すものの、ホーンが前面に出てより洗練された感じ(#6なんかは隠れた名作で す)。#9、#10のリズムボックスを使った軽いアレンジなど、スカミュージックがよ り咀嚼されている印象を受けます。 シングル曲、「Rat Race」(全英5位)、「Stereotype」(6位)、「Do Nothing」(4位) 収録。「Enjoy Yourself」はカール・シグマン作曲、ガイ・ロンバード&ロイヤル・ カナディアンズ録音の1949年のポピュラーソングのカヴァー。 「Sock It to 'Em J.B.」はレックス・ガーヴィンの1966年のレアグルーヴ・クラシッ クのカヴァー。 ジャマイカのトロンボーン奏者、リコ・ロドリゲス、マッドネスのリー・ジェイ・ト ンソン(sax)、ザ・ボディスナッチャーズのローダ・デーカー(vo)、ザ・ゴーゴ ーズ(background vocals)参加	Side A 1. Enjoy Yourself 2. Rat Race 3. Man At C And A 4. Hey, Little Rich Girl 5. Do Nothing 6. Pearl's Cafe	Side B 1. Sock It To 'Em J.B. 2. Stereotypes-Stereotypes Part 2 3. Holiday Fortnight 4. I Can't Stand It 5. International Jet Set 6. Enjoy Yourself
	SPECIALS	モア・スペシャルズ		1980	ニューウェ イフ	CD	US			
	SPECIALS	スペシャル A.K.A. ラ イヴ		1980	ニューウェ イフ	レコード	日本		SIDE A 1.TOO MUCH TOO YOUNG 2.GUNS OF NAVARONE	SIDE B 1.LONGSHOT KICK THE BUCKET 2.LIQUIDATOR 3.SKINHEAD MOONSTOMP
	SPECIALS AKA	イン・ザ・スタジオ		1984	ニューウェ イフ	レコード	US	ボーカル2人、ギター2人が脱退し、新たに男女ボーカルとギター1人が加入し6 人編成となったザ・スペシャルAKA名義のアルバム。50年代のJAZZアルバム を思わせるジャケットからもわかるように、スペシャルズよりもっとクールな質 感でスカに拘らない多彩なサウンドが楽しめる傑作。ジェリー・ダマーズが中 心となって、女性ヴォーカルもフィーチャーしてより広い範囲のブラック・ミュ ージックの影響が音に現れている。サウンド指向も、曲名から明白な政治的メッ セージも、 同時代のポール・ウェラー(スタイル・カウンスル)などと同じ方向を向いていた ことがわかる。クールでありながらあくまでポップ。	1.ブライト・ライツ 2.ロブリー・クラウド 3.ガールフレンド 4.ハウスバンド 5.ナイト・オン・ザ・タイルズ 6.ネルソン・マンデラ 7.ウオー・クライムス 8.レイシスト・フレンド 9.アルコー 10.ブレイク・ダウン・ザ・ドア	
	SPECIALS THE BEST OF 2TON	スペシャルズ (ザ・ベスト・オブ・2 トーン)		1993	ニューウェ イフ	CD	日本	1970年代末~1980年代初めにかけて英国で吹き荒れた2トーン・ムーヴメント の歴史をまとめたアルバム。ザ・スペシャルズの「ルーディーたちへのメッセ ージ」、マッドネスのファースト・シングル「ザ・プリンス」、そしてザ・ビートによるス モーク・ロビンソンのカヴァー「ティアーズ・オブ・ア・クラウン」など、スカやレ ゲエのテイストを取り入れたパンク・ロック・サウンドの楽曲を収録。	1. ゴースト・タウン Specials 2. オン・マイ・レディオ Selector 3. トゥー・マッチ・トゥー・ヤング Specials A.K.A. 4. ティアーズ・オブ・ア・クラウン Beat 5. ドゥ・ナッシング Specials 6. ビープル・ドゥ・ロックステディ Body snatchers 7. ステレオタイプ Specials	8. ザ・プリンス Madness 9. ラット・レース Specials 10. ザ・ボイラー Specials A.K.A. 11. キャングスターズ Specials A.K.A. 12. アイ・キャン・スタンド・フォー・フォーリン グ・ダウン ELVIS COSTELLO 13. ネルソン・マンデラ Specials A.K.A. 14. ミッシング・ワーズ Selector 15. ルーディーたちへのメッセージ Specials 16. セレクターのテーマ Selector
	SPENCER DAVIS GROUP	オータム '66		1966	ブリティッ シュビート	レコード	ドイツ	スペンサー・デイヴィス・グループ3枚目のアルバム『Autumn '66』が1966年9 月11日に20位を記録し、ベストセラーの仲間入りをした。「When I Come Home」は「Somebody Help Me」とともに『Autumn '66』に収録され、スベン サー・デイヴィス・グループのアメリカのR&Bとブルースへの愛が再び作品に 現れた作品になった。ドン・コヴェイの「Take This Hurt Off Me」、パージー・ス レージのアンセム「When A Man Loves A Woman(邦題: 男が女を愛すると き)」、エルモア・ジェームスの「Dust My Blue」のカヴァーも収録されている。 『Autumn '66』はグループの以前の作品に比べ、オリジナル曲が多く含まれて いた。カルテット全体で「High Time Baby」を書き、スペンサー・デイヴィスはス タンドートの「Midnight Special」を、ステイヴ・ウィンウッドは「On The Green Light」を書いた。新しいヒット曲となった「When I Come Home」はステイヴ・ ウィンウッドとスペンサー・デイヴィス・グループのNo.1となった2曲「Keep On Running」「Somebody Help Me」をともに制作したジャマイカのライター、ジャッ キー・エドワーズがクレジットされている。アルバム『Autumn '66』は全英トップ 10に8週間チャート入りし、10月に最高4位を記録した名曲が満載の一枚。	Side A 1. 愛の終わる日まで (トゥゲザー・ティル・ ジ・エンド・オブ・タイム) 2. テイク・ジス・ハート・オフ・ミー 3. ノーボディ・ノウズ・ユア・ホエン・ユア・ダ ウン・アノンド・アサ 4. ミッドナイト・スペシャル 5. 男が女を愛する時 (ホエン・ア・マン・ラ ヴズ・ア・ウーマン) 6. ホエン・アイ・カム・ホーム	Side B 1. ミーン・ウーマン・ブルース 2. ダスト・マイ・ブルース 3. オン・ザ・グリーン・ライト 4. ネイバー・ネイバー 5. ハイ・タイム・ベイビー 6. サムボディ・ヘルプ・ミー
	SPENCER DAVIS GROUP	ライヴVol.2 ショウズ			ブリティッ シュビート	CD	日本	ステイヴ・ウィンウッドが在籍していたグループが、65'68年にイギリス、ドイ ツ、フィンランドで行なったライヴの未発表音源を集めた一枚。デビュー曲の 「キーブ・オン・ランニング」や大ヒット曲「ギミー・サム・ラヴィン」、ホーギー ・カーマイケル作曲のスタンダード・ナンバー「我が心のジョージア」など全15曲 を収録している。クロっぽくしようと背伸びしているきらいもあるが、どれもソウ ルフルで本当にかっこいい。	1カンザス・シティ 2エヴリ・リトル・ビット・ハーツ 3ステイヴィーズ・ブルース(アーリー・ヴァー ジョン) 4イツ・ゴナ・ワーク・アウト・ファイン 5サム・バディ・ヘルプ・ミー 6シッティン&シンキン 7キーブ・オン・ランニング	8ホエン・アイ・カム・ホーム 9ダスト・マイ・ブルース 10ミーン・ウーマン・ブルース 11愛の終わる日まで 12アイム・ア・マン 13我が心のジョージア 14ギミー・サム・ラヴィン 15ダスト・マイ・ブルース
	SPENCER DAVIS GROUP	ベスト・オブ・スベン サー・デイヴィス・グ ループ		1966	ブリティッ シュビート	レコード	イギリス	ステイヴ・ウィンウッドが16歳(!)で当時に参加したことで有名なブリティッ シュR&Bバンド、スペンサー・デイヴィス・グループ。年齢の若さからは想像も つかないような、驚異的にクロっぽいフィーリングを持ったウィンウッドのヴォ ーカルで話題を集めた。ここに紹介したのは、そのウィンウッド在籍時にヒット した「キーブ・オン・ランニング」や「サム・バディ・ヘルプ・ミー」、オルガンのリフに よるイントロがカッコイイ人気曲「アイム・ア・マン」などを収録したLP時代から のベスト盤。 1966年9月には、スペンサー・デイヴィス・グループは全英チャートのレギュ ラーだった。「Keep On Running」と「Somebody Help Me」は2枚連続でNo.1を獲 得し、年の初めには同時にアルバム2枚(1stと2nd)がトップ10入り、その時に は、黒紙に記した「When I Come Home」が再びトップ20入りしていた。	Side A 1. アイム・ア・マン (02:56) 2. ギミー・サム・ラヴン (02:57) 3. エヴリ・リトル・ビット・ハーツ (03:32) 4. ジス・ハンマー (02:17) 5. バック・イントゥ・マイ・ライフ・アゲイン (02:28) 6. ワルツ・フォー・ルムバ (04:22) 7. トゲザー・ティル・ジ・エンド・オブ・タイム (02:53)	Side B 1. キープ・オン・ランニング (02:46) 2. トランボリン (02:30) 3. ホエン・アイ・カム・ホーム (02:00) 4. ストロング・ラブ (02:16) 5. サム・バディ・ヘルプ・ミー (02:05) 6. シー・プット・ザ・ハート・オン・ミー (02:44) 7. クロバ・ハイ・スティーヴィー (02:21)
	SPENCER DAVIS GROUP	ベスト・オブ・スベン サー・デイヴィス・グ ループ		1966	ブリティッ シュビート	CD	イギリス	ベスト盤		
	SPENCER DAVIS GROUP	ヒストリー (エイト・ギ グス・ア・ウィーク)		1996	ブリティッ シュビート	CD	イギリス	スティーヴ・ウィンウッドが在籍時から脱退後までの楽曲を2枚組で収録したヒス トリー・アルバム。未CD化で未発表ライヴ音源もあり。音質的にはモノラルを 若干左右に広げたマスターリング。	1スエーデン(ティンブルス) 2アイ・キャン・スタンド・アット 3ジャンプ・バック 4ヒア・ライト・ナウ 5サー・チン 6ミッドナイト・トレイン 7イツ・ゴナ・ワーク・アウト・ファイン 8マイ・ベイブ 9カンザス・シティ 10エヴリ・リトル・ビット・ハーツ 11シッティン&シンキン 12アイム・ブルー 13シー・プット・ザ・ハート・オン・ミー 14アイル・ドゥ・ラヴ・イン・マイ・オウン・ティ アーズ 15アイム・ゲッティング・ベター	14男が女を愛する時(ホエン・ア・マン・ラヴズ・ ア・ウーマン) 15ネイバー・ネイバー 16オン・ザ・グリーン・ライト 17ステイヴィーズ・ブルース 18ティク・ディス・ハート・オフ・ミー 19ステイヴィーズ・グループ 20アイ・キャン・ゲット・イナフ・オブ・アット 21ワルツ・フォー・ルムバ 22愛の終わる日まで(トゥゲザー・ティル・ジ・エ ンド・オブ・タイム) 23愛しておくれ(ギミー・サム・ラヴィン) 24バック・イントゥ・マイ・ライフ・アゲイン 25アイム・ア・マン 26Fのブルース(ブルース・イン・エフ)
	SPOOKY TOOTH	スプーキー・ツ		1969	ハードロッ ク&ヘヴィ メタル	レコード	日本	69年作、ブリティッシュ・ハード黎明期の重要なバンドの一つ、スプーキー・ トゥースのセカンド・アルバム。マイク・ハリソンと「夢織り人」の大ヒットで有名 なゲイリー・ライトによるツイン・ヴォーカル、ツイン・キーボードという体制が プログレとも称されていた個性的なバンドです。バンド後期にはあのフォリナー のミック・ジョーンズが在籍していた事でも有名だと思います。本作のプロ デュースはトラフィックやストーンズとの仕事で有名な大物、ジミー・ミラー。 そのせいか南部臭とサイケがミックスされたユニークなサウンドが特徴的で す。特筆すべきはジューダス・プリーストが78年、「ステンド・クラス」でカヴァー した「ベター・バイ・ユー・ベター・ザン・ミー」が収録されている点です。 当時ツェッペリンがデビューして間もない頃だと思いますが、すでにこの曲で新 たなヘヴィ・サウンドを作り上げていたのは驚きです。ゴスペル調の曲や フォーク・ロックっぽい面も見せ、節操が無いと言えはそれまでですが、くぐも った英国の空気をそのまま体現した様なサウンドは、確かに以降のプログレ、 ハード・ロックへと繋がっている気がします。	1. ウェイティング・フォー・ザ・ウィンド 2. フィーリング・バッド 3. アイヴ・ゴット・イナフ・ハートイクス 4. イーグル・ウーマン	Side B 1. ロスト・イン・マイ・ドリーム 2. ザット・ワズ・オンリー・アイエスタデイ 3. ベター・バイ・ユー・ベター・ザン・ミー 4. ハングマン・ハンガ・マイ・シェル・オン・ア・ トゥリー
	SPORTS	ドントスロー・ストー ンズ		1979	ニューウェ イフ	レコード	US	オーストラリアのニューウェーブバンド。	A1' Suspicious Minds 3:26 A2 Live Work & Play 2:52 A3 Don't Throw Stones 3:37 A4 Thru The Window 2:48 A5 Who Listens To The Radio 2:58 A6 Tired Of Me 5:00	B1 Wedding Ring 2:00 B2 Reckless 4:10 B3 Step By Step 3:39 B4 Mailed It To Your Sister 2:47 B5 You Ain't Home Yet 2:12 B6 Big Sleep 2:38

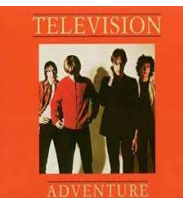
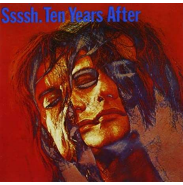
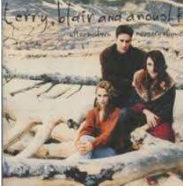
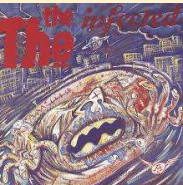
	STEVIE WONDER	ファースト・フィナーレ		1974	ポップス	レコード	日本	1974年に発表され、グラミー賞の最優秀アルバム賞にも輝いた、スティーヴィー・ワンダーの生死をさまよう程の交通事故からの復帰作。彼自身のオリジナルとしては17枚目のアルバム。「トーキング・ブック」「インナー・ヴィジョンズ」に続く3部作。このアルバムで完成したとも言っても過言ではない。この辺りはスティーヴィーの絶頂期である。また、ひとつのスタイルの最終章と位置付けたアルバム。シングルカットされた「悪夢」は全米1位を記録した。	Side A 1. やさしく笑って 2. 1000億光年の彼方 3. トゥー・シャイ 4. ゲ・ウーマン 5. クリーピン	Side B 1. 悪夢 2. 愛あるうちにさよならを 3. 聖なる鳥 4. 美の島 5. フリーズ・ドント・ゴー
	STEVIE WONDER	キー・オブ・ライフ		1976	ポップス	レコード	日本	1976年に発表されたスティーヴィー・ワンダーのアルバム。18枚目のオリジナル・アルバム。クラシックとしての風格さえ漂う、彼の最高傑作とされる2枚組大作。とにかく単純に魅力的な曲が、これでもかと詰まっているすばらしいアルバム。 DISC1は荘厳なく<1>、スロウファンクで神を賛美する<2>、デューク・エリントンに捧げた楽しい人気曲<5>など、切れ味鋭いかつこよさで美しい展開を聴かせる。DISC2は、長女に捧げた穏やかでメロディアスな人気曲<1>、同胞を鼓舞するファンキーな<3>、アルバム・ハイライトとなる<7>など、不思議な旋律や深遠な愛を描く名曲が収められている。全米チャート14週連続1位、グラミー賞「最優秀アルバム賞」「最優秀男性ポップ・ヴォーカル」受賞のアルバム。多くのアーティストがカバーし続ける名作集。「ある愛の伝説」「可愛いアイシヤ」他、全21曲を収録。	Side A 1. ある愛の伝説 (7:04) 2. 神とお話し (2:40) 3. ビレッジ・ゲッター・ランド (3:23) 4. 負傷 (3:44) 5. 愛するデューク (3:52) Side B 1. 回想 (4:11) 2. 孤独という名の恋人 (3:34) 3. 楽園の彼方へ (3:26) 4. 今はひとりぼっち (4:12) 5. 出逢いと別れの間に (6:23)	Side C 1. 可愛いアイシヤ (6:32) 2. 涙のかたすみで (6:28) 3. ブラック・マン (8:27) Side D 1. 歌を唄えば (3:47) 2. イフ・イツ・マジック (3:10) 3. 永遠の誓い (7:06) 4. アナザー・スター (8:26) ボーナストラック シングル盤 Side A 1. 土星 2. エボニー・アイズ Side B 1. 嘘と偽りの日々 2. イージー・ゴイン・イブニング
	STEVIE WONDER	ミュージック・エイリアム		1982	ポップス	レコード	日本	1982年に発表されたスティーヴィー・ワンダーの2枚組のベスト・アルバム。「迷信」「悪夢」「ハイアー・グラウンド」「マスター・プラスター」他、1970～80年代にかけてのヒット曲を集めたアルバム。	Side 1 1. 迷信 - Superstition 2. 悪夢 - You Haven't Done Nothin' 3. 汚れた街 - Living for the City 4. フロント・ライン Side 2 1. スーパーウーマン 2. 愛を贈れば - Send One Your Love 3. サンシャイン - You Are the Sunshine of My Life 4. リボン・イン・ザ・スカイ	Side 3 1. ハイアー・グラウンド 2. 愛するデューク - Sir Duke 3. マスター・プラスター 4. レゲ・ウーマン 5. ザット・ガール Side 4 1. 回想 - I Wish 2. 可愛いアイシヤ - Isn't She Lovely? 3. ドゥ・アイ・ドゥ - Do I Do
	STEVIE WONDER	イン・スクエア・サークル		1985年9月13日	ポップス	レコード	日本	1985年に発表されたスティーヴィー・ワンダーのアルバム。20枚目のオリジナル・アルバム。1985年全米アルバムチャート最高5位。第一弾シングルは当時人気再燃していたモータウンリズム全開の「パートタイム・ラヴァー」が全米1位を獲得。地味ながらサックス、トランペットが良いスパイスの「Go Home」(10位)。ほのほのバラード「Overjoyed」(24位)のヒット以外にも『愛の浜辺』『オーヴァー・ジョイド』の名曲が光る。この時期は映画「ウーマン・イン・レッド」のサウンドトラックアルバム及びシングル「心の子」が全米1位や、ディオンヌ・ワーウィック等とコラボの「That's What Friends Are For」も1位のヒットもあり、乗りに乗っていた時期で70年代とはまた違うアプローチを見せた。この「イン・スクエア・サークル」は単刀直入に言うといかにも80年代のウケ作品で、全体通してライト感の溢れるアルバムである。	Side A 1. パートタイム・ラヴァー 2. アイ・ラヴ・ユートゥー・マッチ 3. 未来へのノスタルジア - Whereabouts 4. 愛の浜辺で - Stranger on the Shore of Love 5. ネヴァー・イン・ユア・サン	Side B 1. スピリチュアル・ウォーカーズ 2. ランド・オブ・ララ 3. ゴー・ホーム 4. オーヴァー・ジョイド 5. イッツ・ロング (アルバム・ヘイト)
	STEVE FORBERT	ジャックラビット・スリム		1979年	フォークロック	レコード	日本	1979年リリースのスティーヴ・フォーバートのセカンドアルバム。プロデュースはザ・バンドのジョン・サイモン。第2のポップ・ディランドと称されたスティーヴ・フォーバート最大のヒット・ナンバー「ロミオの歌」を収録。生ギター1本で勝負するいわゆるシンガー・ソング・ライター、当時はその何とも言えない純粋さというか実に真面目な歌心に感動。派手さは無いが、リスナーの心に響く歌声と誠実さを感じる曲作り。最高位11位2週。19週ロングラン。	Side A 1. ロミオの歌 (Romeo's Tune) 2. スウィート・ラヴ・ザット・ユー・ギブ 3. アイム・イン・ラブ・ウィズ・ユー 4. さらばトル・ジョー (Say Goodbye To Little Jo) 5. ウェイト	Side B 1. ほんとうにほんとうらしく (Make It All So Real) 2. ベイビー 3. コンプリケーションズ 4. 悲しくも一曲のソープ・オペラ風 (Sadyly Sorta Like A Soap Opera) 5. 1978年1月23日～30日 (January 23-30, 1978) シングル盤 : オイルソング (The Oil Song)
	STIFF LITTLE FINGERS	インフレマブル・マテリアル		1979	パンク	レコード	US	1979年11月のファーストアルバムで、サウツウツウエの政治姿勢を覚悟して、自ら書いた(激しい)トラックで北アイルランド紛争への憤りをはっきりと語っている。多くのパンクバンドのデビュー作とちがい、このアルバムでは高い潜在能力とバラエティ豊かな音楽センスを溶け合わせようとしている。ロキシーの常連DJ、ドン・レッツに影響を受けたおかげもあり、このパンク・ロッカーたちはレゲエを取り入れ、反逆精神に強く共感し、クラッシュと同じくレゲエのカバー曲をこのデビュー作に入れている。ENTOMBEDが激烈カバーした「State of Emergency」、中間部の甘いメロディとバワフルな演奏の対比が面白い「Barbed Wire Love」、荒くぶつ飛ばす「Rough Trade」、渋いレゲエの「Johnny Was」といった佳曲が並びますが、特におススメは1、4、7、12です。1の「Suspect Device」は彼らの、否パンクロックの代表曲でしょう。バリバリのギター、荒っぽく激情をぶちまけるVOと、重戦車が突進するように攻撃的な名曲。数多くのバンドにカバーされていますが、オリジナルが一番！4の「Wasted Life」はワイルドだが、微妙にリリカルな面も持ち併せた名曲。聴いてると、なにかに熱く励まされているように力が湧いてきますね！7の「White Noise」はノリの良いテンポながら、ギターのリフ、メロディに哀感(?)や悲壮感を感じます。実は一番好きな曲ですね。12の「Alternative Ulster」は彼らの代表曲の1つで、爽やかな高揚感を感じさせるアップテンポな曲。今の時代でもその攻撃性は色あせない素晴らしい曲だ。	1. サズベクト・ディヴァイス 2. スティート・オブ・エマージェンシー 3. ヒア・ウィ・アー・ノーウェア 4. ウェステッド・ライフ 5. ノー・モア・オブ・ザット 6. バード・ワイアー・ラヴ	7. ホワイト・ノイズ 8. ブレイクアウト 9. ロー・アンド・オーダー 10. ラフ・トレード 11. ジョニー・ワズ 12. オルタナティブ・アルスター 13. クローズド・グルーヴ
	STIFF LITTLE FINGERS	ノーバディーズ・ヒーローズ		1980	パンク	レコード	日本	LONDONに拠点を移した80年3月発表の2nd アルバムで1stでの粗しさはよりも、こちらはメロディが練られています。このアルバムにはS.L.Fの代表曲が多く収録されており、特に「Doesn't Make It All Right」はスペシャルズでおなじみの曲を彼らのアレンジで演奏している。ストレートで爽快なパンクがぎゅっと詰め込まれています。有名な曲では、1. 「Gotta Gettaway」、3. 「Fly The Flag」、あと名曲5. 「NOBODY'S HEROES」、どれも良い曲が揃っており、インスト曲の6. 「Bloody Dub」など、ファーストの勢いそのままに名曲揃いでレコードのA面5曲は全部いい。	Gotta Gettaway3:37 Wait And See4:28 Fly The Flag3:46 At The Edge2:59 Nobody's Hero4:11	Bloody Dub3:48 Doesn't Make It All Right5:49 I Don't Like You2:44 No Change1:57 Tin Soldiers4:45
	STIFF LITTLE FINGERS	ノーバディーズ・ヒーローズ		1980	パンク	レコード	UK			
	STIFF LITTLE FINGERS	ハックス		1980	パンク	レコード	US	ライブアルバム	Nobody's Hero4:02 Gotta Gettaway3:21 Wait And See4:13 Barbed Wire Love3:22 Fly The Flag3:26 Alternative Ulster2:52	Johnny Was10:15 At The Edge2:37 Wasted Life3:12 Tin Soldiers5:00 Suspect Device2:18
	STIFF LIVE	ニック・ロウ、エルビス・コストロ、イアン・デュリー			ニューウェーブ	レコード	日本			
	STING	ブルー・タートルの夢		1985年	ロック	レコード	日本	1985年リリースのポリスを解散後のソロとしての第一弾。名作『シンクロニシティ』後の1984年、ポリスは非公式に解散。心機一転を図ったステイングがジャズ界の手練れ達を従えて制作した初のソロ・アルバム。ジャズはもちろん、ソウルやレゲエなどのカラフル&マニアックな要素を、良質なポップミュージックへと昇華した傑作である。ジャンルやスタイルに固執することなく、より洗練されたサウンドを一流の音楽センスと卓越した演奏力で体現したこの作品で、ステイングは自らのソロキャリアを華々しくスタートさせた。ポリス時代の曲をジャズ調にアレンジしたA面4曲目の「シャドウズ・イン・ザ・レイン」(オリジナルは、アルバム『ゼニヤッタ・モンダッタ』に収録)も収録されている。	Side A 1. セット・ゼム・フリー 2. ラヴ・イズ・ザ・セブンス・ウェイヴ 3. ランダンス 4. チルドレンズ・クルセイド 5. シャドウズ・イン・ザ・レイン	Side B 1. 黒い傷あと 2. コンスター・ミー・ゴーン 3. ブルー・タートルの夢 4. バーボン・ストリートの月 5. フォートレス・アラウンド・ユア・ハート
	STOOGES (IGGY POP)	イギー・ポップ・アンド・ストウージズ		1969	パンク	レコード	フランス	60年代末期にデトロイトで生まれた、もうひとつのロックン・ロール。後のパンクス達に多大な影響を与えたオルタナ界のカリスマ、イギー・ポップが結成した、伝説のハード・ロック・グループのデビュー作。プロデュースはヴェルヴェット・アンダーグラウンドのジョン・ケイル。激しいステージングとは対照的に意外に抑制されたアルバム作りがなされており、イギーの静の部分も表現されており、彼らの音楽性の幅広さが出ている完成度の高い作品である。	Side A 1. 19694:05 2. I Wanna Be Your Dog3:10 3. We Will Fall10:15	Side B 1. No Fun5:15 2. Real Cool Time2:29 3. Ann3:00 4. Not Right12:49 5. Little Doll3:21
	STOOGES (IGGY POP)	ロー・パワー		1973	パンク	レコード	US	イギー自らのプロデュースでリリースされたイギー・ザ・ストウージズ名義での通算3rdアルバム。超名曲「探してこわせ(Search And Destroy)」!「淫力魔神のテーマ(Raw Power)」を含む全8曲収録の大傑作。ギターがRon AshetonからJames Williamsonにスイッチ。		
	STOOGES (IGGY POP)	ノー・ファン(イギー・ポップの軌跡)		1980	パンク	レコード	日本	ストウージズ[6] (The Stooges) は、アメリカ合衆国出身のロック・バンド。1960年代末のガレー・ロックを代表するグループの一つ。フロントマン イギー・ポップの過激なパフォーマンスが特徴で、後のパンク/ニュー・ウェイヴに大きな影響を与えた。そのロック界に語り継がれる60sハードパンクのストウージズのエレクトラから発売した「ストウージズ」と「ファン・ハウス」のアルバムから選曲したベスト盤。セックス・ピストルズがカバーした「NO FUN」やダムドがカバーした「1970」等、名曲が！	1. 19694:05 2. Real Cool Time2:29 3. No Fun5:15 4. Dirt7:00 5. Down On The Street3:42 6. Loose3:33 7. T.V. Eye4:17 8. I Wanna Be Your Dog3:10 9. 19705:15	

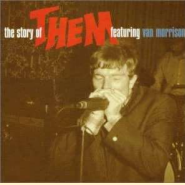
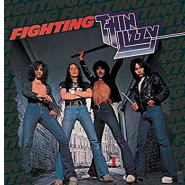
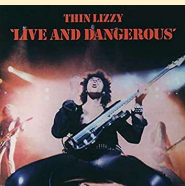
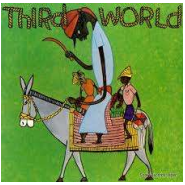
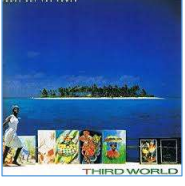
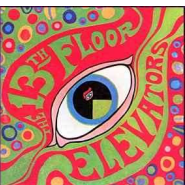
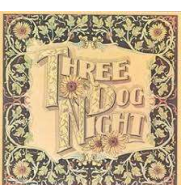
	STRANGLERS	野獣の館		1977	パンク	レコード	日本	邦題は「野獣の館」。原題は「ラタス・ノルベジックス(ノルウェーのねずみ)」。 ストラングラーズのメジャーデビューの第一作。ただし、ジャケットにもIVの文字が見られるように、マイナー時代を含めれば4枚目の作品ということらしい。 サウンドもまた、ワンバターの定型的なパンクロックではない。ドアーズの影響といわれ、デイブ・グリーンフィールドのキーボードやヒュー・コーンウェルのギターにその臭いがしないでもない。しかしそれはごく一部の要素でしかなく、全般的なサウンドはオリジナリティーの塊でありストラングラーズ独特のものとし かしいようがない。そんなストラングラーズのオープニングの「サムタイムズ」を聴いたら、いきなりストラングラーズの世界に引きずり込まれてしまうだろう。それほど強力的で魅力的な音楽である。 尚、「ピーチズ」は本国イギリスにおいてバブのジュークボックスには必ずと いてよいほど入っているメジャーな曲。メンバーは地主階級の出身で生物学の博士号まで持っている危険なインテリ、リーダー格でボーカル、ギターのヒュー・コーンウェル。大学の文学部出身で三島由紀夫をこよなく愛するベ ース、ボーカルのジャン・ジャック・バーネル。彼は空手の有段者でもある。クラ シック畑出身のキーボード奏者、デイブ・グリーンフィールド。酒造業を営んで いたドラムスのジェット・ブラックは37歳にしてバンクムーブメントに衝き動か された。彼らの経歴もまた特異であり、定型的なパンクバンドとは一線を画して いる。	Side A 1. サムタイムズ 2. グッドバイ・トゥールーズ 3. ロンドン・レディ 4. 街角のプリンセス 5. ハンギング・アラウンド	Side B 1. ピーチズ 2. グリップ 3. アグリー 4. ダウン・イン・ザ・スノー
	STRANGLERS	野獣の館		1977	パンク	CD	日本			
	STRANGLERS	ノー・モア・ヒーローズ		1977	パンク	レコード	日本	『No More Heros』は彼等のアルバムとしては一番パンクの要素(性急な縦ノリ のリズムと喘みつくようなボーカル)の強いアルバムといえる。とはいっても他 のパンクバンドのような単純なものではなく、サウンド的にもかなり凝ったもの となっている。特にキーボードの存在がストラングラーズを他のパンク・バンド との一線を画すものとしているので。また、『School Mam』のような長くて構成 の凝った曲からはプログレからの影響すら感じてしまいます。この「ノー・モア ・ヒーローズ」はストラングラーズの諸作品のなかでは、最も典型的なパンクサ ウンドに近い。このアルバムの代表曲「ノー・モア・ヒーローズ」はバンクムー ブメント全体としての代表曲でもあり、文句なく格好良い曲であるが、歌詞にド ン・キホーテの従者サンチョ・パンサが登場するあたりいかにもストラングラ ーズである。この時、すでに彼ら独自の世界観、人生観が垣間見られる気が する。やがて、ストラングラーズは深遠なる精神世界の探求への姿勢をより明 確にしていく。	Side A 1. 疎外されて (アイ・フィール・ライク・ア・ウォ グ) 2. ビッチング 3. 偽善者の歌 4. デイゲナムの不幸なデイヴ 5. 女ざかり 6. サムシング・ベター・チェンジ	Side B 1. ノー・モア・ヒーローズ 2. 腐った大都会の田舎者 3. パーニング・アップ・タイム 4. 淋しき英国の街 5. スクール・ママ
	STRANGLERS	ノー・モア・ヒーローズ		1977	パンク	レコード	UK			
	STRANGLERS	ブラック・アンド・ホワイ ト		1978	パンク	レコード	日本			
	STRANGLERS	ブラック・アンド・ホワイ ト		1978	パンク	CD	日本			
	STRANGLERS	レイヴン		1979	パンク	レコード	日本			
	STRANGLERS	ライヴ Xサーツ		1979	パンク	レコード	日本			
	STRANGLERS	黒豹		1983	パンク	レコード	UK			
	STRANGLERS	オーラル・スカルプ チャー		1984	パンク	レコード	UK			
	STRAY	トラックス		1975	ハードロッ ク&ヘヴィ メタル	レコード	イギリス	英ハード・ロック・バンド、ストレイ。当時全員18歳の逸材で、ブラック・サバスや レッド・ツェッペリンに迫る存在として注目を浴びた。		
	STRAY CATS	涙のラナウェイ・ボー イ		1981	ロカビリー	レコード	日本			
	STRAY CATS	ごーいんDOWN TOWN		1981	ロカビリー	レコード	日本			
	STRAY CATS	セクシー&セブン ティーン		1983	ロカビリー	レコード	US			
	STYLE COUNCIL	スピーク・ライク・ア ・チャイルド		1983年	ニューウェ イブ	レコード	日本	70年代後半から80年代前半にかけて英国で圧倒的な人気を誇ったバンド、 ザ・ジャムを解散させたポール・ウェラー(vo, g)が、ミック・タルボット(piano, key)、ステイヴ・ホワイト(ds)らと共に結成したポップ・ユニットのデビュー・ミ ニ・アルバム。ファンク/ジャズからハウスまで、あらゆる音を実践したユニット の歴史的デビュー・ミニ・アルバム。 名作Cafe Bleuに先んじて発表された既発シングルを集めた編集版だがThe Jam解散直後の覇気とアイデアに満ち溢れたポール・ウェラーの出发点として、 若々しい高揚感と音楽への愛情が聴き手を限りない幸福感に包みこむ。 マーヴィン・ゲイに触発された名曲(1)、デビュー曲かつ最高のノーザンダン サー(3)、強靱なベースラインに揺さぶられる(7)といった傑作シングルを収録。 Cafe Bleu収録曲のどこまでも爽やかな(2)は聴衆の心をつかみ、	Side A 1. ロング・ホット・サマー 2. ヘッドスタート・フォー・ハッピーネス 3. スピーク・ライク・ア・チャイルド	Side B 1. ロング・ホット・サマー(クラブ・ミックス) 2. ザ・バリス・マッチ 3. ミックス・アップ 4. マネー・ゴー・ラウンド(クラブ・ミックス)

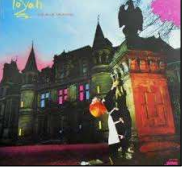
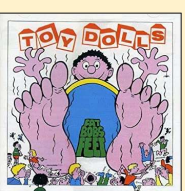
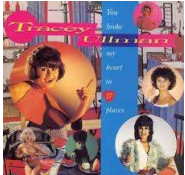
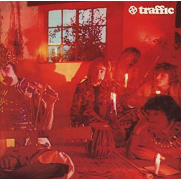
	SUE SAAD & THE NEXT	スーサッド&ネクスト		1980	ニューウェーブ	レコード	US	スー・サードとネクストは、カリフォルニア州ロサンゼルス出身のアメリカの新しいウェーブバンドでした。そのセルフ・タイトルのファースト・アルバムは1980年にアメリカビルボード200で131号を達成した。アルバムA面4曲目のPrisoner (囚人)は、シーナ・イーストンが1981年のアルバム『ティク・マイ・タイム』でカバーした。		
	SUPERTRAMP	ブレックファスト・イン・アメリカ		1979	ロック	レコード	US	1979年発表。通算6作目。スーパートランプ初のビルボードアルバムチャート1位となった。本国イギリスでも最高位3位でプラチナ・ディスクを獲得。タイトル曲ほか大ヒット曲を数多く収め、全米6週1位に輝くなど世界的な成功を収めた6thアルバム。キャッチーなメロディ、ソフトなヴォーカル、ポップなサウンド、美しいコーラスワークなど、スーパートランプの親しみやすい魅力が濃縮されている。また1980年のグラミー賞ではジャケット部門[5]とエンジニアリング部門[6]を獲得している。なお、同賞を獲得したジャケット(ニューヨークにある自由の女神像のパロディ)に登場している人物はアメリカの女優、ケイト・マータフ扮する「リビーおばさん」という女性。		
	SUPREMES	一人ぼっちのシンフォニー		1966年	ポップス	レコード	US	66年発表。『ヴァイブをフィーチャーした洒落たアレンジが最高な“1 Hear A Symphony”や、B2「ラヴァーズ・コンチェルト」は、なんと言ってもダイアナ・ロスの声質、歌唱がこの名曲を引き立てていて、スタンダードとして数々のカバーがある中でも、軽やかで甘く、そして純粋な恋の気持ちが見事に歌い上げられており、ダイアナ・ロスの作品としても一番好きな作品。ノーザン・ソウル・クラシック！ダイアナ・ロスを擁するモータウンを代表するガールズ・グループ「シュープリームス」が1966年に発売した傑作アルバム。英国のモッズ達も愛した名作です。全米No.1ヒットを記録したモータウン・ビート全開の大名曲『1 Hear A Symphony』や『My World Is Empty Without You』を始め、『Any Girl In Love』『Everything Is Good About You』『He's All I Got』等の胸キュン・ガール・ポップの名曲を収録。『1 Hear A Symphony』はISLEY BROTHERS、JACKSON 5、STEVIE WONDERもカバーしており、『My World Is Empty Without You』はMC LYTEが「Poor George」でサンプリング使用しています。	Side A 1. ストレンジジャー・イン・パラダイス 3:01 2. イエスタデイ 2:26 3. ひとりぼっちのシンフォニー (I Hear A Symphony) 2:40 4. アンチエインド・メロディー 3:47 5. わが心に歌えば (With A Song In My Heart) 2:01 6. ウィザウト・ア・ソング 2:58	Side B 1. 二人だけの世界 (My World Is Empty Without You) 2:33 2. ラヴァーズ・コンチェルト 2:33 3. エニイ・ガール・イン・ラヴ 2:58 4. ワンダフル・ワンダフル 2:53 5. エヴリシング・イズ・グッド 2:57 6. ヒーズ・オール・アイ・ガット 2:45
	SURVIVOR	アイ・オブ・ザ・タイガー		1982年6月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	サヴァイヴァーが1982年に発表した3作目のアルバム。映画『ロッキー3』の主題歌に起用されて全米チャート6週連続1位、全英でも首位を獲得しグラミー賞の最優秀ロック・パフォーマンス部門も受賞した大ヒット曲「アイ・オブ・ザ・タイガー」を収録。アルバム自体も全米2位、全英12位を記録するベスト・セラーとなり、続いてシングル・カットされた「アメリカン・ハービート」や80年代テイスト溢れる名バラード「ザ・ワン・ザット・リアリー・マスターズ」がヒットした。彼らを一躍トップ・バンドに押し上げた。	Side A 1. アイ・オブ・ザ・タイガー 2. フィールズ・ライク・ラヴ 3. ヘジテーション・ダンス 4. ザ・ワン・ザット・リアリー・マスターズ 5. アイム・ノット・ザット・マン	Side B 1. チルドレン・オブ・ザ・ナイト 2. ザ・ワールド・ビガン 3. アメリカン・ハービート 4. シルヴァー・ガール
	SUSAN ANTON	フォクシー		1981年	ポップス	レコード	日本	17歳の時、ミス・アメリカの準ミスに選ばれた のをきっかけにショー・ビジネスの世界に入り、1979年、映画「キャノンボール2」に出演やTVドラマ「ベイウオッチ」等でのお色気が人気で、NBCを通じて4回にわたって放送された『スーザン・アントンのすべて』で人気を決定づけ、当時全米でポスター売上げ2位を記録したことがある程人気があった。日本ではカリアダイヤモンドのCFで人気が沸騰(そのCMソングは『FOXY(フォクシー)』であったため、1981年リリースのファーストアルバムはアメリカでは『Killin' Time』のタイトルだが、日本のみ、曲順を変更して『フォクシー (Foxy)』と改題して発売された。全体的に曲は平均的なポップスで聴きやすく歌唱力もそこそこで悪くはない。	Side A 1. フォクシー 2. ドリーミング・マイ・ドリームス 3. ホールド・ミー 4. ラブ・ウォント・オールウェイズ・パス・ユー・バイ 5. 愛のモーメント	Side B 1. スイート・トーク 2. ノー・フレンド・トゥ・ア・フール 3. ママ・ネバー・トルド・ミー 4. ラブ・ウィズ・ノー・ストリングス 5. ツー・サイズ
	SUZANNE VEGA	孤独(ひとり)		1987年	ポップス	レコード	日本	シンガー・ソングライター、スザンヌ・ヴェガの1987年に発表したセカンド・アルバム。コマーシャルでも使われたアカペラの「トムズ・ダイナ」、親による幼児虐待を幼児の視点で歌って大ヒットした「ルカ」など、スザンヌ・ベガ入門に最適です。スザンヌ・ベガの曲の中にはいわゆる普通のラブソングは少ないのですが、そんな中「ジブシー」は貴重な美しいバラードです。こういう曲が少ないだけに普通っぽいメロディーが逆に引き立つのかもしれませんが、それでも表現は巧みです。Curl me up inside you and let me hear you through the heat (私を包み込んで、そして温もりを通して語りかけて)スザンヌにしてはソフトなタッチで歌い上げます。逆に「瞳」や「孤独」はスザンヌのシャープな語り口が前面に出た、結構激しいフォークロックです。「孤独」などを聞くとスザンヌは詞の内容だけでなく、詞の響きにも相当こだわっていることがわかります。強勢の部分、タイトルのSolitude StandingはSで韻を踏んでますし、サビの終わりの表現Flower with a FlameもFで韻を踏ませています。スザンヌが録音時にマイクの近くで歌っているためか、特にこういう子音が耳に残るのです。そのようにして歯切れ良さと生々しさとデリケートさが同居した奇妙な味わいが楽しめます。全体として、シェリル・クロウとかシャナイア・トゥエインみたいなワイルドなボー	Side A 1. トムズ・ダイナー 2. ルカ 3. 鉄の街 4. 瞳 5. 夜の影	Side B 1. 孤独(ひとり) 2. カリブ 3. ことば 4. ジブシー 5. 木の馬 6. トムズ・ダイナー (リプライズ)
	SUZI QUATRO	サディスティック・ロックの女王		1973	ロック	レコード	日本	姉バティらとガールズバンド「ザ・プレジャー・シーカーズ」(The Pleasure Seekers)を結成していた。音楽プロデューサーのミッキー・モストによって高い評価を受け、1971年末に同氏を頼って渡英し、1973年のデビューアルバムを発表する。ガールズ・ロッカーの先駆けとなり、元祖ロック・クイーンとして後続への道を拓いたスージー・クアトロのデビュー・アルバム。シングルの「キャン・ザ・キャン」は、全英で自身初のチャート1位に輝いたのを始め、ヨーロッパ及びオーストラリアでナンバーワン・ヒットを記録する。また、アルバムも英国のアルバムチャートで32位、ドイツで4位、オランダで5位と、いくつかの領域でチャートのトップ50に達し、重要かつ商業的な成功を収めた。		
	SUZI QUATRO	陶酔のアイドル		1974	ロック	レコード	日本	ガールズ・ロッカーの先駆けとなったスージー・クアトロのセカンド・アルバム(1974年作品)。スージー・クアトロのアルバムの中でも完成度が高い傑作アルバム。オーストラリアで1位に達した他、フィンランドとノルウェーで5位、日本でもオリコン9位になった。スージーのパワフルなヴォーカルとベースが鳴り響く快作。ヒット・シングル「ワイルド・ワン」「悪魔とドライヴ」他を収録。		
	SUZI QUATRO	陶酔のアイドル		1974	ロック	CD	日本			
	SUZI QUATRO	クアトロ白書		1977	ロック	レコード	日本	ヒット・シングル「恋はどっきり」、エルヴィス・プレスリー「ハートブレイク・ホテル」のカバーを収録したスージー第4弾アルバム。アルバムの中では今一つの出来。		
	SVT			1980	ニューウェーブ	レコード	US	SVTの1980年にリリースされたデビューアルバム。当時4人組のパワーポップ。		
	SVT	ノー・リグレッツ		1981	ニューウェーブ	レコード	US	ヴォーカルのブライアン・マーネルが率いるスリーピースバンドSVTのセカンド・アルバム。西海岸出身のバンドで、このグループがイギリスであればこのアルバムは絶対売れたと確信できる内容で、とにかくカッコよくて最高のニュー・ウェーブサウンドが堪能できる魅力的な作品です。この2ndアルバムは表情に素晴らしい楽曲が多く、猛烈な勢いで演奏されていており、なぜもっと売れなかったのか不思議なぐらいのアルバムです。実はこのヴォーカルのブライアン・マーネルは、このアルバムをリリースした直後に亡くなってしまったことでした。ですのでグループは自然消滅してしまったのです。本当に惜しいバンドを亡くしましたし、このブライアン・マーネルの死はあまりにも早や過ぎて残念でなりません。	Side A 1. Bleeding Hearts4:51 2. Waiting For You2:53 3. Heart Of Stone3:00 4. No Regrets3:23 5. Money Street5:23	Side B 1. Love Blind2:52 2. North Beach3:07 3. What I Don't Like3:20 4. Secret2:44 5. Too Late5:07 6. You Don't Rock4:35
	SWEET	ライヴ・アンド・ベスト		1975	グラムロック	CD	日本	1975年発表。1973年12月21日にロンドンのレインボー・シアターで行なわれた熱狂のライヴの模様と、ヒット曲の「フォックス・オン・ザ・ラン」「ロックン・ロールに恋狂い」「ブロックバスター」を始めとするスタジオ・ティクを纏めた編集盤。「ミス・ディミナ」「バーン・オン・ザ・フレイム」「アイ・ワナ・ビー・コミットド」はオリジナル・アルバム未収録	1. ヘルレイザー (LIVE) 10. セット・ミー・フリー (LIVE) 3. ロックン・ロール・ディスグレイス (LIVE) 4. 恋の大募集 (LIVE) 5. ロング・オールライト (LIVE) 6. 愛してくれていいんだよ (LIVE) 7. 黄金の腕を持った男 (LIVE) 8. アクション	9. フォックス・オン・ザ・ラン 10. セット・ミー・フリー 11. ミス・ディミナ 12. ロックン・ロールに恋狂い 13. バーン・オン・ザ・フレイム 14. ソリッド・ゴールド・プラス 15. 初恋の16才 16. アイ・ワナ・ビー・コミットド 17. ブロックバスター

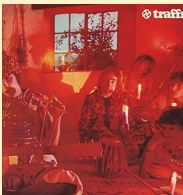
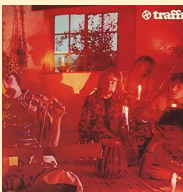
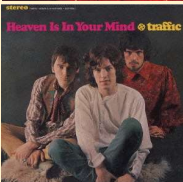
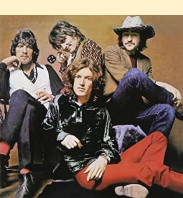
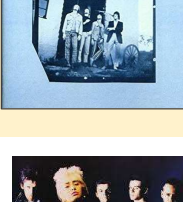
	SWEET	甘い誘惑		1976	グラムロック	レコード	日本	78年作。ポスト・グラム期に突如として変質したスウィートが放つた重要作。彼等は元々アイドル・グループとして売り出され、バブルガム・ポップ・バンドの代表格として一時人気を誇っていました。 スージー・クアトロ等、英国のポップ・シーンを演出してきたマイク・チャップマン&ニッキー・チンがスウィートを手掛けてきたが、本作から彼等の手を離れ、元々持っていたハード・ロッカーとしての資質を爆発させます。その最たるナンバーが「FOX ON THE RUN」であり、「ACTION」です。この2曲で存在感を見せつけ、見事再生、復活した。以降のHR/HMシーンに彼等が残した影響は計り知れないものがあり、カバーされた回数も数え切れず、デフレパード、スコピオンズ等々が取り上げてきました。華麗なコーラス、グラマラスなギターとヴィジュアル、シンセを加えたキラキラ・サウンドは、QUEENをも思わせながら、パワー・ポップ、ハード・ポップ、そしてグラム・ロックに通じる毒々しいとも言えるキャッチーさに溢れています。ド派手さとハード・ロックのダイナミズムをこうしたポップなセンスでまとめる手腕は、確かに80年代メタルがお手本としてきたのは納得できるどころ。パワー・バラード的な取り組み方もあり、こうしたいかがわしさと器用さこそが、まさに時代とマッチング、バンドの最大の個性に繋がっているのだと思います。 79年にリリースされた『SWELL MAPS』は全4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が変!)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから作曲をしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。バンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクといふことになるのだろうが、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。 曲作りは手癖なのか、時々あまり聴いたことがないようなメロディが出てくるし、ドタバタしたリズム隊を基調に、外れたヴォーカルとコーラス、長々続くギター・リフ、予測しにくい鍵盤などが絡んで、独得の変態的グルーヴを生み出している。 そして、6のようにピアノや効果音を使って、フランスのバスカル・コムレオみたいなミニマム・ミュージック風インストを入れたり、何やら単調で謎めいて暗く盛り上がりつつゆくナンバー(12)があったり、13なんか、まるでノイズ・ミュージックかインダストリアル、はたまたガレージ・プログレとしても言うべきサウンド。シングル群もまあともな曲は1曲もなく、一聴、シンプルなようで、変なことをいついかならずやってる感じがする。『SWELL MAPS』は全4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が変!)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから作曲をしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。バンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクといふことになるのだろうが、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。 曲作りは手癖なのか、時々あまり聴いたことがないようなメロディが出てくるし、ドタバタしたリズム隊を基調に、外れたヴォーカルとコーラス、長々続くギター・リフ、予測しにくい鍵盤などが絡んで、独得の変態的グルーヴを生み出している。	Side A 1. H.S.Art 2. Another Song 3. Vertical Slum 4. Spitfire Parade 5. Harmony In Your Bathroom 6. Don't Throw Ashtrays At Me! 7. Midget Submarines 8. Bridge Head (part nine) 9. Full Moon In My Pocket 10. BLAM !! 11. Full Moon (reprise) 12. Gunboats	Side B 13. Adventuring Into Basketry 14. My Lil' Shoppes' Round The Corner 15. LoIn Of The Surf 16. Doctor At Cake 17. Steven Does 18. Bronze And Baby Shoes 以下、CDボーナストラック 19. Read About Seymour 20. Ripped & Torn 21. Black Velvet 22. Dresden Style 23. Nothing Much / Mystery Track 24. Ammunition Train 25. Full Moon
	SWELL MAPS	ア・トリップ・トゥ・マリ ンヴィール		1979	パンク	CD	日本	79年にリリースされた『SWELL MAPS』は全4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が変!)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから作曲をしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。バンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクといふことになるのだろうが、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。 曲作りは手癖なのか、時々あまり聴いたことがないようなメロディが出てくるし、ドタバタしたリズム隊を基調に、外れたヴォーカルとコーラス、長々続くギター・リフ、予測しにくい鍵盤などが絡んで、独得の変態的グルーヴを生み出している。 そして、6のようにピアノや効果音を使って、フランスのバスカル・コムレオみたいなミニマム・ミュージック風インストを入れたり、何やら単調で謎めいて暗く盛り上がりつつゆくナンバー(12)があったり、13なんか、まるでノイズ・ミュージックかインダストリアル、はたまたガレージ・プログレとしても言うべきサウンド。シングル群もまあともな曲は1曲もなく、一聴、シンプルなようで、変なことをいついかならずやってる感じがする。『SWELL MAPS』は全4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が変!)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから作曲をしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。バンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクといふことになるのだろうが、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。 曲作りは手癖なのか、時々あまり聴いたことがないようなメロディが出てくるし、ドタバタしたリズム隊を基調に、外れたヴォーカルとコーラス、長々続くギター・リフ、予測しにくい鍵盤などが絡んで、独得の変態的グルーヴを生み出している。	Side A 1カメに捧ぐ詩 2むなしいう努力 3ラヴ・ユー 4見知らぬところ 5暗黒の世界 6ヒア・アイ・ゴー	Side B 7タコに捧ぐ詩 8金色の髪 9過ぎた恋 10寂しい女 11フィール 12フ・イツツ・イン・ユー 13夜もふけて
	SYD BARRETT	帽子が笑う。。。不気味に		1970年1月3日	プログレス	CD	日本	79年にリリースされた『SWELL MAPS』は全4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が変!)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから作曲をしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。バンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクといふことになるのだろうが、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。 曲作りは手癖なのか、時々あまり聴いたことがないようなメロディが出てくるし、ドタバタしたリズム隊を基調に、外れたヴォーカルとコーラス、長々続くギター・リフ、予測しにくい鍵盤などが絡んで、独得の変態的グルーヴを生み出している。 そして、6のようにピアノや効果音を使って、フランスのバスカル・コムレオみたいなミニマム・ミュージック風インストを入れたり、何やら単調で謎めいて暗く盛り上がりつつゆくナンバー(12)があったり、13なんか、まるでノイズ・ミュージックかインダストリアル、はたまたガレージ・プログレとしても言うべきサウンド。シングル群もまあともな曲は1曲もなく、一聴、シンプルなようで、変なことをいついかならずやってる感じがする。『SWELL MAPS』は全4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が変!)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから作曲をしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。バンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクといふことになるのだろうが、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。 曲作りは手癖なのか、時々あまり聴いたことがないようなメロディが出てくるし、ドタバタしたリズム隊を基調に、外れたヴォーカルとコーラス、長々続くギター・リフ、予測しにくい鍵盤などが絡んで、独得の変態的グルーヴを生み出している。	Side A 1ベイビー・レモネード - "Baby Lemonade" - 4:06 2 ラヴ・ソング - "Love Song" - 2:59 3 ドミノ - "Dominoes" - 4:03 4 あたりまえ - "It Is Obvious" - 2:54 5 ラット - "Rats" - 2:54 6 メイシー - "Maisie" - 2:46	Side B 1 ジゴロおばさん - "Gigolo Aunt" - 5:42 2 腕をゆらゆら - "Waving My Arms in the Air" - 2:07 3 嘘はいわなかった - "I Never Lied to You" - 1:47 4 夢のお食事 - "Wined and Dined" - 2:53 5 ウルフパック - "Wolfpack" - 3:41 6 興奮した象 - "Effervescing Elephant" - 1:50
	SYD BARRETT	その名はバレット		1970年11月14日	プログレス	レコード	日本	79年にリリースされた『SWELL MAPS』は全4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が変!)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから作曲をしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。バンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクといふことになるのだろうが、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。 曲作りは手癖なのか、時々あまり聴いたことがないようなメロディが出てくるし、ドタバタしたリズム隊を基調に、外れたヴォーカルとコーラス、長々続くギター・リフ、予測しにくい鍵盤などが絡んで、独得の変態的グルーヴを生み出している。 そして、6のようにピアノや効果音を使って、フランスのバスカル・コムレオみたいなミニマム・ミュージック風インストを入れたり、何やら単調で謎めいて暗く盛り上がりつつゆくナンバー(12)があったり、13なんか、まるでノイズ・ミュージックかインダストリアル、はたまたガレージ・プログレとしても言うべきサウンド。シングル群もまあともな曲は1曲もなく、一聴、シンプルなようで、変なことをいついかならずやってる感じがする。『SWELL MAPS』は全4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が変!)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから作曲をしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。バンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクといふことになるのだろうが、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。 曲作りは手癖なのか、時々		

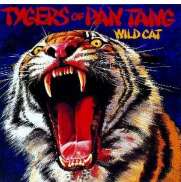
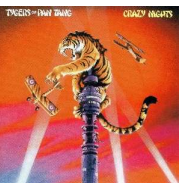
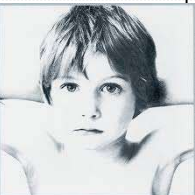
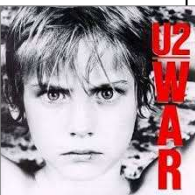
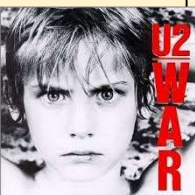
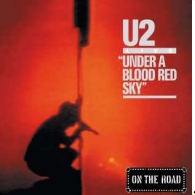
TALKING HEADS	リトル・クリチャーズ		1985年7月15日	ニューウェイブ	レコード	日本	トーキング・ヘッズが1985年に発表した第6作アルバム。本作品は前作までの先鋭的な楽曲が少なくのどかでのんびりとした牧歌的な楽曲が多く全体的にゆったりとした印象を受けます。(本アルバムのライナーノーツにはメンバーのJerry Harrisonが書いた『traditional songwriting』の記載あり。)中でも楽曲『Road To Nowhere』の出来は秀逸で分厚いハーモニーが素晴らしいです。Talking Headsを知らない人でも洋楽を聞かない人でも一度は耳にしたことがあるフレーズではないでしょうか？それ程有名な曲です。勿論他にもオープニングの『And She Was』等素晴らしい楽曲がありアルバム全体のクオリティも高いと思います。	Side A 1. アンド・シー・ワズ - And She Was (3:36) 2. ネーム - Give Me Back My Name (3:20) 3. クリーチャーズ・オブ・ラブ - Creatures Of Love (4:12) 4. レディー・ドント・マインド - The Lady Don't Mind (4:03)(トーキング・ヘッズ) 5. パーフェクト・ワールド - Perfect World (4:26)(トーキング・ヘッズ)	Side B 1. スティ・アップ・レイト - Stay Up Late (3:51) 2. ウォーク・ノット・ダウン - Walk It Down (4:42) 3. テレビジョン・マン - Television Man (6:10) 4. ロード・トゥ・ノーホエア - Road To Nowhere (4:19) ※特記の無いかぎり全てデヴィッド・バーンの作詞・作曲。
TASTE	ライヴ・テイスト		1971年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	1971年発表の3rd。。若きロリー・ギヤラガーの凄まじいギター・プレイを筆頭に、第2のクリームとうたわれた見事なパフォーマンスが収められている。グループ解散後に発表されたライヴ・アルバムで70年、スイスのモントルーでの録音。音質はまずまずといった印象で、ミックスはヴォーカルを全面に出したもので、次にギター、リズム隊といったちよっと片寄ったものとなっているが、そのおかげもあってギターのプレイは細部までしっかりと聞えており、アンプの鳴りまで聞えてきそうな生々しいものとなっている。好みもあろうが、実際のライヴでもこのような感じだったのであろう。ちなみに曲間はフェイド・アウト処理が行なわれている。 1. はエレクトリック・ギター一本による弾き語りによる導入部がまずは素晴らしい。途中から入ってくるリズム隊は思いっきりハズしている印象もなくはないが、それがかえって緊張感を生み出しており、ロリーのプレイが引き立っている。いわゆるブルース・ロックだが、型に嵌らない白熱のプレイはさすがに聞き応えがある。ヴォーカルもかなり熱い。2. はスライドで弾きまくるカントリー・ブルース路線の曲。演奏はやや荒いが、バックはベードラと客の手拍子のみというシンプルなもので、ギターの豊かな響きに聞き惚れる一曲。3. はブギー路線のブルース・ロック。リズム隊のミックスのせいもあってこの曲はやや迫力不足に感じられる。曲間にドラム・ソロも挿入されているが、露骨に途中をカットしているような部分もあり。 前作完成後にメンバーが脱退した事情と先のミックスの影響もあってリズム隊のプレイがかなりクールに聞こえるように思う。彼らを完全なバック・メンバーと描かれれば決して問題は無いが、<i>「テイスト」というグループの作品としては</i>	Side A 1. シュガー・ママ 2. キャンプリン・ブルース 3. フィール・ソー・グッド (パート1)	Side B 1. フィール・ソー・グッド (パート2) 2. キャット・フィッシュ 3. セイム・オールド・ストーリー
TASTE	ワイト島のテイスト(ロリーギヤラガー)		1972年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	72年発表の4作目。グループ解散後に発表されたライヴの第二弾で、70年のワイト島での演奏を収録している。全体的に音質はまずまずで先に発表されたライヴ盤『ライヴ・テイスト』と比べるとリズム隊の演奏もかなり前に出ており、ミックス的には良くなっていると思う。それでもあからさまにギターとヴォーカルのミックスが高いので、演奏そのものの迫力がやや削がれている気はしないでもない。ギターは自由奔放に弾きまくっており、さすがに聞き応えはあるが、ドラムスは叩き捲りではあるもののどこか冷めており、ベースに至っては時に白けているようにすら聞こえる程クールである。すでに解散が決定していたということもあるのだろうが、末期クリームとはまた違った“寒さ”が、聞き物と言えは聞き物だろう。ただし時に3人の演奏がハマる箇所もあり、トリオ編成という長所と短所が垣間見れる。聞き物は間違いなく9分超えの長尺演奏となった2. で、ほとんどソロとなった演奏に時折キメとしてリズム隊が加わる部分が鳥肌ものである。ラストの6. のギターとリズム隊が一体となったヘヴィな演奏も彼等の演奏の中でもベストのものの一つかと思う。	Side A 1. ホワッツ・ゴーイング・オン 2. シュガー・ママ 3. Morning Sun(朝の太陽) 4. スイナー・ボーイ	Side B 1. フィール・ソー・グッド 2. Catfish(なまず)
TASTE	ザ・ベスト・オブ・テイスト フューチャリング・ロリーギヤラガー		1994	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	US		1. Blister On The Moon3:24 2. Born On The Wrong Side Of Time3:58 3. Leavin' Blues4:14 4. Hail2:34 5. Same Old Story3:30 6. Catfish8:01 7. I'm Moving On2:28 8. What's Going On2:46	9. Railway And Gun3:36 10. Eat My Words3:44 11. On The Boards5:59 12. It's Happened Before, It'll Happen Again6:31 13. If The Day Was Any Longer2:07 14. I Feel So Good - Recorded Live7:36 15. Sugar Mama - Recorded Live8:09 16. Sinner Boy - Recorded Live5:40
TEARDROP EXPLODES	キリマンジャロ		1980	ニューウェイブ	レコード	UK			
TEARDROP EXPLODES	キリマンジャロ		1980	ニューウェイブ	レコード	US			
TEARS FOR FEARS	ザ・ハーテイング		1983	エレクトロニクス	レコード	UK			
TEARS FOR FEARS	シャウト		1985	エレクトロニクス	レコード	UK			
TEAZE	オン・ザ・ルース			テイチク	レコード	日本	78年作、カナディアン・ハードのB級バンドとして知られるティーズのセカンド・アルバム。当時はRUSHやTRIUMPHもカナダのHR/HMバンドとして紹介されていましたが、ここ日本ではアイドル的人気にあやかろうとしていた節があった。おそらく同時期にデビューし、日本で爆発的人気を得ていたチーフ・トリックの様な売り方をレコード会社が狙っていたのかもしれませんが、このティーズはかなりゴリゴリのハード・ロック・バンドであったと思います。若くルックスの揃った4人組で、プリティッシュ・ハードからの影響が強い正統派リフにポップなコーラス、バンド・サウンドはかなり荒々しいメタリックなエッジが強いもので、女の子人気よりはハード・ロック少年に好まれるべき豪快な音が個性となっています。AC/DCの育ての親とて言うべき、ヴァンダ&ヤングによるEasybeatsのカヴァー、「Gonna Have A Good Time Tonite」や、シングルともなったアルバム・タイトル曲の痛快さは確かに次世代のハード・ロック・バンドとしての元気の良さに溢れています。なかなか器用なソング・ライティング・センスも見逃せず、アコースティック調のナンバーでの人懐っこさ、「Baby Why Can't U」でのバブルガム・ポップ風メロディ等、ハード・ロックの楽しさを十分に伝えてくれます。十分キャッチーではあるのですが、良い意味での野暮ったさが残るのも当時のバンドの魅力だったりすると思いますが、このティーズが大ブレイクしなかったのもそれが原因だったのでしょうか。	Side A 1. Gonna Have a Good Time Tonite 3:41 2. Stay Here 3:45 3. Ready to Move 3:23 4. Sweet Misery 3:43 5. Never Again 2:58	Side B 1. On the Loose 3:18 2. Nobody's Fool 3:39 3. Baby Why Can't U3:34 4. Tonight It's Me 3:40 5. Lady Killer 3:28
TED NUGENT	閃光のハード・ロック		1975	ハードロック	レコード	日本	デトロイト出身のアメリカン・ハードロックのギタリストの重鎮、テッド・ニュージェント。“野獣ギタリスト”、“ゴンゾ”の異名を持ち、70年代にアメリカで大ヒットを連発。スケールの大きなアメリカン・ロックを展開。90年代初頭にはナイト・レンジャーのジャック・ブレイズ、スティックスのトニー・ショウ等とスーパー・バンド、ダム・ヤンキースを結成。いまだ新作もリリース。今作は1975年発表、ソロ・デビュー・アルバム。バンドメンバーはヴォーカルとギターのDerek St. Holmes、ベースのRob Grange、ドラムのCliff Davies。オープニングの「Stranglehold」は8分を超える大作。最高のギターソロを聴かせてくれる。		
TELEPHONE	革命児		1979	ニューウェーブ	レコード	日本			
TELVISION	マーキー・ムーン		1977年	パンク	レコード	日本	1973年にニューヨークにて結成されたアメリカ合衆国のパンクバンド。当時のNYパンクの代表格であるラモンズ、パティ・スミスと並ぶ、最重要バンドの一つ。傑作アルバムの評れが高いTelevisionの1stにしてロック史に輝く傑作。ヴェルヴェット・アンダーグラウンドを祖とするニューヨークのアンダーグラウンド・シーンを正統に受け継いだ伝説的バンドの、記念すべきメジャーデビューアルバムでもある。2本のギターが高いテンションを保ちながら絡みあい、聴く者の神経を逆なでするトム・ヴァーレーンのヴォーカル。70年代のニューヨークの姿を生々しく描いた歌詞。そのいずれもが、後世のギターバンドに多大な影響を与え続けている。NYパンクはUKパンクと比して知的で芸術的。麻薬のような不思議な魅力に満ちた中毒性の高い音楽リズムとトムヴァーレーンのヴォーカルが素晴らしいマッチしており、アルバムで全体感が素晴らしい。何度聞いても飽きるところか、どんどんハマってしまうアルバム。	1シュー・ノー・イーヴル 2ヴィーナス 3フリクション 4マーキー・ムーン 5エレヴェイション 6ライティング・ライト 7ブルー・ヴィット 8引き裂かれたカーテン	

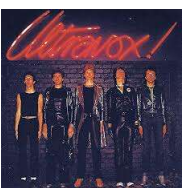
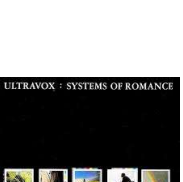
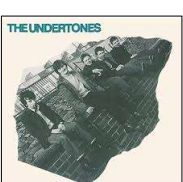
	TELEVISION	アドベンチャー		1978年	パンク	レコード	日本		
	TELEVISION	アドベンチャー		1978年	パンク	CD	日本		
	10CC	10CC		1973	ロック	レコード	日本	エリック・スチュアート、グレアム・グールドマン、ロル・クレーム、ケヴィン・ゴドレイによる10ccのファーストアルバム。ビートルズ、ビーチボーイズのバロディソングを筆頭に、ロルのメインボーカルによるコミカルな曲が多い。作曲もケヴィンとロルが中心の曲が多く、グレアムとエリックのコンビによる曲は「ヘッドライン・ハスラー」「船は夜消えるかい？」の2曲に留まっている。「ママにフレッシュ・エア」はホットレグスの「叩けよ、さらば開かれん」の後半部を再利用。また「スピード・キルズ」もホットレグスの時に作ったバックトラックをベースにしている。	Side A 1. ジョニー・ドント・イット 2. サンド・イン・マイ・フェイス 3. ドナ 4. ディーン・アンド・アイ 5. ヘッドライン・ハスラー Side B 1. スピード・キルズ 2. ラバー・ブレッツ 3. ホスピタル・ソング 4. 船は夜消えるかい? 5. 私のママからの新鮮な空気
	10CC	シート・ミュージック		1974	ロック	レコード	日本	ヒット曲「ウォール・ストリート・シャッフル」を収録した1974年リリースの10ccの2ndアルバム。軽快なポップ・ロックなサウンドにも10ccらしい凝った音作りが素晴らしい。10ccss・イントロ・イントロ前作のコミカルさが後退し、良質なポップ・ミュージックが全面に現れたアルバムとなっている。前作が事実上ケヴィン・ゴドレイとロル・クレーム主体（特に作曲面で）のアルバムだったことに、不満だったエリック・スチュアートが脱退をほのめかしたことから、今作では4人が様々な組み合わせで共作することとなり、それが良い効果を生み出している。アルバム制作中同時期にストロベリー・スタジオでは、ポール・マッカートニーとウィングスの面々が、ポールの弟、マイク・マクギアのアルバム「リーヴ・ウィット」を制作していて、朝11:00から夕方5:00までは10ccが、そのあと6:00から深夜まではポールたちがレコーディングを行うこととなったそうだ。ポールのレコーディング・アプローチの影響も、曲の良質さに繋がったとメンバーが後述し	Side A 1. ウォール・ストリート・シャッフル- 3:54 2. とってもイカしたイモ・バンド (The Worst Band in the World) - 2:49 3. ホテル- 4:54 4. オールド・ワイルド・メン (Old Wild Men) - 3:21 5. 時計じかけのクリープ (Clockwork Creep) - 2:46 Side B 1. 愚かな恋 シリリー・ラヴ- 4:01 2. ハリウッドのどこかで (Somewhere in Hollywood) - 6:39 3. セメティ男爵 (Baron Samedi) - 3:46 4. 睡ろうサクロイリアクを (The Sacro-Iliac) - 2:33 5. オー・エフエンディ (Oh Effendi) - 2:49
	10CC	オリジナル・サウンドトラック		1975	ロック	レコード	日本	“架空の映画のサウンドトラック”というコンセプトのもと、ポップとテクノロジーの融合を奔放なアイデアと抒情的なメロディで表現。正統派ポップ職人のスチュワート&グールドマンのポップ・センス、スタジオ職人のゴドレイ&クレームのテクノロジーが合体し、三次元的音像が広がる架空のサウンドトラックを作り上げた名作。三つのパートからなる1曲目の「バリの一夜」、それに続く大ヒット曲「アイム・ノット・イン・ラヴ」は、目を閉じて聴いていると映画のシーンが頭の中に浮かんでくるような錯覚さえてしまう。ちなみに8分間に及ぶミニ・オペラのコンセプト曲「バリの一夜」は、約半年後に発表されたクイーンの「ボヘミアン・ラプソディ」に少なからぬ影響を与えたハズである。10CCの頂点とも言える作品で、70年代のポップ・ミュージックを進化させたという意味においても重要な役割を果たしたアルバムといえる。不世出の名曲「アイム・ノット・イン・ラヴ」やスマッシュ・ヒットとなった「人生は野菜スープ」と共に、10ccの名を一躍トップの押し上げたサード・アルバム。	Side A 1. バリの一夜 - Une Nuit a Paris a/バリの夜のある夜 - Part 1 : One Night in Paris b同じその夜のバリ - Part 2 : The Same Night in Paris c夜がふけて - Part 3 : Later The Same Night in Paris 2. アイム・ノット・イン・ラヴ 3. ゆすり - Blackmail Side B 1. 2度目の最後の晩さん - The Second Sitting For The Last Supper 2. ブランド・ニュー・ディ 3. フライング・ジャンク 4. 人生は野菜スープ - Life Is a Minestrone 5. 我が愛のフィルム - The Film of My Love
	10CC	オリジナル・サウンドトラック		1975	ロック	CD	日本	1ニュー・ア・バリ、第1話バリの夜/第2話バリの同じ夜 2私は恋をしていない 3恐喝 4最後の晩餐のための第二の座り 5真新しい日 6フライングジャンク 7人生は野菜スープ 8私の愛のフィルム	以下、CDボーナストラック 9チャンネルスイマー 10グッドニュース
	10CC	びっくり電話		1976	ロック	CD	日本	76年発表の4作目。10ccは強引に分ければ、メロディメーカーのゴールドマン/スチュワート、技術屋のゴドレイ/クレームという形になるのだろうが、少なくともこの時期の彼らの構図はこのようになっていたと思う。このグループの魅力は曲が素晴らしいことはもちろんだが、実験的な要素も多分に含みつつ、それをうまく消化して曲の血や肉になっているところが、いわゆるプログレの連中と違うところだと思う。時に大作もあるものの、どの曲もポップスの範疇として楽しめる。それがこのグループの偉大なところだと思う。映画の導入部を思わせる1. からとろけるようなメロディの2. の流れは素晴らしいし3. 映画のシーンの切り替えのような場面展開の素晴らしいはこのグループの真骨頂だろう。派手な展開を見せる必殺の1曲の4. は何度聞いても身震いする。何ですばらしい曲なのだろう。前作を彷彿とさせるコーラス、テープの逆回転、と目紛しくサウンドが変化していく。5. あたりは少なからずザッパを感じさせる展開が激しい曲。6.は10cc流ハード・ロックとでも言うべき佳曲。7. は10ccにとっても珠玉の名曲と言ってもさしつかえのないヘヴィなロッカバラードの佳曲。スライド・ギターと泣きのメロディが素晴らしい。このアルバムを最後にゴドレイ/クレーム組は脱退（ギター・アタッチメントのギズモの改良のためだったとか）するため前衛性は薄れる。お互いの意地と妥協を加味した彼らの極限の作品と言えるだろう。	1/ハヴ・デア・ユー 2/レイジー・ウェイ 3/世界征服 4/タイム・マンデイ 5/水山 6/芸術こそ我が命
	TEN YEARS AFTER	テン・イヤーズ・アフター・ファースト		1967	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	ブリディッシュ・ロック史に残る元祖草弾きギタリスト、アルヴィン・リー率いるバンドのデビュー作。1960年代イギリスのブルース・ロック・シーンを作ったマイク・ヴァーノンのプロデュースで、クリームもカヴァーしたウィリー・ディクソン作の「スプーンフル」や、ソニー・ボーイ・ウィリアムソンの「ヘルプ・ミー」が白眉。1967年作品。	1. アイ・ワナント・トゥ・ノウ 02:11 2. 泣きたい心 05:24 3. 若者の冒険 02:34 4. スプーンフル 06:05 5. ルー징・ザ・ダッグス 03:03 6. フィール・イット・フォー・ミー 02:40 7. 死ぬまでの愛 02:06 8. ドント・ウォント・ユー・ウーマン 02:36 9. ヘルプ・ミー 09:51
	TEN YEARS AFTER	ジ・エッセンシャル・テン・イヤーズ・アフター・コレクション			ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本	アルビン・リーを中心としたプログレッシヴ・ロック&ブルース・バンド、テン・イヤーズ・アフターの、イギリス編集によるベスト・アルバム。「ロックン・ロール・トゥ・ザ・ワールド」「アイム・ゴーイング・ホーム」他、全14曲を収録。	1. ロックン・ロール・ミュージック・トゥ・ザ・ワールド 2. チェンジ・ザ・ワールド 3. アイム・ゴーイング・ホーム(Live) 4. チュー・チュー・ママ 5. トゥモロウ・アイル・ビー・アウト・オブ・タウン 6. 夜明けのない朝 7. ミー・アンド・マイ・ペイビー
	TEN YEARS AFTER	夜明けのない朝		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	69年発表の4作目。初のシンглが「セヴン・ドゥ・ユー・ノウ」を含む作品。ブルースをベースとした渾身のハード・ロックを聞かせるアルバムだが、1. のようにテンポ・チェンジや場面展開を折り込んだプログレッシヴな曲も含まれる。2. はドプロをフューチャーした前作とは打って変わったアーシーな曲。3. はDr. フィールグッドあたりに通じるブルース・ロック。4. もブルースをベースにしたハード・ロック。太いベース・サウンドが気持ちいい。長尺なギター・ソロは時代の産物だがかなり聞き応えあり。5. は何とカントリー風のバラードだ。ちなみにヒットした8. もクソ・ブルースなハード・ロック。熱い。前作にあったジャズっぽさや洗練された雰囲気は完全になくなって、まるで別のグループにでもなったような印象を受けるものの、ジュシー・フルソフやDr. フィールグッド、そして多くのサザン系ロック・グループに似たこの雰囲気も十分に味わい深い。イギリスのグループではあるものの、アメリカン・ロックの	1. Bang, Bang (My Baby Shot Me Down) (S.Bono) 2. Tinker Taylor (T.Reid) 3. Erica (T.Reid) 4. Without Expression (T.Reid) 5. Sweater (T.Reid) 6. Something'S Gotten Hold Of My Heart (R.Greenaway/R.Cooke) 7. Season Of The Witch (D.Leitch) 8. Writing On The Wall (T.Reid)/Summertime Blues(E.Cochran/J.Cochran) 9. Infected 10. Out Of The Blue (Into The Fire) 11. Heartland 12. Angels Of Deception 13. Sweet Bird Of Truth 14. Slow Train To Dawn 15. Twilight Of A Champion 16. The Mercy Beat
	TERRY BLAIR & ANOUCHKA	ウルトラ・モダンな子守歌		1989	ニューウェイブ	レコード	UK	スペシャルズのテリー・ホールの3度目のグループのファーストアルバム。後にヒップ・ホップ・トリオU3のメンバーで活躍するブレア・ブースと、ファインアートを学ぶ大学生だったヌー・シュカー・グロースの3人で結成したユニットによる唯一のアルバム。60'sポップスの語法を素直に再利用した爽やかなメロディーとサウンドはカラー・フィールド以上にポップだ。ホールの歌に女性コーラスが絡むスタイルもい。テリー・ホールのそれまでのキャリアの中で最も明るいタッチの楽曲が並ぶ。カラー・フィールドで試みたMOR〜AOR路線がより徹底され、英国らしい驚りと温かみのある素晴らしいポップスとして達成されている。正直なぜ商業的に成功しなかったのか不可解なほどの完成度。	1. Ultra Modern Nursery Rhyme 4:05 2. Missing 4:40 3. Fishbones And Scaredy Cats 4:26 4. Lucky In Luv' 3:39 5. Day Like Today 3:17
	TERRY REID			1968	ハードロック	レコード	US	独自の音楽を追及した。代わりにロバート・プラントを推薦したと言われ、その後プラントを加入させレッド・ツェッペリンと名前を変えて世界的な成功を収める。そのテリー・リードの68年発表のデビュー作で、ボーカルは勿論、ソングライターやギタリストとしての才能も遺憾なく発揮されています。同時代のステイヴ・マリOTTを彷彿させる音域の限界に挑むような高音を駆使した唱法は聞く者の耳を捕らえて離しません。ハードな曲もフォーキーな曲(ドノヴァンのカバーも素晴らしい)も柔軟に歌いこなす実力は、もしセツプに加入してたら…という夢想をやっぱり抱いてしまいますが、しかし、才能がありながらマネージメント(か)の有名人(か)と絡む中心人物(か)の不利により、好機を逸して次第に成功の道から外れていく。その結果、音楽界最後の良心」とまで言われ、デビュー以来数十年間、世間の風評や音楽産業界を極力まで無視し、リーダー、マット・ジョンソンの作りたい音楽だけを発表して現在まで到的稀有の存在。	01. Bang, Bang (My Baby Shot Me Down) (S.Bono) 02. Tinker Taylor (T.Reid) 03. Erica (T.Reid) 04. Without Expression (T.Reid) 05. Sweater (T.Reid) 06. Something'S Gotten Hold Of My Heart (R.Greenaway/R.Cooke) 07. Season Of The Witch (D.Leitch) 08. Writing On The Wall (T.Reid)/Summertime Blues(E.Cochran/J.Cochran) 09. Infected 10. Out Of The Blue (Into The Fire) 11. Heartland 12. Angels Of Deception 13. Sweet Bird Of Truth 14. Slow Train To Dawn 15. Twilight Of A Champion 16. The Mercy Beat
	THE	インフェクテッド		1986	ニューウェーブ	CD	US	1曲目の「Infected」のメタル・パーカッションに強靱なファンクは、今でも新鮮です。当時は踊り狂ったと言って過言ではありませんでした。苦勞して音を積み重ねているのに、圧倒的スピード感です。ほかの曲もインディだった頃とは比較になりません。彼は皮肉のきいた歌詞に特徴がある、と言われるのです。歌詞そのものを判るわけでもない極東人にはこれぐらい音を仕上げてもらって初めて親しめたような気がします。4曲目「Angels of Deception」の盛り上がりにも感動します。ファンクだけでなく、ジャズ的なアレンジ、女声コーラスも加わってゴー・ジャズ。マット・ジョンソンのボーカルも、よいです。また、スライム・エクス・スライム・エクス・スライムの3曲目の	1. Do You Believe In The West World5:15 2. Judgement Hymn5:24 3. 3632:51 4. Love Is A Ghost3:30 5. The Wake4:17
	THEATRE OF HATE	ウエスト・ワールド		1982	ニューウェイブ	レコード	日本	クラッシュのミック・ジョーンズがプロデュースしたグループ。UKポストパンク黎明期を代表するバンドのひとつであり、Kirk Brandonの鋭いボーカルと政治的・文学的世界観が濃縮された評価の高いアルバムUK17位。彼らの最大のヒット曲はこれDo You Believe In The Westworld? インディ1位、UKナショナルで40位	B1Conquistador3:00 B2The New Trail Of Tears2:48 B3Freaks3:46 B4Anniversary5:21 B5The Klan

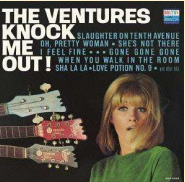
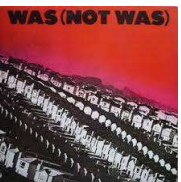
	THEM (VAN MORRISON)	ストーリー・オブ・ゼム・フィーチャリング・グ・ヴァン・モリソン			ヴリティッシュビート	CD	日本	ブリティッシュ・インベイジョンを担った英国のバンドがほとんど再結成したのに対し、ゼムは一度も再結成することはなかった。少なくとも2つの理由が考えられる。リードボーカルのバン・モリソンがソロとしてあまりにも有名になり、ゼムのバンドリーダーだったことが忘れ去られているから。もう1つは、ゼムのメンバーは固定していなかったため、どの時期のラインアップで再結成すべきかわからないからである。ペルファストを拠点としたこのバンドは常に流動的だったが、それでも当時画期的であったアメリカ以外のリズム＆ブルース・バンドの元祖として、アニマルズやローリングストーンズと肩を並べる存在だったのである。 本作は短命だった彼らの完全な記録。ディスク2枚分に50もの名曲がズラリ。「Stormy Monday」「Turn on Your Lovelight」「I Got a Woman」といったR&Bの定番に加え、モリソンがソロになってからしばらくライヴのレパートリーにしていたオリジナル「Gloria」や「Mystic Eyes」まで。さらに注目はジミー・ヘイジのギターソロをフィーチャーしたバフフルなヴァージョンの「Baby Please Don't Go」、ポップ・ディランの「It's All Over Now, Baby Blue」の斬新なカヴァー（ベックのファンは『Odelay』で使われたサンプルを思い出すだろう）、そしてポール・サイモンの「Richard Cory」など。モリソンのソロの作品もすごいが、彼がまだ堅い出し、のロカールだった頃の栄光もまた注目すべきだ。 75年作、シン・リジィの通産5作目となったアルバムで、以降の彼等の個性を確立した転機作です。 スコット・ゴーフ、ブライアン・ロバートソンという二人のギタリストのツイン・リードにより、フィル・ライノットの表現力の幅が大きく広がったのだと思います。オープニングはバンドのライヴの重要なレパートリーとなったポップ・シーガーのカヴァー、「ロザリー」。 この選曲はブリティッシュ・ハードの歴史の中でも、シン・リジィ程柔軟なセンスを持ったバンドはいなかった、という良い例だと思います。哀愁ギターと疾走するメロディライン、フィルの独特の歌い回しが唯一無比の個性となり、シン・リジィがいよいよ黄金期を迎えようとする勢いが感じられる1枚です。	1ストーリー・オブ・ゼム パート1&2 2ドント・スタート・クライング・ナウ 3グローリア 4フィロソフィー 5ワントゥ・ブラウン・アイズ 6ベビー・プリーズ・ドント・ゴー 7ヒア・カムズ・ザ・ナイト 8オール・フォー・マイセルフ 9ワントゥ・タイム(シングル・ヴァージョン) 10リトル・ガール 11アイ・ゲイヴ・マイ・ラヴ・ア・ダイヤモンド 12ゴーン・ホーム・ベビー 13マイ・リトル・ベビー 14ミスティック・アイズ 15ドント・ルック・バック 16二人の恋の歌 17アイ・ライク・イット・ライク・ザット 18黒い影の男・ヴァージョン1 19ルート66	11ハロー・ジョセフィン 12ドン・ユー・ノウ 13ヘイ・ガール 14プリンク・ゼム・オン・イン 15タイムズ・ゲッティン・タフアー・ザン・ソート 16ストーミー・マンディ 17フライデイズ・チャイルド 18リチャード・コリー(ヴァージョン1) 19マイ・ロンリー・サッド・アイズ 20アイ・キャン・オンリー・ギヴ・ユー・エヴリシング 21グッド・ユーウッド・ユー 22プリンク・ゼム・オン・イン(USモノ・ヴァージョン・オルタネイト・ヴァージョン) 23リチャード・コリー(ヴァージョン2) 24コール・マイ・ネーム(シングル・
	THIN LIZZY	ファイティング!!		1975	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本			
	THIN LIZZY	脱獄		1976	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本			
	THIN LIZZY	ライヴ・アンド・デンジャラス		1978	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
	THIN LIZZY	ブラック・ローズ		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	UK			
	THIRD WORLD	サード・ワールド		1976年	レゲエ	レコード	US		Side A 1. Satta Amassa Gana 2. Kumina 3. Slavery Days 4. Brand New Beggar	Side B 1. Cross Reference 2. Got To Get Along 3. Sun Won't Shine 4. Freedom Song
	THIRD WORLD	エチオピアへの道		1978年	レゲエ	レコード	US		Side A 1. One Cold Vibe (Couldn't Stop Dis Ya Boogie) 2. Cold Sweat 3. Cool Meditation 4. African Woman	Side B 1. Now That We've Found Love 2. Journey To Addis 3. Fret Not Thyself 4. Rejoice
	THIRD WORLD	ラヴ・アイランド		1982年	レゲエ	レコード	日本		Side A 1. ラブ・アイランド 2. ライド・オン 3. プレイング・アス・トゥー・クロース 4. カリビアン・ラブソディ	Side B 1. ムービング・アップ 2. ユーブ・ガット・ザ・パワー 3. イン・ア・タイム・ライク・ジス 4. ウェイク・アップ・クライン 5. ジャミン
	38SPECIAL	スペシャル・フォーシズ			アメリカンロック	レコード	日本		Side A 1. 想い焦がれて 2. バック・ドア・ストレンジャー 3. バック・オン・ザ・トラック 4. チェイン・ライトニン	Side B 1. ラフ・ハウジン 2. ユー・キープ・ランニン・アウェイ 3. プレイキン・ルース 4. テイク・エム・アウト 5. ファイアスタータ
	13TH FLOOR ELEVATORS	ザ・サイケデリック・サ운ズ・オブ		1966	サイケデリック	レコード	UK		01. YOU'RE GONNA MISS ME 02. ROLLER COASTER 03. SPLASH 1 04. REVERBERATION 05. DON'T FALL DOWN 06. FIRE ENGINE	07. THRU THE RHYTHM 08. YOU DON'T KNOW (HOW YOUNG YOU ARE) 09. KINGDOM OF HEAVEN (IS WITHIN YOU) 10. MONKEY ISLAND 11. TRIED TO HIDE
	14th FLOOR ELEVATORS	シークレット・マスターズ・コレクション Vol.1 〜ライブ・イン・ヒューストン67		1997	サイケデリック	レコード	日本		1. Levitation 2. Roller Coaster 3. Fire Engine 4. Reverberation 5. Don't Fall Down 6. Tried To Hide	7. Splash 1 8. You're Gonna Miss Me 9. Monkey Island 10. Kingdom Of Heaven 11. She Lives (In A Time Of Her Own)
	The Three Degrees	世界の恋人		1975	ソウル	レコード	日本		Side A 1. 涙でさようなら 2. 恋はシャンソン 3. 私は片想ひ 4. 一人ぼっちの夜 5. 愛の夢 6. 遠い恋人	Side B 1. 恋人達の季節 2. にかい涙 3. 二人でデート 4. 天使のささやき 5. 愛のコーヒーマップ 6. ミッドナイト・トレイン
	THREE DOG NIGHT	ハーモニー		1971年	ロック	レコード	US		Side A 1. Never Been To Spain 2. My Impersonal Life 3. An Old Fashioned Love Song 4. Never Dreamed You'd Leave Me In Summer	Side B 1. Jam 2. You 3. Night In The City 4. Murder In My Heart For The Judge 5. The Family Of Man 6. Intro-Poem: Mistakes And Illusions/Peace Of Mind
	THREE DOG NIGHT	セブン・セパレート・フルズ		1972	ロック	レコード	US			

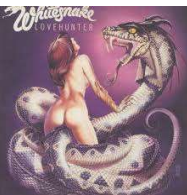
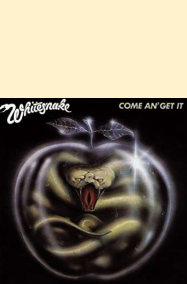
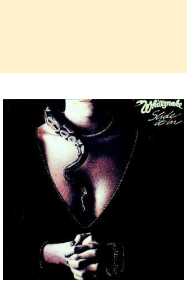
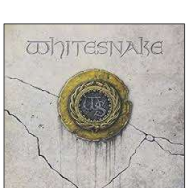
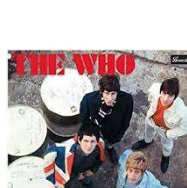
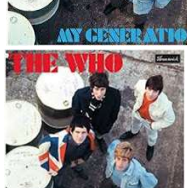
	TOM WAITS	ハートアタック・アンド・ヴァイン		1980年	ロック	レコード		品。当時の恋人(のちに妻になる)のキャサリン・ブレナンに捧げた曲なども収録。 時代によって作品の雰囲気が大きく変わる人ですが、最初期のシンガーソングライタースタイル、次の酔いどれ詩人風スタイル、ジャズ/映画音楽風を経て、最も普通のロックが聴けるのがこのアルバムかと思います。1曲目のHeartattack and VineからStones風といっても良いくらい。そしてDowntown、最も有名なJersey Girlと、なんのひねりもないストレートなロックが聞けます。アサイラム最後、31歳の時の作品。この後、Sordishtromboneから始まるアイルランドの実験作品群に続いていくわけですが、もう少しだけ、このロック路線も聞きたかった。Tomの長い歴史の中で、長くは続かない作風の時代。こういうストレートなロックが嫌いなのか。やろうとすればできるんだぜ、みたいな意地なのか。いや、ホントは好きなんだけど、あえてひねくれたフリなのか。最初期のシンガーソングライターから、このロックにはとても素直につながるんだだけだね。アバンギャルドの帝王のようになってしまっただけは聴けなくなりました、くり返し聴ける名曲が多い、これも名盤です。	1Heartattack And Vine 2In Shades 3Saving All My Love For You 4Downtown 5Jersey Girl 6Til The Money Runs Out 7On The Nickel 8Mr. Siegal 9Ruby's Arms	
	TOM ROBINSON BAND	パワーインザダークネス			パンク	レコード	日本			
	TOM ROBINSON BAND	パワーインザダークネス			パンク	レコード	UK			
	TOM ROBINSON BAND	TRB 2			パンク	レコード	日本			
	TOM ROBINSON BAND	TRB 2			パンク	レコード	日本			
	TOYAH	ブルー・ミーニング		1980年	ニューウェーブ	レコード	日本	1980年発表の2ndアルバム。Robert Frippの妻。アヴァンギャルドなニューウェーブ・サウンドをより発展させた作品。同時期のニュー・ロマンティック/ポスト・パンクに本人の変幻自在のヴォーカルを融合させた前作の路線を踏襲しつつ、本人の音楽性の進化と精力的な活動を受けた歌唱力/バンド・アンサンブルの向上により楽曲/サウンドが飛躍的にレベル・アップ。以降の80年代期作品に継承されていく、本人のエキセントリックな美意識とアヴァンギャルドなニューウェーブの魅力はそのままだに、よりオーヴァーグラウンドなスタイル/サウンドを確立した過渡期の秀作。	Said A 1. イエヤ 2. スベイスト・ラーキング 3. 私のまぼろし 4. メキシコのミイラ 5. ブルー・ミーニング	Said B 1. タイガー・タイガー 2. ヴィジョン 3. インセクツ 4. ラブ・ミー 5. 彼女
	TOURISTS	ツーリスト			ニューウェイブ	レコード	日本			
	TOURISTS	リアリティー・エフェクト			ニューウェイブ	レコード	US			
	TOY DOLLS	シングلز83〜84		1985	パンク	レコード	UK	大ヒット曲「ネリーさんだ象」でお馴染み、トイ・ドールズのレアな初期3枚のシングル「Cheerio & Toodle' Pip」「Alfie From The Bronx」「We're Mad」をコンパイルした7曲入りミニアルバム。	Side A 1. Cheerio & Toodle Pip 2. H.O! 3. Alfie From The Bronx	Side B 1. Hanky Panky 2. We're Mad 3. Rupert The Bear 4. Deirdre's A Slag
	TOY DOLLS	ふぁっと・ボブ・ふいと		1991	パンク	CD	日本	トイ・ドールズの91年のアルバム。ふとっちょボブの靴下と靴に捧げられたトイ・ドールズのアルバム。	01. トイ・ドール・トリック 02. ファット・ボブ・ス・フィード! 03. タイ・グワイ・サ・カハリー 04. スフィンクス・スティンクス 05. ロッド・ニース・メモリー 06. オルガ・クラック・コン 07. ヒッドン・ハイ・ア・ハッド・バグ!	08. キッス・イン・タイン・アンド・ウェア 09. フランキーズ・ガット・ザ・ブルース 10. ハンク・オー・フェアリーズ 11. イエロー・ハート 12. バック・イン'79 13. コッパーズ・コブ・ケンズ・キャッシュ! 14. トイ・ドール・トリック 15. タートル・クレイジー!
	TRACEY THORN	遠い渚		1984年	ポップス	レコード	日本	エブリシング・バット・ザ・ガール結成以前、マリン・ガールズの一員として活動する傍ら、弱冠20歳の現役女子大生であった彼女が発表した唯一のソロ作品。ボサノバやジャズを取り入れながらも、素朴でフォーキーなサウンドを展開する本作は、シンプルだからこそ普遍的煌きを今も放っている。歴史的にみて革命的な作品だが、内容はトレイシー・ソーンによる淡々としたギター弾き語り作品。60年代サイケや70年代のフォークとも全く異なる視座の、実に冷めた内省的な印象の作品である。音楽史のすみっこでキラリと光る名盤。	Side A 1. スモール・タウン・ガール 2. シンプリ〜クドゥント・ケア 3. シースケープ 4. ファム・ファタル'宿命の女 5. ドリーミー	Side B 1. ブレーン・セイリング 2. ニュー・オーブンド・アイズ 3. トゥー・ハッピー 4. ナイト&デイ 5. オン・マイ・マインド
	TRACEY ULLMAN	夢見るトレイシー		1984	ポップス	レコード	日本	16歳の時にベルリンでミュージカルデビューし、その後ロンドンで様々なミュージカルに出演、BBCのテレビシリーズにも出演。舞台・テレビで数々の賞を受賞している。 1980年代にはアメリカに渡り、1980年代には歌手としても活動し、シングル「夢見るトレイシー」カースティ・マッコール 『They Don't Know』のカヴァー曲は全米8位になった。1987年よりトークショー『トレイシー・ウルマンショー』の司会を務めて人気を確たるものとした。またドラマ『アリー・myラブ』ではアリーのセラピストとして出演し、エミー賞を受賞した。	1. Breakaway 2. Long Live Love(愛はいつまでも) 3. Shattered 4. Oh What a Night(今夜は最高!) 5. Life is a Rock but the Radio Rolled Me (ラジオでロックンロール)	6. Move Over Darling 7. Bobby's Girl(ボビーに言っただけ) 8. They Don't Know 9. (I'm Always Touched By Your) Presence Dear(浮気な彼氏) 10. You Broke My Heart in 17 Places 11. I Close My Eyes and Count to Ten(瞳を開けてワン・ツー・スリー)
	TRACEY ULLMAN	セカンドアルバム		1985	ポップス	レコード	日本	英国出身の人気コメディアン、トレイシー・ウルマンの2ndアルバム。前作に引き続き名門Stiff Recordsからリリースのヒット曲「Sunglasses」「Helpless」「You Caught Me Out」やコニー・フランシスのカバー「Where The Boys Are」を含む、ニューウェーブも取り入れてバラエティ豊かになった全12曲収録。	Side A 1. You Caught Me Out 涙のステップ・ダンス 2. Little By Little リトル・ビ・リトル 3. Baby I Lied あなたを見つめて 4. Terry テリー 5. Bad Motorcycle ロックン・ロール・モーターサイクル 6. Loving You is Easy ラビング・ユー	Side B 1. Sunglasses 想いのサングラス 2. If I Had You あなたのそばに 3. Helpless ヘルペレス 4. Where the Boys Are ボーイ・ハント 5. Give Him a Great Big Kiss キスはやさしく 6. I Know What Boys Like 男の子のように
	TRAFFIC	ミスター・ファンタジー		1967	ロック	レコード	US	ズベンザニー・デイヴィス・グループのヴォーカルとしてアメリカでの成功もつがもうとしていた絶頂期の67年にグループを脱退後、・デイヴ・メイソン(ギター)、ジム・キャババルディ(ドラム)、クリス・ウッド(フルート/サクソス)とトラフィックを結成し、67年アイルランド社からデビュー・アルバム「ミスター・ファンタジー」を発表。音楽的には実験的要素が強くシタール、フルート、メロトロン、オルガン等を使用したサイケデリック・ロック。インド音楽風、同時期のザ・ビートルズ(The Beatles)に影響されたカラフルなサイケデリック・ポップ、ブルース・ロック、ジャズ・ロックなど多彩なスタイルでバラエティーに富んでいます。内容としてはギターの音色が美しくトラディショナル風な楽曲『No Name, No Face, No Number』、インド音楽でシタールの音色が心地良い『Utterly Simple』、シングルなロック調の『Coloured Rain』が系譜全米16位のヒット曲と	Side A 1. ヘヴン・イズ・イン・ユア・マインド 4:17 2. バークシャー・ボビーズ 2:55 3. ハウス・フォー・エヴリワン 2:02 4. ノーフェイス、ノーネーム、ノーナンバー 3:31 5. ディア・ミスター・ファンタジー 5:33 6. ディーラー 3:10	Side B 1. アッター〜シンブル 3:17 2. カラード・レイン 2:41 3. ホーブ・アイ・ネヴァー・ファインド・ミー・ゼア 2:07 4. ギヴィング・トゥ・ユー 4:18

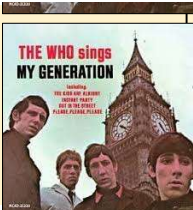
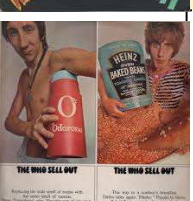
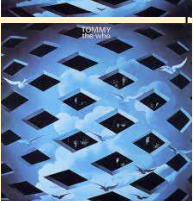
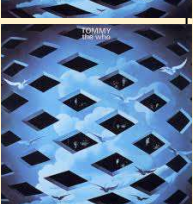
TRAFFIC	ミスター・ファンタジー (デジタルリマスター、 ペーパースリーブ仕様)		1967	ロック	CD	日本			
TRAFFIC	ミスター・ファンタジー		1967	ロック	CD	日本			
TRAFFIC	ヘヴン・イズ・イン・ユ ア・マインド		1967	ロック	CD	日本	トラフィックのアメリカ編集の1stアルバム。イギリス編集盤とは曲順が異なり、ヒット・シングル「ペーパー・サン」を中心にアメリカで編集されたトラフィックのファースト・アルバムは、タイトルも内容も英国盤とは異なっていた一枚。脱退したデイヴ・メイソンを除いた3人での写真がジャケットに使用されている。セカンドプレス以降はタイトルが英米で統一されたが、これは初回盤での復刻。	1.ペーパー・サン 03:27 2.ディーラー 03:13 3.カロード・レイン 02:47 4.ホール・イン・マイ・シュー 03:04 5.ノー・フェイス、ノー・ネーム、ノー・ナンバー 03:38 6.ヘヴン・イズ・イン・ユア・マインド 04:22 7.ハウス・フォー・エヴリワン 02:06 8.パークシャー・ホビーズ 02:59 9.ギヴィング・トゥ・ユー 04:18 10.スマイリング・フェイス 02:45 11.ディア・ミスター・ファンタジー 05:33 12.ウィーアー・ア・フェイド、ユー・ミスト・ディス 53 13.アッテリー・シンプル <BONUS TRACK> 03:17 14.ホープ・アイ・ネヴァー・ファインド・ミー・ゼア <BONUS TRACK> 02:09 15.茂みの中の欲望 <BONUS TRACK> 02:38	
TRAFFIC	トラフィック (デジタルリマスター、 ペーパースリーブ仕様)			ロック	CD	日本	脱退したデイヴが復帰した1968年発表の、最高傑作と名高い2ndアルバム。全英アルバムチャートで9位、全米ビルボード200で17位を記録。スティーヴ、デイヴ、クリス・ウッド、ジム・キャパルディの異なる個性が絶妙にブレンドされ調和している様は圧巻だ。デイヴ・メイソンは1作目のアルバムの発売直後にバンドを脱退していたが、本アルバムのレコーディング中に短期間再加入しての録音。 デビューアルバム『Mr. Fantasy』（1967年）はサイケデリック・ロック色が強い音だったが、本作はブルースロック、フォークロック、カントリーロック、ソウル、ジャズ的なインプロヴィゼーション、サイケデリック・ロックなどの要素が混在している。本作はデイヴ・メイソン作のキャッチーなフォークロック曲とメイソンを除くメンバー3人によるソウル／ジャズ寄りの曲とに分かれているが、どちらの楽曲も素晴らしい。本作の特徴はデイヴ・メイソンの際立つ個性だろう。Steveと相対するような柔らかなで暖かいトーンのヴォーカル、アコースティックギター（何故かエレクトリックギターをほとんど弾いていない）やハーモニカが横溢する。シンプルでとらえどころのない不思議なソングライティングも見事。シングルとして発売されたデイヴ・メイソン作の「Feelin' Alright?」は、ジョー・コッカーやスリー・ドッグ・ナイトがカバーした有名なフォークロック曲。	1.ユー・キャン・オール・ジョイン・イン 2.バーリー・クイーン 3.ドント・ビー・ザッド 4.フー・ノウズ・ホワット・トゥモロウ・メイ・プリンク 5.フィーリン・オールライト 6.ウェガボンド・ヴァージン 7.フォーティ・サウザンド・ヘッドメン 8.クライン・トゥ・ビー・ハード 9.ノー・タイム・トゥ・リヴ 10.ミーンズ・トゥ・アン・エンド	
TRAFFIC	トラフィック			ロック	CD	日本			
TRAFFIC	ラスト・エグジット		1969	ロック	レコード	US	オリジナル・トラフィック解散後に発表された3作目は、ファンからの人気が高い「メディケイテッド・グー」他シングル曲や、フィルモア・ウエストでのライブなどで構成された作品。1969年発表。	Side A 1. ジャスト・フォー・ユー 2. シャンハイ・ヌードル・ファクトリー 3.サムシング・ゴット・ア・ホールド・オブ・マイトウ 4. ウィザリング・トゥリー 5. メディケイテッド・グー Side B 1. フィーリン・グッド 2. ブラインド・マン	
TRAFFIC	ジョン・バーレイコー ン・マスト・ダイ		1970年	ロック	CD	日本	1970年リリース。トラフィックの4枚目のアルバム。英ドラッドの音り漂うタイトル曲ほか、ウィンウッドの天才が遺憾なく発揮された1枚。シンプルかつファンキー＆ジャジーな名盤。 結成してすぐにメンバーの脱退などが相次ぎ、一時期は3人編成でライブを行なうほどになっていたトラフィックは解散。スティーヴはソロ第一弾としてこのアルバムを製作するが、そこにクリスとジムが合流しトラフィック再編のアルバムとして発表するにいたった。従って実質的にはスティーヴのソロ・アルバムなのだが、力のこもったクリスとジムの演奏を聴くとトラフィックのアルバムとして発表した理由が伝わってくる。 1. はアーシーなインスト曲で、このアルバムの雰囲気を決定している。2. も同じ雰囲気の曲だが、スティーヴの悲し気なヴォーカルとクリスのサクソックスとフルートが素晴らしい。3. はスティーヴのオルガンが大活躍するなかなかの佳曲。4. はピアノが大活躍する軽快な曲。バック・コーラスとの掛け合いが心を打つ。5. はフォーク・タッチの曲6. は感動的なメロディを持ったバラード。スティーヴはソロ作のラストに同じような素晴らしいスロー・ナンバーを配する事を長く続けることとなるが、そのパターンを確率したのもこのアルバムだった。このアルバムはトラフィックの代表作の一つだが、スティーヴが後に発表するソロ第一弾「STEVE WINWOOD」とかなり近い。やはりソロではどうしてもこの作風を具体化したかったのだろう。しかしそのソロ作よりもこちらの方が覇気があるのは、グループとしての楽しさをこのアルバムで再確認したためだと思う。全体的に乾いた質感を持った英国らしからぬ印象があるものの、なぜだかアメリカンをほとんど感じさせない不思議なアルバムである。スティーヴの曲作りの妙なのかもしれない。	1.グラッド 2.フリーダム・ライダー 3.エンプティ・ページズ 4.アイ・ジャスト・ウオント・トゥ・ノウ（ボーナストラック） 5.ストレンジャー・トゥ・ヒムセルフ 6.ジョン・バーレイコーン	
TRAFFIC	ウェルカム・トゥ・ザ・ キャンティーン		1971	ロック	レコード	日本	71年発表の5作目。1971年7月に行なわれた新生トラフィックのイギリスでのライブの様相を収録した作品。ジャケットにはグループ名の代わりに演奏に参加した七人の名前を表記。デイヴ・メイソンが復帰しリック・グレッチが参加したアルバム。前作の3人に元プラインド・フェイスのリック・グレッチ(b)、元デレク・アンド・ドミスのジム・ゴードン(dr)、リーポップ・クアクバー(per)、そしてアメリカに移住したデイヴ・メイソン(vo, g) が一時復帰した編成でのライブ盤。大所帯トラフィックのお披露目ライブ作といった感じだろうか？ただし内容はデイヴの1stソロからの2. と4. スティーヴが参加していたスペンサー・デイヴィス・グループの代表曲6. などトラフィックとは言い難い選曲であり、そこが魅力でもあるものの、そんな事情がトラフィックのクレジットのないジャケットを持つアルバムの発表に至った経緯なのだろう。演奏はかなりラフであり、曲中に観客が声をあげるなど非常に生々しい録音だが、音質も良くこの貴重な布陣による演奏の記録としてはまずまず。2ndからの3. はややヴォーカルがオフ気味だが、なかなか良い演奏を聞かせていて聞き物。(ただし一瞬ミス・トーンあり)。ちなみに本作発表前にスティーヴ、クリス、ジムの3人にリック・グレッチを加えた編成でのライブ『LIVE NOVEMBER 1970』が発表されたが、発売後すぐに回収されており、本作はその代用品としての発表だった。	Side A 1. メディケイテッド・グー 2. サッド・アンド・ティープ・アズ・ユー 3. 40,000ヘッドメン 4. 欲ばりすぎたネ Side B 1. ディア・ミスター・ファンタジー 2. ギミ・サム・ラヴィン	
TRAFFIC	ベスト・オブ・トラフィ ク		1969	ロック	CD	日本	1969年発表のトラフィック初期のベスト。アルバム。シングルでアルバム未収録のヒット曲となった「ペーパー・サン」「ホール・イン・マイ・シュー」に最初の3枚のアルバム「ミスター・ファンタジー」「トラフィック」「ラスト・エグジット」から選ばれたベスト選曲。デイヴ・メイソン参加の第一期トラフィックはこれで充分ともいえるベスト盤。コーラスのつけ方や、サイケデリック、ミュージックとラウガ、ロックを融合させるなど、しっかりと時代の精神を吸収しています。サイケ全盛時代の60年代後期ブリティッシュ・ロック音源をなるべく効率良く収集している方にこそ相応しいアルバム。 また、アルバムの選曲が抜群で「ペーパー・サン」「ヘヴン・イズ・ユア・マインド」「ノー・フェイス、ノー・ネーム・・・」「フィーリン・オールライト」「ディア・ミスター・ファンタジー」などは今でも十分通用する名曲である。	1.ペーパー・サン 2.ヘヴン・イズ・イン・ユア・マインド 3.ノー・フェイス、ノー・ネーム、ノー・ナンバー 4.カロード・レイン 5.スマイリング・フェイス 6.ホール・イン・マイ・シュー 7.メディケイテッド・グー 8.フォーティ・サウザンド・ヘッドメン 9.フィーリン・オールライト 10.シャンハイ・ヌードル・ファクトリー 11.ディア・ミスター・ファンタジー	
TRANSVISION VAMP	ポップ・アート		1988	ニュー ウェーブ	レコード	UK	1986年結成のイギリスのニューウェーブバンド。セクシーな女性Voウエンディを中心とした英国出身のKey含む5人組「トランスヴィジョン・ヴァンプ」の1988年作品のデビュー・アルバム。ウエンディのキュートで過激な容貌、刺激的なエレクトリック・パンク・サウンドでデビュー作から大ヒットした。パンクッシュでキュートなラブ・ポップのシングル「アイ・ウオント・ユア・ラブ」が全英5位と大ヒット。 80年代ならではのポップなアレンジとグラマラスなロック・サウンドで特有の世界観を構築。ポップな①②やドライヴ感のある④、軽快な⑥、ノスタルジックな⑦等全10曲収録。アルバム3枚を残して解散してしまう。	Side A 1. トランス・シティ 2. アイ・ウオント・ユア・ラブ 3. シスター・ムーン 4. サイコソニックシティ 5. レボリューションベイベー Side B 1. Tell That Girl To Shut Up 2. ワイルドスター 3. Hanging Out with Halo Jones 4. アンディウォーホルの死 5. セックスキック	
TREMBLERS	トゥワイズ・ナイトリィ		1980	パワーポ ップス	レコード	日本			
TREVOR RABIN	誘惑の貴公子		1977	ハードロッ ク	レコード	日本	77年作。80年代以降のイエスのギタリストとして有名なドレヴィン・ラビンの初ソロ名義作品となったアルバムです。 南アフリカ出身、リーダー・バンドであったラビットはバブルガム・ポップ風のサウンドと、メンバーの整ったルックスでアイドル的人気を誇っていましたが、本作ではすでにコンポーザー、ギタリスト、そしてヴォーカリストとしての非凡な才能を開花させています。良質のパワー・ポップと、エフェクトによるユニークなギター音は、当時としてはかなり進んだサウンドだったのではないのでしょうか。マルチ・プレイヤーぶりも発揮しているのですが、何よりもメロディ・メイカーとしても評価がされていると思います。ハード・ロック、80年代型のポップ・プログレとしても語れる本作は、後のイエスでの活躍ばかりが目立つために、ソロ作品があまり語られていない様ですが、ロック・ファンとしてはなかなか傑出した		
T.REX	T・レックス		1970	グラムロッ ク	レコード	日本			

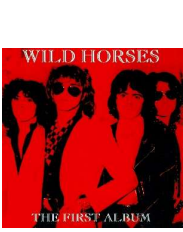
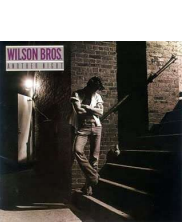
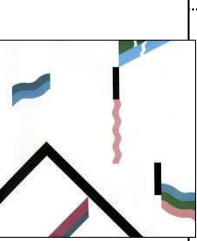
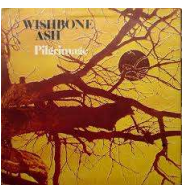
	20/20(TWENTY TWENTY)	トゥエンティ・トゥエンティ		1979	ニューウェイブ	レコード	日本	20/20のファーストアルバム。日本では認知度が今一つだが、パワーポップの世界では知らない人はいないグループ。このアルバムはヘビーでバワフルなサウンドでありながらメロディーはキャッチーでサイケ風味もあり、シンセサイザーを効果的に取り入れたアルバムで、「これぞパワーポップ」といった曲を次々と聴かせてくれます。代表曲「Yellow Pills」はパワーポップファンジンの名前にもなっている。5曲目の「Tell Me Why」も名曲。	Side A 1. The Sky Is Falling 7/79 2. Yellow Pills 3. Cheri 4. Out Of This Time 5. Tell Me Why (Can't Understand You) 6. Tonight We Fly	Side B 1. Remember The Lightning 2. She's An Obsession 3. Leaving Your World Behind 4. Backyard Guys 5. Jet Lag 6. Action Now
	Twisted Sister	ステイ・ハングリー		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	アメリカ合衆国出身のヘヴィメタル・バンド。グラムメタルの代表的バンドとされ、強烈なインパクトを放つボーカリスト ディー・スナイダー率いるバンドのサード・アルバム。。ダブル・プラチナムというビッグ・セールスを達成。ケバイいでたちに相応しい芝居がかった音作りの派手さ加減がたまらない。そして当時のロック・キッズのアンセムとなった「WERE NOT GONNA TAKE IT」を収録した名作。ビルボード・アルバム・チャート最高位：15位	Side A 1. ステイ・ハングリー 2. ウィア・ノット・ゴナ・ティク・イット 3. BURN IN HELL / 地獄で燃えろ！！ 4. HORROR-TERIA(THE BEGINNING) / 恐怖の館	Side B 1. アイ・ウォナ・ロック 2. プライズ 3. ドント・レット・ミー・ダウン 4. ビースト 5. S.M.F
	TYGERS OF PAN TANG	ワイドキャット		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	80年作、タイガーズ・オブ・パンタンのデビュース・アルバム。80年代フリディッシュ・メタル・ファンにとっては、欠かせない名盤の一つ。当時の彼等は4人組で、まだジョン・デヴァリル、ジョン・サイクスという二人の美形が不在でしたが、以降の全盛期とは違った存在感をすでに放っています。初代ヴォーカリストのジェス・コックスは、そのアイドルっぽい甘いマスクに似合わず、かなりバンキッシュなヴォーカル・スタイルが個性で、どちらかと言うとヘタウマな魅力。1曲目から疾走するN.W.O.B.H.M.の典型とも言えるリフに乗っかるヴォーカルは、投げやり、無愛想にも思える吐き出し方をしていますが、その対比が当時の彼等を特別なバンドにしていたのは確かだと思います。女子供を寄せ付けないかの様なストイックなりフと歌メロが全編を覆っているのですが、同時代の他のバンドと違い不思議と汗臭さを感じさせないのは、この独特のヴォーカルに要因があったのだと思われます。奇しくもアイアン・メイデンが翌年にリリースする大名盤とアルバムと同名となった「KILLERS」では、プログレッシブな展開も見せるバンド・サウンドと流れる様なギターの中で、クールにマイペースを保つジェス・コックスがなかなかカッコいいのですが、絶叫型ヴォーカリストが乱立していく時代の中では、かなり異色だったのではないのでしょうか。		
	TYGERS OF PAN TANG	スペルバウンド		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	81年作、ジョン・サイクスが加入していた事でも有名なタイガーズ・オブ・パンタンのセカンド・アルバム。NWOBHMの大きな波に乗った勢いが感じられる力作で、同年にリリースしたサード・アルバム「クレイジー・ナイト」と共に80年代初頭の英国メタルを象徴する名盤となっています。スピーディーでキャッチーなりフ、個性的なヴォーカルと歌メロは、アイアン・メイデンよりもしなやかで、デフ・レパードよりも男臭い魅力を放っていました。メロディの幅も広がり、当時の最先端メタルといったところだと思います。		
	TYGERS OF PAN TANG	クレイジー・ナイト		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	82年作、タイガーズ・オブ・パンタンのサード・アルバムとなった1枚です。本作リリース後間もなく、ジョン・サイクスが脱退、後にシン・リジィに参加し、名を上げる事となります。盛り上がるNWOBHMシーンの中で、ルックスと洗練されたメロディが注目されていたバンドですが、当時内部事情はあまり良くなかった様です。そういった様々な事情をよこし、サウンドの方は実にタイトで鋭いものとなっており、歌メロもキャッチーなものとなっているのが見事です。次作でデフ・レパードを意識したかの様なポップ展開をするのですが、ここでは良い意味でキャッチーなメタル・ソングへの固執がユニークなサウンドとなっています。彼等の得意としていた疾走感溢れるリフの炸裂、またハード・ポップへの接近も新たな魅力を生んでいます。		
U	TYGERS OF PAN TANG	危険なパラダイス		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	82年1作、タイガーズ・オブ・パンタンの4作目のアルバムです。アルバム制作直前、ジョン・サイクスがオジー・オズボーンのオーディションを受けるために脱退（結局THIN LIZZYに加入）、看板ギタリストを失った彼等は、起死回生の新展開を試みます。ギタリストをフレッド・パーサーを迎え、プロデューサーにRUSHの仕事で名高いピーター・コリンズを抜擢。パンクバンドのベネレーションに在籍していたフレッド・パーサーをキーボーディストに起用し、バンドに新たな血を注ぎ込んだ。ナッシュビルの有名ミュージシャン集団によるメロディアス・ハード系バンド、RPMの、「Rendezvous」、50年代のヒット曲、「Love Potion Number 9」という異色のカヴァーを含み、外部ライターの大幅導入によるポップかつメロディアスなサウンドへ大胆な転身しますが、結果的にはバンドの寿命を縮める事になってしまいました。フレッド・パーサー単独作のミステリアスなミドル・ハード、「Tides」、DOKKENも真っ青な哀愁メロハー・ソング、「Paris By Air」等は、当時のメタル・シーンではかなりのインパクトがあったと思うのですが、一体何故ビッグ・ヒットをしなかったのか本当に不思議です。アメリカン・マーケット向け10のデビュース・アルバム。デビューアルバムはジョー・サイクスが脱退した事を受けてマーティン・ハネットが参加する予定だったが、アイアン・カーティスの自殺の影響で、ピーター・ガブリエルやXTCなどを手がけたステューヴ・リリー・ホワイトが担当することになった。本作からサードアルバム『WAR(闘)』にかけてのサウンドは、リリー・ホワイト独特の残響処理が冷たく澄んだ雰囲気を出している。ボノが綴る歌詞には、少年から大人へ成長する過程のナイーヴな戸惑いが込められている。オーブニング・ナンバーの「I Will Follow」は、ボノが14歳の時に亡くした母親へ捧げた曲として有名であり、現在でもライブのセット・リストに頻繁に組み込まれている。なお、ジャケットには上半身裸の少年(ボノの親友の弟)の写真が使われているが、これは未成年の露体を想起させるとみなされ、ボノは4人の写真		
	U2	ボーイ		1980	ニューウェイブ	レコード	UK	1980年1作、U2のデビューアルバム。デビューアルバムはジョー・サイクスが脱退した事を受けてマーティン・ハネットが参加する予定だったが、アイアン・カーティスの自殺の影響で、ピーター・ガブリエルやXTCなどを手がけたステューヴ・リリー・ホワイトが担当することになった。本作からサードアルバム『WAR(闘)』にかけてのサウンドは、リリー・ホワイト独特の残響処理が冷たく澄んだ雰囲気を出している。ボノが綴る歌詞には、少年から大人へ成長する過程のナイーヴな戸惑いが込められている。オーブニング・ナンバーの「I Will Follow」は、ボノが14歳の時に亡くした母親へ捧げた曲として有名であり、現在でもライブのセット・リストに頻繁に組み込まれている。なお、ジャケットには上半身裸の少年(ボノの親友の弟)の写真が使われているが、これは未成年の露体を想起させるとみなされ、ボノは4人の写真	Side A 1. アイ・ウィル・フォロー - I Will Follow 2. トワイライト - Twilight 3. アン・キャット・ダブ - An Cat Dubh 4. イントゥ・ザ・ハート - Into the Heart 5. アウト・オブ・コントロール - Out of Control	Side B 1. ストーリーズ・フォー・ボーイズ - Stories for Boys 2. ジ・オーシャン - The Ocean 3. ア・デイ・ウィズアウト・ミー - A Day Without Me 4. アナザー・タイム、アナザー・プレース - Another Time Another Place 5. ジ・エレクトリック・カンパニー - The Electric Co. 6. シャドウズ・アンド・ツール・トゥリーズ - Shadows and Tall Trees - A.M.の写
	U2	ボーイ		1980	ニューウェイブ	レコード	US			
	U2	アイリッシュ・オクトーバー		1981	ニューウェイブ	レコード	US	1981年作のU2の2枚目のアルバム。アイルランド出身というルーツや宗教観を色濃く反映した内省的な作品。「オクトーバー」ではジ・エッジがピアノを演奏し、「トゥモロー」ではアイルランド音楽の管楽器イーリアン・パイプスの奏いを帯びたイントロを聞かせるなど、バンドの音楽性は前作よりも拡がっている。しかし、テーマが煮詰められていないこと、ヒット曲を欠くことなどから、U2のアルバム中ではやや評価が低い。制作準備中にはアメリカの公演先で、歌詞や曲の草稿を入れていたボノの靴が盗まれるという事件が起きた。リリースまで時間が迫る中、レコーディングスタジオで即興的に歌詞をつくった曲もある。この靴は2004年に発見者からの連絡で23年ぶりにボノの手元に戻った。ジャケットは、メンバー4人が港を背に立っている写真、上は上半身裸の少年(ボノの親友の弟)の写真が使われているが、これは未成年の露体を想起させるとみなされ、ボノは4人の写真	Side A 1. グロリア - Gloria 2. アイ・フォール・ダウン - I Fall Down 3. ブリック・スルー・ア・ウィンドウ - I Threw A Brick Through A Window 4. リジョイス - Rejoice 5. ファイアー - Fire	Side B 1. トゥモロー - Tomorrow 2. アイリッシュ・オクトーバー - October 3. ウィズ・ア・シャウト - With A Shout (Jerusalem) 4. ストレンジヤー - Stranger In A Strange Land 5. スカーレット - Scarlet 6. イズ・ザット・オール? - Is That All ?
	U2	アイリッシュ・オクトーバー		1981	ニューウェイブ	レコード	日本			
	U2	WER(闘)		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	1983年作のU2のサードアルバム。全英チャート初登場1位獲得など、U2として初のビッグヒットを記録。シングルでもヒットした「ブラディ・サンデー」や「ニュー・イヤーズ・デイ」など、初期のU2を代表する楽曲が収録されている。北アイルランド紛争で起きた、1972年の血の日曜日事件の悲劇をテーマにした「ブラディ・サンデー」、核戦争を扱った「セカンド」、ポーランドの「連帯」をイメージした「ニュー・イヤーズ・デイ」などのメッセージソングを収め、「社会・政治問題」に積極的に関わるロックバンド」という今日まで続くU2のイメージを決定付けた。タイトル「WAR(闘)」についてボノは「『WAR』とは色々なレベルにある『戦い』を扱ったものなんだ。国と国の戦いもあるけど、市民権の戦いもある。人と人同士の戦いもあるんだ。勿論、男女間の戦いもね。確かに『戦い』がテーマだけど、決して否定的なアルバムなんかじゃないんだよ」と繰り返し触れている。WAR TOURのライブで「ブラディ・サンデー」を歌う際には「これは抵抗の歌ではない」と語り、ステージ上で白い旗を振るパフォーマンスを見た。緊迫感みなぎるアルバム前半から一転して、ラスト曲の「40」では穏やかな平和への祈りを聴くことができる(曲名は旧約聖書の詩篇40篇より)。この曲では通常とは逆に、ジ・エッジがベース、アダム・クレイトンがギターを弾いている。ジ・エッジは「セカンド」の一部でリードボーカルも担当している。	Side A 1. ブラディ・サンデー - Sunday Bloody Sunday 2. セカンド - Seconds 3. ニュー・イヤーズ・デイ - New Year's Day 4. ライク・ア・ソング - Like a Song... 5. ドラウニング・マン - Drowning Man	Side B 1. ザ・レフュジー - The Refugee 2. トゥー・ハーツ・ビート・アズ・ワン - Two Hearts Beat as One 3. レッド・ライト - Red Light 4. サレンダー - Surrender 5. "40" - "40"
	U2	WER(闘)		1983	ニューウェイブ	CD	日本			
	U2	ブラッド・レッド・スカイ=四騎=		1983	ニューウェイブ	レコード	US	1983年作、U2の初のライブ盤。メロディアスなナンバーで「パワー・空間」そして「全速力のU2のステージに巻き込まれた人は減多にないソクソク感を体験するはず」。アルバムに収録されている8曲中5曲は、発売日のたった3ヶ月前に、ドイツのライン川沿いに建つザンクト・ゴアルスハウゼンのローライ劇場にてレコーディングされた。そこでは彼らを代表する曲「Sunday Bloody Sunday」と「New Year's Day」が、6月に行われたコロラド州モリソン近くにあるレッド・ロック野外劇場では「Gloria」と「Party Girl」がレコーディングされた。アルバムはUKチャートで2位にランク・インし、73週間トップ40内に、そして見事に201週間トップ100圏内での位置を保持した。世界規模の業績の一例として、全米では3ヶ月でゴールド・ディスク、18ヶ月でプラチナ・ディスク、そして1994年には117万枚のプラチナ・ディスクを獲得している。	Side A 1. グロリア 2. 11オ'clock・ティック・タック 3. アイ・ウィル・フォロー 4. パーティ・ガール	Side B 1. ブラディ・サンデー 2. ジ・エレクトリック・カンパニー 3. ニュー・イヤーズ・デイ 4. 40
	U2	ブラッド・レッド・スカイ=四騎=		1983	ニューウェイブ	CD	日本			

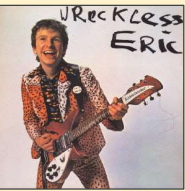
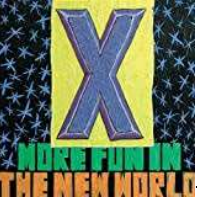
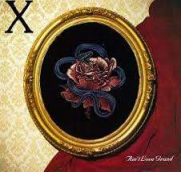
	UFO	UFOライブ		1979	ハードロック ク&ヘビー メタル	レコード	日本	1979年7月、デビュー作『UFOの最高傑作』と並び、セビでロウソクのファイヴ・ブ・アゲのアルバム右盤として今も語られる1枚です。 本作リリース直前にマイケル・シェンカーは1度目のUFO離脱をしてしまいますが、それでもマイケルのキャリアの中でも外す事のできないアルバムです。70年代のプリティッシュ・ハード勢としてはシン・リジィと共に新たな時代を築き、80年代のNWOBHM勢にも大きな影響を残しています。その音楽性は、ブルースに頼らない陰と陽の使い方の巧さ、それは何よりもマイケルの作り出すメロディの貢献度が高かったわけですが、フィル・モグの独特の歌唱法、クイグイと引っ張るビート・ウェイのベースと、かなり強い個性を持っていました。ベスト的な選曲と、生々しいダイナミズムと、観客と一体となったドラマ性が本作を永遠の大名盤としています。これを聴かずしてUFOを語る事もできなければ、英風いかに内も知る事もないのでは、と思えます。	01. ホット・ン・レディ 02. チェリー 03. レット・イット・ロール 04. ラヴ・トゥ・ラヴ 05. ナチュラル・シング 06. アウト・イン・ザ・ストリート 07. オンリー・ユー・キャン・ロック・ミー	08. マザー・メアリー 09. ディス・キッズ 10. ドクター・ドクター 11. アイム・ア・ルーザー 12. ライツ・アウト 13. ロック・ボトム 14. 燃えたぎるギター 15. シュート・シュート
	UFO	UFOライブ		1979	ハードロック ク&ヘビー メタル	CD	日本			
	U.K.	U.K.(憂国の四士)		1978	プログレッシブ	レコード	日本	復活のプログレバンドと呼ばれた伝説的バンド、U.K.の78年作のデビュー・アルバムです。 ジョン・ウェットン、エディ・ジョブソン、アラン・ホールズワース、ビル・ブラッフォードという本作限りのメンバーは、今では考えられないスーパー・グループとして、まさに80年代のエイジアのモデル・ケースとなりました。 豪拍子の嵐、革新的なシンセ・ワーク、ジョン・ウェットンのブンブン唸るベース、そして洗練されたメロディがクールでありながらそれまでのプログレとは違う躍動感に満ちています。 キング・クリムゾンからASIAへと、プログレが先進性という命題を内包しつつ、皮肉な事に時代に合わせて形骸化していった流れの中で、気高く美しく今も輝いている大名盤です。	1. イン・ザ・デッド・オブ・ナイト 2. バイ・ザ・ライト・オブ・デイ 3. プレスト・ヴィヴァーチェ・アンド・リプライズ 4. サーティ・イヤーズ 5. アラスカ 6. タイム・トゥ・キル 7. ネヴァーモア 8. メンタル・メディケーション	
	U.K.SUBS	ブランド・ニュー・エイジ		1980	パンク	レコード	UK			
	U.K.SUBS	ブランド・ニュー・エイジ		1981	パンク	レコード	日本			
	ULTRAVOX!	ウルトラヴォックス !			ニューウェイブ	レコード	日本			
	ULTRAVOX!	HA! HA! HA! ウルトラヴォックス !		1977	ニューウェイブ	レコード	UK	77年リリース作、ウルトラヴォックスのセカンド・アルバムとなった1枚です。 SEX PISTOLSの「Never Mind the Bollocks 勝手にしやがれ!!」とほぼ同時期にリリースされながら、早くもポスト・パンクの旗手として見なされていたのは、その先鋭的なサウンドにあったのだと思います。 性急なビート、吐き捨て型の攻撃的ヴォーカルは、当時のパンク・シーンを象徴するものとなっていますが、ドラムマシン、シンセを融合した実験性はやはり革新的であったと思います。 同時代のロキシー・ミュージック、あるいはデフ・スクールに通じるアート・ロック的なメロディ、サウンドもユニークなのですが、本作の場合積極的にパンク・シーンに接近していながらもインテリジェンスもしっかりと残すという確信犯とも言えるあざとさが目立つ氣がします。 結果的には彼等の後続となるXTGが更に明解なスタイルを確立していく中、ジョン・フォックスはここでの疾走感を簡単に捨て、クラウト・ロックへと接近していくわけです。 変態的なギター音が鳴り続く中、「HIROSHIMA MON AMOUR」等を聴かされると、確かにNEW WAVEとしか呼びようがなかったのだという事が良くわかります。		
	ULTRAVOX!	HA! HA! HA! ウルトラヴォックス !		1977	ニューウェイブ	レコード	日本			
	ULTRAVOX!	システム・オブ・ロマンス			ニューウェイブ	レコード	日本	78年作、ウルトラヴォックスのサード・アルバムとなった1枚で、カルト・ヒーローであった彼等がその後のシーンに大きな影響を与えた重要作です。 オリジナル・メンバーであるジョン・フォックス在籍時の最後のアルバムであり、バンド名にビックリ・マークが付いた最終作です。 ブライアン・イーノ、スティーヴ・リリー・ホワイトとタッグを組んできた彼等は、パンクとエレクトロ、あるいはパワー・ポップとアヴァンギャルドを理想的に融合したサウンドを作ってきましたが、本作ではドイツの重鎮、コンニ・ブランクをプロデューサーに迎えています。 クラフトワークからスコビーオンスまで手掛けてきたこの偉大なプロデューサーにより、テクノ・パンクとでも表現すべき方法論が極まれ、後にJAPANやYMO等で顕著になるスタイルを確立しています。 まさにニュー・ウェイヴとしか呼べなかった斬新なサウンドは、少し早すぎたのでしょうか、ウルトラヴォックスの名はニュー・ロマンティック・ブームの中でミッド・ユーロ主導の元で有名になりますが、本作ではキワモノ、異端児としてのイメージが強かったのではないのでしょうか。 「Slow Motion」ではDEVOを軽く蹴散らすかの様なハネ具合を見せ、「Just For A Moment」ではボウイとイーノのベルリン三部作を遥か後ろに回すかの様な美しさを見せ、「Maximum Acceleration」ではやがて訪れる80年代エレクトロ・ポップをすでに予見しているかの様な大衆性も展開しているという、実に凄いアルバムだだと思います。		
	ULTRAVOX!				ニューウェイブ	レコード	日本			
	ULTRAVOX!	ヴィエナ		1980年7月11日	ニューウェイブ	レコード	日本	ウルトラヴォックスの4枚目のアルバム。前作『システム・オブ・ロマンス』リリース後に脱退したジョン・フォックスの後を受けたミッド・ユーロが加入し、最初に参加したアルバム。アルバムは全英3位を記録し各国でチャートインを果たすなど、バンドにとって初めてと言える商業的成功を手にした作品である。3枚目のシングル「ヴィエナ」は当時のニューロマンティックブームの後押しもあり、本国イギリスや欧州各国で大ヒットを記録。		
	ULTRAVOX!	エデンの嵐		1981年9月11日	ニューウェイブ	レコード	日本	1981年リリースのウルトラヴォックスの5枚目のアルバム。前作「ヴィエナ」が大ヒットを記録した影響もあり、本作も英国でトップ10入りする大ヒットを記録し、ニュー・ウェイヴ・シーンをリードするバンドとなる。前作同様にプロデューサーがコンニ・ブランクが担当し、本作品に収録された楽曲はすべてメンバー4人の共作。メロディーも明るいポップなものというよりは地味に味わい深いものになっている。しかし、ミッド・ユーロのボーカルはオペラ的で、やっぱり1号に比べると明るい。この組み合わせが得も言われぬ深みをアルバムに与えているように思います。この頃、ヒューマンリーグが全米制覇し1位を獲得したが、ウルトラヴォックスは何故かアメリカ受けせず、ヨーロッパでは売れたが何故かアメリカでは売れなかった。	Side A 1. ザ・ヴォイス 6:00 2. ウィ・スタンド・アローン 5:40 3. エデンの嵐 / Rage in Eden 4:13 4. 追憶 / I Remember 4:59	Side B 1. 幻想の壁 / The Thin Wall 5:41 2. ストレンジヤー・ウィズイン 7:26 3. アクセント・オン・ユース 5:57 4. 上昇 / The Ascent 1:07 5. 忘却の彼方 4:30 / Your Name (Has Slipped My Mind Again
	UNDERTONES	アンダートーンズ			パンク	レコード	UK			
	UNDERTONES				パンク	レコード	US			

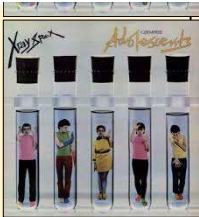
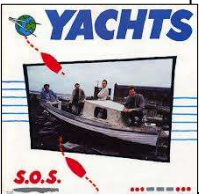
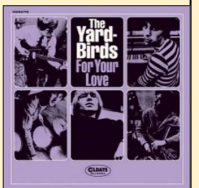
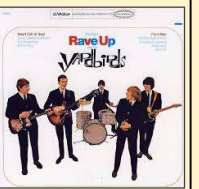
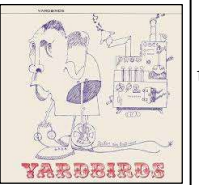
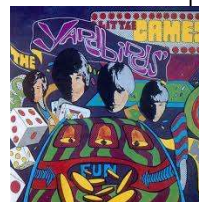
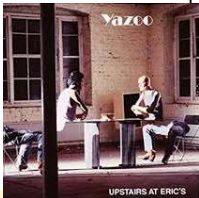
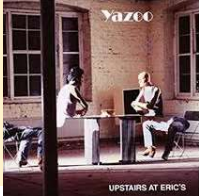
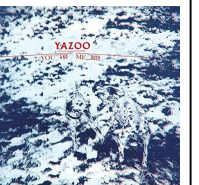
	VELVET UNDERGROUND	ヴェルヴェット・アンダーグラウンドⅢ		1969年3月	アンダーグラウンド	CD	日本	ヴェルヴェット・アンダーグラウンドの3枚目のアルバム。1曲目の「CANDY SAYS」の余りに物悲しいしっとりとした始まり。哀しいほどに美しい、名曲です。また、2「What Goes On」と6「Beginning To See The Light」は、強力なロックンロール。ジョン・ケイルが抜けたあとのルー・リードらしさが出ているのは、バラード曲よりこちらかも知れません。中盤の4「PALE BLUE EYES」5「JESUS」で更に物憂げに心をもっていかれ、「THE MURDER MYSTERY」に良い意味で突然に面を食らう。この曲は凄い。私にはうまく言えない、イカれた何か、ひたすら続く歪んだ自己の吐露のような……。直前の8「THAT'S THE STORY OF MY LIFE」とは明らかに異質なだけに。この2曲の落差には驚かされます。ラストは落ち着いた遊び心を感じる「AFTER HOURS」。アルバムを構成する10曲全体の流れも違和感などなく、完成度がとても高いと思います。圧倒的評価を受けるのは言うまでもなく1st及び2ndですが、この3rdも前2作に負けない鬱々とした気だささと、鈍く光る輝きを持っているのではないのでしょうか。	1. キャンディ・セッツ 2. ホワット・ゴーズ・オン 3. サム・カインダ・ラヴ 4. ベイル・ブルー・アイズ 5. ジーザス 6. ビギニング・トゥ・シー・ザ・ライト 7. アイム・セツト・フリー 8. ザッツ・ザ・ストーリー・オブ・マイ・ライフ 9. 殺人ミステリー 10. アフター・アワーズ	
	VENTURES	ノック・ミー・アウト		1965年2月	ロック	CD	日本	1965年2月リリース。エレキ・プームの真只中にリリースされたベンチャーズ最高傑作アルバム！10番街の殺人、夢のマリナー号 アイ・フィール・ファイン他、名曲満載	1. アイ・フィール・ファイン 2. ラヴ・ポーションNo.9 3. トゥモロウズ・ラヴ 4. オール・プリティ・ウーマン 5. 夢のマリナー号 6. ウォーク・イン・ザ・ルーム 7. 10番街の殺人 8. シーズ・ノット・ゼア 9. ロンリー・ガール 10. ゴーン・ゴーン・ゴーン 11. バード・ロッカーズ 12. バード・ロッカーズ	
	VIBRATORS	ビュア・マニア			パンク	レコード	日本			
	VIBRATORS	バイブレイターズ V2			パンク	レコード	オランダ			
	VIRGIN PRUNES	イフ・アイ・ダイ、アイ・ダイ		1982	パンク	レコード	日本			
	VISAGE	ヴィサージ		1980	ニューウェイブ	レコード	日本	80年作、テクノ・ポップ、そしてニュー・ロマンティックの先駆けともなったヴィサージのデビュー・アルバムです。当時はニュー・オーダーもまだジョイ・ディヴィジョンの悲劇から脱せられず、ヒューマン・リーグもポップ展開をする前の事で、このヴィサージの登場は確かに新しい波として何かを感じさせるものがあっただと思います。ポスト・パンク世代のクラブ・オーナー、スティーヴ・ストレンジを中心とした、いわばプロジェクト・バンドで、サウンド面で貢献しているのは当時リッチ・キッズを脱退し、シン・リジィをサポートしていたミッジ・ユーロ。本作をきっかけにミッジをバンドに誘うウルトラヴォックスのビリー・カーリー、元マガジンのデイヴ・フォーミュラー、やはり元マガジンで、スージー&ザ・バンシーズやPILのギタリストとして有名なジョン・マクガフ等、実に魅力的なメンバーに囲まれたストレンジは女装の走りとも言える華麗なヴィジュアルで、妖しげなエレ・ポップ・サウンドを展開し、ボウイ、ロキシー・ミュージックが築いてきたダンディズムを欧州的な靡りのあるメロディとクラフトワーク、YMO以降のテクノ・サウンドをポップに昇華させています。今聴くと80's的なチープさがとてつもなく、		
	VISAGE	ダンス(舞)		1982	ニューウェイブ	レコード	日本	ニューロマンティック・ムーヴメントの元祖！！ヴィサージ『舞-ダンス-』(原題: The Anvil)！！チャートでは1stアルバムくらいしか売れなかったけど、MaxellのCMで覚えてる方もいるかもしれない"Night Train"収録。というかもはや1stと双璧をなす完璧な出来である。	A1The Damned Don't Cry4:43 A2Anvil (Night Club School)4:39 A3Move Up4:25 A4Night Train4:29 B1The Horseman4:41 B2Look What They've Done4:49 B3Again We Love4:44 B4Wild Life4:26 B5Whispers5:38	
	WAS(NOT WAS)	ん？・・・WAS		1981	ニューウェイブ	レコード	日本			
	W.A.S.P	魔人伝		1984年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	W.A.S.Pの衝撃的メジャーデビューアルバム。LAメタル大名盤。LA性達のメロディアスなHM/HRナンバーが目白押しの迫力ある作品。バンドは一躍、LAメタル、グラム・メタルの先導者として祭り上げられた。ブラッキーの理想的なメタル・ヴォイスは、アンセム型の 覚えやすい歌メロをしっかりと聴かせてくれ、パワー・バラードにおいても表現力に優れているところを見せてくれている。当時はかなりのクレイジー側面、エンターテインメント性が見事に本作を名盤としているが話題となっていたギタリストのクリス・ホルムズも、ツボを抑えたプレイによりW.A.S.P.を正統派アメリカン・ハードのDNAと、80年代メタルとしてのトレンドを与えている。曲も完成度は非常に高く、捨て曲なしである。音楽的にもっと再評価されるべき。	Side A 1. 悪魔の化身 2. ラヴ・マシーン 3. 狂気の炎 4. B.A.D. 5. スクール・デイズ	Side B 1. ヘリオン 2. スリーピング 3. オン・ユア・ニーズ 4. トーメンター 5. 死の拷問
	W.A.S.P	ラスト・コマンド		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	UK	彼等は、LAメタルの象徴的な存在としてキャラが一人歩きしたいの感がありますが、本作により王道メタル・サウンドを売りにする硬派なイメージを押し出しています。過激なヴィジュアルではなく、音に圧倒的な説得力を持たせたこの路線変更は、見事80年代メタル・ファンの心を掴み、彼等の代表作となりました。元タクレバーなブラッキー・ローレスはニューヨーク・ドールズにも一時期参加していた程のベテランだけに、一過性のグラム・メタルのブームをすでに見切っていたのかもしれませんが。ハード・ロックのツボを良く知ってるソング・ライティングが、クワイエット・ライオットをトップに伸ばし上げたプロデューサー、スベンサー・プロファーの分厚いサウンド・プロダクションにより聴き応えのある1枚にしています。そのクワイエット・ライオットのメンバー、カルロス・サヴァーンとチャック・ライトがコーラスでゲスト参加。またオープニング・ナンバーの「Wild Child」は、ブラッキーがニッキー・シックスと組んでいたSISTER時代の曲らしい。このアルバム用に提供をした、この曲から成るW.A.S.P.		
W	We Are The World	ウィ・アー・ザ・ワールド		1985年3月28日	ポップス	レコード	日本	スーパースターたちが、アフリカの飢餓と貧困に手を差し伸べるという目的のために、一同に会してプロジェクト「USAフォー・アフリカ」が制作したチャリティーソング。イギリスで活躍するミュージシャンのボブ・ゲルドフが提唱したバンド・エイドの成功に触発され、アフリカの飢餓と貧困層を解消する目的で作られたキャンペーンソング。作詞・作曲は、マイケル・ジャクソンとライオネル・リッチーが共作で行い、プロデュースはクインシー・ジョーンズが担当した。最終的には、アメリカだけで800万枚のシングル(7インチと12インチの2形態)が売れ、全世界では、2000万枚以上の売上を記録している。	Side A 1. We Are The World 2. If Only For The Moment, Girl 3. Just A Little Closer 4. Trapped	Side B 1. Tears Are Not Enough 2. 4 The Tears In Your Eyes 3. Good For Nothing 4. Total Control 5. A Little More Love 6. Trouble In Paradise
	WESTWIND	ラヴ・イズ・・・ウエストウインド		1970	フォークロック	CD	日本	70年リリース。60年代末のロンドンで結成されたフォーゲトリオ「ウエストウインド」がラリー・ペイジのレーベルに残した唯一のアルバム。クリスタルな女性ヴォーカルを軸にメンバー3人のアコースティック・ギターとヴォーカル・ハーモニーが織りなす世界は、シンプルなバックと共に、シカーズとも比較される60年代前半のグリニッチ・ヴィレッジ・フォークに同時代のポップ・センスを巧みに融合、さらに英国風のノスタルジックな味わいもブレンドした名作。ジャケットの印象通りのサウンドで、英国叙情に包まれたポップ・メロディーと男女Voによる物憂いハーモニー、オーボエなどの管楽器と弦楽器による可憐なアレンジが素晴らしい英国フォークの傑作。当時、日本盤でシングルも出たタイトル曲など、佳曲揃い。ジャケからして気品に溢れていますが、音もそのまんま！男女ヴォーカルのハーモニー、オーボエなどの管楽器と弦楽器が織りなす可憐なサウンド、それまでデッド・カヴァー・スタイルのセカンドにして名盤がこれ。シングルのWait、When The Children CryをビルボードTOP3に送り込み、200万枚以上も売りあげた大ヒットアルバム。⑥「WAIT」⑧「TELL ME」⑩「WHEN THE CHILDREN CRY」といったヒット曲を生み出した。特にWhen The Children Cryの演奏は、他に類を見ない美しさだ。ハードポップなギターテクが素晴らしい作品です。今作の魅力は(というよりこのバンドの魅力は)ギターのヴィト・プラタのギターワークで、早速きただけにたよらない印象に残るソロを展開しています。曲もあからさまに悪い曲はなく、特に前半の哀愁を含んだ楽曲群は楽しめます。特に、LADY OF THE VALLEY のギターソロは鳥肌もの。全米で200万枚以上のセールスを記録するが、この後、残念ながら今作以外では未だ成功を収めた曲は、音楽史上少ない。	1. Goodbye Butterfly 2. Sleepy City 3. Love Is A Funny Sort Of Thing 4. Sun Across The Snow 5. How Many Stars 6. Robin Hill	7. Goodtimes 8. Fisherman's Song 9. Sweeney Todd 10. Rosemary 11. Harbour Lights 12. Home Is Where My Heart Is
	WHITE LION	ブライド		1987年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	このアルバムは、ハード・ロック・バンドの待望の傑作。特に、LADY OF THE VALLEY のギターソロは鳥肌もの。全米で200万枚以上のセールスを記録するが、この後、残念ながら今作以外では未だ成功を収めた曲は、音楽史上少ない。	Side A 1. Hungry 2. Lonely Nights 3. Don't Give Up 4. Sweet Little Loving 5. Lady Of The Valley	Side B 1. Wait 2. All You Need Is Rock N Roll 3. Tell Me 4. All Join Our Hands 5. When The Children Cry
	WHITESNAKE	トラブル		1978	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	ビートルズのカヴァー「ディ・トリッパー」が象徴している様に、プリティッシュ・ハードの伝統であるタメの効いたノリと、ソウルフルなヴォーカルが絡むハード・ロックの原型がここにできています。後期・パワフルで顕著だったソウルフルなハード・ロック色が、よりスマートでポップになっているのが印象的です。実に味わい深いバンド・サウンドに乗っかるセクシーなヴォーカル、これこそが当時のホワイトスネイクの魅力であったわけですが、この時期の彼等を未だ愛する人が多いのは納得できる1枚です。前述のかなりタイトにアレンジされた「DAY TRIPPER」、あの沢田研二もかつてカヴァーとして取り上げた事があるらしい「LIE DOWN」、スビー・ドニーに疾走するNIGHTHAWK、メロディアスな	Side A 1. テイク・ミー・ウィズ・ユー 2. ラヴ・トゥ・キープ・ユー・ウォーム 3. ライ・ダウン 4. ディ・トリッパー 5. ナイトホーク	Side B 1. ザ・タイム・イズ・ライト・フォー・ラヴ 2. トラブル 3. ベルジャン・トムズ・ハット・トリック 4. フリー・フライト 5. ドント・メス・ウィズ・ミー

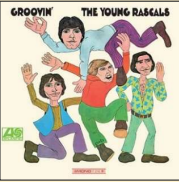
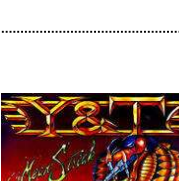
	WHITESNAKE	ラヴ・ハンター		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	79年作、ホワイトスネイクのセカンド・フル・アルバム。いよいよバンド・サウンドが固まり、優れた楽曲が揃う事で、元パープルのヴォーカリストからホワイトスネイクが新たなブリティッシュ・ハードの担い手となった瞬間が本作であったと思います。ライヴでの重要なレパートリーとなった「Walking In The Shadow Of The Blues」、陽性のパーティー・ロック・タイプの魅力も加わった「Rock'n' Roll Women」、80年代の彼等の新たなスタイルの原型とも言える「Medicine Man」、そして小曲ながら、キャリア最高と言える珠玉の名バラード、「We Wish You Well」等々、実に名曲が多いアルバムです。	Side A 1. ロング・ウェイ・フロム・ホーム 2. ザ・シャドー・オブ・ザ・ブルース 3. ヘルプ・ミー・スルー・ザ・デイ 4. メディシン・マン 5. ユー・アンド・ミー	Side B 1. ミーン・ビジネス 2. ラヴ・ハンター 3. アウトロー 4. ロックン・ロール・ウィメン 5. ウィー・ウィッシュ・ユー・ウェル
	WHITESNAKE	フル・フォー・ユア・ラヴィング		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	1980年に発表した4枚目でホワイトスネイクの最高傑作。元ディープ・パープルのイアン・ペイス (ds)を新メンバーに迎え、さらに完成度を増したサード・アルバム。シングル「フル・フォー・ユア・ラヴィング」は全英最高位13位を記録。アルバムも全英チャート初のトップ10入りの最高位6位のヒットを記録(アメリカでは、初のチャートインを果たし、最高90位に達した)し、80年代のブリティッシュ・ハード・ロックの輝かしい幕開けを告げる作品となった。また、「ブラインドマン」は、デヴィッド・カヴァーデールのソロ・アルバム『ホワイトスネイク』(1977年)収録曲のセルフ・カバー。	Side A 1. フール・フォー・ユア・ラヴィング 4:16 2. スウィート・トーカー 3:37 3. レディ・アン・ウィリング 3:42 4. キャリー・ユア・ロード 4:05 5. ブラインドマン 5:08	Side B 1. エイント・ゴナ・クライ・ノー・モア 5:50 2. ラヴ・マン 5:02 3. ブラック・アンド・ブルー 4:04 4. シーズ・ア・ウーマン 4:10
	WHITESNAKE	フル・フォー・ユア・ラヴィング		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本			
	WHITESNAKE	ライヴ・アット・ハマースミス		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	1978年に録音、1980年に発表したライブ・アルバム。日本のポピュラー・ミュージックが独自に制作したライブ・アルバム。デヴィッド・ウル在籍時に行われた、ハマースミス・オデオン公演が収録されている。「ティク・ユア・ライフ」と「ミストゥリー・テッド」は、デヴィッド・カヴァーデールが在籍していたディープ・パープルの楽曲のセルフ・カバーで、いずれもオリジナル・ヴァージョンはアルバム『紫の炎』(1974年)に収録されている。特に「ミストゥリー・テッド」は聴きものとなっています。バンク、ニューウェイヴ全盛期のイギリスで、これ程熱いハード・ロックを演っていた事が本当に奇跡的とも思いますが、現在のホワイトスネイクにも脈々と流れるソウルフルな歌唱は本当に見事です。	Side A 1. カム・オン - 4:01 2. テイク・ユア・ライフ - 5:40 3. ライ・ダウン - 4:17 4. ハート・オブ・ザ・シティ - 6:29	Side B 1. トラブル - 4:55 2. ミストゥリー・テッド - 10:45
	WHITESNAKE	カム・アンド・ゲット・イット		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本	81年作、ホワイトスネイクの4枚目のフル・アルバム。元ディープ・パープルのイアン・ペイス (ds)を新メンバーに迎え、さらに完成度を増したサード・アルバム。前年の「Ready an' Willing」からシングル・ヒットした「フル・フォー・ユア・ラヴィング」は、ポップでソウルフルというホワイトスネイクのイメージを決定付け、N.W.O.B.H.M.ブームに上手く乗っかる事に成功した彼等、ここでは時代に流されない頑固さを感じさせてくれます。DEEP PURPLEのメンバーが3人揃っているという意味でも彼等はOLD WAVEという解釈もありましたが、同時代のHR/HMシーンの中でセクシーかつキャッチーなハード・ロックという独自のスタンスを確立したのは大きかった。英国ではもちろん、ここ日本でもRAINBOWやMSGと並んで大きな支持を得ていた中、彼等の勢いがそのままパッケージされたのが本作でした。ファンキーなハード・ロック路線はそのまま貫かれていますが、「Don't Break My Heart Again」に代表される、デヴィッド・カヴァーデールのクールな面がより強調された洗さが新たな魅力に繋がったと思われます。前作と比べるとやや派手さに欠ける部分もあるのですが、逆に味わい深いナンバーが増え、より軽めのR&R色が強くなる次作の事も踏まえて考えると、本作でのセクシー路線は彼等のキャリアの中でも重要視されるべきだと思います。また注目すべきは、ツェッペリンの方法論がすでにここで導入されていると思われる点で、特に「Hit An'Run」では後の「Still Of The Night」を予感させました。	1. カム・アンド・ゲット・イット - 3:58 2. ホット・スタッフ - 3:21 3. ドント・ブレイク・マイ・ハート・アゲイン - 4:02 4. ロンリー・デイズ、ロンリー・ナイツ - 4:15 5. ワイン、ウィメン・アンド・ソング - 3:45	6. チャイルド・オブ・バビロン - 4:47 7. ウッド・アイ・ライト・ウ・ユー - 4:28 8. ガール - 3:55 9. ヒット・アンド・ラン - 3:23 10. テイル・ザ・デイ・アイ・ダイ - 4:28
	WHITESNAKE	スライド・イット・オン (イギリス・ヴァージョン)		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	84年作、ホワイトスネイクのゲフィン移籍第一弾アルバムであり、当時のHR/HMシーンの最重要人物と言える大物A&R、ジョン・カドナーが関わった仕事としても記憶に残る1枚となりました。USA盤はオリジナルとはミックス、曲順が変更され、キース・オルセンの手腕によりラジオ・フレンドリーなサウンドへと生まれ変わっています。USミックスではギターはミッキー・ムーディーからジョン・サイクスへ、ベースはコリン・ホッジキンソンからニール・マーレイへと差換えられていますが、ここでは派手さに欠けるものの、70年代から続くホワイトスネイクの色気のあるバンド・サウンドが展開されています。カリスマ性のあるヴォーカリストを中心に据え、コーギー・パウエルを含む優れたミュージシャン集団による、メロディのはっきりした整理されたハード・ロック、という構想はすでにかなり洗練された形で実現されていたと思います。特にニール・ギャリーのソングライターとしてのセンスが流れているように感じます。	Side A 1. Gambler(英語版) 3:57 2. Slide It In 3:20 3. Standing in the Shadow 3:32 4. Give Me More Tim 3:41 5. Love Ain't No Stranger 4:13	Side B 1. Slow an' Easy 6:09 2. Spit It Ou 4:11 3. All or Nothing 3:34 4. Hungry for Love 3:57 5. Guilty of Love 3:18 6. Need Your Love So Bad(日本盤ボーナストラック) (英語版) 3:14
	WHITESNAKE	スライド・イット・オン (アメリカンミックス・ヴァージョン)		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本		Side A 1. Slide It In 3:20 2. Slow an' Easy 6:08 3. Love Ain't No Stranger 4:18 4. All or Nothing 3:40 5. Gambler 3:58	Side B 1. Guilty of Love 3:24 2. Hungry for Love 3:28 3. Give Me More Time 3:42 4. Spit It Out 4:26 5. Standing in the Shadow 3:42
	WHITESNAKE	白蛇の紋章〜サーペンス・アルバス		1987	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	1987年に発表。スタジオ・アルバムとしては7作目。全米では、マイケル・ジャクソンの『バッド』に次ぐ、最高2位。全英8位。コーギー・パウエル脱退後後に、エインズレー・ダンバーが加入。後に正式メンバーとなるエイドリアン・ヴァンデンバーグ(元ヴァンデンバーグ)が参加。スーパーギタリスト、ジョン・サイクスの作曲能力までもがスーパーであったことを証明したアルバム。さらに、エイドリアンヴァンデンバーグが④ヒアアイゴアアゲインで素晴らしいギターソロを披露している。ジョン・サイクスはホワイトスネ脱退後、ブルーマダーを結成し、ヴォーカリストとしても開花。	Side A 1. クライミング・イン・ザ・レイン 5:37 2. バッド・ボーイズ 4:06 3. スティル・オブ・ザ・ナイト 6:36 4. ヒア・アイ・ゴア・アゲイン 4:34	Side B ギヴ・ミー・オール・ユア・ラヴ 3:31 イズ・デイス・ラヴ 4:43 チルドレン・オブ・ザ・ナイト 4:24 ストリート・フォー・ザ・ハート 3:39 ドント・ターン・アウェイ 5:10
	Witchfynde	エム地獄を与える		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	UK	英国のヘビーマタルバンド、N.W.O.B.H.M.英国ヘビーマタルのニューウェーブのバイオニアの一人。1974年にBsのリチャード・プロワーとVoのニール・ハーヴェイによってイギリスのダービーシャーで結成。リチャード・プロワーはアティオフェルというバンドでギタリストのトレバー・テイラー(別名モンタロ)を発見した。1975年にリチャード・プロワーがバンドを脱退すると、リードギタリストのモンタロ、ベーシストのアンドロ・コールトン、ドラマーのグラ・スコアスピーと共にウィッチフィンデを改革し、その後スティフ・ブリッジス(ボーカル)が加入。1979年に初のシングル「Give 'Em Hell」をリリースし、1980年にロンドレ・レコードでデビューアルバム「Give 'Em Hell」をリリースした。1980年の夏にデフ・レパードとイングランドをツアー。彼らの音は、プログレッシブとハードロックなどの影響のミックスと重金属音の様々な側面だけでなく、悪魔の画像の顕著な使用を納め込んだ。ウィッチフィンデは1984年に「ロンド・オブ・シン・II」の後に、1985年12月にリリースされたイギリスのロック・バンド、ザ・フーのファースト・アルバム。発売元はブラスウィック・レコード、プロデューサーは、キンクスなどをてがけたシェル・タルミー。全12曲中9曲がオリジナル曲であり、残る3曲はメジャー・デビュー前より彼らが演奏していたR&Bや初期モータウンのナンバーのカバーである。本作は全英チャートの5位につけるヒットとなった。プロデューサーのシェル・タルミーと印税の取り分をめぐる対立し、タルミーとの契約を破棄するが、タルミーは「自分のプロデュース作品は自分に著作権がある」と主張し、本作の版權とマスターテープを握っていた。1967年になるとブラスウィックが閉鎖し、本作は廃盤となってしまう[7]。以降、長きに渡り本作がザ・フーのカタログから姿を消す事になった。	Side A アウト・イン・ザ・ストリート - Out in the Street アイ・ドント・マインド - I Don't Mind (James Brown) グッズ・ゴーン - The Good's Gone ラ・ラ・ライズ - La-La-La Lies マッチ・トゥー・マッチ - Much Too Much マイ・ジェネレーション - My Generation Side B ザ・キッズ・アー・オールライト - The Kids are Alright	
	WHO	マイジェネレーション		1965	ブリティッシュビート	レコード	UK			
	WHO	マイジェネレーション		1965		レコード	UK			
	WHO	デラックス・エディション(2002年版)マイジェネレーション		1965		CD	日本	ザ・フーの1965年に発表された幻のファースト・アルバムが遂に日本初登場!しかもボーナス・トラック18曲を追加したデラックス・エディション。	ディスク: 1 1アウト・イン・ザ・ストリート 2アイ・ドント・マインド 3ザ・グッズ・ゴーン 4ラ・ラ・ライズ 5マッチ・トゥー・マッチ 6マイ・ジェネレーション 7キッズ・アー・オールライト 8ブリーズ・ブリーズ・ブリーズ 9イツ・ノット・トゥルー 10アイム・ア・マン 11ア・リーガル・マター 12ジ・オックス 13サー・クルズ 14アイ・キャント・エクスプレイン 15ボールド・ヘッテッド・ウーマン 16ダディ・ローリング・ストーン	ディスク: 2 1リーヴィング・ヒア 2ルビー 3シャウト・アンド・シミ 4ヒート・ウェイヴ 5モータリング 6エニタイム・ユー・ウォント・ミー 7エンハウ・エニホエア・エニウェイ 8インスタント・パーティー・ミクスチャー 9アイ・ドント・マインド 10ザ・グッズ・ゴーン 11マイ・ジェネレーション 12エニタイム・ユー・ウォント・ミー 13ア・リーガル・マター 14マイ・ジェネレーション
	WHO	マイジェネレーション		1965	ブリティッシュビート	レコード	US	アメリカではザ・フーとタルミーが決別した1966年4月になってからリリースされている(発売元は米デッカ・レコード)。『The Who Sings My Generation』のタイトルでジャケットをビッグ・ベンを背景にした4人のメンバーを写した写真に差し替え、収録曲についても若干変更しリリースされた。また、英国盤ではモノラル・ミックスのみでのリリースだったが、米国盤ではモノラルと擬似ステレオの2バージョンでリリースした。	Side A 1.アウト・イン・ザ・ストリート 2.アイ・ドント・マインド - 3.グッズ・ゴーン 4.ラ・ラ・ライズ 5.マッチ・トゥー・マッチ 6.マイ・ジェネレーション	Side B 1.キッズ・アー・オールライト 2.ブリーズ・ブリーズ・ブリーズ 3.イツ・ノット・トゥルー 4.リーガル・マター 5.インスタント・パーティー

	WHO	マイジェネレーション		1965	ブリティッシュビート	CD	US			
	WHO	ハッピージャック		1966	ブリティッシュビート	レコード	US	ザ・フーの2作目のアルバム。1966年12月9日リリース。。アメリカでは収録曲を差し替え、『ハッピー・ジャック』のタイトルで、1967年5月にリリースした。発売元はデッカ・レコード。全英4位、全米67位を記録。プロデュースは、マネージャーであったキット・ランバート。レコーディングは1966年8月から11月にかけて、ライブ活動と並行しながら散発的に行われた。当初のアルバムタイトルは『ジグソー・パズル』だった。1stアルバムではカバー曲が3曲あったが、本作ではマーサ&ザ・ヴァンデラスの「恋はヒートウェーヴ」1曲のみ。また、本作で初めてジョン・エントウィッスルやキース・ムーンがリード・ボーカルをとる曲が収録された。本作の大きな特徴として、メンバー全員が最低1曲以上自作曲を提供している点が挙げられる。これはザ・フーの全てのオリジナル・アルバムで本作が唯一であるが、これは当時、マネージャーのクリス・スタンプがザ・フーの楽曲を管理していたエセックス・ミュージックから「メンバー全員が2曲ずつ曲を書いたら各自に現金500ポンドを前払いする」という約束を取り付けていたためである。またタウンゼントの曲が全10曲中4曲と半分に満たないが、これもザ・フーの全オリジナル・アルバム中本作のみである。本作ではエントウィッスルが得意とするホルンやチェンバロなど、前作では使用されなかった楽器が次々に導入され、楽曲やサウンド面に幅を持たせている。本作では外部ミュージシャンの起用はなく、「くもの巣と謎」で使用されたトロンボーンやチューバといった管楽器も全てメンバーによる演奏であるアルバムジャケットのデザインはアラン・アルドリッジ。	Side A ラン・ラン・ラン ボリスのくも野郎 - Boris the Spider アイ・ニード・ユー ウィスキー・マン 恋はヒートウェーヴ - Heatwave くもの巣と謎 - Cobwebs and Strange	Side B 1.ふりむかないで 2.恋のマイウェイ 3.ソー・サッド・アバウト・アス 4.クイック・ワン
	WHO	ハッピージャック		1066		レコード	日本			
	WHO	(1995年リマスター版) ハッピージャック		1066		CD	日本	各国盤 アメリカでは「恋はヒート・ウェイヴ」が削除され、代わりにシングルリリースされていた「ハッピー・ジャック」を収録し、タイトルも『ハッピー・ジャック』と改題してリリースした。ジャケットデザインはイギリス盤のものと変わらず、タイトル文字だけを変えたものとなっているが、裏ジャケットのデザインは大きく異なり、各メンバーの紹介文が記載されていた。イギリス盤はモノラルのみでのリリースだったが、アメリカではモノラルとステレオの2バージョンでリリースしている。だが実際の音源では、トゥルーステレオと疑似ステレオのものが混在していた	以下、1995年リマスター版でのボーナストラック 11. バットマン - Batman (Neal Hefti) 12. バケット・T - Bucket "T" (Dean Torrence, Roger Christian, Donald J. Altfield) 13. バーバラ・アン - Barbara Ann (Fred Fassett) 14. ディスガイジズ - Disguises 15. ドクター・ドクター - Doctor Doctor (Entwistle) 16. アイヴ・ビーン・アウェイ - I've Been Away (Entwistle)	17. イン・ザ・シティ - In the City (Entwistle/Moon) 18. ハッピー・ジャック (アコースティック・ヴァージョン) - Happy Jack 19. マン・ウィズ・マネー - Man with Money (Don Everly, Phil Everly) 20. マイ・ジェネレーション/希望と栄光の国 - My Generation/Land of Hope and Glory (Townshend, Edward Elgar)
	WHO	(ペーパーズリープ仕様) ハッピージャック		1066		CD	日本			
	WHO	セルアウト		1067	ブリティッシュビート	レコード	US	1967年に発表。ザ・フーの第3作目のアルバム。発売元はドラッグ・レコード(イギリス)およびデッカ・レコード(アメリカ)。プロデューサーはキット・ランバート。本作は、ザ・フー初のコンセプト・アルバムである。曲間に架空のラジオ局のジングル曲やコマーシャル・ソングを挟むことにより、アルバム自体がさながらラジオ番組のようにになっている。本作がリリースされた1967年はサイケデリック・ムーブメントの最盛期であり、その影響を受け、サイケデリック色の強いポップでカラフルなサウンドとなっている[1]。ザ・フーのスタジオアルバムで、全曲がオリジナル曲で占められたのは本作が初めてであり、さらにモノラル版が製作されるのは本作で最後となる。また、イギリス、アメリカ両国でタイトル、収録曲、ジャケットデザインが統一されるのも本作が初めてである。但し、アメリカ盤では「メダック」という曲が契約上の問題で「Spotted Henry」に変更されている(楽曲自体は同じ)。再発時にはイギリス盤と同じ「メダック」に戻された。アルバム全体にストーリー性があるわけではないが、ここでの試みはグループにとっての代表作の1つであるロック・オペラ・アルバム『トミー』(1969年)にも活かされている。本作収録の「ラエル」は前作『ア・クイック・ワン』収録の「クイック・ワン」に続くミニ・オペラ作品で、この曲の一節が『トミー』収録の「スパークス」にも登場する。また「アルメニアの空」は、ザ・フーのオリジナル曲で唯一外部ミュージシャンによって作曲されたものである。作者のジョン・“スビーディ”・キーンはビート・タウンゼントの友人で、元々はキャットというバンドのドラマーで、後にタウンゼントプロデュースのもと、ジミー・マッカロクらとサンダー・クラップ・ニューマンを結成し、1969年に「サムシング・イン・ジ・エアー」で全英	Side A アルメニアの空 - Armenia City in The Sky (John Keen) ハインツ・ベイクト・ビーンズ - Heinz Baked Beans (John Entwistle) マリー・アンヌ - Mary Anne With The Shaky Hand オドロノ - Odorono いれずみ - Tattoo 過ぎし二人の恋 - Our Love Was [15] 恋のマジック・アイ - I Can See For Miles	Side B アイ・キャン・トリー・チャー・ユー - I Can't Reach You メダック - Medac (Entwistle) リラックス - Relax けちのサイラス - Silas Stingy (Entwistle) 夜明け - Sunrise ラエル(その1、その2) - Rael 1 & 2
	WHO	セルアウト		1967		レコード	日本			
	WHO	(1995年リマスター版)セルアウト		1967		CD	日本	1995年リマスター版「ボーナストラック」 14. ラエル(その2) - Rael 2 15. グリッターリング・ガール - Glittering Girl 16. メランコリア - Melancholia 17. サムワンス・カミング - Someone's Coming (Entwistle) 18. ジャガー - Jaguar	19. アーリー・モーニング・ゴールド・タクシー - Early Morning Cold Taxi (D.Langston, R.Daltrey) 20. 山の魔王の宮殿にて - Hall Of The Mountain King (Greig/arr.The Who) 21. ガールズ・アイズ - Girl's Eyes (Keith Moon) 22. マリー・アンヌ (オルタナティブ・ヴァージョン) - Mary Anne With The Shaky Hand [Alternative Version] 燃13. える女 - Glow Girl	
	WHO	(ペーパーズリープ仕様) セルアウト		1967		CD	日本			
	WHO	ロック・オペラ “トミー”		1969	ハードロック	レコード	日本	69年作。ザ・フーの通算4作目2枚組の大作です。良く言われている様に、それまでポップ・チャートを賑わすヒット曲を多く放ってきたロック・バンドというイメージから一気にビッグ・バンドへと昇華した大転機作となっています。一大ロック・オペラとして描かれたのは三重苦の生涯を持つ少年の人生を描いたもので、本作からはそのストーリー全貌を把握するのはかなり困難なものとはなっています。本作制作当時から映画化の計画が進められ、75年に奇オ、ケン・ラッセル監督作品として公開されています。ザ・フーのメンバー、その他多くのロック・ミュージシャンが出演し、当時としては画期的な手法でメディアミックス戦略の走りと言えたと思います。サウンド自体は決して難解なものではなく、ライブ・バンドとして定評のあった彼等のダイナミズムと、ビート・タウンゼントのメロディ・メイカーぶりがよくよく理想的なスタジオ・ヴァージョンとして結晶化されたものとなっています。「ピンボールの魔術師 Pinball Wizard」、「僕は自由だ I'm Free」がシングル・カットされ、全体のドラマティックな構成はもちろん、各曲が独立したポップ・ソングとして成立しているのが特徴的です。彼等の代表曲として有名な「See Me Feel Me」は、本作の所々で聴かれる重要な一節でもあり、元々はラスト曲の「俺達はいないよ We're Not Gonna Take It」の後半部分となっています。ザ・フーがここで確立した知的で多彩な音楽性は、ビートルズ、ストーンズに匹敵するキャリアを築きましたが、日本ではこうしたマニアックなバンドのスタイルが長い間彼等の正当評価を邪魔していたのも事実かもしれません。	Side A 序曲 - Overture イッツ・ア・ボーイ - It's a Boy! 1921 - 1921 すてきな旅行 - Amazing Journey スパークス - Sparks 光を与えて - Eyesight to the Blind(The Hawker) (Sonny Boy Williamson II) Side B クリスマス - Christmas 従兄弟のケヴィン - Cousin Kevin (John Entwistle) アシッド・クイーン - The Acid Queen アンダー・チュア - Underture	C面 大丈夫かい - Do You Think It's Alright? フィドル・アバウト - Fiddle About (Entwistle) ピンボールの魔術師 - Pinball Wizard ドクター - There's a Doctor ミラー・ボーイ - Go to the Mirror! トミー、聞こえるかい - Tommy Can You Hear Me? 鏡をこわせ - Smash the Mirror センセーション - Sensation
	WHO	(1995年リマスター版)ロック・オペラ “トミー”		1969	ハードロック	CD	日本			
	WHO	(ペーパーズリープ仕様) ロック・オペラ “トミー”		1969	ハードロック	CD	日本			
	WHO	キッズ・アー・オールライト		1979	ハードロック	レコード	日本	1979年発表。ザ・フーのドキュメンタリー映画『キッズ・アー・オールライト』のサウンドトラック・アルバム。映画には使用されなかった「恋のマジック・アイ」、「マイ・ワイフ」、「ジョイント・トゥゲザー」も収録されている。また、本作収録の「ハッピー・ジャック」は、レコード音源を使用した映画版とは異なり、1970年のリーズ大学でのライブ音源が使用されている(オリジナルLPには「スウェーデン公演より」と誤記された。また「マジック・パス」は本作のためにステレオにリミックスしたバージョン、「トミー、聞こえるかい」は、エンディングがアルバム『トミー』(1969年)に収録されているものと異なり、フェイドアウトしない別バージョンである。映画で使用された「シャウト・アンド・シミー」、「恋のピンチ・ヒッター」、「リリーのおもかげ」、「サクセス・ストーリー」、「くもの巣と謎」、「バーバラ・アン」、「フー・アー・ユー」は収録されていない。	Side A マイ・ジェネレーション アイ・キャン・エキスペイン ハッピー・ジャック 恋のマジック・アイ - I Can See for Miles マジック・パス 不死身のハード・ロック Side B エニウェイ・エニハウ・エニホエア ヤングマン・ブルース マイ・ワイフ ババ・オライリィ	C面 クイック・ワン トミー、聞こえるかい スパークス ピンボールの魔術師 シー・ミー・フィール・ミー D面 メドレー: ジョイント・トゥゲザー／ロードランナー／マイ・ジェネレーション・ブルース - Medley: Join Together/Road Runner/My Generation Blues (Townshend, McDaniel) 無法の世界 - Won't Get Fooled Again
	WHO	(ペーパーズリープ仕様) キッズ・アー・オールライト		1979	ハードロック	CD	日本			
	WHO	ライヴ・アット・リーズ		1970	ハードロック	レコード	US	70年リリース。ザ・フーの初のライブ・アルバム。本作こそがハード・ロック・ライブとしての元祖と信じる人も多いであろう大名盤です。6曲のみの収録で、その圧倒的な音量と荒々しいプレイを凝縮したもの。前作の「トミー」の大成功により、ロック・バンドとしての確固たる地位を確立しながら、文学的な流れで語られる事が多く、肉体的言語としてのロックのダイナミズムを好むファンからは過小評価がされ、特に日本ではその傾向が強く、このバンドの本質が見えにくくなっていったと思われます。本作でライブ・バンドとしての魅力がようやく伝わり、各メンバーの技量も改めてはっきりしたと思います。特にジョン・エントウィッスルとキース・ムーンの強	Side A ヤング・マン・ブルース - Young Man Blues (Mose Allison) 恋のピンチ・ヒッター - Substitute サマータイム・ブルース - Summertime Blues (Eddie Cochran, Capehart) シェイキン・オール・オーヴァー - Shakin' All Over (F. Heath)	Side B マイ・ジェネレーション - My Generation マジック・パス - Magic Bus

WHO	ピンボール・ウィザード		1993	ハードロック	CD	日本	Live at The Capitol Centre, Largo, December 1973 キースムーン時代のライヴ	1. The Real Me 5:47 2. Bell Boy 4:52 3. Doctor Jimmy 7:46 4. I Can't Explain 2:33 5. Summertime Blues 3:48 6. My Generation 6:16 7. Pinball Wizard 2:56 8. See Me/Feel Me 5:42 9. Won't Get Fooled Again 8:37	
WHO	1969 - ウィンター・タイム・トリップ		1999	ハードロック	CD	EU	Live at Leeds40周年ボツグズに、この度初収録されたHull公演は、Leeds公演の翌日、1970年2月15日の公演を録音したもの。今回のHullは、ドラムの音についてはワイト島どころかLeedsよりもよく録音されていると思った。全体的にLeeds同様、エネルギーほとばしる演奏で、2曲ほどに演奏のヨレがあるものの、これまで同時期のLive音源をBootで集めてきた印象で言えば、実際のところヨレは当たり前なので、やはり演奏的には非常に安定していた公演と思った。 キースムーン時代のライヴ ◆トラック1-13:1969年11月2日、ワシントンD.C.のジョージタウン大学マクドノー体育館でのライヴ ◆トラック14-18:1970年2月15日、ワイト島のライヴ	1. Overture 4:02 2. It's A Boy 1:49 3. Twenty-One 2:23 4. Amazing Journey / Sparks 5:31 5. Eyesight To The Blind 1:51 6. Heaven And Hell3:16 7. I Can't Explain 2:19 8. Fortune Teller 2:28 9. Tattoo 2:45	10. Summertime Blues 3:11 11. Shakin' All Over 5:25 12. My Generation2:31 13. See Me, Feel Me 5:48 14. Heaven And Hell 3:29 15. I Can't Explain2:17 16. Fortune Teller2:58 17. Tattoo 2:55 18. Young Man Blues 7:21 19. I Believe My Own Eyes (New Tommy Song, 1993) 4:12
WHAM!	ファンタスティック		1982	ポップス	レコード	日本	幼なじみのソウル好きな2人の少年、ジョージ・マイケルとアンドリュー・リッジリーによって結成されたワム！が1983年に発表した、ファンキーで若々しいデビューアルバム。〈1〉×4〉×5〉×8〉などのシングル・ヒットでアイドル的な人気を得た彼ら、当初は「影で他の人が曲作っているんじゃないの？」とイギリスのマスコミたちに疑われたそうだが、そのくらい楽曲の質は高いということ。ミラクルズのカヴァー〈3〉や、セクシーな〈6〉なども、デビュー作とは思えない出来だ。	Side A 1. バッド・ボーイズ (George Michael) 3:19 2. サンシャイン・ビート (Michael) 4:43 3. ラブ・マシーン (Pete Moore/Billy Griffin) 3:19 4. ワム・ラップ (Michael/Andrew Ridgeley) 6:41	Side B 1. クラブ・トロピカーナ (Michael/Ridgeley) 4:28 2. 初めての恋 "Nothing Looks the Same in the Light" (Michael) 5:53 3. カム・オン (Michael) 4:24 4. ヤング・ガンス (Michael) 3:55
WHAM!	ファンタスティック		1982	ポップス	CD	日本			
WHAM!	メイク・イット・ビッグ			ポップス	レコード	日本	ワム!によるセカンドアルバムで、1984年にリリースされた。アルバムはイギリスとアメリカの両方で1位を記録した。日本でもオリコン洋楽アルバムチャートで1984年12月3日付から通算11週1位を獲得した[4]。4曲がシングルカットされ、全てが欧米の両方でチャートのトップとなった。 「ケアレス・ウィスパー」は、イギリス以外では、シングルがリリースされたときからジョージ・マイケルのソロとしてクレジットされており、「恋のかけひき」は、次のアルバム『エッジ・オブ・ヘヴン』に後に収録されることとなる「ラスト・クリスマス」と両A面でリリースされた。	1. ウキウキ・ウェイク・ミー・アップ "Wake Me Up Before You Go-Go" - 3:50 2. 恋のかけひき "Everything She Wants" - 5:01 3. ハートビート "Heartbeat" - 4:42 4. 消えゆく思い "Like a Baby" - 4:12 5. フリーダム "Freedom" - 5:05	1. イフ・ユー・ワール・ゼア "If You Were There" - 3:38 2. アイズレー・ブラザーズ作曲 3. クレジット・カード・ベイビー "Credit Card Baby" - 5:08 4. ケアレス・ウィスパー "Careless Whisper" - 6:30
WHAM!	エッジ・オブ・ヘヴン		1986	ポップス	レコード	日本	解散表明後の1986年にリリースしたラスト・アルバムには、北京でのライヴ音源「ブルー」のほか、「ラスト・クリスマス」「ディファレント・コーナー」といった定番の名曲全8曲を収録		
WILD HORSES	ザ・ファースト・アルバム		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	80年代のアメリカン・ロック・バンドの黄金時代に数々のヒットを飛ばしていた時代、男臭い世界を華やかに彩ったバンドの一つです。元THIN LIZZY、元RAINBOWのメンバーが結成したスーパー・グループ的な感じで紹介され、日本ではメンバーのルックスと、親しみやすいポップ・センスにより、女性人気も高く一躍メタル界のアイドル的存在となる。 サウンドとしてはシン・リジィからの影響が強く、幅広い音楽性がこのバンドのイメージを曖昧にしていたのかもしれませんが、メタル・バンドというよりはブリティッシュ・ロックの集大成的なセンスが、ある意味通好みと言えたと思います。ジミー・ペインのちょっと可愛いヴォーカル、ブライアン・ロバートソンのむせび泣くギターとクールな声、そして脇を固めるニール・カーターとクライヴ・エドワーズの職人ぶりも見事でした。フィル・ライノットとジミーの共作となったポップ・バラード「FLYAWAY」はNWOBHM隆盛期に残る名曲。 同時期の多くのバンドがメタリックな音に集約されていたのに対し、あくまでも英国的な引きの魅力を持ちあわせていたと強く感じます。		
WILSON BROS	アナザー・ナイト		1979	AOR	レコード	US	1979年作品。スティーヴ・ルカサーのギターがクールに炸裂するAAORの名作。 イングランド・ジョン&ジョン・フォード・コーリーらに楽曲を提供し、ヒットを記録したスティーヴとケリーのソングライター・チーム・ウィルソン・ブラザーズが、79年に残したワン&オンリー作。自らのメロディに加え、トッド・ラングレンらの楽曲を採り上げたり、ヴォーカル/コーラス・ワークには非凡なセンスが。ほぼ全編で活躍するスティーヴ・ルカサーのギター・ワークは、数あるセッションの中でもベストに数えられるほど。	Side A 1. Feeling Like We're Strangers Again / 愛にひとりぼっち 2. Another Night / アナザー・ナイト 3. Thanking Heaven / 愛をありがとう 4. Shadows / シャドウズ 5. Just Like A Lover KNowS / 恋人たちの予感	Side B 1. Lost And A Long Way From Home / 終わりになき旅路 2. Can We Still Be Friends / 友達でいさせて 3. Ticket To My Heart / チケット・トゥ・マイ・ハート 4. Take Me To Your Heaven / 君のすべてを今夜 5. Like Yesterday / ライク・イエスタデイ
WIRE	ピンク・フラッグ		1977	ニューウェイブ	レコード	UK	ワイヤーのデビューアルバム。1977年12月発売。1976年に結成されたワイヤーは翌1977年4月1日、ロンドンのコヴェント・ガーデンにあるThe Roxyにて行われていたバンク・フェスティバルでライヴ演奏を行った。そのバンク・フェスの演奏を音源化しようとしていた、当時EMIのA&Rだったマイク・ソーンに声をかけられ、バンドはハーヴェストと契約し、12月に本作でデビューを果たした。結成当時のメンバーは楽器にすら触ったことがない初心者だったこともあり、本作には長くて3分台、短いもので1分に満たない荒削りでパンキッシュな楽曲が収録された。また、その演奏能力を逆手に取ったミニマルなリフの繰り返しやシンプリルなコード進行、基本的なロックのフォーマットを無視した曲構成や展開は、後続のアーティストに多大な影響を及ぼした。	Side A ロイター "Reuters" - 3:03 フィールド・ディ・フォー・ザ・サンデイズ "Field Day for the Sundays" - 0:28 "Friday - ガール・ルンバ "Three Girl Rhumba" - 1:23 エクス・ライオン・テーマ "Ex Lion Tamer" - 2:19 ロウ・ダウン "Lowdown" - 2:26 スタートトゥ・ムーヴ "Start to Move" - 1:13 ブラジル "Brazil" - 0:41 イッツ・ソー・オヴィアス "It's So Obvious" - 0:53 サージョンズ・ガール "Surgeon's Girl" - 1:17 ピンク・フラッグ "Pink Flag" - 3:47	Side B ザ・コマーシャル "The Commercial" - 0:49 ストレイト・ライン "Straight Line" - 0:44 106 ビーツ・ザット "106 Beats That" - 1:12 ミスター・スウィーツ "Mr. Suit" - 1:25 ストレンジ "Strange" - 3:58 フラジャイル "Fragile" - 1:18 マネキン "Mannequin" - 2:37 ディファレント・トゥ・ミー "Different to Me" (アネット・グリーン) - 0:43 チャンプス "Champs" - 1:46 フィーリング・コールド・ラヴ "Feeling Called Love" - 1:22 "12 X U" - 1:55
WIRE	ピンク・フラッグ		1977	ニューウェイブ	CD	日本			
WIRE	消えた椅子(チェアーズ・ミッシング)		1978	ニューウェイブ	レコード	日本	、ワイヤーの2ndアルバム。1978年8月発売。前作でのミニマリストックリフをフィーチャーしたサウンドを引き継いでいるものの、同時代のプログレッシブ・ロックやサイケデリック・ロック、アート・ロックを意識した複雑な曲構成を追い求めた。プロデューサーのマイク・ソーンがキーボード演奏で参加したこともあり、より表現の幅が広がった。アルバムは全英48位を記録。アルバムからのセカンドシングル「アウトドア・マイナー」は全英51位を記録した	Side A プラクティス・メイクス・パーフェクト "Practice Makes Perfect" - 4:11 フレンチ・フィルム・ブレード "French Film Blurred" - 2:34 アナザー・ザ・レター "Another the Letter" - 1:07 メン・セカンド "Men 2nd" - 1:43 マルーンド "Marooned" - 2:21 サンド・イン・マイ・ジョイント "Sand in My Joints" - 1:50 サックト・イン・アゲイン "Being Sucked in Again" - 3:14 ハートビート "Heartbeat" - 3:16	Side B マーシー "Mercy" - 5:46 アウトドア・マイナー "Outdoor Minor" - 1:44 アイ・アム・ザ・フライ "I Am the Fly" - 3:09 ミステリアス・ストウディ "I Feel Mysterious Today" - 1:57 フロム・ザ・ナーサリー "From the Nursery" - 2:58 ユースト・トゥ "Used To" - 2:23 トゥー・レイト "Too Late" - 4:14
WIRE	WIRE 154		1979	ニューウェイブ	レコード	UK	ワイヤーの3rdアルバム。1979年9月発売。バンド最高の全英39位を記録。バンドはアルバム発表の翌年に一度目の解散をする。ちなみにアルバムタイトルの154とはアルバムリリースまでにバンドがこなしたギグの回数である。	Side A アイ・シュッド・ハヴ・ノウン・ベター "I Should Have Known Better" - 3:52 トゥー・ピープル・イン・ア・ルーム "Two People in a Room" - 2:00 15日 (ジャコバンの暴動) "The 15th" - 3:05 アザー・ウィンドウ "The Other Window" - 2:07 シングルKO "Single K.O." - 2:23 ア・タッチング・ディスプレイ "A Touching Display" - 6:55 オン・リターニング "On Returning" - 2:06	Side B ア・ミュージュアル・フレンド "A Mutual Friend" - 4:28 ブレスト・ステイト "Blessed State" - 3:28 ワン・イズ・イナフ "Once Is Enough" - 3:23 北緯41度西経93度 "Map Ref. 41° N 93° W" - 3:40 インダイレクト・エンクワイアリーズ "Indirect Enquiries" - 3:36 40ヴァージョンス "40 Versions" - 3:28
WISHBONE ASH	光なき世界		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	特にロックが限りなくジャズに接近し、即興演奏の比重が大きくなっていた時代である。だから演奏力のないバンドは淘汰されていった。そういう時代背景の中から現れた彼らは当然高いレベルの演奏テクニックを有していたのである。このアルバムは発売当時セールス面ではそれ程売れなかったようだが、内容は傑作とまではいかないが、たいへん力作である。楽曲もいかにもイギリスらしく、どこか陰影のあるメロディラインは特に日本人には受ける。3は名曲である。ソリッドで荒削りな演奏は、なんとも言い知れぬ緊張感がある。彼らの作曲能力には非凡なものを感じる。弱点を挙げればやはりボーカルの非力さであろう。		
WISHBONE ASH	巡礼の旅		1971	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	1971年に発表した2作目。全英アルバムチャートでは9週トップ100入りし、最高14位を記録した。アメリカでは7週にわたりBillboard 200入りを果たして、最高174位を記録した。 Dave Slegersはオールミュージックにおいて5点満点中4点を付け「デビュー作では、フギやブルースだけを基盤としたロック・バンドだったが、バンドは2作目の『巡礼の旅』で、その創造力を知らしめた」「バンドはこのアルバムで、やや沈静化した感もあるが、ソングライティングの多様化により、印象的なギター・プレイが更なる高みに達した。ウィッシュボーン・アッシュの全アルバムの中でも『百眼の巨人アーガス』に次ぐ作品である」と評している[7]。		

	WISHBONE ASH	百眼の巨人アーガス		1972	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	イギリスでは1972年5月20日付の全英アルバムチャートで初登場3位となり、バンド唯一の全英トップ10アルバムとなって、合計20週トップ100入りした。アメリカでは13週にわたりBillboard 200入りを果たして、1972年7月29日に最高169位を記録した。ノルウェーではバンド初のアルバム・チャート入りを果たし、3週トップ40入りして最高21位を記録した。 William Ruhlmannはオールミュージックにおいて5点満点中4点を付け「様々なスタイルの音楽を、彼ら独自の方法で融合して個性的なサウンドを作り上げた作品」「『The King Will Come』や『Warrior』における中世的な感触の歌詞は、音楽に荘厳な色を与える手法として、当時のブリティッシュ・ロック界で広く用いられていたが、これらの曲では、ツイン・リード・ギターやジャムのスペースを伴ったアレンジが巧みに機能している」と評している。		
	WISHBONE ASH	百眼の巨人アーガス		1972	ハードロック&ヘビーメタル	CD	日本			
	WOODENTOPS	ジャイアント		1986	ニューウェイブ	レコード	UK			
	WOODSTOCK			1970	ロック	レコード	US	ロック・フェスの原点、ウッドストック。1969年8月に開催され、全世界に衝撃的な反響を与えたこのロック・フェスティバルは、ポピュラー・ミュージック史及びサパカルチャー史において“60年代最重要事件”の一つとして記憶され、1960年代アメリカのカウンターカルチャーを象徴する出来事として語り継がれることとなる。クロスビー、スティルス、ナッシュ・アンド・ヤング、ジミ・ヘンドリックス、サンタナ、ザ・フー、ジェファーソン・エアプレーン、テン・イヤーズ・アフター、ジョー・コッカー、キャンド・ヒート、バターフィールド・ブルース・バンド、ジョーン・バエス他、超豪華アーティストによる名唄、名演を収めた歴史的記録作品。		
X	WRECKLESS ERIC	レックレス・エリック		1978	パブロック	CD	日本	1978年作品。1977年シングル「Whole Wide World」のヒットで、初期STIFFレーベルを代表するパブ・ロッカー&シンガー・ソングライターとして人気を博したレックレス・エリックの記念すべきデビュー・アルバム。イアン・デューリーやニック・ロウもプロデュースに参加したファースト・アルバム。その相当個性的なボーカルは今なお唯一無比の、パブ・ロック・ファン必携の1枚。	1. レコネ・シェリー 2. ラグスン・タターズ 3. ワックスワークス 4. テレフォーニング・ホーム 5. クロウ・アップス 6. ホール・ワイド・ワールド 7. ラフ・キッズ 8. パーソナル・ハイジン 9. プレイン・ジープス 10. セマフォ・シグナルズ	
	X	ロサンゼルス		1980	パンク	レコード	US	ロサンゼルス・のインディー・レーベル、スラッシュからリリースされたXのデビュー・アルバム。ドアーズのリーダーだったレイ・マンザレクがプロデュース。Xは1977年に別々のローカル・バンドで活動していたベース・ヴォーカルのジョン・ノマンセン・ドゥシャック(John Nommensen Duchac, 1953-)とギターのビリー・ズーム(Billy Zoom, 1948-)にドラマーのD・J・ボーンブレイク(D.J. Bonebrake, 1955-)が加わり「ラモーンズ+ロカビリー」というアイディアのパンク・バンドを試行していたところ、ジョンが詩の朗読会でナンパしてきた女性ヴォーカルのエクセネ・セルヴェンカ(Exene Cervenka, 1956-)をメンバーに加えて正式に発足したロサンゼルス・のバンドです。ロカビリー風パンク・ロックというアイディアが受けて、一躍ロサンゼルス・アンダーグラウンド・シーンの人気バンドになりました。モータートウンでは、Xは1980年代のトップ300に属するバンド。	Side A A1. Your Phone's Off the Hook, But You're Not - 2:25 A2. Johnny Hit and Run Paulene - 2:50 A3. Soul Kitchen (John Densmore, Robbie Krieger, Ray Manzarek; Jim Morrison) - 2:25 A4. Nausea - 3:40 A5. Sugarlight - 2:28	Side B B1. Los Angeles - 2:25 B2. Sex and Dying in High Society - 2:15 B3. The Unheard Music - 4:49 B4. The World's a Mess; It's in My Kiss - 4:43
	X	ワイルド・ギフト		1981	パンク	レコード	US	セカンド・アルバム『ワイルド・ギフト(Wild Gift)』はL. A. パンクの歴史的名盤としてファーストアルバム以上の評価を受けている。	Side A 1. The Once Over Twice - 2:31 2. We're Desperate (Billy Zoom) - 2:00 3. Adult Books (Billy Zoom) - 3:19 4. Universal Corner - 4:33 5. I'm Coming Over - 1:14 6. It's Who You Know - 2:17	Side B 1. In This House That I Call Home - 3:34 2. Some Other Time - 2:17 3. White Girl - 3:27 4. Beyond and Back - 2:49 5. Back 2 the Base - 1:33 6. When Our Love Passed Out on the Couch - 1:57 7. Year 1 - 1:18
	X	ブラック・サン		1982	パンク	レコード	US			
	X	ブラック・サン		1982	パンク	レコード	日本			
	X			1985	パンク	レコード	カナダ			
	X	エックス・アンソロジー		2006	パンク	CD	US	エックスのアンソロジーアルバム。ジョン・ドウとエクセネ・セルヴェンカ:西海岸のパンクの王と女王!ハイパワーのパンカビリーから煮えたぎるアコースティックセットまで、この2枚組CDセットには最高のトラック(We're Desperate, Johnny Hit & Run Paulene)のアルバムに加え、ほとんどが未発表のデモ、アウトテイク、リハーサル、伝説的なライブショーのカット。バンドからのメモと彼らを崇拜する音楽仲間からの証言、さらにバンドメンバー自身のコレクションからの排他的な写真が含まれています。	Disc1 1Los Angeles 2The World's A Mess; It's In My Kiss 3Yr Ignition 4Year One 5Hungry Wolf 6We're Desperate 7Beyond & Back 8Back 2 The Base 9Blue Spark 10Some Other Time 11Sex And Dying In High Society 12Motel Room In My Bed 13Heater 14The Once Over Twice 15Because I Do 16In This House I Call Home 17Soul Kitchen	Disc: 2 1The New World 2Breathless 3Poor Girl 4What's Wrong With Me 5How I (Learned My Lesson) 6The Have Nots 7Someone Like You 8The Stage 9See How We Are 10Surprise Surprise 114th Of July 12Arms For Hostages/Country At War 13Wild Thing 14Burning House Of Love 15Devil Doll 16True Love 17Call Of The Wreckin' Ball
	XTC	気楽にいこうぜ		1978年1月20日	ニューウェイブ	レコード	日本	1978年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCのファースト・アルバム。元のタイトルは「ブラック・ミュージック」であり、ブラックユーモアと同じ理由でアンディは気に入っていたが、黒人音楽と間違われる可能性を危惧して、白人のやっている音楽という意味を込めて「ホワイト・ミュージック」に変更される。	Side A 1. Radios in Motion(Andy Partridge) 2:54 2. X Wires (Colin Moulding) 2:06 3. This Is Pop? (Andy Partridge) 2:41 4. Do What You Do (Colin Moulding) 1:16 5. Statue of Liberty (Andy Partridge) 2:55 6. All Along the Watchtower (Bob Dylan) 5:43	Side B 1. Atom Age (Andy Partridge)2:32 2. Set Myself on Fire (Colin Moulding) 3:04 3. I'm Bugged (Andy Partridge) 3:59 4. New Town Animal (Andy Partridge) 1:53 5. Spinning Top (Andy Partridge) 2:40 6. Neon Shuffle (Andy Partridge) 4:37
	XTC	気楽にいこうぜ (デジタルリマスター ペーパーズリブ仕様)		978年1月20日	ニューウェイブ	CD	日本	以下、CDボーナスストラック 13. Science Friction (Andy Partridge)3:13 14. She's So Square (Andy Partridge) 3:06 15. Dance Band (Colin Moulding)2:41 16. Hang on to the Night (Andy Partridge) 2:09 17. Heatwave (Colin Moulding) 2:12 18. Traffic Light Rock (Andy Partridge) 1:40 19. Instant Tunes (Colin Moulding) 2:34		
	XTC	GO 2		978年10月6日	ニューウェイブ	レコード	US	1978年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCのセカンド・アルバム。タイトルは、日本の囲碁に由来する。	1.『Meccanik Dancing (Oh We Go!)]Andy Partridge2:34 2.『Battery Brides (Andy Paints Brian)]Andy Partridge4:35 3.『Buzzcity Talking]Colin Moulding2:40 4.『Crowded Room]Colin Moulding2:53 5.『The Rhythm]Colin Moulding2:58 6.『Red]Andy Partridge3:01	7.『Beatown]Andy Partridge4:35 8.『Life Is Good In The Greenhouse]Andy Partridge4:41 9.『Jumping In Gomorrah]Andy Partridge2:03 10.『My Weapon]Barry Andrews2:20 11.『Super-Tuff]Barry Andrews4:24 12.『I Am The Audience]Colin Moulding3:38

	X-RAY SPEX	X光線と発砲スチロール		1978	パンク	レコード	UK	1. Oh Bondage! Up Yours! 2. I Am A Cliche 3. Day The World Turned Day-Glo 4. I Am A Poseur 5. Identity 6. Lets Submerge 7. Germ Free Adolescents 8. Age 9. Obsessed With You 10. Genetic Engineering 11. I Live Off You 12. Art-I-Ficial	13. I Can't Do Anything 14. Plastic Bag 15. Highly Inflammable 16. Warrior In Woolworth 17. Prefabricated Icon (Rough Mix) 18. I Can't Do Anything (Instrumental) 19. Warrior In Woolworth (Instrumental) 20. Genetic Engineering (Rough Mix) 21. Art-I-Ficial (Rough Mix) 22. I Live Off You (Rough Mix) 23. Obsessed With You (Rough Mix) 24. Lets Submerge (Rough Mix)235. Identity (Rough Mix) 25. The Day The World Turned Day-Glo (Rough Mix)	
Y	YACHTS				ニューウェイフ	レコード	US			
	YACHTS	情熱の航海			ニューウェイフ	レコード	日本			
	YACHTS				ニューウェイフ	レコード	US			
	YARDBIRDS	ファイヴ・ライヴ・ヤードバーズ		1964年12月	ロック	CD	日本	ヤードバーズのデビュー・アルバム。1964年に録音・発表したライブ・アルバム。1964年3月にマーキー・クラブで録音が行われた。同年6月発売のデビュー・シングル「アイ・ウィッシュ・ユー・ウッド」(ビリー・ボーイ・アーノルド、10月発売のセカンド・シングル「グッド・モーニング・リトル・スクールガール」(サニー・ボーイ・ウィリアムソン1世のカヴァー)を経て、12月に本作がリリースされた。本作のためのライブ録音では、「アイ・ウィッシュ・ユー・ウッド」もセットリストに入っていたが、ポール・サミュエル＝スミスが誤ってテープから消してしまったため、未収録になったという。また、本作に収録された「グッド・モーニング・リトル・スクールガール」のライブ録音は、シングル・ヴァージョンとは異なり、エリック・クラプトンとサミュエル＝スミスがリード・ボーカルを担当した。本作は当時アメリカでは発売されず、クラプトン脱退後の1965年11月に発売されたアメリカ企画のアルバム『ハヴィング・ア・レイヴ・アップ』には、本作から「スモークスタック・ライトニング」、「リスベクタブル」、「アイム・ア・マン」、「ヒ・エ・ティス」の4曲が収録された。『流石の面でも羞恥の面でも...1960年代中期	1. トゥー・マッチ・モンキー・ビジネス (Chuck Berry) - 3:52 2. アイ・ガット・ラヴ・イフ・ユー・ウオント・イット (Slim Harpo) - 2:40 3. スモークスタック・ライトニング (Howlin' Wolf) - 5:35 4. グッド・モーニング・リトル・スクールガール (Sonny Boy Williamson) - 2:44	5. リスベクタブル (O'Kelly Isley, Ronald Isley, Rudolph Isley) - 5:35 6. ファイヴ・ロング・イヤーズ (Eddie Boyd) - 5:21 7. プリティ・ガール (Ellas McDaniel) - 3:00 8. ルイーズ (John Lee Hooker) - 3:43 9. アイム・ア・マン (E. McDaniel) - 4:33 10. ヒ・ア・ティス (E. McDaniel) - 5:11
	YARDBIRDS	フォー・ユア・ラヴ		1965	ロック	CD	日本	エリック・クラプトン、ジェフ・ベック、ジミー・ペイジという3大ギタリストが相次いで参加したバンドとして知られるヤードバーズのアメリカでのファースト(65年)。初の大ヒット「フォー・ユア・ラヴ」を受けて米エビック・レコードが音源を寄せ集めて独自の編集で1枚のアルバムに仕上げたもので、内訳は新旧の英米シングル音源+ジェフ・ベック加入後の新録音などで構成され、デビュー時のギタリストであるクラプトンと2代目のベック双方のプレイが混在する1枚となっている。アメリカのデビューアルバム11曲にボナストラック13曲を追加している。	1For Your Love 2I'm Not Talking 3Putty (In Your Hands) 4I Ain't Got You 5Got To Hurry 6I Ain't Done Wrong 7I Wish You Would 8A Certain Girl 9Sweet Music(Take 3) 10Good Morning Little Schoolgirl 11My Girl Sloopy 12Baby What's Wrong 13Boom Boom	14Honey In Your Hips 15Talkin' Bout You 16I Wish You Would(long Version) 17A Certain Girl(Alternate Take) 18Got To Hurry(Take 4) 19Sweet Music(Take 4) 20Heart Full Of Soul(Sitar Version) 21Steeled Blues 22Paff Bumm(German Issue) 23Questa Volta 24Paff Bumm(Italian Version)
	YARDBIRDS	ハヴィング・ア・レイヴ・アップ		1965	ロック	CD	日本	1965年にリリース。エリック・クラプトン、ジェフ・ベック、ジミー・ペイジという3大ギタリストが相次いで参加したバンドとして知られるヤードバーズのアメリカでのセカンド。当時は本国イギリスとアメリカではアルバムの内容が違った。A面はジェフ・ベックが参加してから曲で、B面はエリック・クラプトン在籍時のものからなる。大ヒット「ハート・フル・オブ・ソウル」「アイム・ア・マン」を収め、リリース前後の全米ツアーも奏功してベストセラーとなった。前半がベックをフィーチャーした英米でのシングル、後半がクラプトンを軸とする英ファーストからのビックアップ曲で構成。初期のナマの魅力とポップ指向のスタジオ曲がコンパクトに楽しめる内容だ。また、4曲目の「Still I'm Sad」は、リッチーブラックモア率いるレイ・ディズールのスモークスタック・ライトニングのスタイルをも模倣されている曲。	1Mr. Your A Better Man Than I 2Evil Hearted You 3I'm A Man 4Still I'm Sad 5Heart Full Of Soul 6Train Kept A Rollin' 7Smokesatck Lightning 8Respectable 9I'm A Man 10Here 'Tis	11Shapes Of Things 12New York City Blues 13Jeff's Blues(Part 1) 14Someone To Love(Part 1) 15Someone To Love(Part 2) 16Like Jimmy Reed Again 17Chris Number 18What Do You Want 19Here 'Tis 20Here 'Tis(Version For Rsg) 21Stroll On
	YARDBIRDS	ロジャー・ジ・エンジニア		1966年7月15日	ロック	レコード	日本	ヤードバーズにとって2作目だが、スタジオでレコーディングされた新作アルバムとしては最初のアルバム。プロデューサーはポール・サミュエル＝スミスおよびサイモン・ネビア＝ベル。全英20位、全米52位を記録。本作の正式なタイトルは『Yardbirds』であり、「ロジャー・ジ・エンジニア」というタイトルは本作の表ジャケットのイラストに書かれた一文から採られた通称であったが、いつしかこちらの呼称が一般的になり、現在では正式にこのタイトルで扱われている。ジェフ・ベックがリードギタリストとして在籍していたグループ最盛期の頃の作品。彼らのルーツであったブルースの他、インド音楽やグレゴリオ聖歌、トラッド・フォークといった様々な音楽の要素を取り入れた実験的な作風。歌詞は主にキース・レルフによるものである。アルバムジャケットのアートワークはクリス・ドレイ、ライナーノーツはジム・マッカーティがそれぞれ担当。タイトルの由来になった「ロジャー・ジ・エンジニア」とは、本作のレコーディング・エンジニアであるロジャー・キャメロンのことである。尚、本作のリリースを待たずにサミュエル＝スミスがバンドを脱退、ベックもこの年の12月に脱退したため、このラインナップでのアルバムは、本作が唯一となっている。	Side A 1. ロスト・ウィメン 3:16 2. オーヴァー・アンダー・サイドウェイズ・ダウン 2:24 3. ナッツ・ア・ブルー(いつも一人ぼっち) 3:04 4. アイ・キャント・メイク・ユア・ウェイ(空しい人生) 2:26 5. ラック・マイ・マインド(恋の傷あと) 3:15 6. フェアウェル 1:29	Side B 1. ホット・ハウス・オブ・オマガラーシッド 2:39 2. ジェフズ・ブギー 2:25 3. ヒーズ・オールウェイズ・ゼア(悲しきだめ) 2:15 4. ターン・イントウ・アース(さすらう心) 3:06 5. ホワット・ドゥ・ユー・ウオント(君のためなら) 3:22 6. エヴァー・シンス・ザ・ワールド・ビギン(愛がなければ) 2:09
	YARDBIRDS	リトル・ゲームス		1967	ハードロック &ヘビーマタル	レコード	US	67年作。ヤードバーズのオリジナル・スタジオ・アルバムとしては最後の作品で、4代目ギタリストとなったジミー・ペイジ主導による意欲的ポップ作です。クラプトンの抜けた穴を埋めるべく誘われたペイジは、その座をジェフ・ベックを推し、後にベーシストとして自身は参加する事になりますが、ここでは単なるギタリストとしてではなく、いよいよ実験性に満ちたセンスを開花させています。ポップ展開を強いられた事からも、バンドはザ・フーそのまんまの「Tinker Tailor Soldier Sailor」、「Drinking Maudy Water」におけるペイジお得意となるブルース改作路線、王道ブリティッシュ・ポップ節が炸裂した「Ha Ha Said The Clown」、ビートルズ風のサイケ・ポップ、「Goodnight Sweet Josephine」等、かなりシングル・ヒットを狙ったメロディが目立ちます。ただ本作はやはり後にツェッペリンへと確実に繋がる、ペイジのセンスが聴き所になっています。アルバム・タイトル曲はジョン・ポール・ジョーンズがアレンジャーとしてチェロを導入、更に、シタール、タブラ、オーボエを大胆に使用した「White Summer」、ヴァイオリンの弓を使ったプレイが印象的な「Glimsnes」では、完全なるツェッペリン・サウンドをすでに確立しています。後にエアロスミスがカヴァーする「Think About It」は、本作中最もハードなナンバーで、疾走するハード・ブルースのスタイルをここに確立		
	YARDBIRDS	ベスト・オブ・ヤードバーズ		1994	ロック	CD	日本	この盤に収録されている曲にこそ彼らの魅力があると言ってもいい。エアロスミスやDr.フィールグッド等70年代のバンドがカバーしているブルーススタンダードは彼らから引き継いだ孫請けのような名曲と証明できる盤。現在では「フォー・ユア・ラヴ」「ハヴィング・レイヴ・アップ」が再発されているが、その2枚を1枚でカバーできる重宝なベスト盤。		
	YAZOO	オンリー・ユー		1982	エレクトロニクス	レコード	US	1981年英国エモジックスで結成されたポップ・デュオ、ヤズー。デビュー・アルバムの結成メンバーであったヴィンス・クラークと、ソウルフルな声を持つヴォーカリスト、アリソン・モイエからなるヤズーは、英国ではMute Records、アメリカではSire Recordsと契約し、1982年にデビュー・アルバム『UPSTAIRS AT ERIC』を発表。全英アルバム・チャートの2位を獲得したこのアルバムからは、「Only You」や「Don't Go」などのヒット・シングルが世に送り出された。ソウルフルでエモーションナルヴォーカルと、シンセ・ポップを組み合わせた斬新なサウンドで当時のミュージック・シーンにセンセーションを巻き起こしたヤズーの原点とも言える全英2位の大ヒット・アルバム。スタンダード・ナンバーとして数多くのミュージシャンに愛される「オンリー・ユー」、ダンス・ヒット・チューン「ドント・ゴー」、「シチュエーション」の3本ヒッツ曲を収録	Side A 1. Don't Go 2. Too Pieces 3. Bad Connection 4. I Before E Except After C 5. Midnight 6. In My Room	Side B 1. Only You 2. Goodbye 70's 3. Tuesday 4. Winter Kills 5. Bring Your Love Down (Didn't I)
YAZOO	オンリー・ユー		1982	エレクトロニクス	CD	日本				
YAZOO	愛にさよなら		1982	エレクトロニクス	レコード	日本	ファーストと比べ、ストレートにキャッチーで＝ノリ＝の良い曲が少ない、どちらかと言うとアリソンのブルースシンガーとしての音楽的方向性を前に押し出した感じの内容で、ボーカルに徹していたALISONが曲の半分を書くようになり、それが前作とは違う深みをもたらしたのだと思います。Vince のエレクトロ路線は控えめ。VINCEの曲はここでは若干地味な印象です。結果としてALISONの曲の方が目立つ構成で、作曲に関しても非凡なことを証明しています。前作がVINCEのアルバムなら本作はALISONのアルバムということがいえる。エレクトロップでありながら非常に落ち着いたトーンで構成されており、ポップスターになる願望がなかったという彼女の発言を裏付けるような内容です。尚、英盤と米盤では収録曲に差異があり、前者には珍しくVINCEがボーカルをとる“HAPPY PEOPLE”を、後者にはシングル“NOBODY” S DIARY”のB面にも収録されていたダンスナンバー“STATE FARM”が収録されています。	1Nobody's Diary4:30 2Softly Over4:01 3Sweet Thing3:41 4Mr. Blue3:24 5Good Times4:18 6Walk Away From Love 3:18	7Ode To Boy3:35 8Unmarked3:34 9Anyone3:24 10Happy People2:56 11And On3:12	

Z	YNGWIE MALMSTEEN	ファイアー・アンド・アイス		1992	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	US	イングヴェイがボリドールからエレクトラへ移籍した第一弾となる6枚目のアルバム。 日本では初のオリコン1位を記録したアルバムで、その後の安定した人気を確立していますが、何故かそれ程評価が高くないのも特徴的な1枚です。 当時はまだ「光速のフタ野郎」と愛情を込めて呼ばれてはいなかったと思いますが、そろそろ天才らしいとも言えるその人間性が問われる時期でもあったのだと思います。 自由奔放に弾きまくる姿に圧倒されつつも、次々とメンバーを切り捨てていく傍若無人ぶりがこの人のイメージを固定化していった事が、ピュアなメタル・ファンには受け付けられない事が本作への評価に繋がっているのかもしれないかもしれません。 内容的にはかなり真摯に頑張っているものだと思うのですが、やれる事全部やりました的なハリキリ具合が若干お腹いっぱいといった印象を残します。 それでも超ポップ展開をした「Teaser」、哀愁節全開の「Cry No More」、スピード・チューンの正統派メタルとなった「Forever Is A Long Time」、80年代型のキャッチーが新鮮なアルバム・タイトル曲等、実に優れたナンバーが揃っているだけに、本作をとても駄作と言える事はできません。 ただ実はこれらのナンバーが優れているのは、ヴォーカリスト、ヨラン・エドマンの歌唱に頼る部分が大きいと思えるのです。彼を本作限りで切ってしまった事が、個人的にはかなり大失敗だったと考えているのですが、ヨランがその後スウェーデンの渡り鳥シンガーに化してしまった事も不慣れに思えてなりません。いずれにしても超絶インスト曲よりも、圧倒的にヴォーカル曲の完成度が高いアルバムには違いなく、インギー作品としてよりも高性能HR/HMアルバムとして楽しむのがベストなのかもしれません。	1. パーペチュアル(Perpetual)(Instrumental) 4:14 2. ドラゴンフライ(Dragonfly) 4:49 3. ティーザー(Teaser) 3:29 4. ハウ・メニー・マイルス・トゥ・バビロン(How Many Miles To Babylon) 6:10 5. クライ・ノー・モア(Cry No More) 5:17 6. ノー・マーシー(No Mercy) 5:32 7. セ・ラ・ヴィ (C'est La Vie) 5:19 8. レビヤタン (Leviathan)(Instrumental) 4:24	9. ファイアー・アンド・アイス (Fire And Ice) 4:31 10. フォーエヴァー・イズ・ア・ロング・タイム (Forever Is A Long Time) 4:28 11. アイム・マイ・オウン・エネミー (I'm My Own Enemy) 6:09 12. オール・アイ・ウオント・イズ・エヴリシング (All I Want Is Everything) 4:02 13. ゴールデン・ドーン (Golden Dawn)(Instrumental) 1:28 14. ファイナル・カーテン (Final Curtain) 4:46
	YOUNG MARBLE GIANTS	クロール・サル・ユース		1980	ニューウェーブ	レコード	イギリス	ギタリスト/ソングライターのスチュアート・モックスハム、その弟でベーシストのフィリップ・モックスハム、シンガーのアリソン・スタットンという3人からなるヤング・マーブル・ジャイアンツが、1980年に残した唯一のアルバムにして、今もなおミニマルポップの金字塔として世界中の音楽ファンに人気アルバム。唯一無二の歌声、ギター、ベース、リズムボックスによって奏でられるミニマルなサウンドで構成された本作は、ヤング・マーブル・ジャイアンツにしか作り出せなかった紛れもない傑作であり、ポストパンクの中で最も重要なレコードの一つ。 リイシュー盤の2枚目に『Salad Days』『Is The War Over』『Final Day』『Testcard EP』といった貴重なEPやシングル、コンピレーションの楽曲が収録され、また1980年ニューヨークで行われた貴重なアメリカ公演のライブDVDが付属。	Side A 1. Searching For Mr Right 2. Include Me Out 3. The Taxi 4. Eating Noddemix 5. Constantly Changing 6. N.I.T.A. 7. Colossal Youth Side B 1. Music For Evenings 2. The Man Amplifier 3. Posed By Models 4. The Clock	Side C 1. Have Your Toupee Ready 2. The Man Shares His Meal With His Beast 3. Hayman 4. Loop The Loop 5. Ode To Booker T Side D 1. Final Day (single) 2. Radio Silents (同じ) 3. Cakewalking (同じ) 4. This Way (同じ) 5. Posed By Models (Testcard E.P.) 6. The Clock (同じ)
	YOUNG RASCALS	ブルーヴィン		1967	ロック	CD	日本	全米ナンバーワン・ヒット「グルーヴィン」をフィーチャーしたサード・アルバム。「ガール・ライク・ユー」「高鳴る心」など名曲満載のヒット・アルバム。1967年作品。 1967年に2枚目の全米ナンバーワン・シングルとなった、彼らの代表曲と呼んで差し支えない「グルーヴィン」をフィーチャーしたサード・アルバム。「グルーヴィン」は、ハーモニカやパーカッションが響くのどかなサウンドに、フェリックス・キャヴァリエのソウルフルなヴォーカルが見事に溶けあった、まさに彼らの真骨頂ともいえる名曲中の名曲。続くトップ・テン・ヒット「ガール・ライク・ユー」は軽快なシャッフル・ビートにスリリングなプラス・セクションが絡むジャジーなサウンドで新境地を見せた。さらにエディ・ブリガティのドラマティックなヴォーカルが素晴らしい「高鳴る心」など、聴き所満載。後にバット・ベネターがカヴァーしたことでも知られる1968年のシングル「ユー・ベター・ラン」、ステイヴィー・ワンダーの「太陽のあたる場所」の素晴らしいカヴァーに加えて、メンバーのオリジナル曲も実験的で、全体的にポジティブなパワーに溢れたアルバム。アルバム・チャートで全米5位を記録	1ア・ガール・ライク・ユー 2ファインド・サムバディ 3アイム・ソー・ハッピー・ナウ 4スエノ 5高鳴る心 6グルーヴィン 7イフ・ユー・ニュー 8アイドント・ラヴ・ユー・エニーモア 9ユー・ベター・ラン 10太陽のあたる場所 11イツ・ラヴ	
	Y&T	アースシェイカー		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	81年作。イエスタデイ&トゥデイからY&Tへと改名した第1弾、通産3作目となったアルバムで、イギリスで勃発したNWOBHMシーンに引きずられる様にして、アメリカン・バンドの好盤として紹介されました。それまでのアメリカン・ハードの徹底的にカラッとしたダイナミズム、パーティー・ロック的な陽性のノリだけではなく、ブルースを根底にした欧州的なウェットな哀愁感が同居している個性が注目されていたのだと思います。ロバート・プラント以降のハイトーン・ヴォーカルではなく、デイヴ・メニケッティのソウルフルな声も特徴的でした。 イギリスはもちろん、ここ日本でも本作のドラマチックなバラードと、熱いハード・ロックの対比が支持を受けていたのではないでしょうか。 陰と陽、明と暗、このコントラストの美しさこそが以降のY&Tを名バンドとしていくわけですが、「ブラック・タイガー」、「ミーン・ストローク」と続く大名盤と本作を合わせ、三部作として考える事もできると思います。その発端が「レスキュー・ミー」であり、7分を超える一大バラード、「アイ・ビリーヴ・イン・ユー」だったのでしょう。		
	Y&T	アースシェイカー		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US			
	Y&T	ブラック・タイガー		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	82年作。Y&Tの通産4作目で、A&Mへ移籍後にYesterday & TodayからY&Tに改名後の第2弾となったアルバム。日本では早くから話題となった1枚で、特に静と動、明と暗のコントラストが見事なサウンドが圧倒的な支持を受けるのでした。デイヴ・メニケッティのエモーショナルなギターとソウルフルなヴォーカルは、それまでのハード・ロック、メタルの熱い部分を忠実に受け継いだものではありましたが、何よりもメロディの素晴らしいが新鮮だったのだと思います。その代表的なものが「フォーエヴァー」であり、過剰に成りすぎない泣きのギターから、一気にドラマティックに燃え上がっていく構成はマイケル・シェンカーとUFOの「ドクター・ドクター」を凌駕したのではないでしょうか。時代がやがてポップ・メタル化へと推移していく中、一際重厚で情熱的なハード・ロックを展開してくれた大名盤。		
	Y&T	ミーン・ストローク		1983	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	83年作。Y&Tの通産5作目。前作「ブラック・タイガー」と対になったような1枚で、彼等の絶頂期を象徴する大名盤です。プリティッシュ・ハードからの影響をエモーショナルにプレイするスタイルは最早職人的な巧みさが見られ、デイヴ・メニケッティの熱いギターとヴォーカルが当時のバンド勢の中では群を抜いていると思います。 ソウルフルなハード・ロックに対して、やはりバラード・タイプのメロディアスなナンバーが特に絶品で、「ロンリー・サイド・オブ・タウン」、日本のファンに捧げられた「ミッドナイト・イン・トーキョー」、「センチメンタル・フール」等は、イントロから震えが止まらない程の美旋律を聴かせてくれます。男泣きを許してくれるメタル、というのはこういうサウンドを言うんじゃないでしょうか。彼等がLAメタルを意識する以前の、緩急、静と動の美を誇っていた最後のアルバムとも言え、日本人の琴線に触れるワビサビをも感じさせるハード・ロック・ファン必聴の1枚ではないでしょうか。		
	ZOMBIES	オデッセイ・アンド・オラクル		1968年4月19日	ロック	CD	日本	1968年リリース。ゾンビーズの通算2作目のアルバム。ゾンビーズの最高傑作にして、ポップ・アルバムの最高峰。1960年代のUKサイケデリック・ポップを代表するアルバム。独自のグルーヴ感溢れる楽曲が超クール。本作では多大にサイケデリックムーブメントの影響を受け、サウンド面でもメロロンを多数の曲で導入するなど意欲的な作品だったが、メンバーの中でポールとコリンはセールスに伸び悩むバンドの将来に対し明るい見通しが立たないことに幻滅しており、レコーディングが進むにつれてメンバー間の人間関係が悪化。このため、1967年12月中旬に最後のライブを行った後、バンドは解散となった。大ヒット曲「ふたりのシーズン」収録。	1. 独房44 (Care of Cell 44) ロッド・アーエージェント3:57 2. エミリーにバラを (A Rose for Emily) ロッド・アーエージェント2:19 3. 彼去りし後には (Maybe After He's Gone) クリス・ホワイト 2:34 4. ビーチウッド・パーク (Beechwood Park) クリス・ホワイト 2:44 5. ローソクの様に (Brief Candles) クリス・ホワイト 3:30 6. 夢やぶれて (Hung Up on a Dream) ロッド・アーエージェント 2:41	ここからアナログSide Bになる 7. 変革 (Changes)クリス・ホワイト 3:20 8. 私と彼女は (I Want Her, She Wants Me) ロッド・アーエージェント 2:53 9. 今日からスタート (This Will Be Our Year) クリス・ホワイト2:08 10. ブッチャーズ・テイル (Butcher's Tale クリス・ホワイト 2:18 11. フレンズ・オブ・マイン (Friends of Mine)クリス・ホワイト 2:20 12.ふたりのシーズン (Time of the Season) ロッド・アーエージェント 2:20 以下、CDボーナストラック 13. She Loves The Way They Love Her 14. スモーキーティ 15. イフ・イット・ドント・ワーク・アウト 16. アイ・ノウ・シー・ウィル 17. ラーキング・インザ・サン
	ZZ TOP	イリミネーター		1983	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	83年作。ZZトップが全米の国民的支持を受ける事となった大ヒット作で、彼等の通産8作目のアルバム。80'sポップを象徴する当時の最先端エレクトロの大胆な導入が、彼等独自のノリと見事融合し、時代に乗りかっただけでなく、80年代メタルを牽引する事にもなった意欲作です。 それまで汗と埃とビールの匂い、エンジンの大爆音にこそそびつたりな彼等のサウンドは、ここで一気にターボ化した。基本はブギとブルースを強引にポップ・チューンにした様な豪快なハード・ロックなのですが、そこにシンセサイザーが乗っかるというかつて目新しい手法ではないのですが、これが実に気持ちがいい。アメリカ人大好き、というのも良く理解できるのですが、このシンプルなロックのダイナミズムは世界共通の快感でもあったと思います。 オープニングの「ギミ・オール・ユア・ラヴィン」でのアメリカン・ハードの王道節、ヒット・シングルとなったモダンなミドル・ポップ・チューン、「レッグス」のカッコ良さは今聴いてもウキウキしてしまいます。		
	ZZ TOP	アフターバーナー		1990	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	フランス	90年作。9作目となったアルバムで、彼等のキャリアの中でも最大のセールスを上げたヒット・アルバム。80'sメタルの激ポップ化の潮流を分析する上では、やはり外せない1枚だと思います。前作の「イリミネーター」のシンセ導入路線を更に強化、80'sのキラキラ・ポップ感覚に溢れた内容となっています。ジャケット・ワークも当時のアメリカン・プログレ・ハード系のスペーシーなデザインとなり、完全なモダン・ハード・ロックへと変貌しています。 持ち前のハード・ドライヴィング・センスと、キャッチーなメロディ、加えて80年代のエレ・ポップ風アレンジが、それまで酒と煙草と汗の象徴であった様なバンド・イメージを覆し、誰もが楽しめるポップ・メタルとしての味わいを湛えています。		

オムニバス	Various Artists (ヴァリアス・アーティスト)	お気に入りの80sナンバーワン		2015年7月24日	ロック	CD	UK	ソニーのザ・ネイションズ・フェイバリット80年代ナンバーワンスは、1980年代にイギリスのチャートで1位になった60枚のシングルをまとめています。3枚のディスクにまたがって、ボリスの「Every Breath You Take」、ペットショップ・ボーイズの「ウェスト・エンド・ガールズ」、ボニー・タイラーの「Total Eclipse of the Heart」などのクラシック・ヒット・トラックが収録されています。いくつかの曲はうまく持ちこたえています、他の曲は時代のネオン過剰に窮屈に感じています、すべて典型的な80年代で	Disc 1 1. Every Breath You Take – Police 2. Billie Jean – Jackson, Michael 3. I Wanna Dance with Somebody (2000 Remaster) – Houston, Whitney 4. There Must Be an Angel (Playing with My Heart) – Eurythmics 5. Don't You Want Me – Human League 6. Wake Me Up Before You Go-Go – Wham! 7. Come on Eileen – Dexys Midnight Runners 8. Karma Chameleon – Culture Club 9. Tainted Love – Soft Cell 10. You Spin Me Round (Like a Record) (Original 7" Mix) – Dead or Alive 11. House of Fun – Madness 12. Two Tribes – Frankie Goes to Hollywood 13. West End Girls (Remastered) – Pet Shop Boys 14. The Reflex – Duran Duran 15. Love Is a Battlefield – The B-52's Disc 3 1. Total Eclipse of the Heart (Single Version) – Tyler, Bonnie 2. I Want to Know What Love Is – Foreigner 3. Eye of the Tiger – Survivor 4. The Final Countdown – Europe 5. Stand and Deliver – Adam and the Ants 6. This Ole House (Single Version 2004 Remaster) – Stevens, Shakin' 7. The Power of Love (Radio Edit) – Rush, Jennifer 8. Perfect – Fairground Attraction 9. Frankie – Sister Sledge 10. I Feel for You – Khan, Chaka 11. Fame – Cara, Irene 12. Give It Up – KC & the Sunshine Band 13. 99 Red Balloons – Nena 14. La Bamba – Lobos 15. Down Under – Men at Work
	Various Artists (ヴァリアス・アーティスト)	史上最高!クラシック ロック(グレイテスト・エ ヴァー・クラシック・ ロック)		2016年2月22日	ハードロック &ヘヴィ メタル	CD	UK	グレイテスト・エヴァー・クラシック・ロックは、スペクトラムのメタリックな端(モーターヘッド、ジューダス・プリースト、ディオ)から、サザン・ロック(リナード・スキナード、ZZトップ、オールマン・ブラザーズ・バンド)や、イギリスの国民的バンド(シン・リジィ、モット・ザ・フォーブル等)から、ザ・プリテンダーズのようなニューウェーブ系のロック等、ハードロック系のバンドのヒット曲を纏めたアルバム。59曲収録。	16. Love Is a Battlefield – The B-52's 17. Free-All Right Now 18. 2Meatloaf* With Cher-Dead Ringer For Love 19. 3Elton John-Saturday Night's Alright (For Fighting) 20. 4Rod Stewart-Maggie May 21. 5Warren Zevon-Werewolves Of London 22. 6Bachman Turner Overdrive*-You Ain't Seen Nothin' Yet 23. 7The Guess Who-American Woman 24. 8Foghat-Slow Ride 25. 9Grateful Dead*-Friend Of The Devil 26. 10The Scorpions*-Wind Of Change 27. 11Matthews' Southern Comfort-Woodstock 28. 12The Velvet Underground-I'm Waiting For The Man 29. 13The Cars-Just What I Needed 30. 14The Pretenders-Brass In Pocket 31. 15The Runaways-Cherry Bomb 32. 16Zodiac Mindwarp & The Love Reaction*-Prime Mover 33. 17Hanoi Rocks-Malibu Beach Nightmare 34. 18The Sensational Alex Harvey Band-Vambo Marble Eye 35. 19Tesla-Love Song 36. 2Heart-Barracuda 37. 2ZZ Top-La Grange 38. 2-3Judas Priest-Livin' After Midnight 39. 2-4Kiss-Rock And Roll All Nite 40. 2-5The Sweet-Ballroom Blitz 41. 2-6George Thorogood*-Bad To The Bone 42. 2-7The Velvet Underground-White Light/White Heat 43. 2-8Nazareth (2)-Hair Of The Dog 44. 2-9Mott The Hoople-Roll Away The Stone 45. 2-10Deep Purple-Smoke On The Water 46. 2-11Kansas (2)-Carry On Wayward Son 47. 2-12Stealers Wheel-Stuck In The Middle With You 48. 2-13Barclay James Harvest-Child Of The Universe 49. 2-14Uriah Heep-Easy Livin' 50. 2-15Bad Company (3)-Feel Like Makin' Love 51. 2-16The Allman Brothers Band-Midnight Rider 52. 2-17Joe Walsh-Rocky Mountain Way 53. 2-18Dio (2)-We Rock 54. 2-19Diamond Head (2)-Starcrossed (Lovers Of The Night) 55. 2-20Motörhead-Overkill 56. 3-1Lynyrd Skynyrd-Sweet Home Alabama 57. 3-2Thin Lizzy-The Boys Are Back In Town 58. 3-3Jethro Tull-Aqualung 59. 3-4Status Quo-Whatever You Want 60. 3-5The Scorpions*-Rock You Like A Hurricane 61. 3-6Foreigner-Juke Box Hero
	Now That's What I Call Music! 1 Various Artists (ヴァリアス・アーティスト)	ヒット曲 ヴァリアス・アーティスト		1993	ロック	CD	日本	最新ヒットコンピレーションの決定版。UK大ヒットシリーズ「NOW」が日本での最新ヒット曲を収録したアルバム。	1. 伝説のチャンピオン(クイーン) 2. 好きにならずにいられない(UB40) 3. コーリング・ユー(ホリー・コール) 4. 明日(あす)への誓い(ポール・マッカートニー) 5. エニタイム(ギルバート・オサリヴァン) 6. イッツ・トゥー・リアル(ベリンダ・カーライル) 7. ゴー・ウェスト(ペット・ショップ・ボーイズ) 8. 愛にすべてを捧ぐ(ミートローフ)
								35. 1Asia (2)-Heat Of The Moment 36. 9 オーディナリー・ワールド(デュラン・デュラン) 37. 10. 自由への疾走(レニー・クラヴィッツ) 38. 11. おおキャロライナ(シャギー) 39. 12. カンタレーブ(US3) 40. 13. テイク5(XL) 41. 14. ミスター・ウエンドル(アレステッド・ディヴェロップメント) 42. 15. アイ・ドント・ワナ・ファイト(ティナ・ターナー) 43. 16. それが愛というものだから(ジャネット・ジャクソン)	